

平成 27 年度
甲府市男女共同参画に関する市民意識調査
調査報告書

甲府市

目次

I. 調査概要

1. 調査目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 調査方法及び回収結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
3. 調査報告書の見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
4. 回答者について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

II. 調査結果と H23 年度調査との比較

1. 男女共同参画全般

- (1) 男女共同参画に関する言葉の認知度について・・・・・・・・・・・・・13
- (2) 甲府市の男女共同参画推進に関する活動や施策の認知度について・・・・・・・・・・・・・20
- (3) 社会的分野での男女の地位や平等について・・・・・・・・・・・・・23
- (4) 性別による役割分業について・・・・・・・・・・・・・30
- (5) 家庭における役割について・・・・・・・・・・・・・37

2. 仕事

- (1) 女性が職業をもつことについて・・・・・・・・・・・・・44
- (2) 報酬のある仕事の就労実態について・・・・・・・・・・・・・47
- (3) 仕事をしている理由について・・・・・・・・・・・・・49
- (4) 働いている職場での性別による仕事内容・待遇・評価の実態について・・・・・・・・・・・・・54
- (5) 働いている職場での女性に対しての取り組みについて・・・・・・・・・・・・・57
- (6) 仕事をしていない人の就労意欲について・・・・・・・・・・・・・60
- (7) 就労意欲がある人の希望する就労形態について・・・・・・・・・・・・・64
- (8) 就労意欲がある人の働きたい理由について・・・・・・・・・・・・・67
- (9) 就労意欲がある人の仕事につくときの障害について・・・・・・・・・・・・・71

3. 子育て

- (1) 安心して子どもを産み、育てるために必要なことについて・・・・・・・・・・・・・76

4. 地域活動等

- (1) 積極的な地域活動の実施状況について・・・・・・・・・・・・・81
- (2) 積極的に実施している活動内容について・・・・・・・・・・・・・82
- (3) 地域活動を積極的にしない理由について・・・・・・・・・・・・・84

5. 政策・方針決定の場への参画

- (1) 社会的な場所での女性参画推進について・・・・・・・・・・・・・88
- (2) 女性参画が進んでいない理由について・・・・・・・・・・・・・93

6. 配偶者や恋人等から受ける暴力等

- (1) 配偶者や恋人から受けた被害行為について・・・96
- (2) 被害にあった人の相談先について・・・100
- (3) 被害にあった人の相談しなかった理由について・・・105
- (4) 配偶者からの暴力に対する対策・援助として必要な施策について・・・107
- (5) セクシュアル・ハラスメントの被害実態について・・・110
- (6) セクシュアル・ハラスメントの被害を受けた場所について・・・113
- (7) セクシュアル・ハラスメントの被害の相談先について・・・114

7. 今後の取り組み

- (1) 男女共同参画社会を実現するために甲府市に取り組んで欲しい事柄について・・・115

8. 自由記述

- (1) 男女共同参画社会に感じていることや提案したいことについて・・・116

Ⅲ. 資料

- 平成 27 年度甲府市男女共同参画に関する市民意識調査調査票・・・128

I. 調査概要

1. 調査目的

平成 17 年度、平成 23 年度に実施した甲府市男女共同参画に関する市民意識調査に続くものであり、第 2 次こうふ男女共同参画プランの進捗状況や施策の効果及び実態、甲府市民の理解などを把握するために「平成 27 年度男女共同参画に関する市民意識調査」として実施。

2. 調査方法及び回収結果

(1) 調査方法

調査対象：甲府市に住む 20 歳代～70 歳以上の男女 1500 名（各年代別男女 125 名）

標本抽出方法：住民基本台帳から無作為

配布方法：自宅郵送（回収時も同様）

調査期間：平成 27 年 9 月 1 日～9 月 25 日

調査項目：1. 男女共同参画全般

2. 仕事

3. 子育て

4. 地域活動等

5. 政策・方針決定の場への参画

6. 配偶者や恋人等から受ける暴力について

7. 今後の取り組み

8. 自由記述

調査主体：甲府市市民生活部人権・男女共同参画課男女共同参画係

集計・分析：株式会社ユーティティーワイ企画

(2) 回収結果

標本数：1500 有効回収数：576 有効回収率：38.4%

3. 調査報告書の見方

(1) 回答率について

- ・設問ごとに各選択肢の回答者数を回答者総数で割り算して数値を算出した。算出の回答者総数は、図中で「n」及び「N」と表記した。
- ・原則として％（パーセンテージ・百分率）で表記した。小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記している。

- ・一人の回答者が複数回答してもよい設問に関しては、回答率の合計値が100.0%を超える場合がある。また、1人の回答者が1つだけ回答する設問であっても、四捨五入をすることにより回答率の合計値が100.0%を超える場合もある。

(2) 有効回答について

- ・無回答でなく、設問の選択肢に合致する場合、有効回答とした。
- ・一人の回答者が定まった回答の数（〇は3つまでなど）を回答すべき設問に、定まった回答の数以上を回答した場合は、選択肢番号が若い順に定まった回答の数の分だけ有効回答とした。

(3) 無回答について

- ・回答者が回答すべき設問に回答していない及び1つだけ回答すべき設問に2つ以上の回答をした場合は無回答とした。

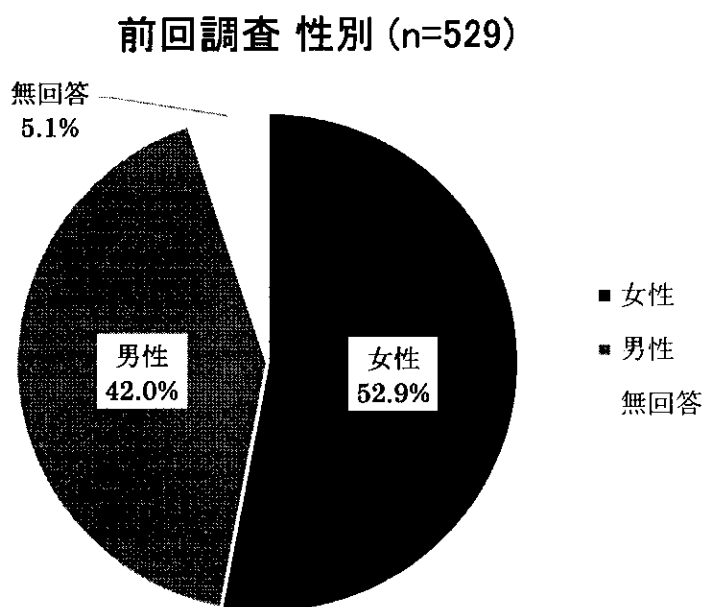
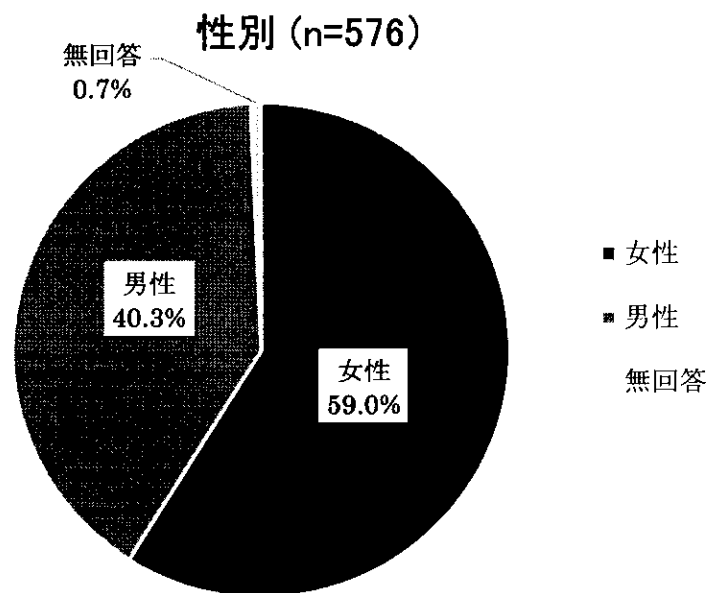
(4) グラフ分析及び比較について

- ・各設問において、選択率が高い上位と下位の項目に着目して分析した。また、H23年度調査時の設問と同様であれば、その結果をH23年度調査結果と比較し、分析した。
- ・文中で、特に着目したい箇所に関しては下線、二重線などで表記した。
- ・項目の多いグラフについては、より明瞭にするため、0.0%の表記を省略したものもある。
- ・今回新たに調査した項目に関しては「新規」及び「新規調査」として表記を加えた。
- ・「H23年度調査」の名称は文中では「前回調査」とし、「H27年度調査」の名称は「今回調査」と表記する。

4. 回答者について

(1) 性別

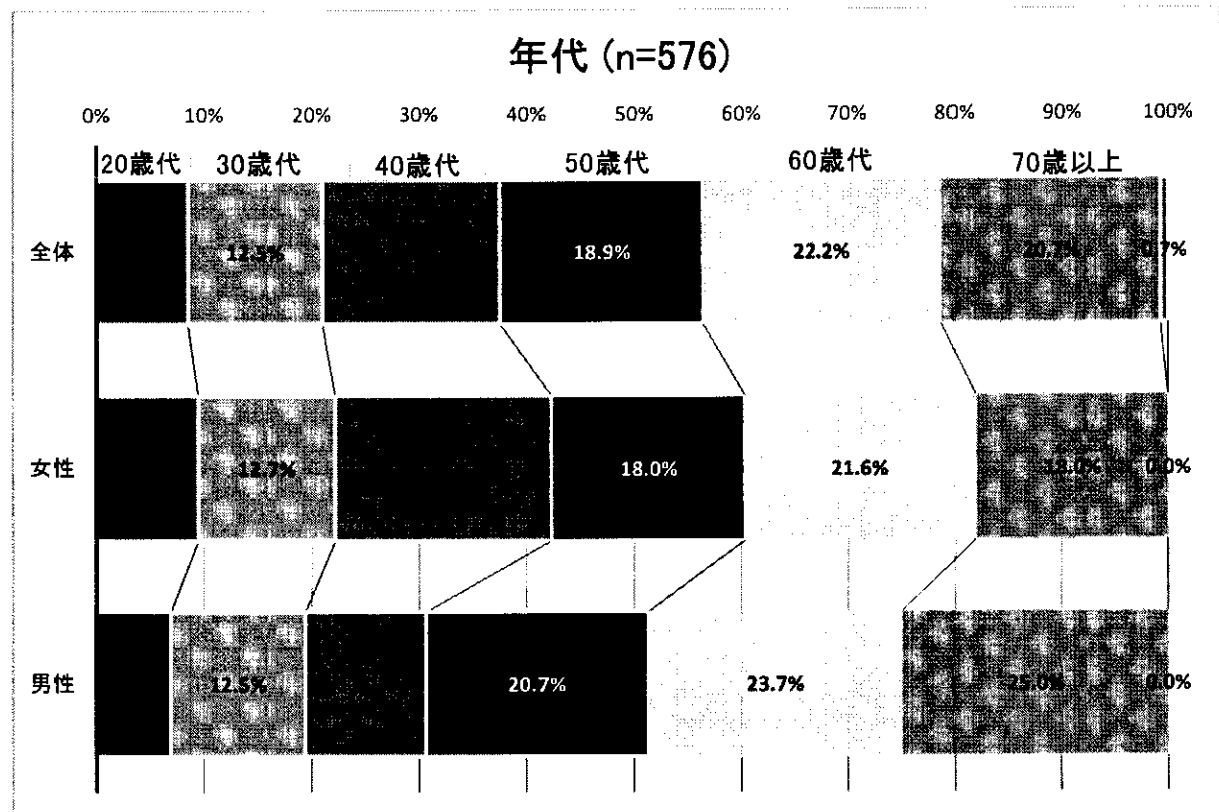
F1 あなたの性別は？



性別は、「女性」59.0%、「男性」40.3%で、男性より女性のほうが18.7%高かった。前回調査の割合と比較すると、「女性」は6.1%高くなっており、「男性」は1.7%低くなった。

(2) 年代

F2 あなたの年代はおいくつですか。

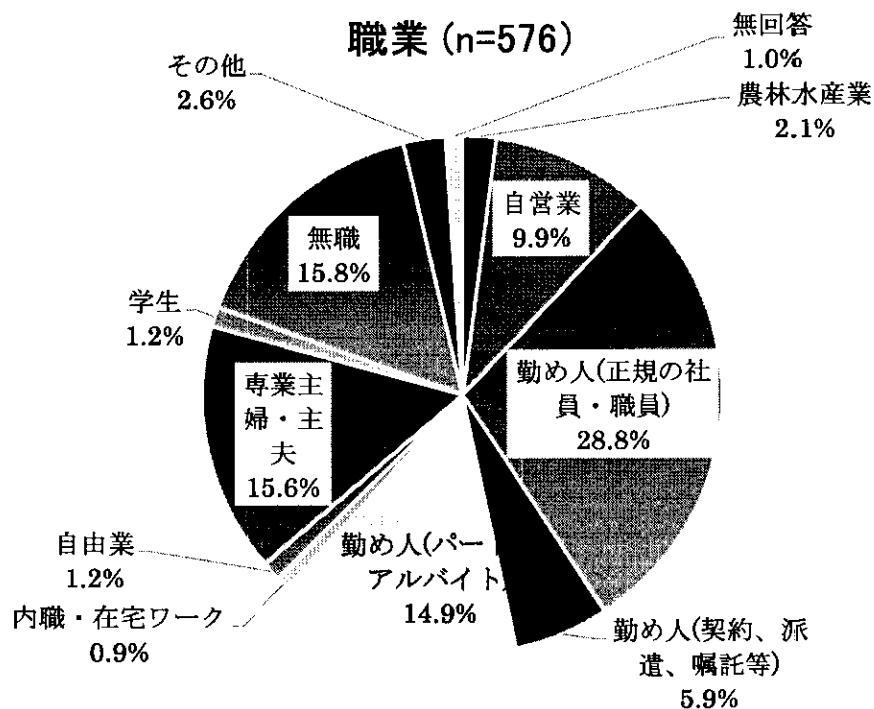


年代は、全体で「60 歳代」が 22.2%と高く、最も低かったのは「20 歳代」の 8.5%であった。

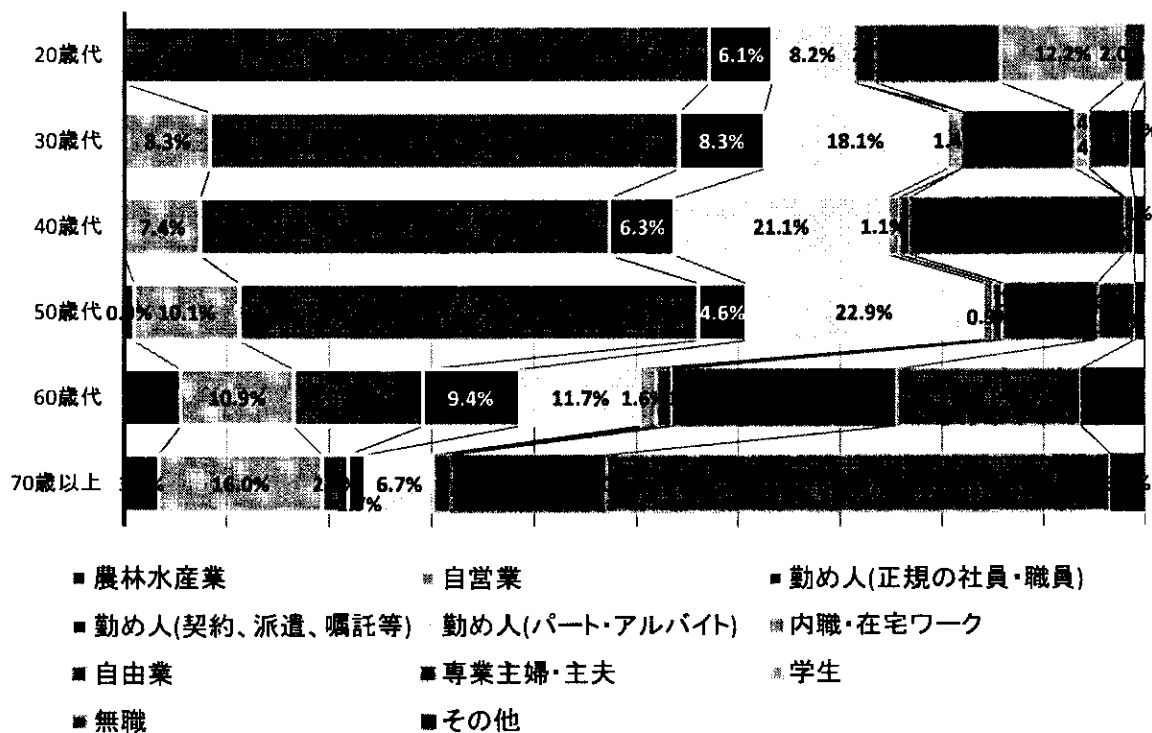
性別でみると、女性が「60 歳代」で 21.6%、男性は「60 歳代」で 23.7%と最も高かった。女性は「20 歳代」、「30 歳代」、「40 歳代」で男性より回答率が高く、逆に男性は「50 歳代」、「60 歳代」、「70 歳代」で女性より回答率が高かった。

(3) 職業

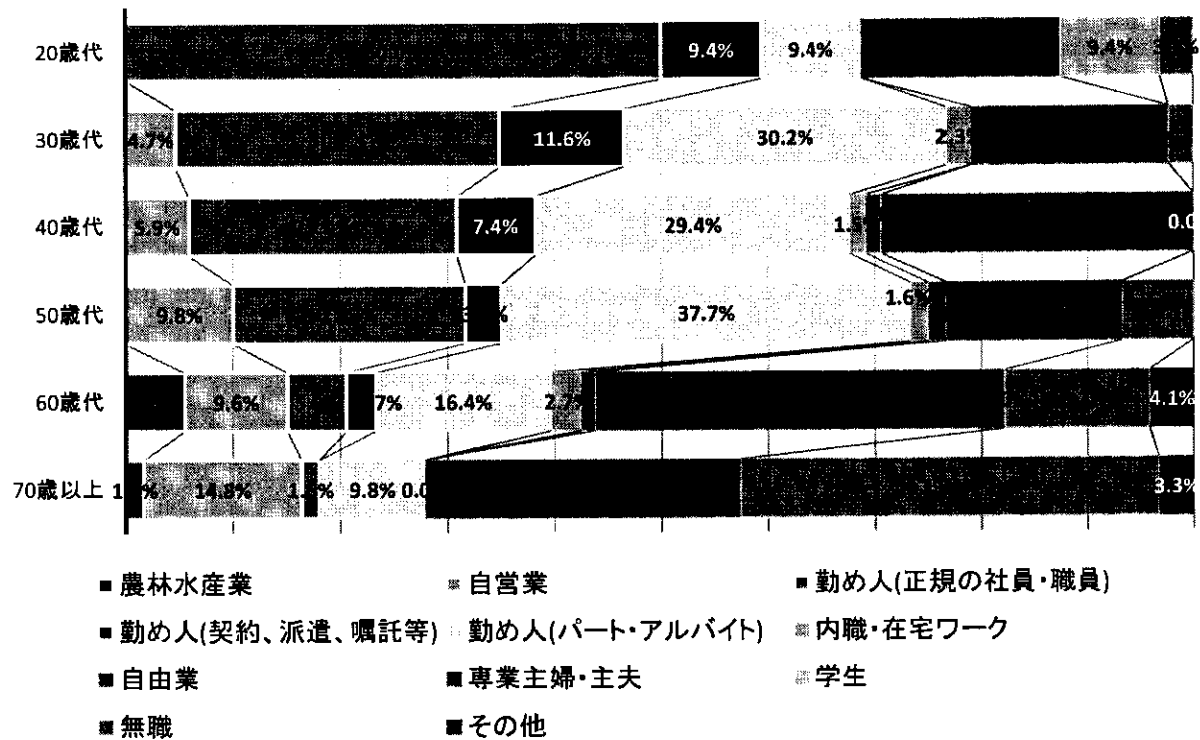
F3 あなたの職業（主なものに○を1つ）



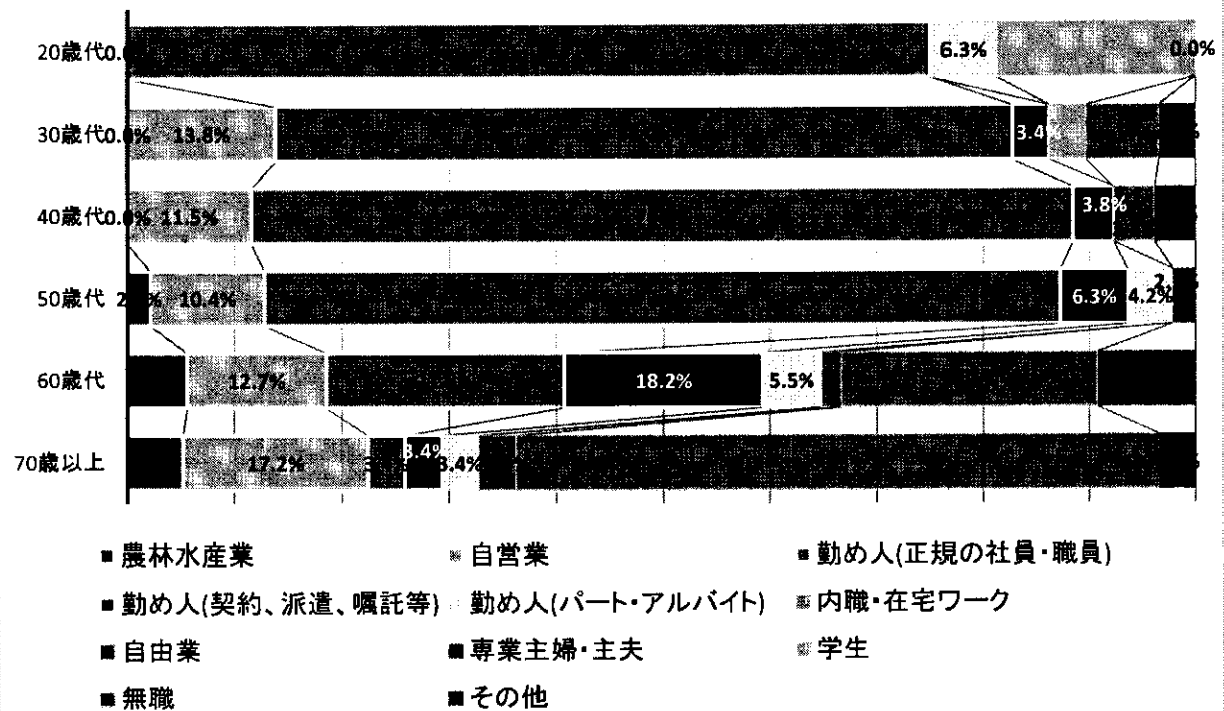
職業(年代別)



職業(女性年代別)



職業(男性年代別)



職業は、「正規の社員・職員」が28.8%と最も高く、次いで、新規項目である「専業主婦・主夫」15.6%、「無職」15.8%、「パート・アルバイト」14.9%となった。

前回調査では、「無職」が35.5%ともっとも高い結果であったが、今回調査で、新規項目である「専業主婦・主夫」を職業の一つとして追加したことによって、「無職」を回答したであろう人が「専業主婦・主夫」に移行していったものだと考えられる。

今回調査時の選択項目である「会社員」「公務員」「パートタイム・アルバイト・契約社員」は、今回調査で、「正規の社員・職員」「契約・派遣・嘱託等」「パート・アルバイト」「内職・在宅ワーク」に分類し、前回調査時の「会社員（21.2%）」「公務員（5.7%）」が1つにまとめられ、今回調査で「正規の社員・職員（28.8%）」になったことで、回答者比率が上がった。

女性では、「専業主婦・主夫」が26.5%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」23.0%、「会社員」18.9%となった。前回調査では、「無職」が45.7%と最も高い割合を占めたが、今回調査において、「専業主婦・主夫」の選択項目が追加されたため、「無職」を回答したであろう人がそちらに移行したとみられる。

女性の年代別での最も割合が高かった項目は20歳代「正規の社員・職員」50.0%、30歳代「正規の社員・職員」及び「パート・アルバイト」が共に30.2%、40歳代「パート・アルバイト」及び「専業主婦・主夫」29.4%、50歳代「パート・アルバイト」37.7%、60歳代「専業主婦・主夫」38.4%、70歳以上「無職」38.3%という結果になった。

男性では、「正規の社員・職員」が43.5%と最も高かった。前回調査時の「会社員（32.9%）」と「公務員（10.4%）」を合わせた数値43.3%と変化はなかった。

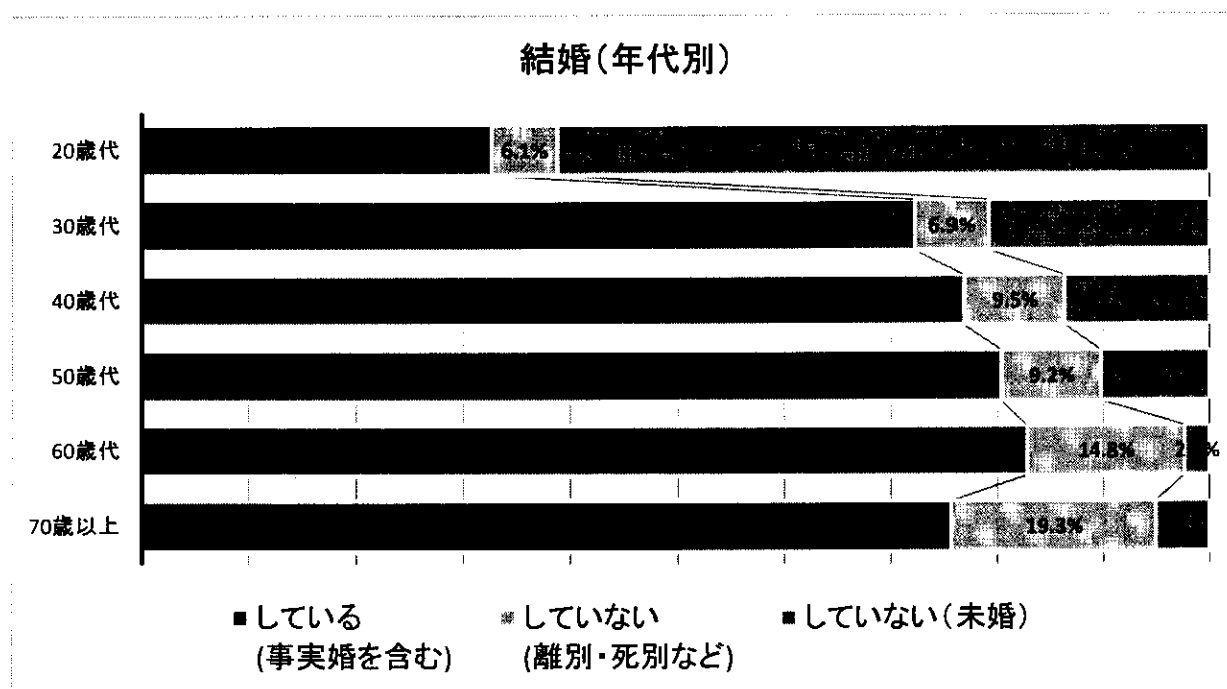
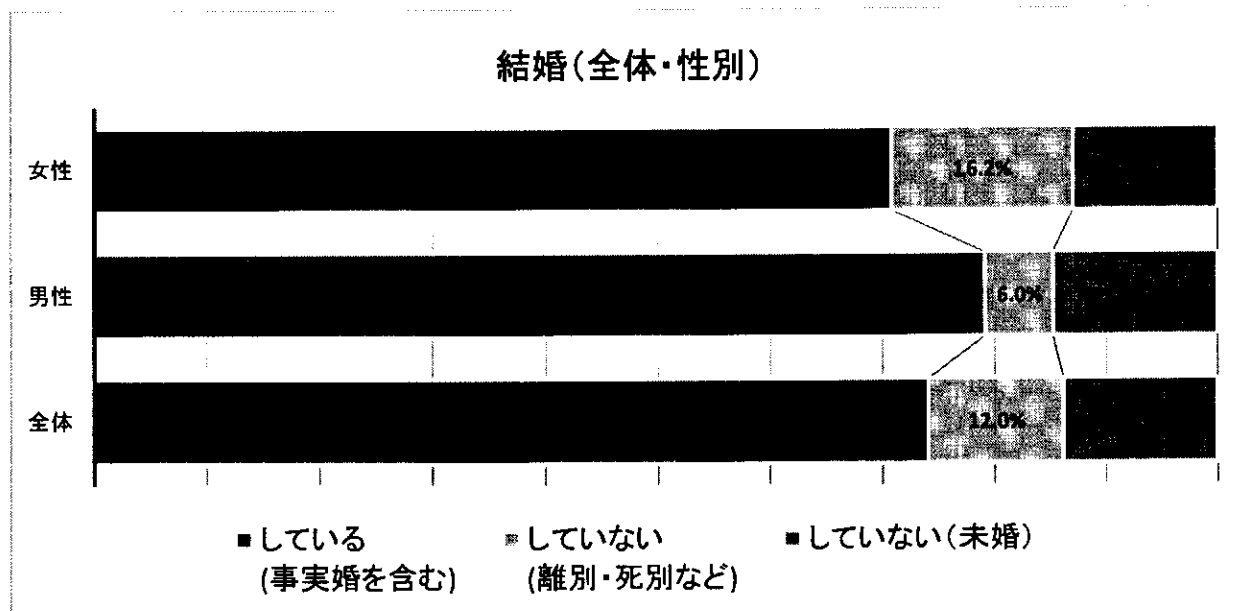
男性の年代別での最も高い項目は、20歳代「正規の社員・職員」75.0%、30歳代「正規の社員・職員」69.0%、40歳代「正規の社員・職員」76.9%、50歳代「正規の社員・職員」72.9%、60歳代「無職」23.6%、70歳以上「無職」60.3%であった。

男性20歳代～50歳代で「正規の社員・職員」の割合が7割を占めているのに対して、女性は20歳代の50.0%から30.2%、25.0%、21.3%と年代が上がるとともに減少し、逆に「勤め人（パート・アルバイト）」が増えており、女性の出産・育児での影響が考えられる。

(4) 結婚

F4 あなたは結婚していますか。

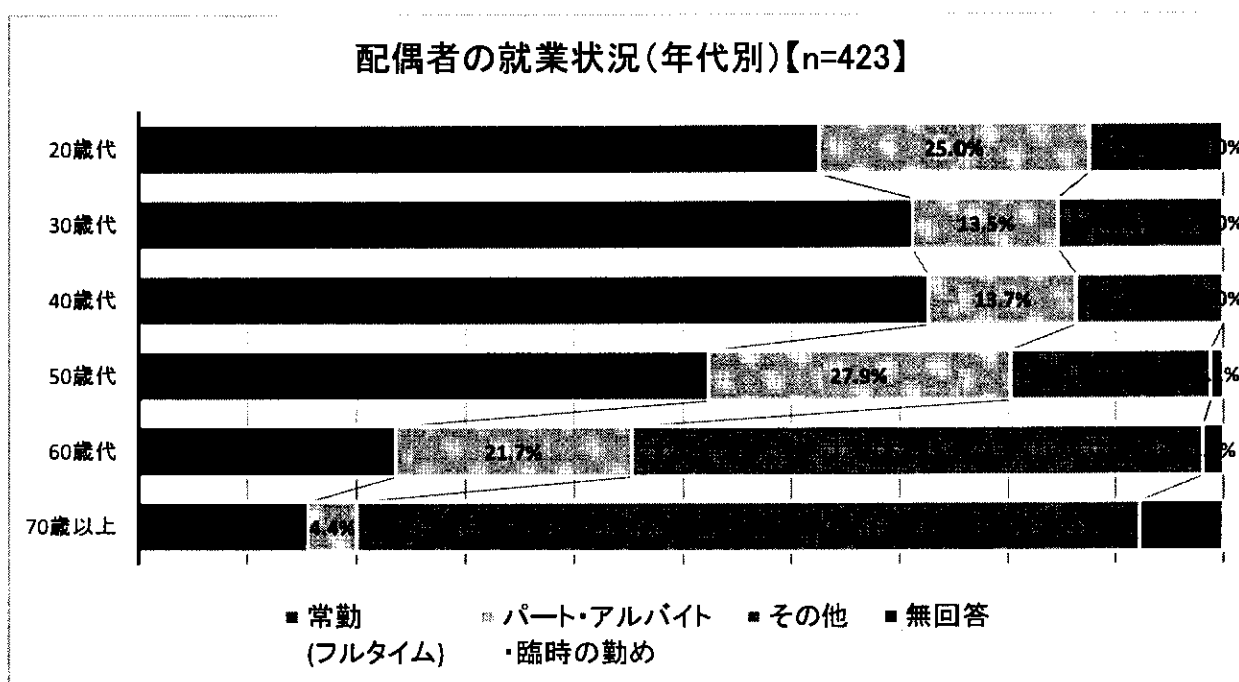
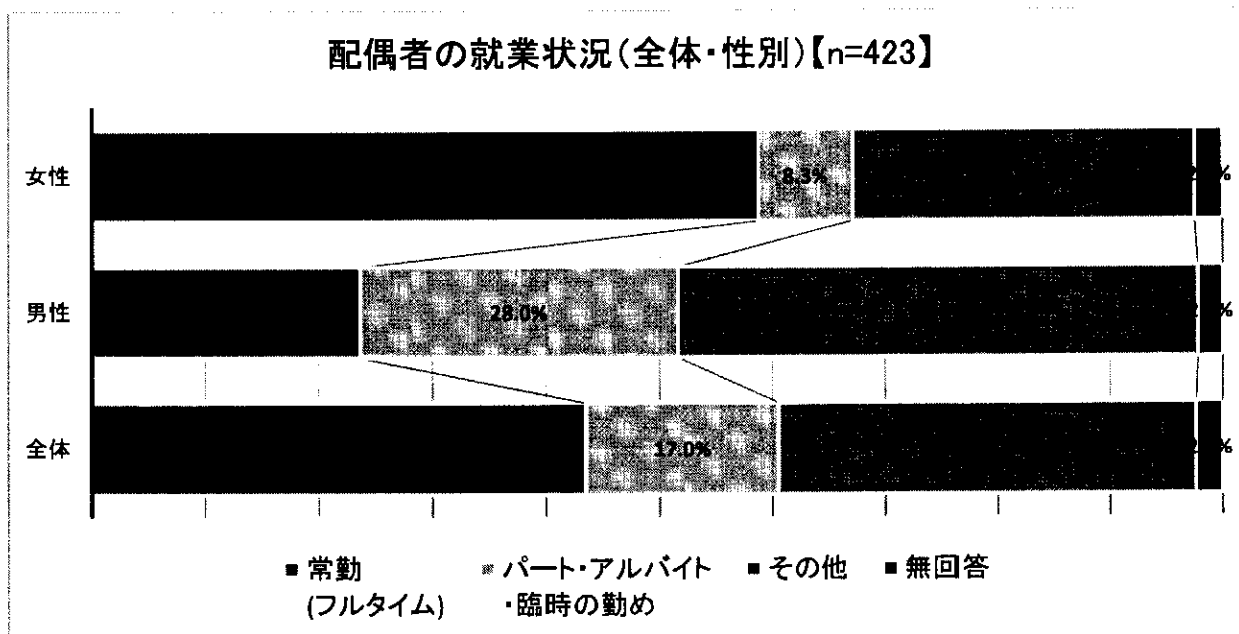
新規調査



結婚全体は、「している（事実婚を含む）」が73.4%で最も高かった。
性別でみると、女性は「している（事実婚を含む）」が70.8%、男性は「している（事実婚を含む）」が79.1%であった。年代別では、20歳代の未婚率が最も高かった。30歳代～70歳以上では、既婚率は7割以上であった。

(4) - 1 配偶者の就業状況

【F4-a】 あなたの配偶者（パートナー）の就業状況は。

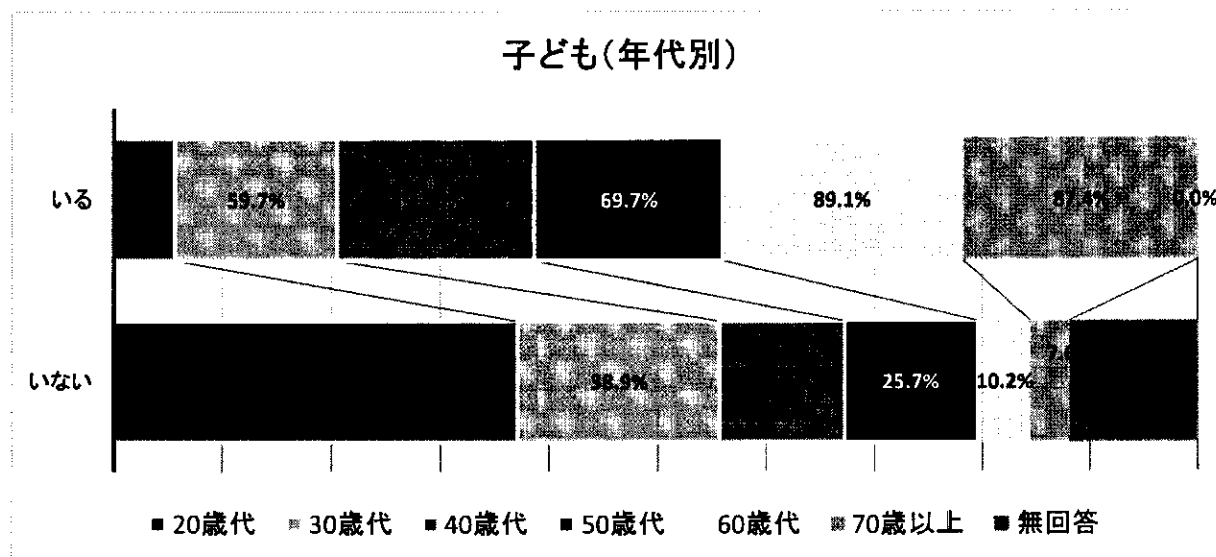
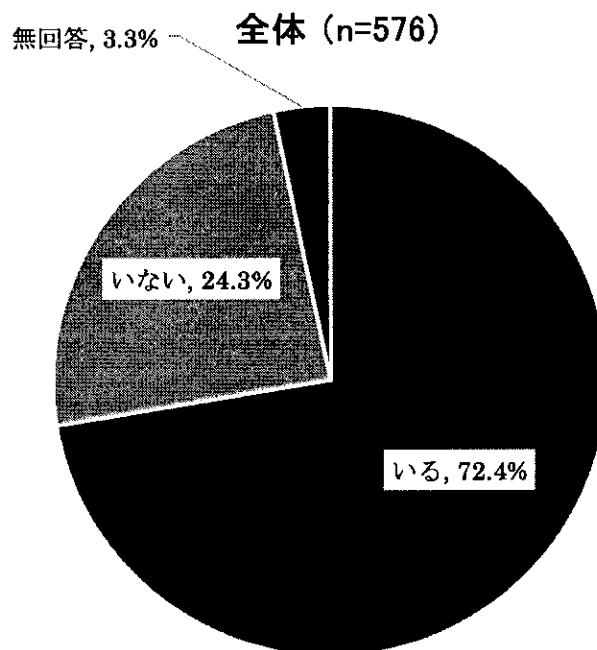


配偶者の就業状況に関して、女性は、配偶者が「常勤（フルタイム）」42.8%で最も高く、男性は配偶者が「その他」36.2%と最も高かった。男性が回答している「その他」に関しては、詳細を記載する部分がないため、一概にはいえないが、専業主婦（及び無職）という就業状況が多いと思われる。年代別での60歳代、70歳以上の「その他」に関しては配偶者が無職である割合が高いと思われる。

(5) 子ども

F5 あなたにはお子さんがいますか。

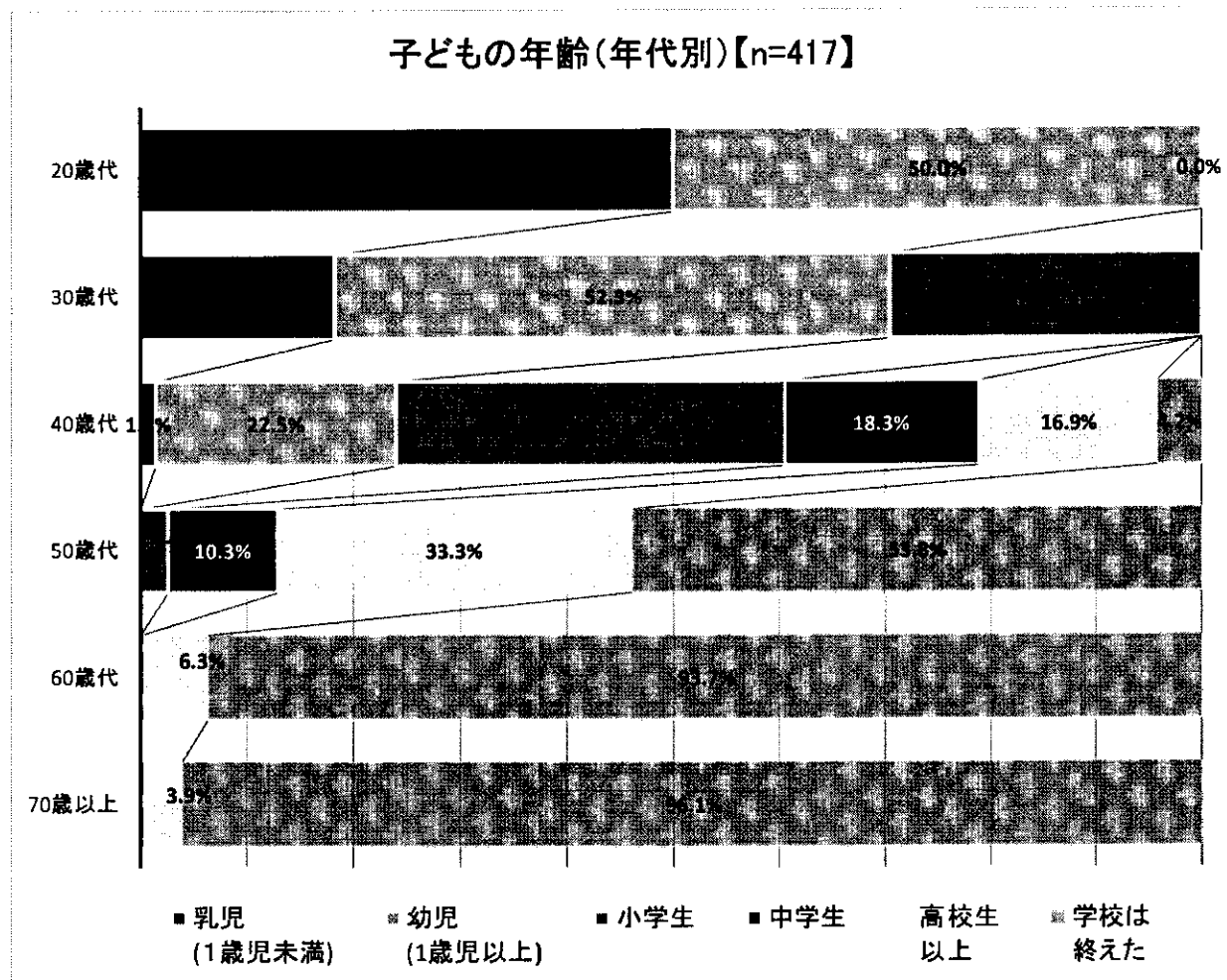
新規調査



子供がいるかについては、全体で、「いる」が72.4%であった。
年代別で、子どもがいる割合が最も低いのは20歳代であり、上の世代にいくにつれて、割合は高くなっている。

(5) -1 一番下の子どもの年齢

【F5-a】一番下のお子さんは、おいくつですか。

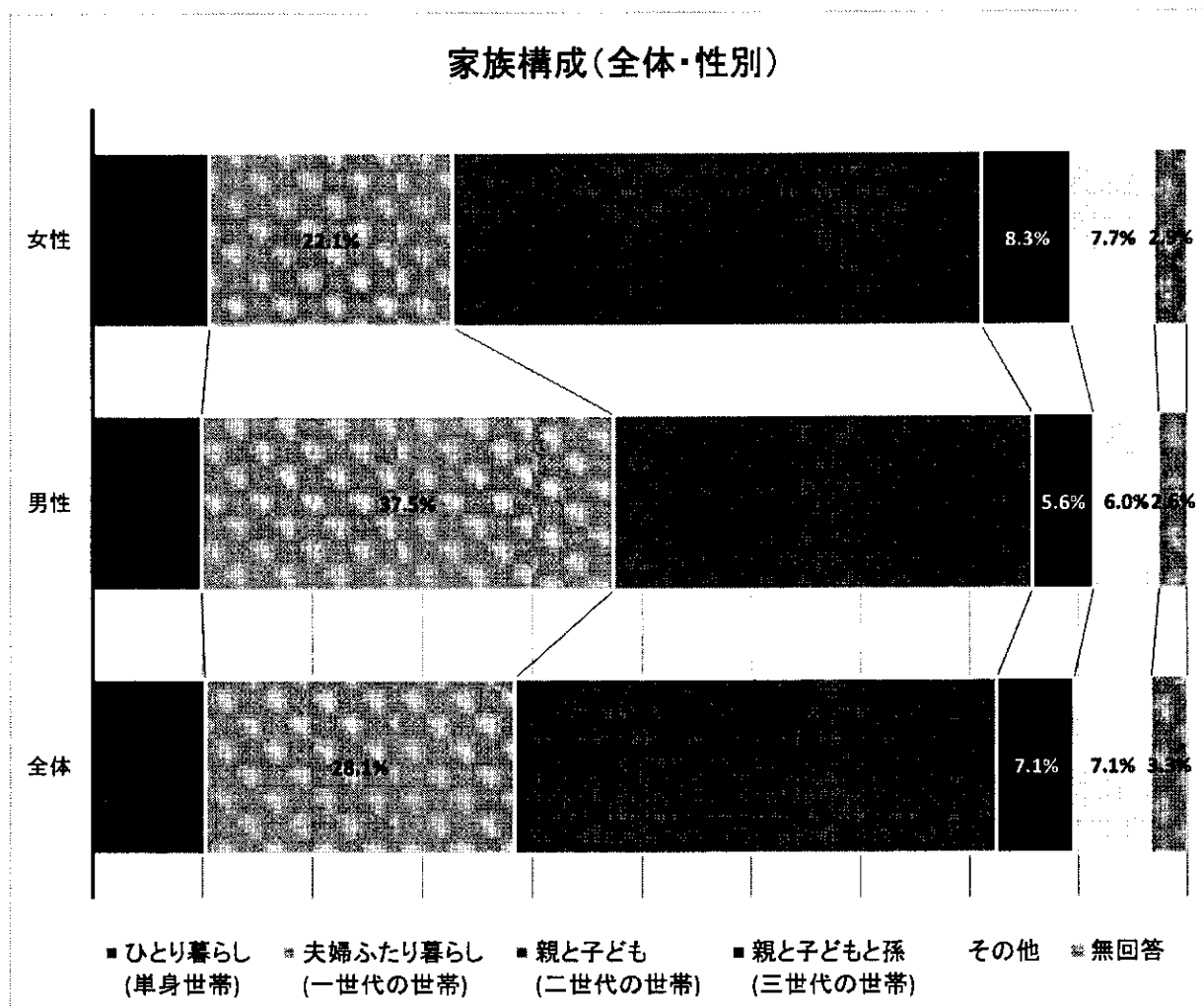


一番下の子どもの年齢については、20歳代、30歳代は「乳児」、「幼児」、40歳代は「小学生」、50歳代は「高校生以上」、60歳代、70歳代では「学校は終えた」が最も高い割合であった。子供に手がかかる乳児・幼児を持つ親の年代は、20歳代、30歳代が多く、40歳代でも約24%いた。

(6) 家族構成

F6 あなたの現在の家族の構成は。

新規調査



家族構成については、全体で、「親と子ども（二世代の世帯）」が44.1%でもっとも高く、次いで「夫婦ふたり暮らし（一世代の世帯）」28.1%であった。「親と子どもと孫（三世代の世帯）」はもっとも低く、7.1%にとどまった。

性別だと、女性は男性に比べ、「親と子ども（二世代の世帯）」の割合が高く、逆に、男性は「夫婦ふたり暮らし（一世代の世帯）」の割合が女性より高かった。

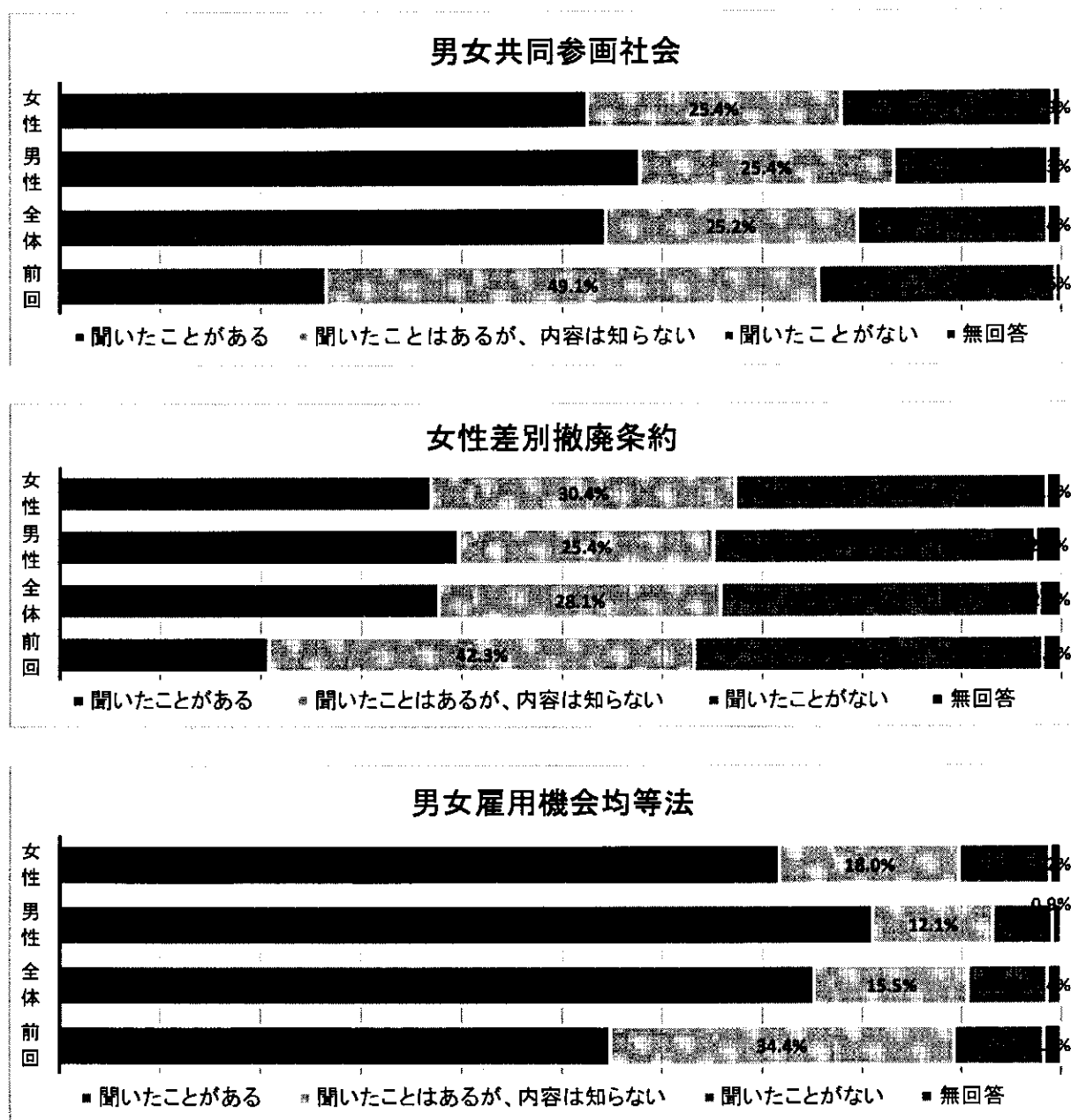
Ⅱ. 調査結果と H23 年度調査との比較

1. 男女共同参画全般

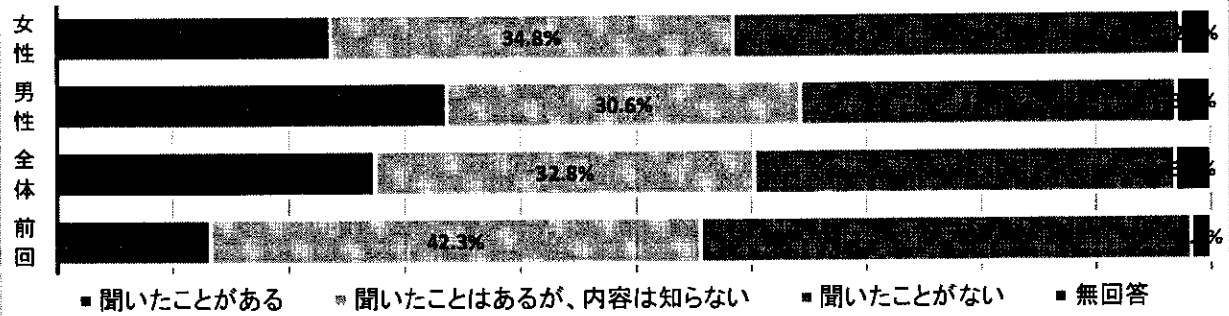
1- (1) 男女共同参画に関する言葉の認知度について

【問 1】 あなたは次の言葉を聞いたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

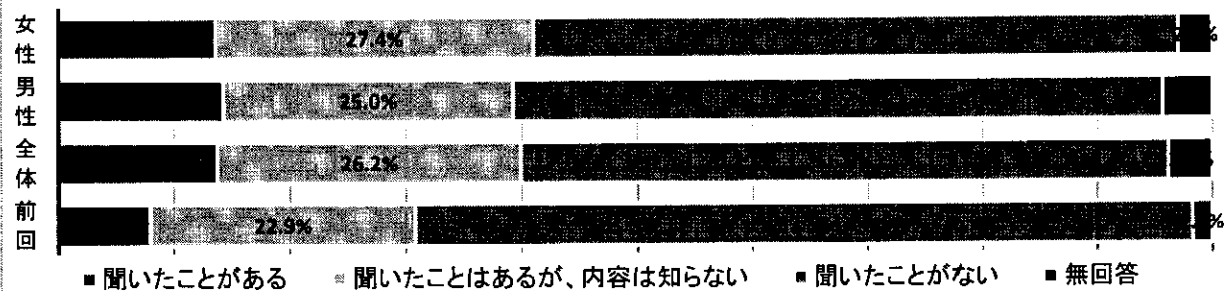
【全体（比較）・性別グラフ】



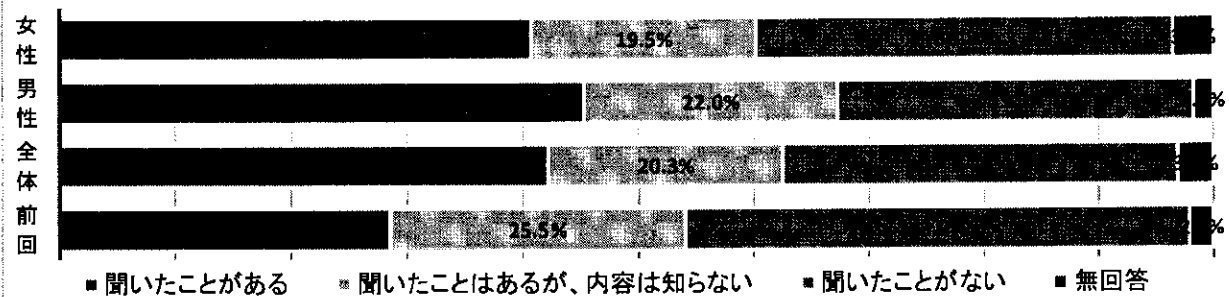
男女共同参画社会基本法



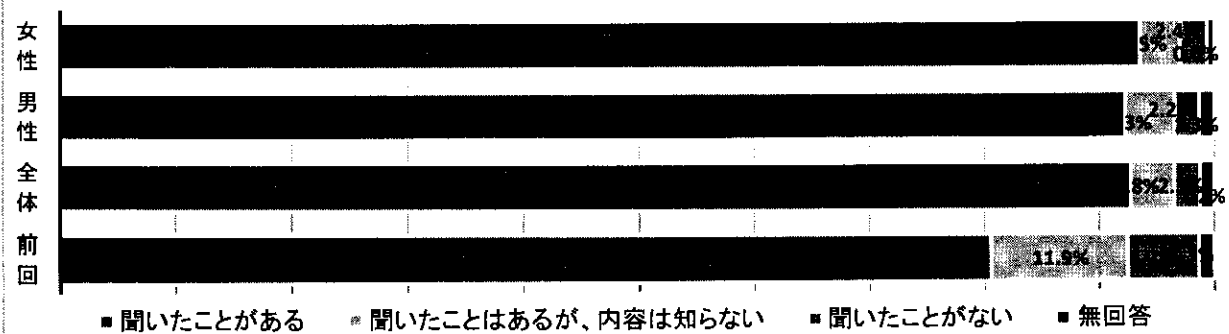
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

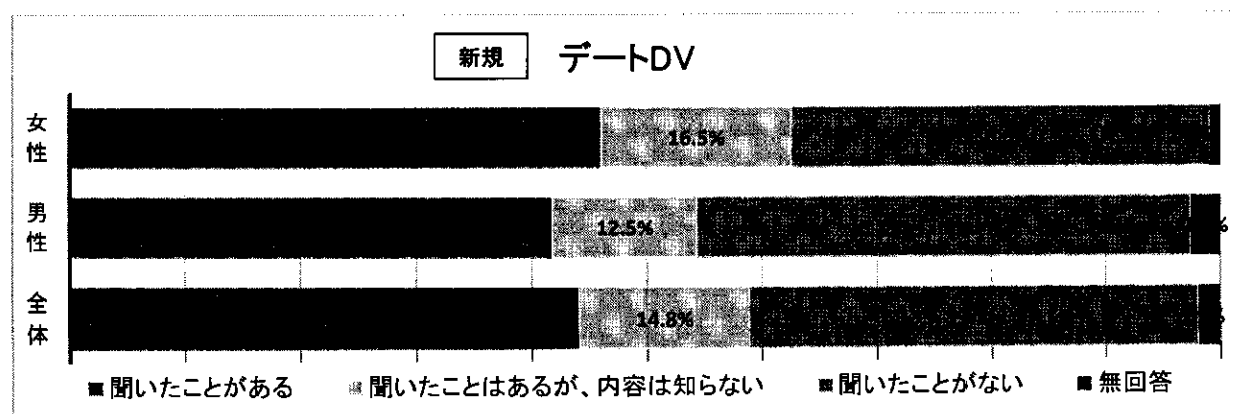
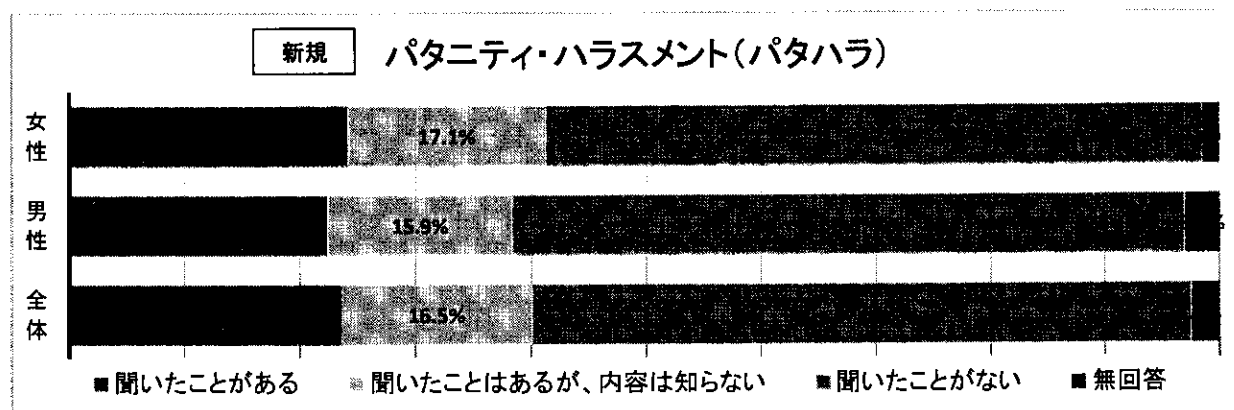
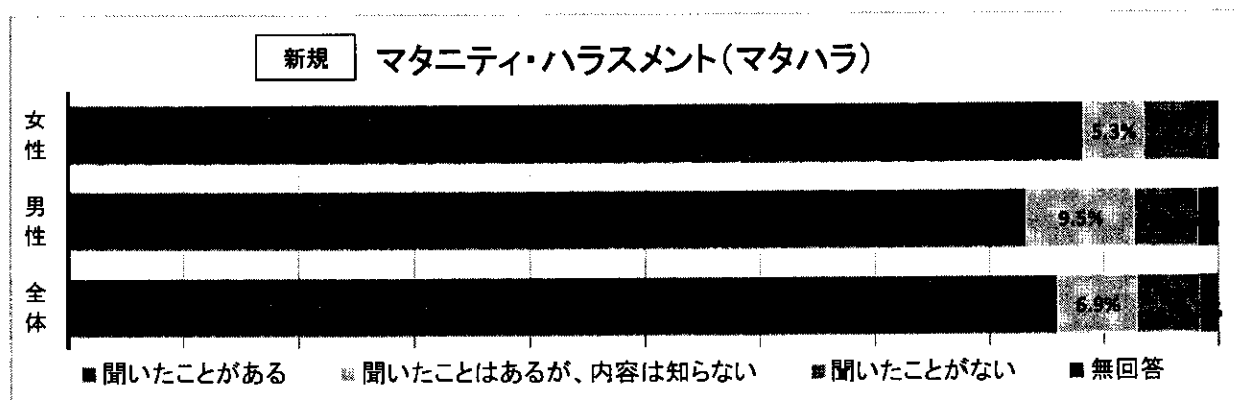
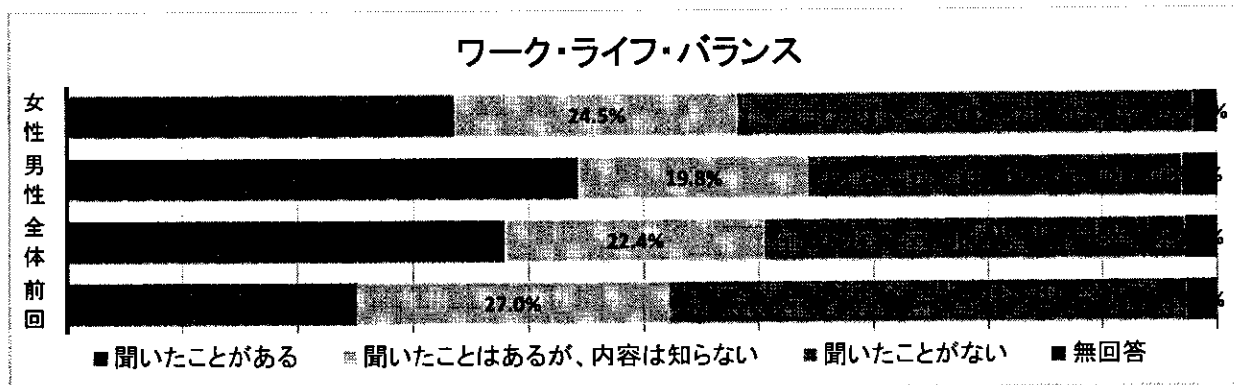


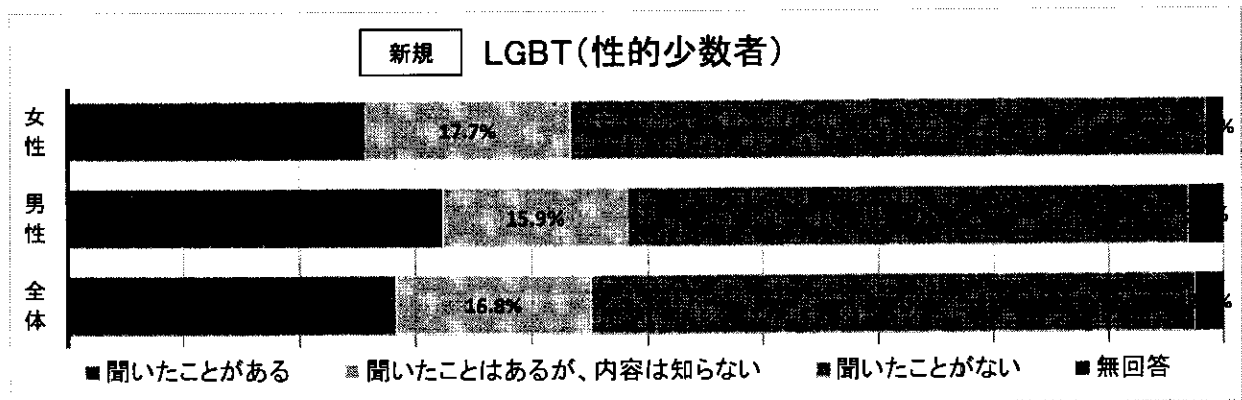
ジェンダー(社会的性差)



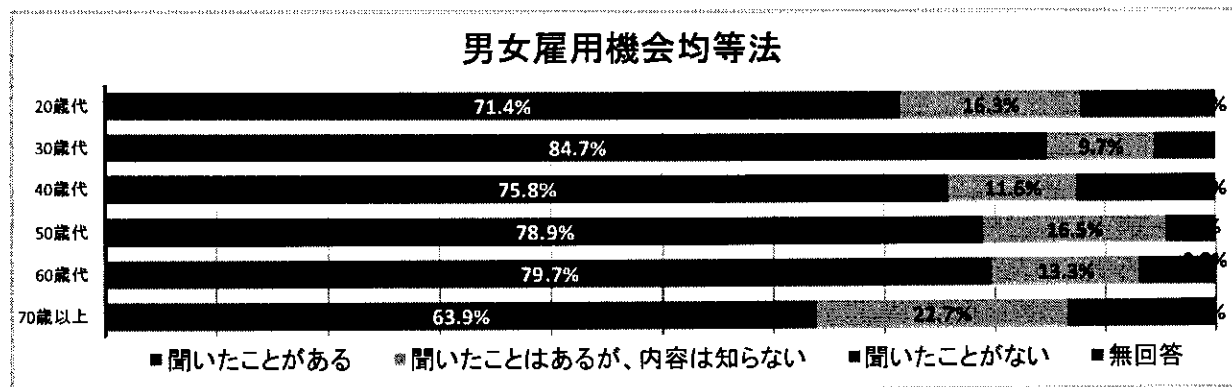
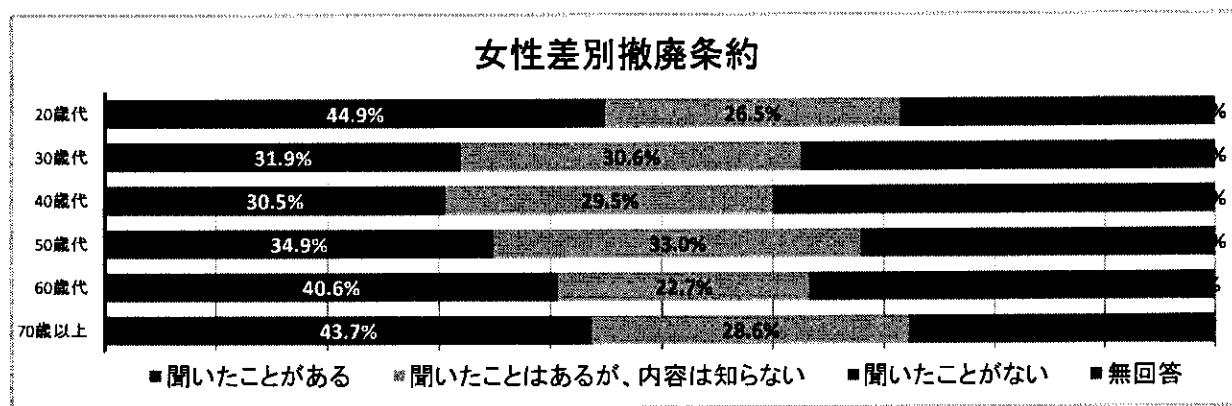
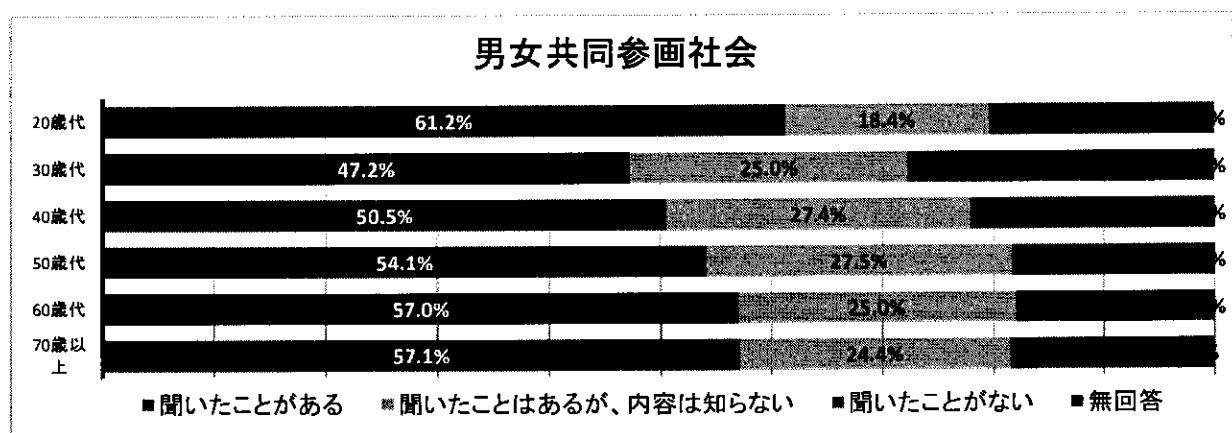
セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)



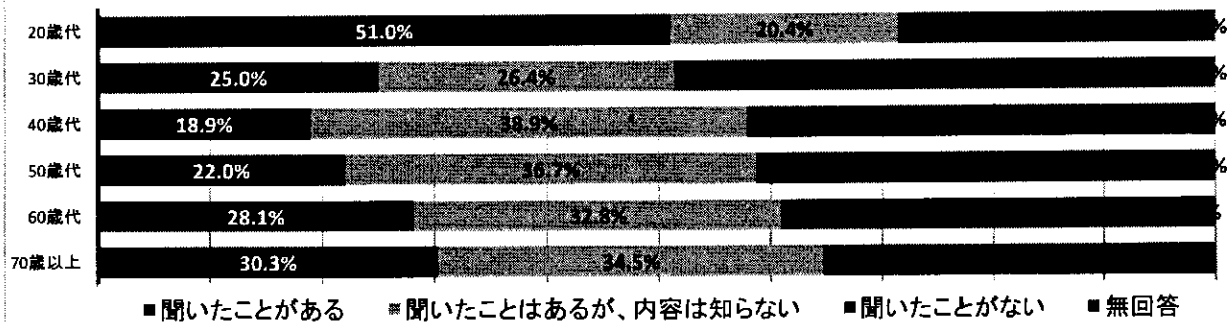




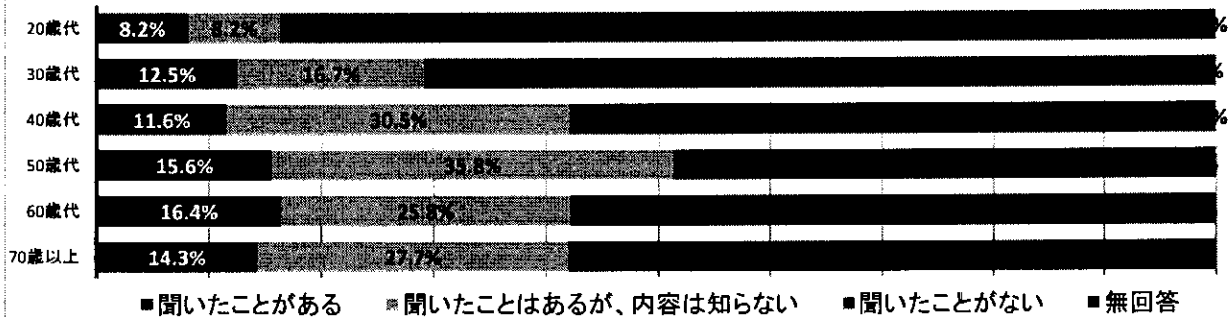
【年代別】



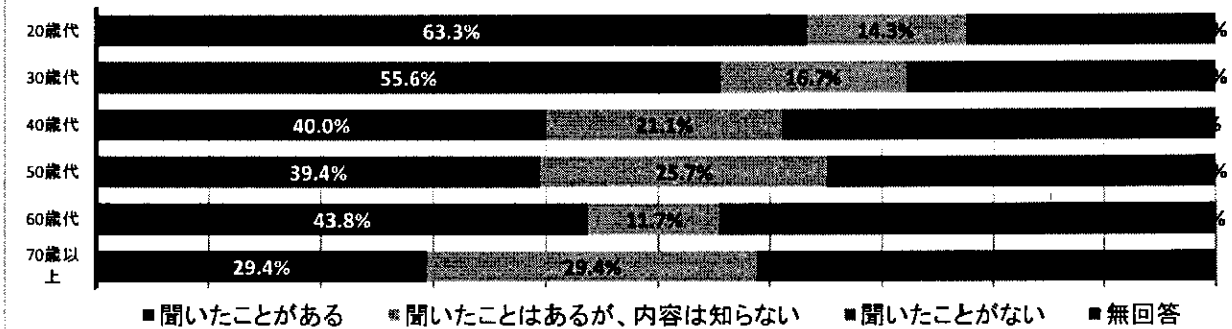
男女共同参画社会基本法



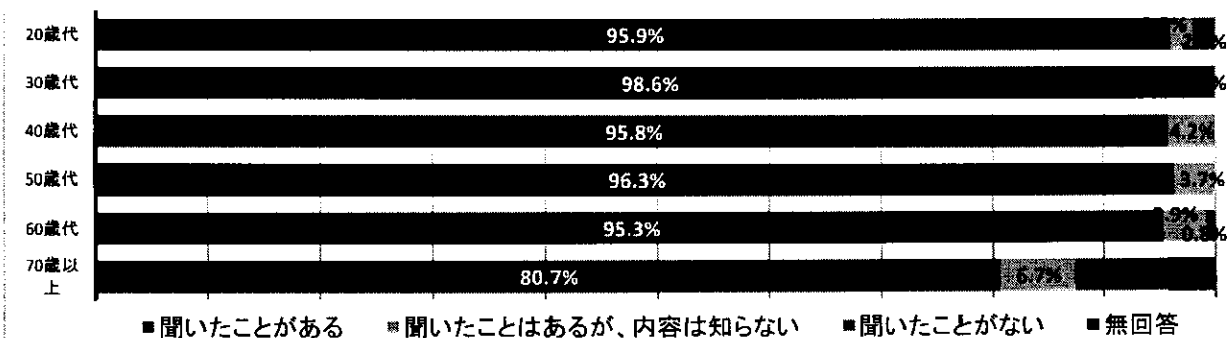
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)



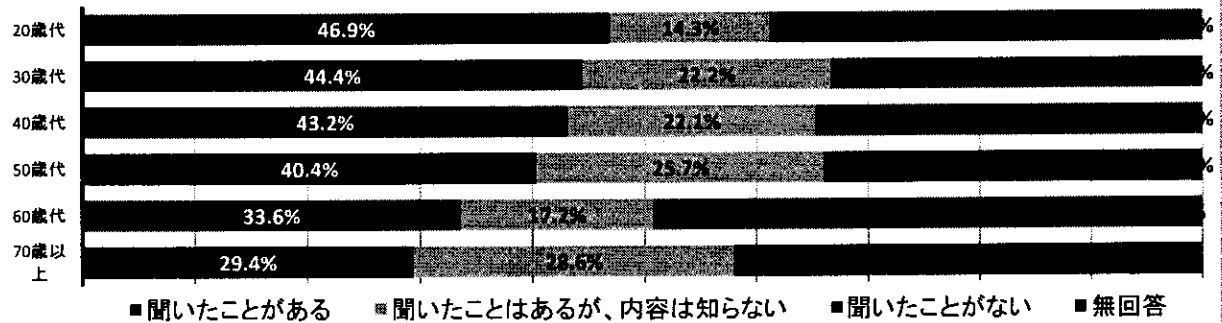
ジェンダー(社会的性差)



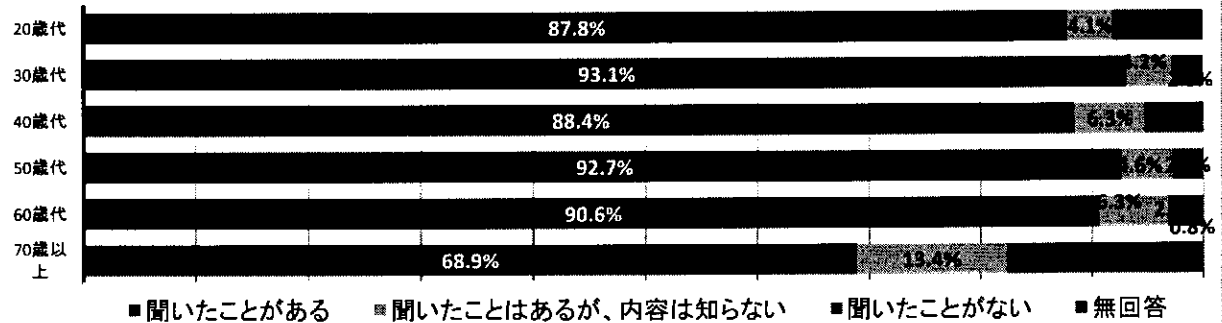
セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)



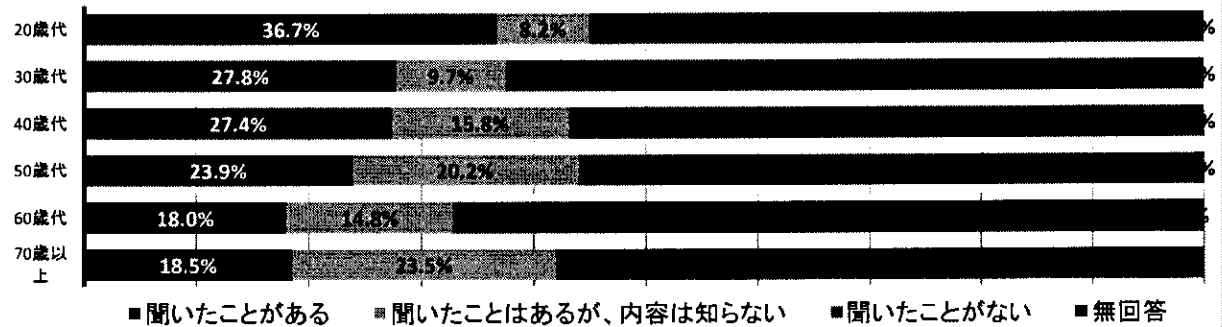
ワーク・ライフ・バランス



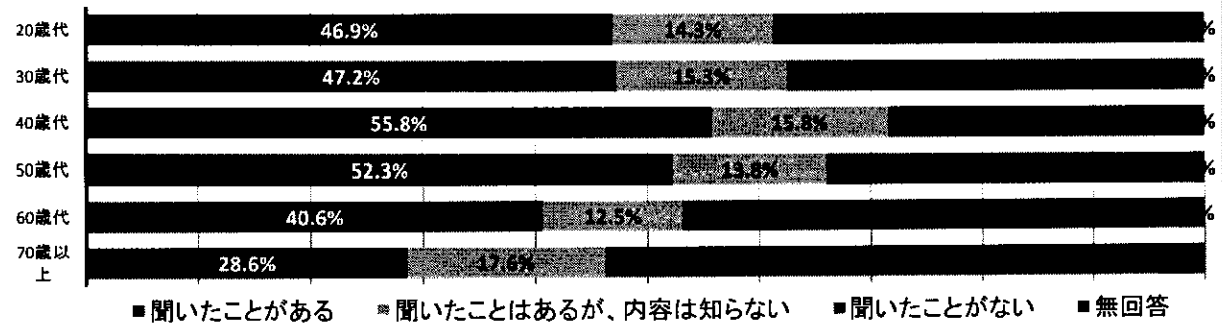
マタニティ・ハラスメント(マタハラ)

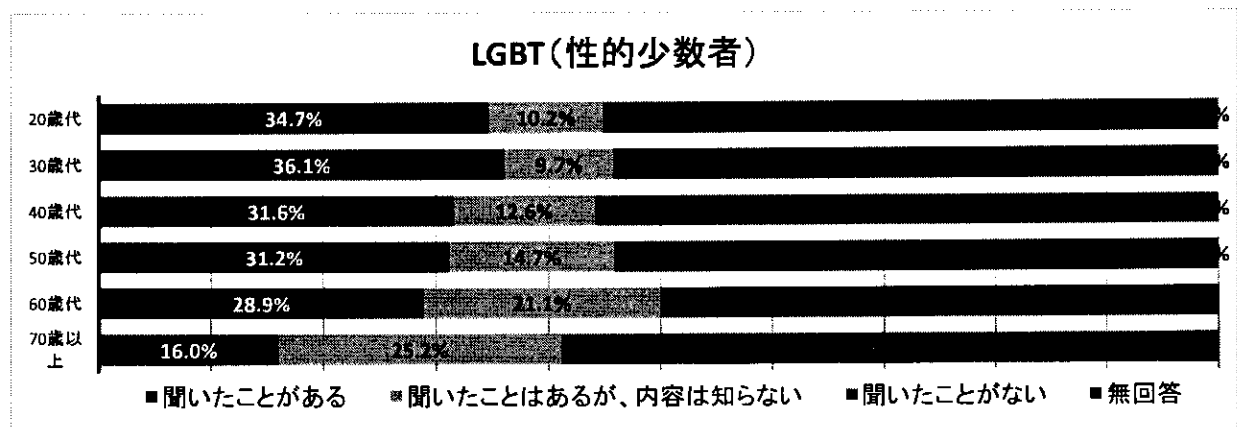


パタニティ・ハラスメント(パタハラ)



デートDV





【結果から】

男女共同参画に関する言葉の認知度について、全体で、『聞いたことがある』は、「セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)」92.7%で最も高く、「マタニティ・ハラスメント(マタハラ)」85.9%、「男女雇用機会均等法」75.2%、「男女共同参画社会」54.3%と続いた。

『聞いたことはあるが、内容は知らない』は、「男女共同参画社会基本法」が32.8%で最も高く、「男女差別撤廃条約」28.1%、「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」26.2%、「男女共同参画社会」25.2%と続いた。言葉だけは知っていても、内容の関心にまで至っていないことがうかがえる。

『聞いたことがない』は、「パタニティ・ハラスメント(パタハラ)」57.5%で(全体)及び両性共に最も高く、「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」56.3%、「LGBT(性的少数者)」52.4%と続いた。

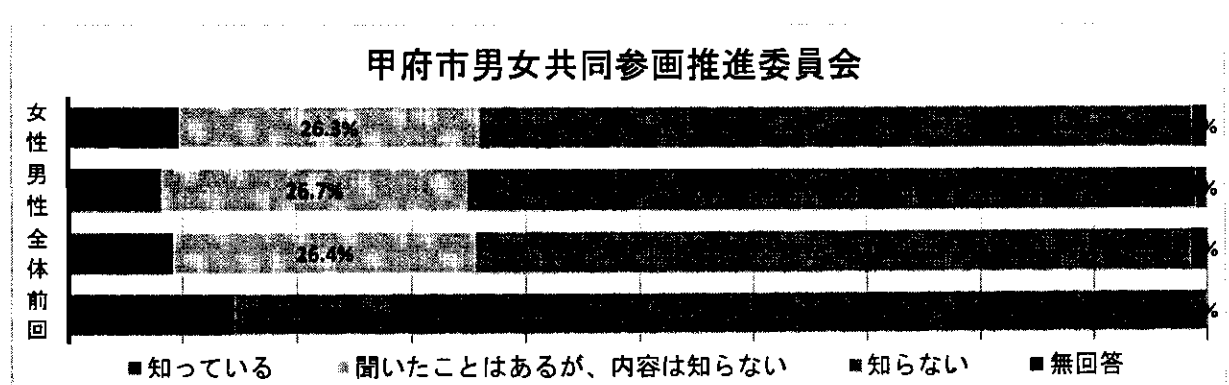
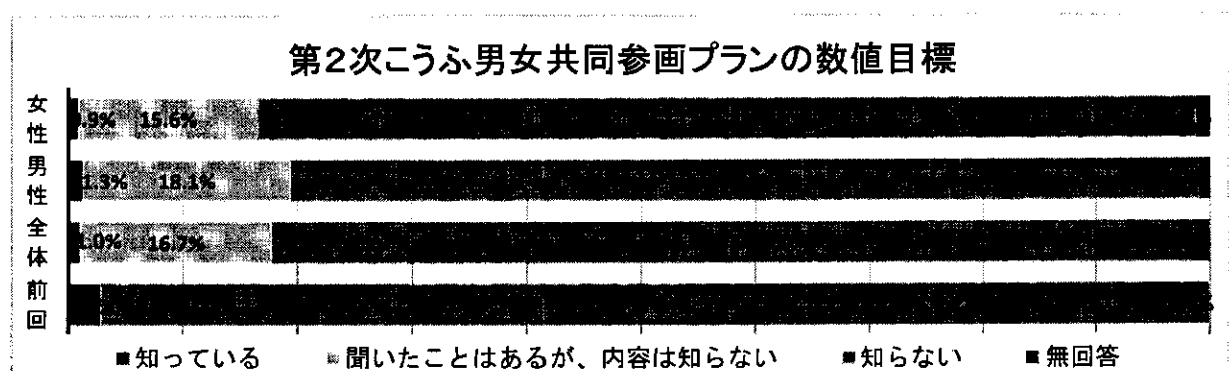
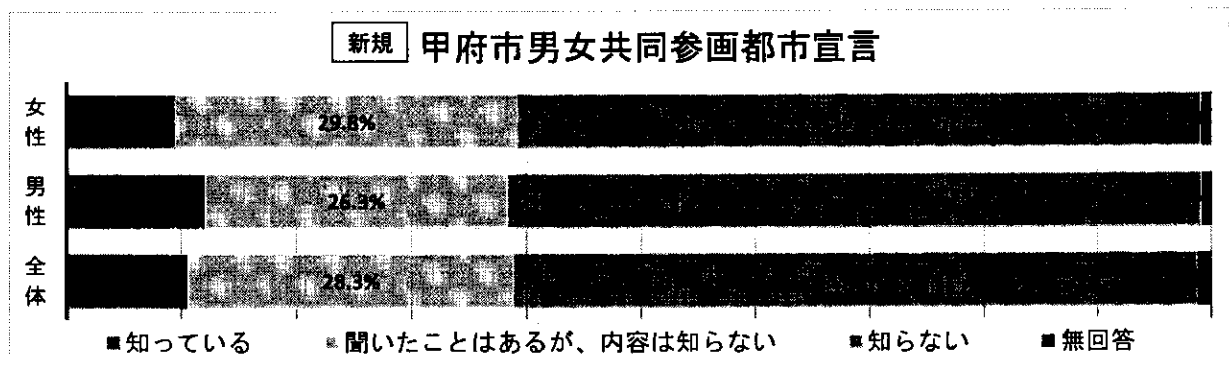
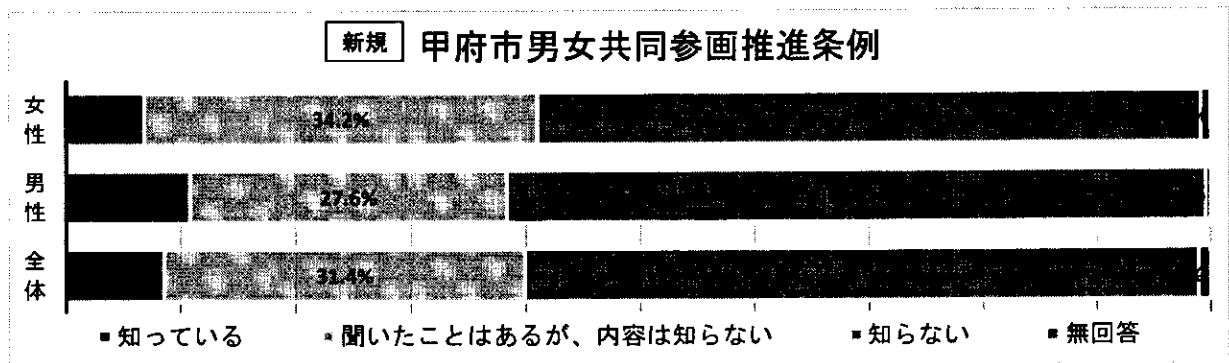
性別で、女性の『聞いたことがある』に関しては、「セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)」93.5%が最も認知度が高く、次いで「マタニティ・ハラスメント(マタハラ)」88.2%であった。逆に、一番低い数値だったのは、「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」13.6%であった。男性でも同様に、「セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)」92.2%、「マタニティ・ハラスメント(マタハラ)」83.2%と高く、「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」が14.2%と低い結果で、全体的にはすべての項目において男女の認知度の差はなかった。

前回調査と比較すると、『聞いたことがある』において、「男女共同参画社会基本法」41.1ポイント、「男女共同参画社会」27.8ポイント、「男女雇用機会均等法」20.4ポイント、「ジェンダー(社会的性差)」13.7ポイント、「ワーク・ライフ・バランス」12.9ポイント、「セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)」は12.2ポイント、「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」5.8ポイントと高くなった。前回調査と比べると認知度が極めて高くなっていることに伴い、「聞いたことがない」の割合も上記の項目(前回調査時の同項目のみ)は低くなっている。

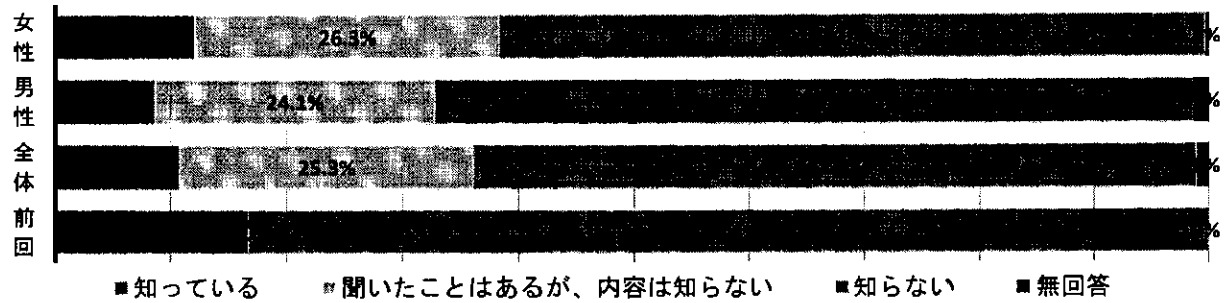
1- (2) 甲府市の男女共同参画推進に関する活動や施策の認知度について

【問 2】 甲府市の男女共同参画推進に関する活動や施策を知っていますか。(〇はそれぞれ1つ)

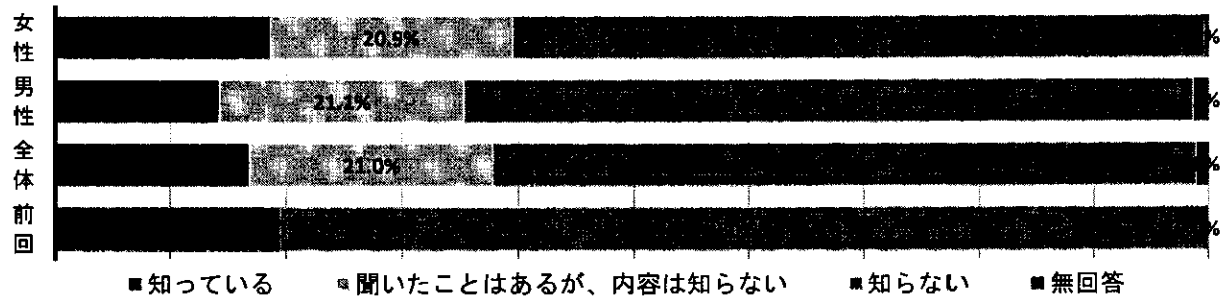
【全体・性別グラフ】



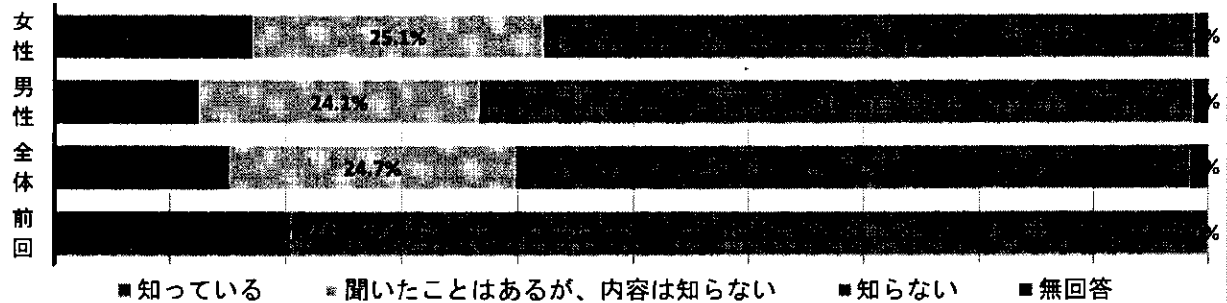
甲府市男女共同参画フォーラムの開催



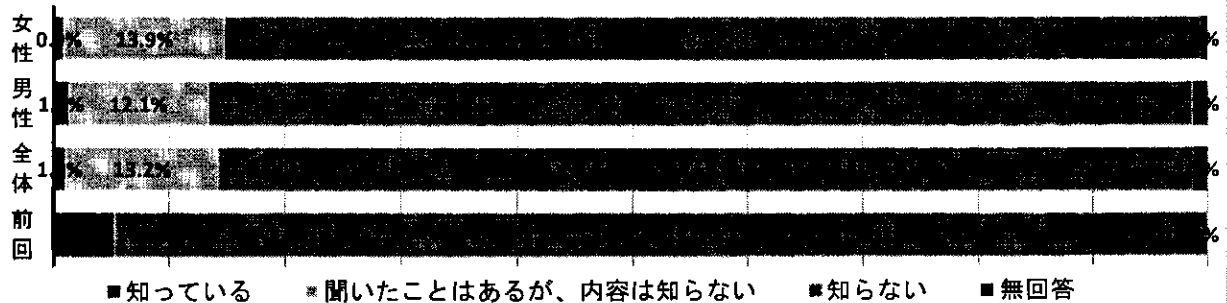
甲府市男女共同参画センター

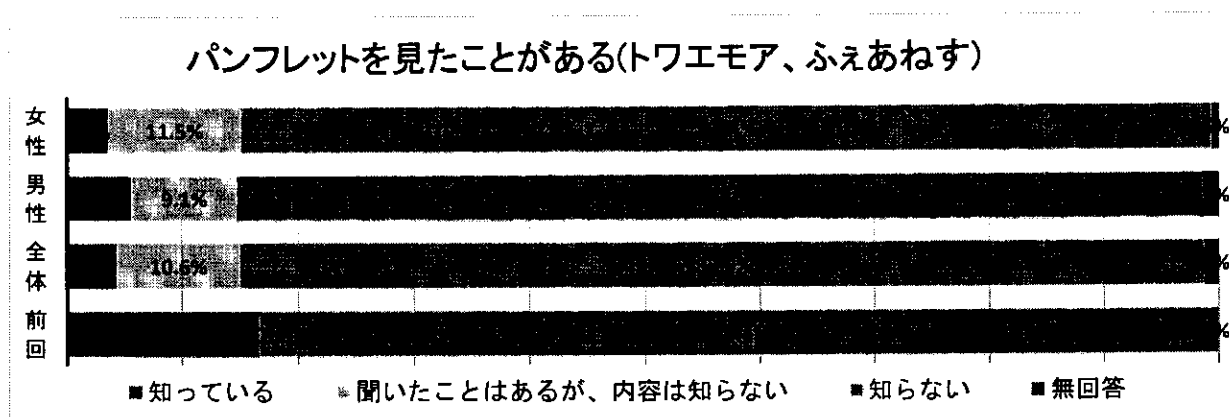


甲府市女性総合相談室



甲府市男女共同参画「響き塾」





【結果から】

甲府市の男女共同参画推進に関する活動や施策の認知度について、全体で、『知っている』の割合が最も高かったのは、「甲府市男女共同参画センター」16.8%、次いで、「甲府市女性総合相談室」15.1%であった。

『聞いたことはあるが、内容は知らない』の数値が一番高かったのは、今回新規項目である「甲府市男女共同参画推進条例」31.4%であり、次いで、こちらも新規項目である「甲府市男女共同参画都市宣言」の28.3%であった。

前回調査と比べると、認知度は「第2次こうふ男女共同参画プランの数値目標」14.9ポイント、「甲府市男女共同参画推進委員会」21.0ポイント、「甲府市男女共同参画フォーラムの開催」19.5ポイント、「甲府市男女共同参画推進センター」18.3ポイント、「甲府市女性総合相談室」19.4ポイント高くなった。「パンフレットを見たことがある(トワエモア、ふえあねす)」は1.7ポイント低くなる結果となった。

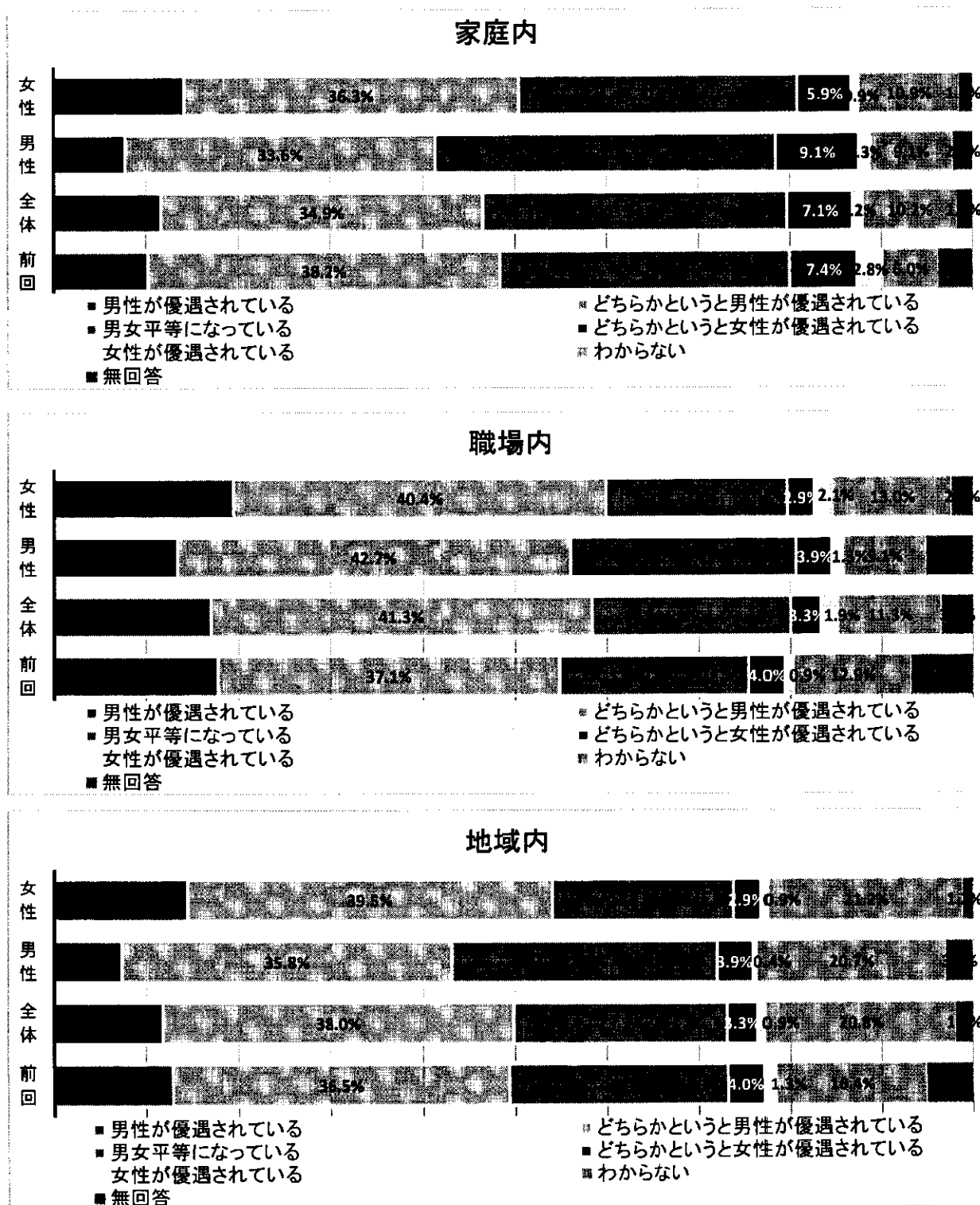
性別の認知度の変化をみると、女性は「甲府市男女共同参画推進委員会」19.6ポイント、「甲府市男女共同参画フォーラムの開催」18.8ポイント、「甲府市男女共同参画センター」17.4ポイント、「第2次こうふ男女共同参画プランの数値目標」13.6ポイント、「甲府市女性総合相談室」13.6ポイント、「甲府市男女共同参画『響き塾』」6.6ポイント高くなった。男性は「甲府市女性総合相談室」25.8ポイント、「甲府市男女共同参画推進委員会」21.4ポイント、「甲府市男女共同参画フォーラムの開催」19.6ポイント、「甲府市男女共同参画推進センター」18.6ポイント、「第2次こうふ男女共同参画プランの数値目標」16.2ポイント、「甲府市男女共同参画『響き塾』」11.1ポイント高くなった。

全体と同様に性別においても、「パンフレットを見たことがある(トワエモア、ふえあねす)」は割合が低くなる結果となった。

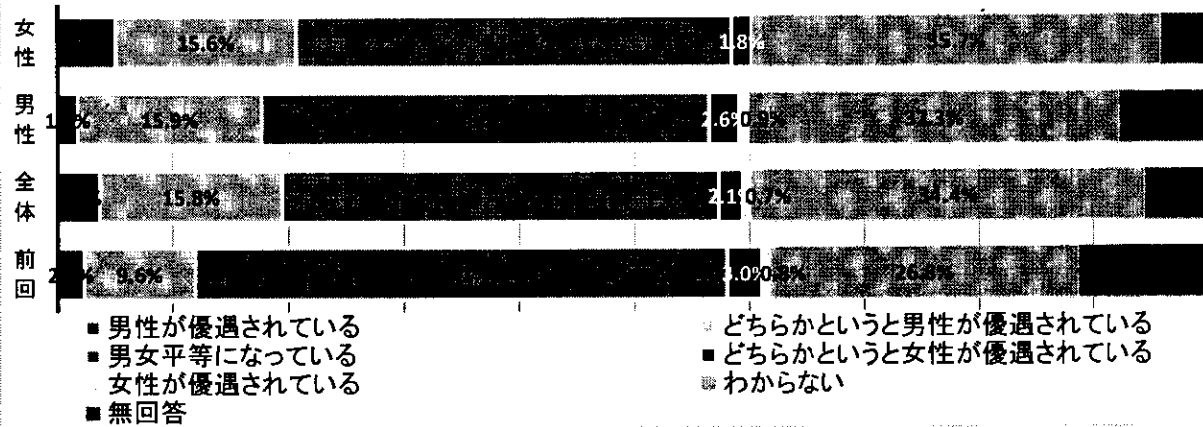
1- (3) 社会的分野での男女の地位や平等について

【問3】 あなたは次の各項目の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

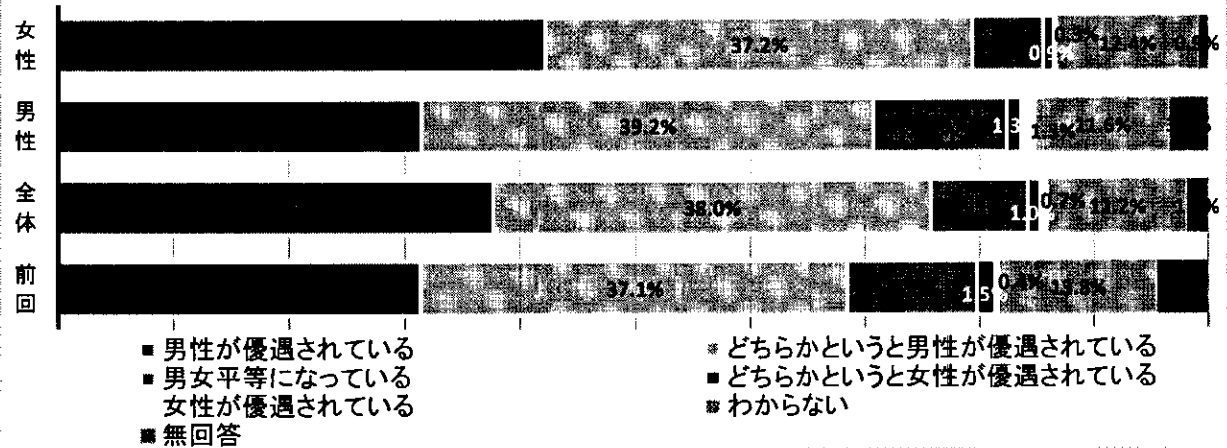
【全体(比較)・性別グラフ】



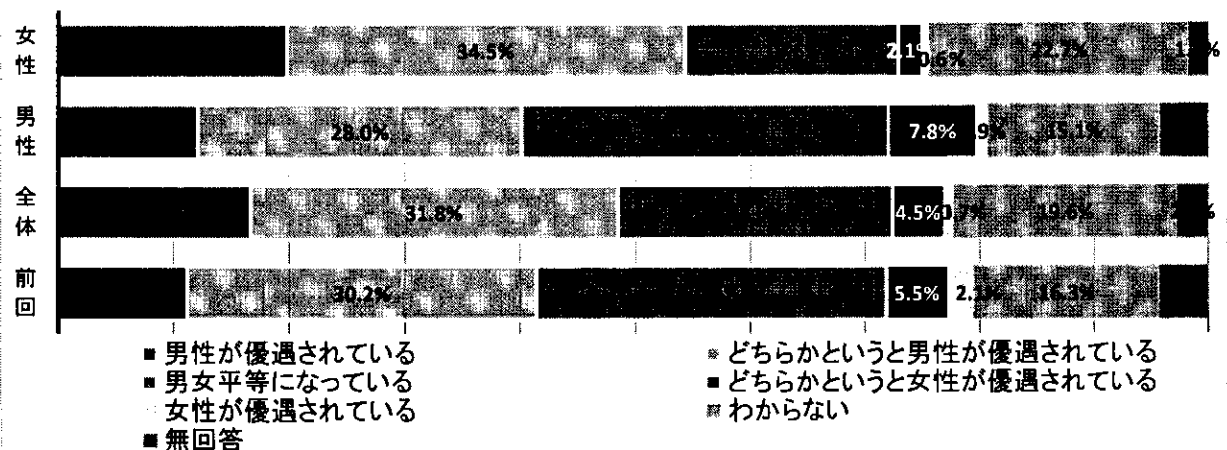
学校内



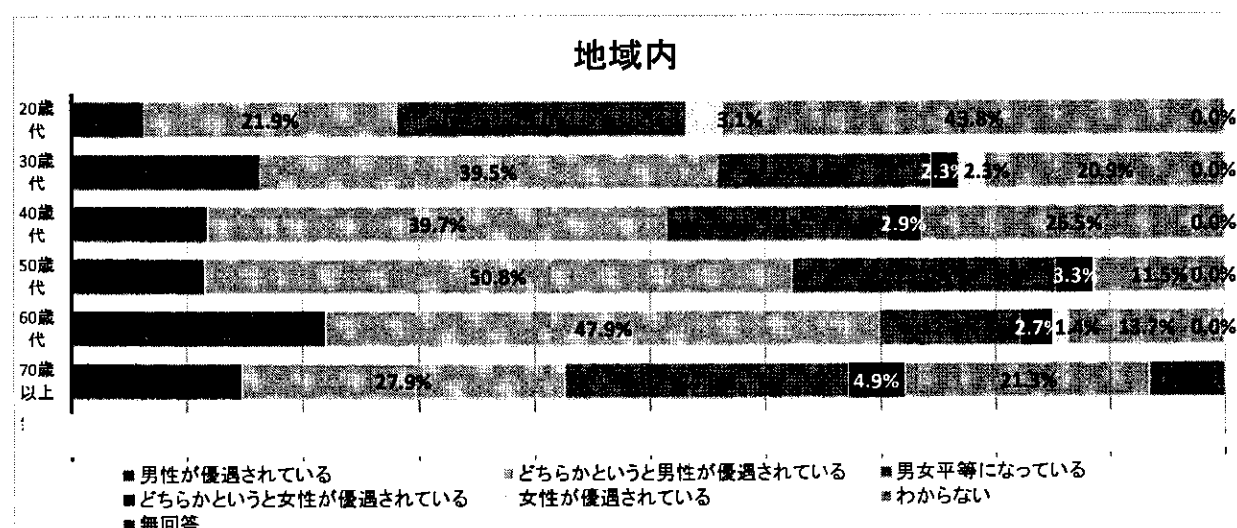
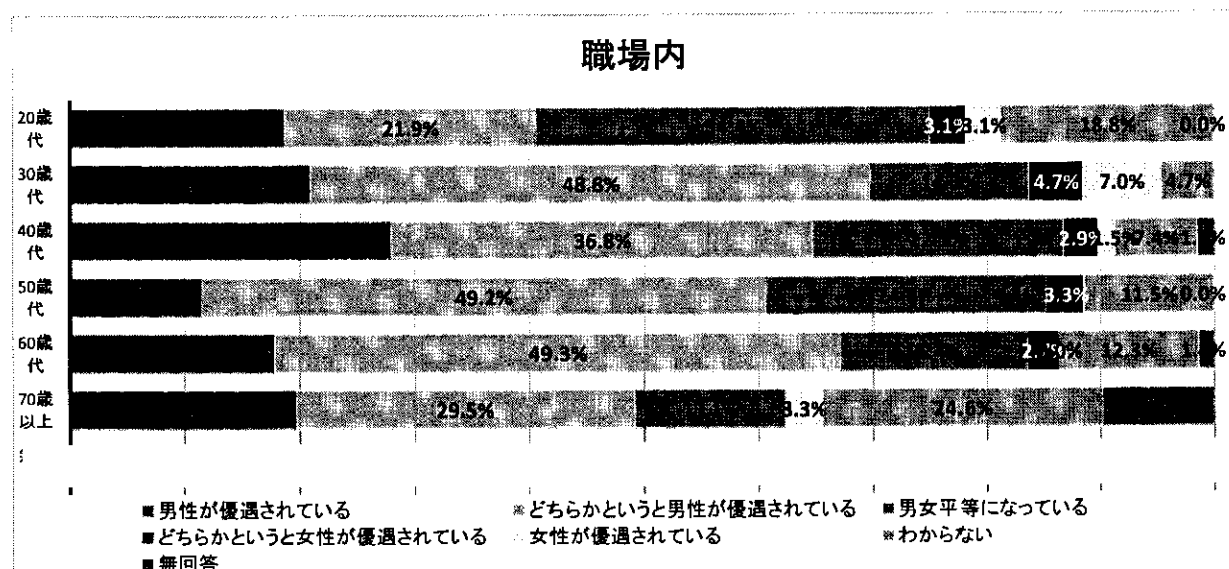
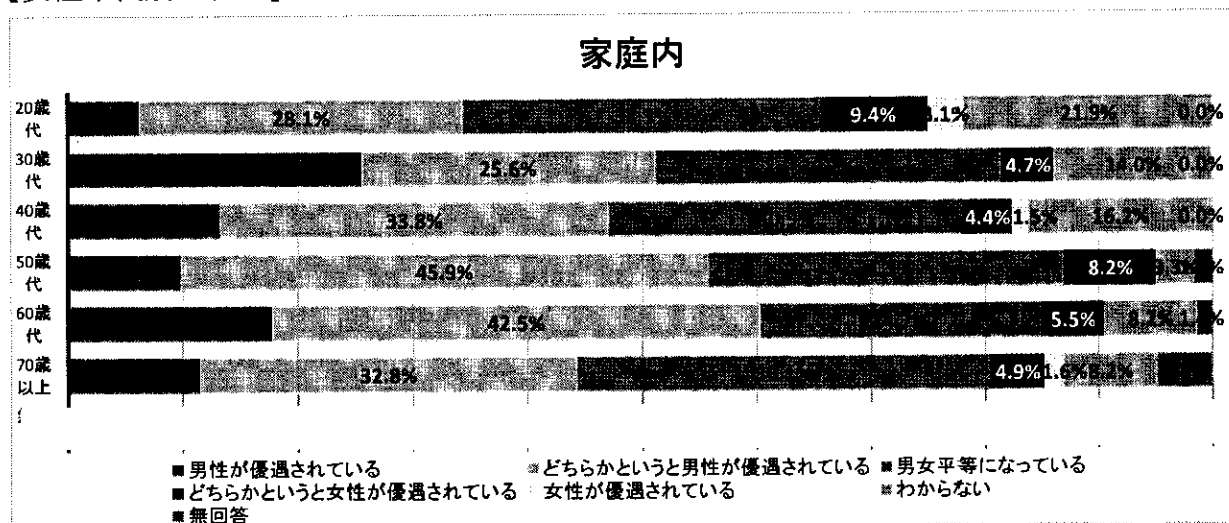
政治の場



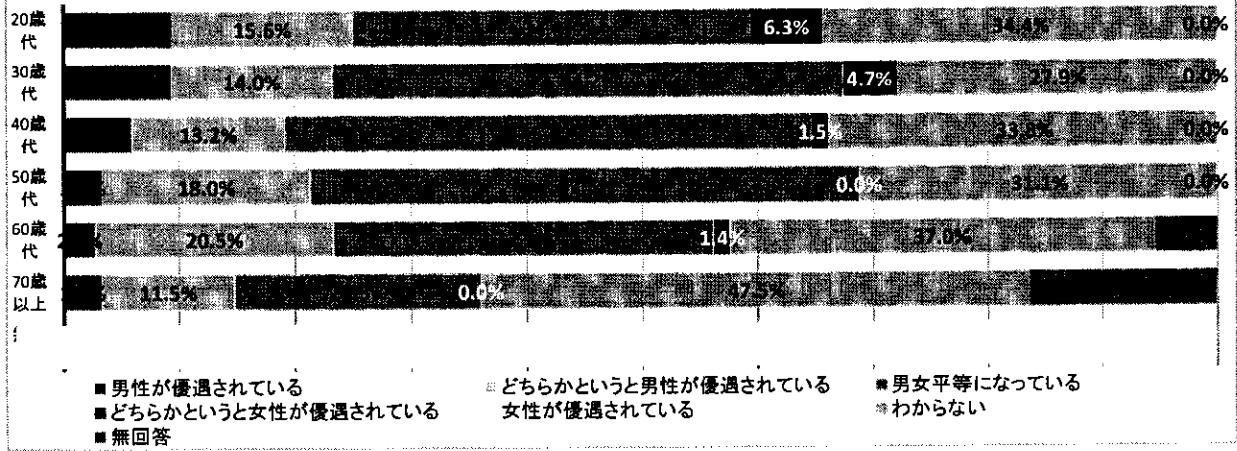
法律や制度上



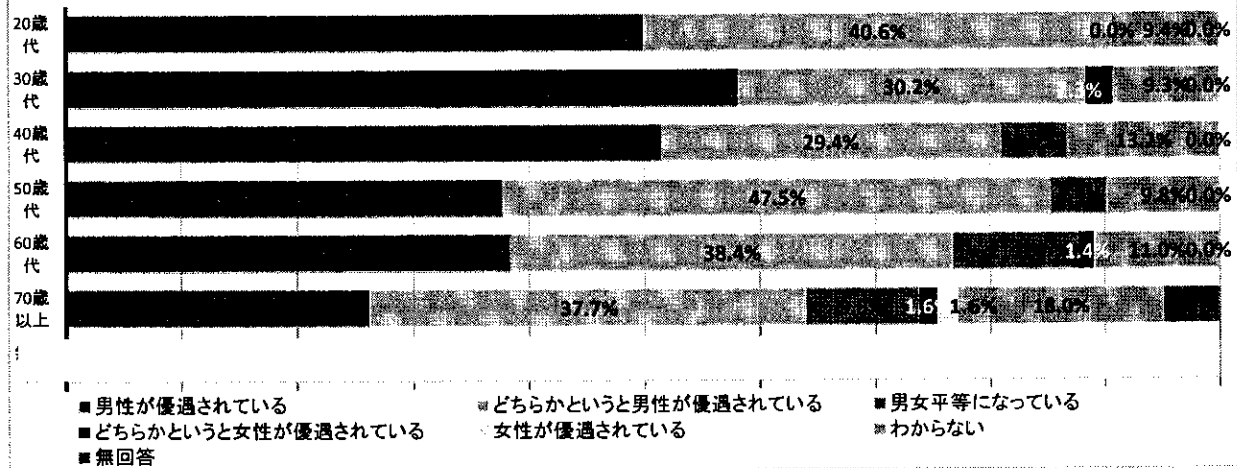
【女性年代別グラフ】



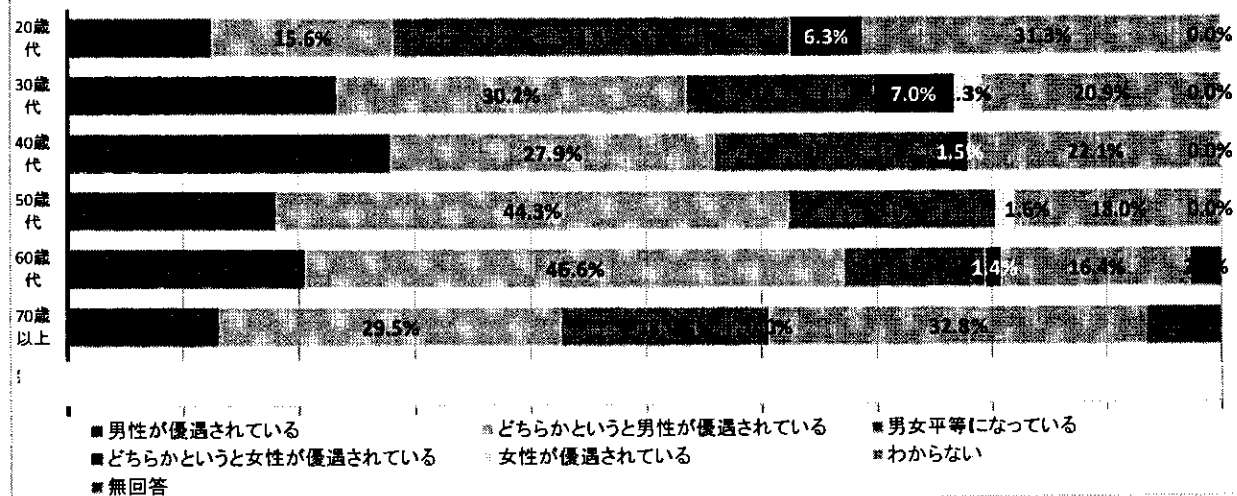
学校内



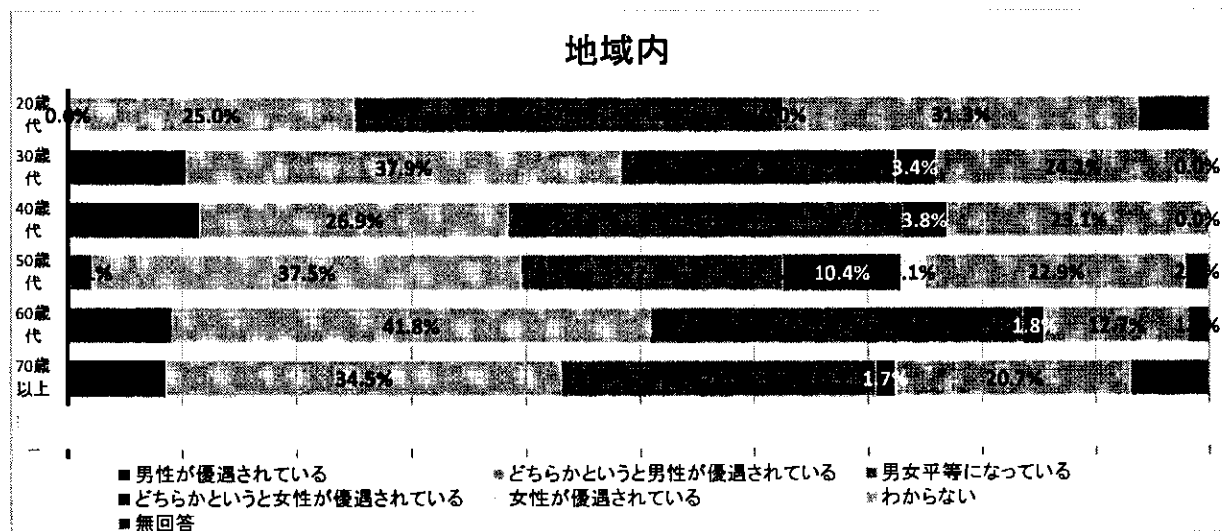
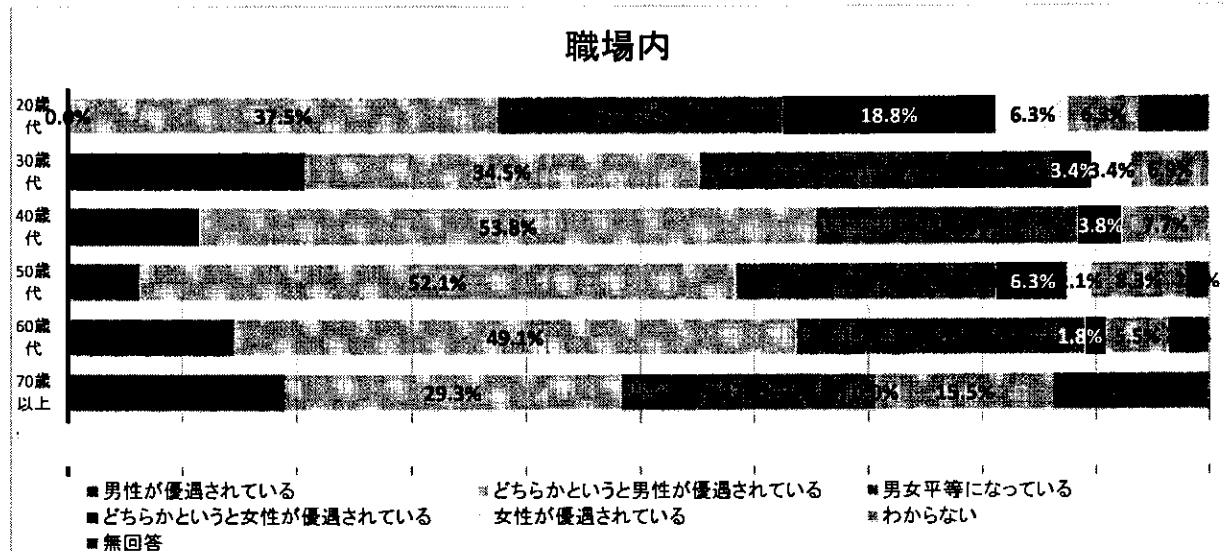
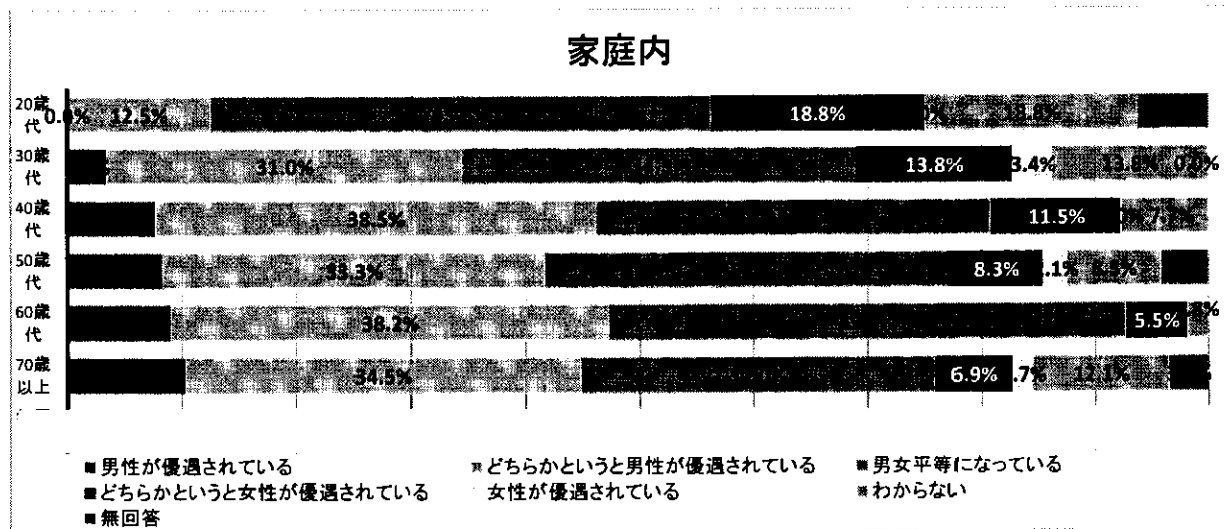
政治の場



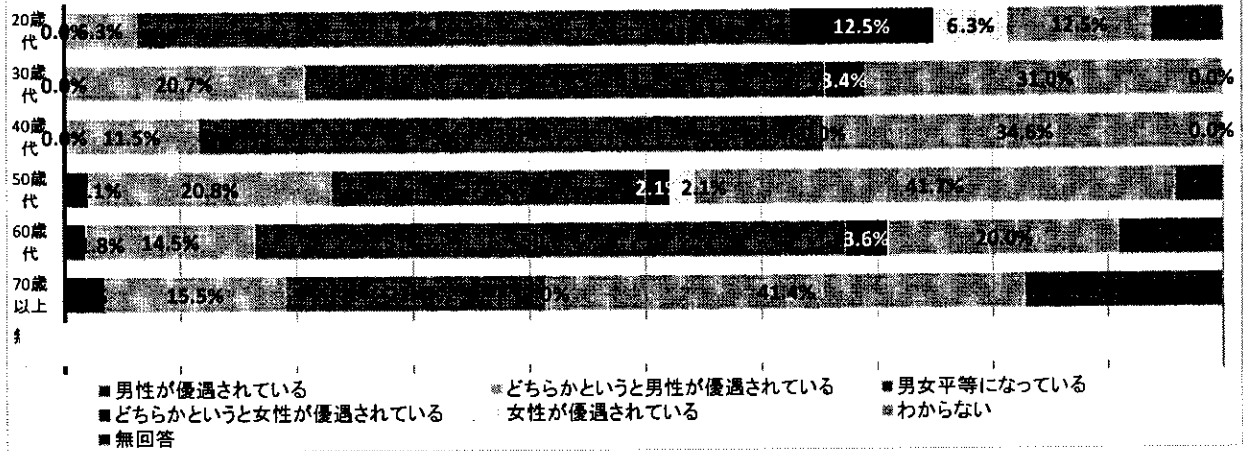
法律や制度上



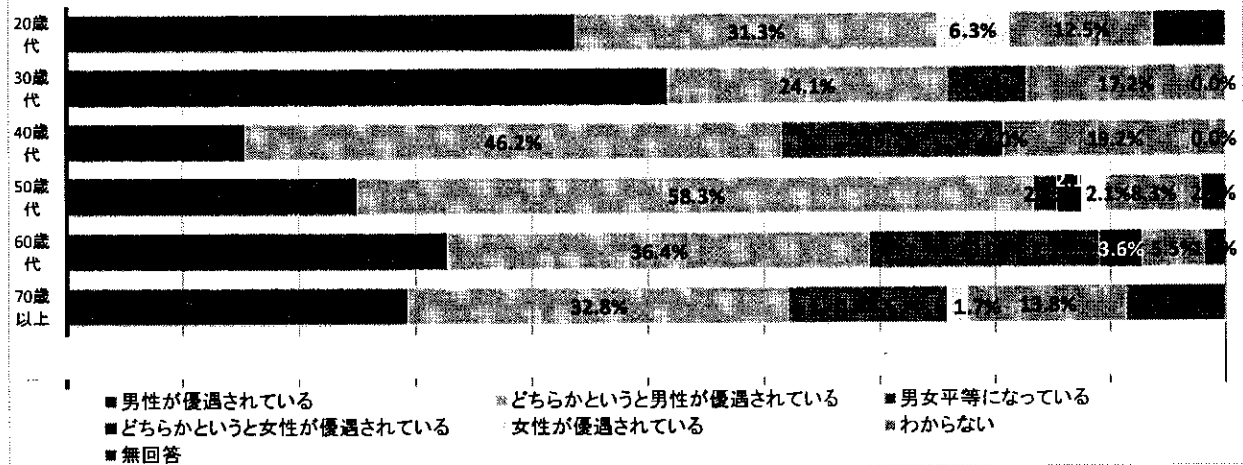
【男性年代別グラフ】



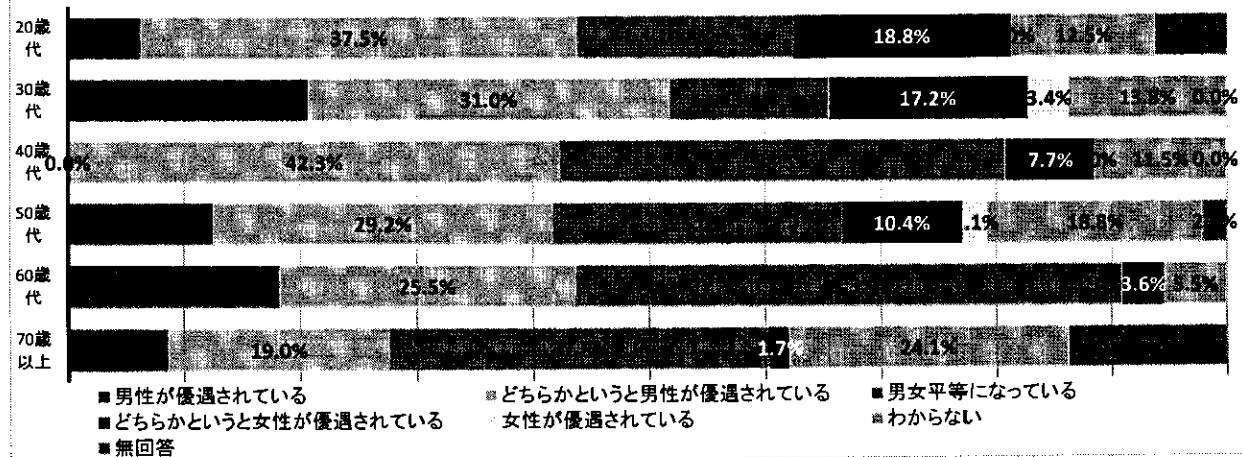
学校内



政治の場



法律や制度上



【結果から】

社会的分野での男女の地位や平等について、全体では『男性が優遇』（どちらかというと男性が優遇されているを含む；以下同じ）が「政治の場」で75.7%と最も高く、次いで「職場内」が約6割、「地域内」、「法律や制度上」、「家庭内」が約5割、「学校内」が一番低く2割弱であった。

『男女平等』は、「学校内」が37.8%で最も高い割合であり、次いで「家庭内」で約3割、「法律や制度上」、「地域内」、「職場内」が約2割、「政治の場」では1割にも満たなかった。

『女性が優遇』（どちらかというと女性が優遇されているを含む；以下同じ）は、すべての項目において1割にも達せず女性が優遇されているとほとんどの人が思っていない事が分かった。

前回調査との比較では、『男女平等』の割合が「学校内」で8.3ポイント、「法律や制度上」で6.4ポイント低くなったが、その他の項目の変化はほとんどなかった。

性別では、女性はすべての項目において『男性が優遇』の割合が男性を上回り、特に「法律や制度上」14.2ポイント、「家庭内」9.1ポイント、「政治の場」8.7ポイントと男性との意識差が表れた。

性年代別でみると、「家庭内」においては、女性は「男性が優遇」が20歳代から60歳代まで年代と共に高くなり、70歳代で大きく下がって「男女平等」が増えている。これは、男性が仕事を離れ家にいる時間が長くなることが影響していると推測される。男性では特に20歳代で『男性が優遇』が12.5%で『男女平等』と思っている人が43.8%と高いのに、30歳代で半々に、40歳以上になると『男性の優遇』が4割以上で『男女平等』が約3割強と逆転する結果となった。

「職場」では、女性20歳代『男女平等』と考えているのが、34.4%、『男性が優遇』が40.8%であったのが、30歳～60歳代では6割以上が『男性が優遇』で『男女平等』も2割程度に下がった。男性では、20歳代において『女性が優遇』が25.1%であったのが30歳代～60歳代において1割程度に減少し、『男性が優遇』が6割前後となった。

「地域内」においては、女性で50歳代60歳代において『男性が優遇』されていると思っている割合が多く、男性は60歳代が多かった。

「学校内」では、『男女平等』は、女性の30歳代から50歳代が高く、男性では20歳代、40歳代、60歳代が50%を超え高かった。

「政治の場」においては、女性の20歳代から50歳代で8割以上の人が『男性が優遇』と考えており、70歳以上でも6割以上が『男性が優遇』であった。男性は50歳代で『男性が優遇』の割合が8割を超えた。

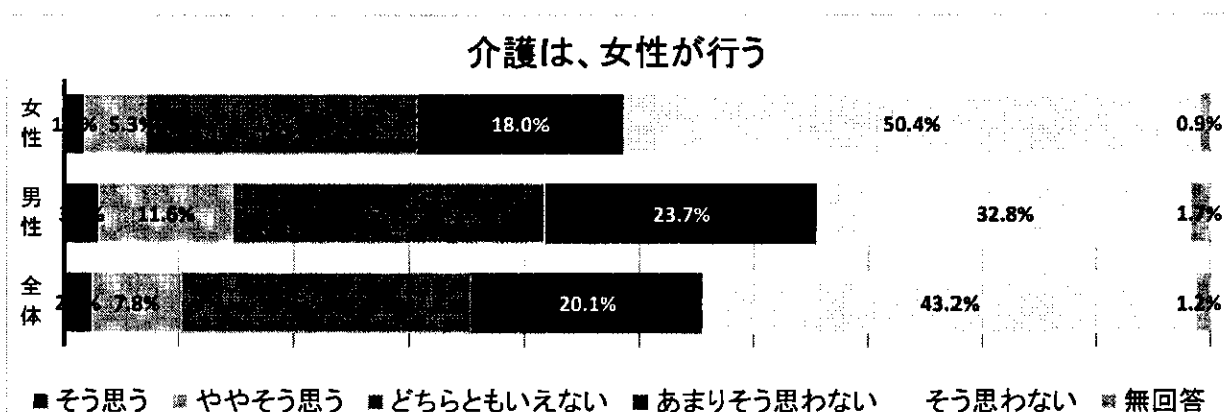
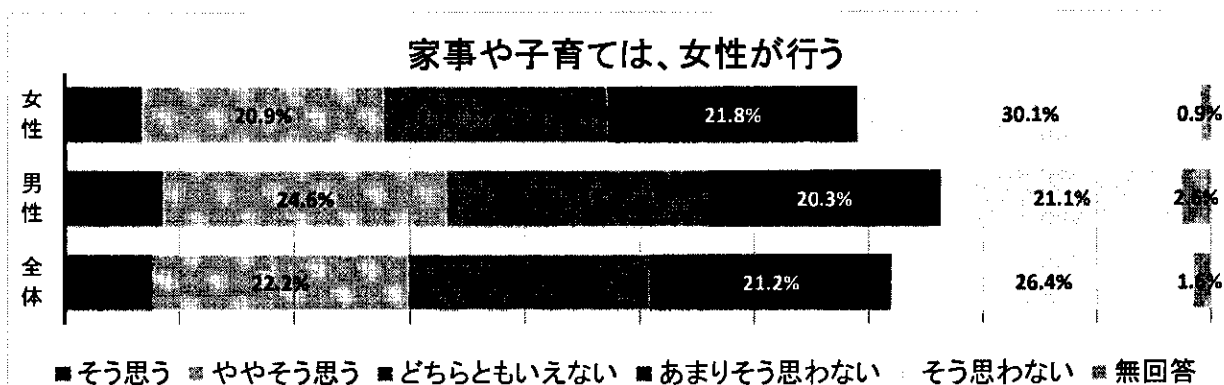
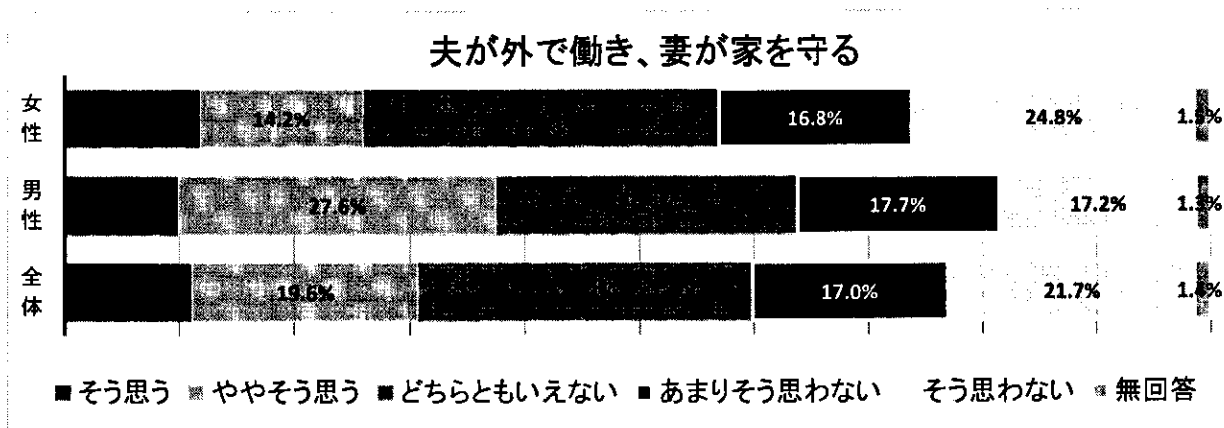
「法律や制度上」では、20歳代女性で『男女平等』が『男性が優遇』を上回ったが、30歳代で『男性が優遇』が5割を超え以降60歳代まで年代が上がるとともに増えている。男性では、60歳代が47.3%、40歳代で38.5%と『男女平等』が高かった。

1- (4) 性別による役割分業について

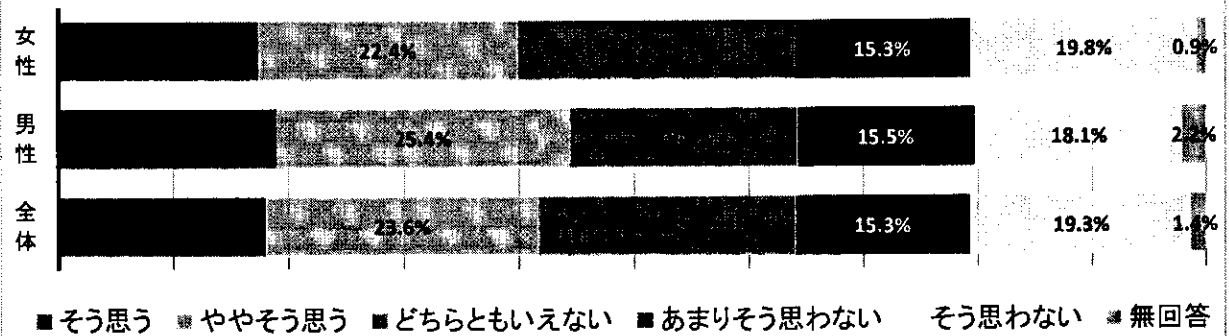
【問 4】 以下の考え方について、あなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つ)

新規調査

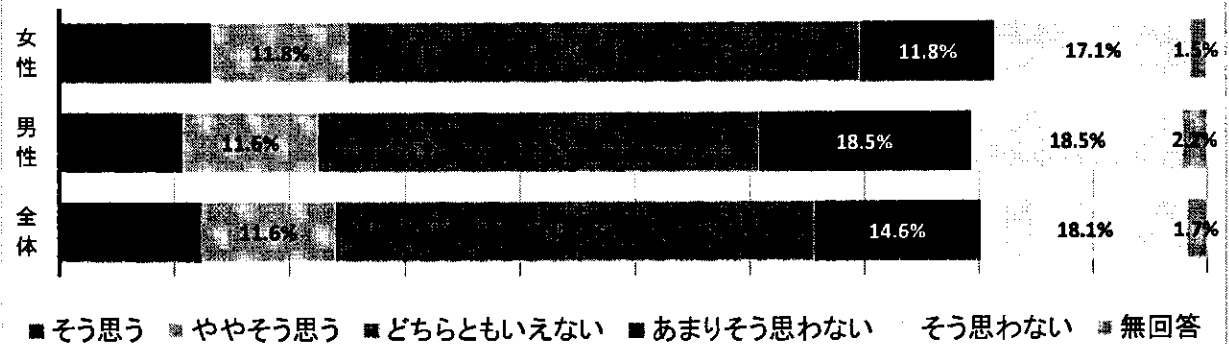
【全体・性別グラフ】



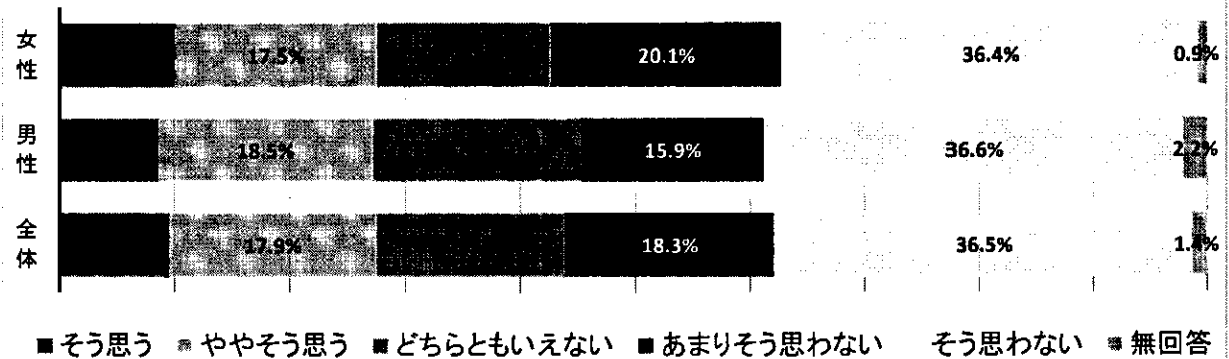
子どもが小さいうちは、母親は外で働かない



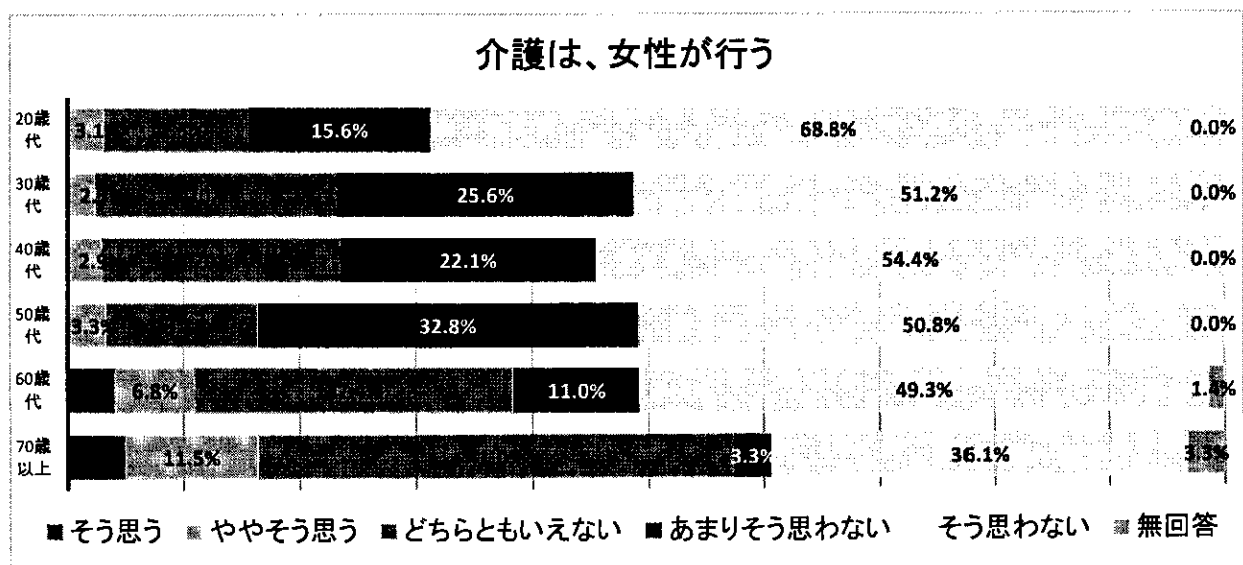
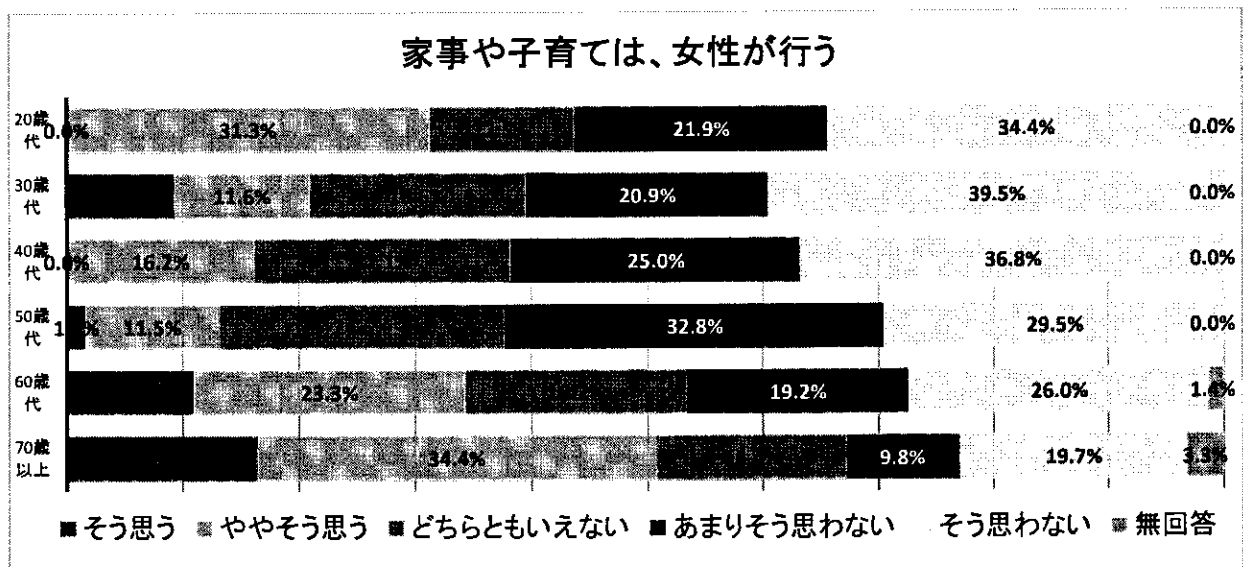
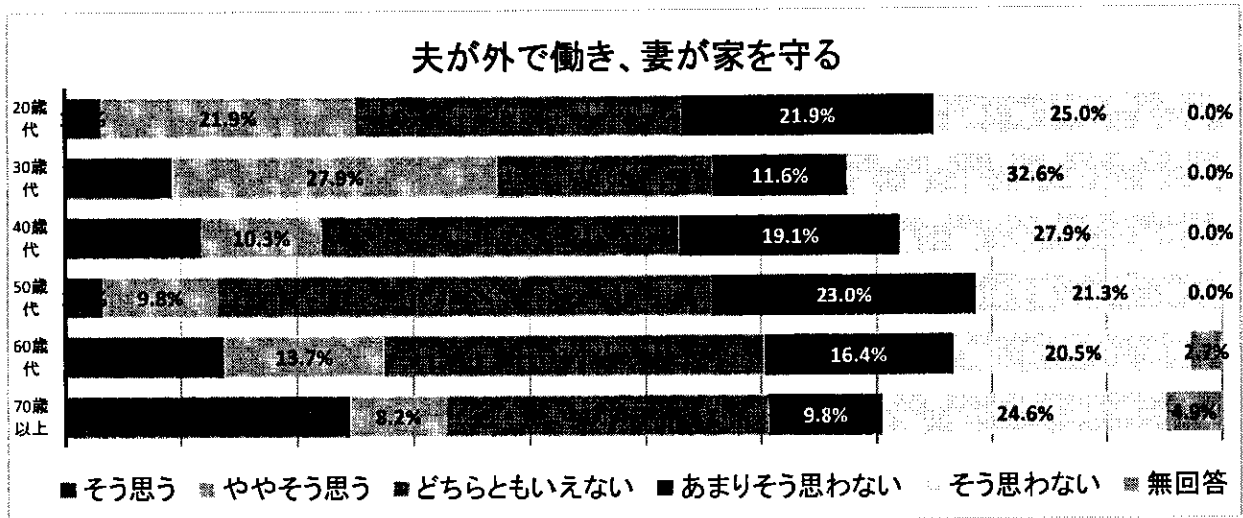
子どもがいるいないにかかわらず、女性が外で働くのは当然



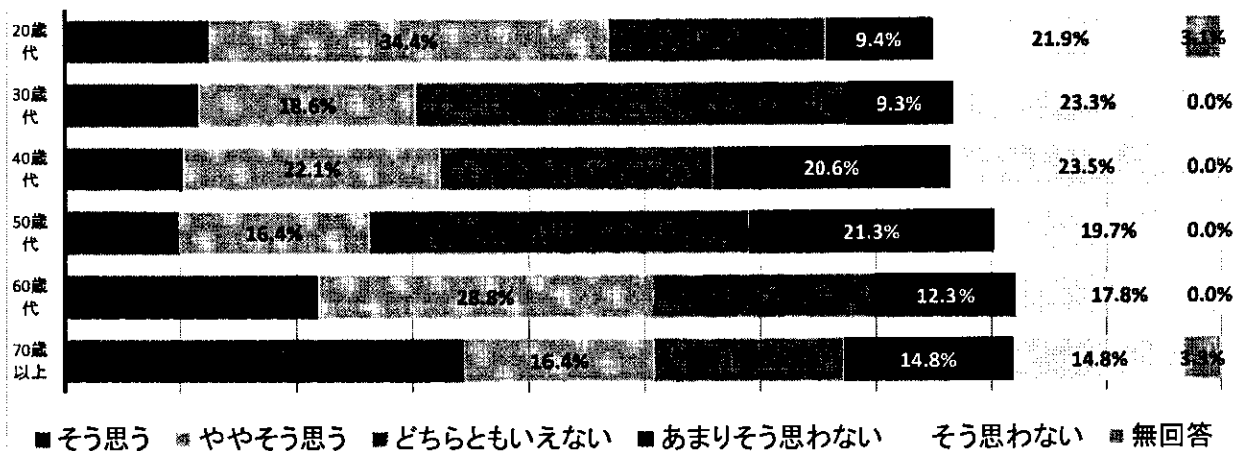
仕事は、長時間の残業や休日出勤をした方が高く評価される



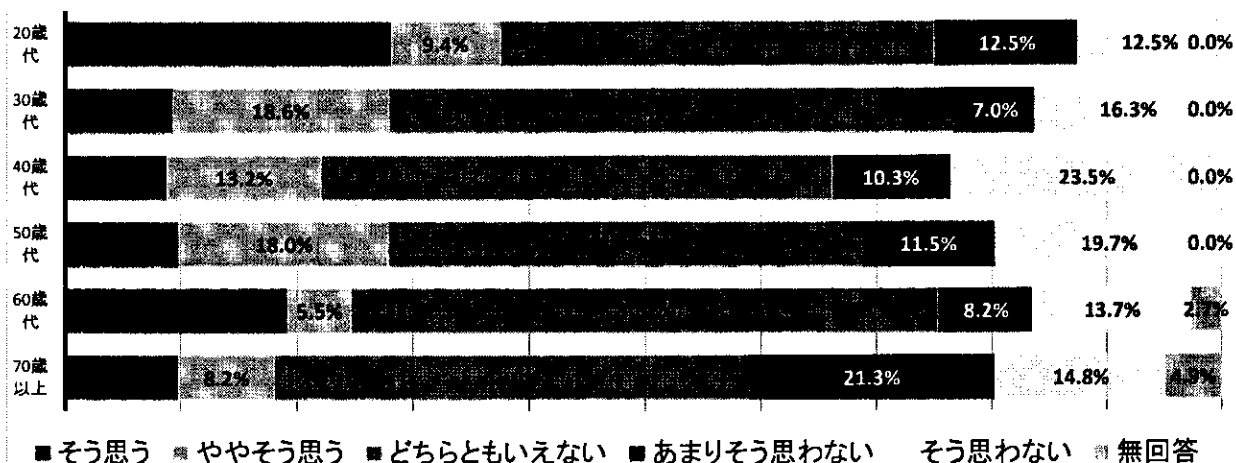
【女性年代別グラフ】



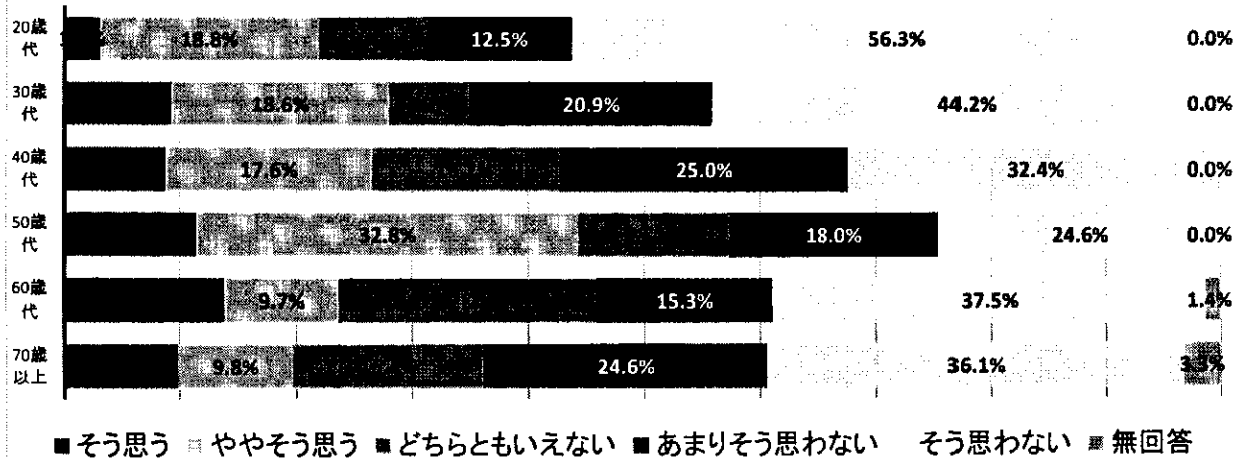
子どもが小さいうちは、母親は外で働かない



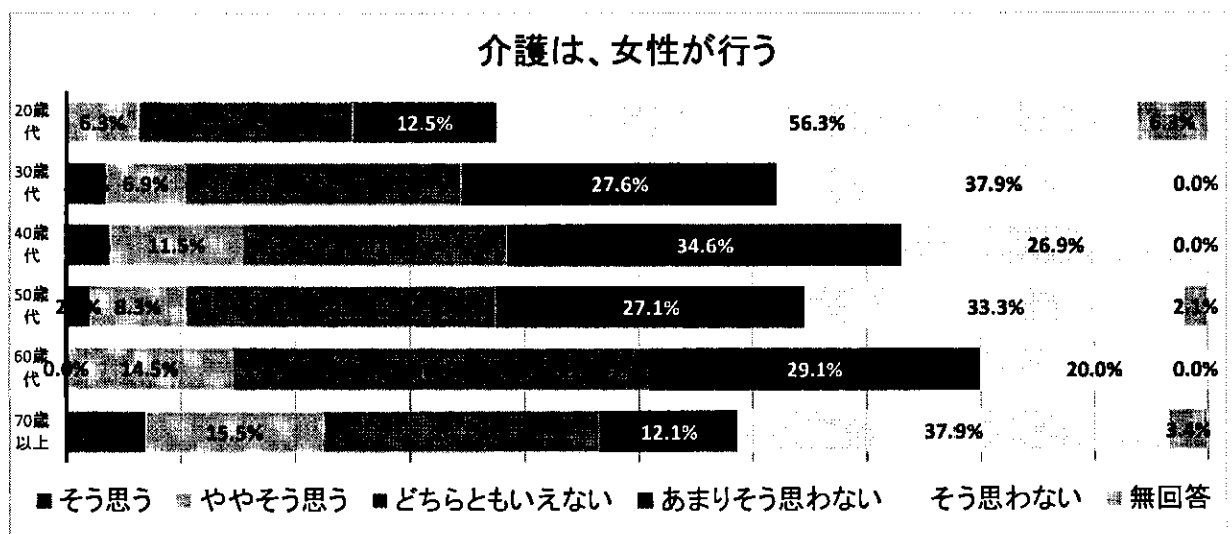
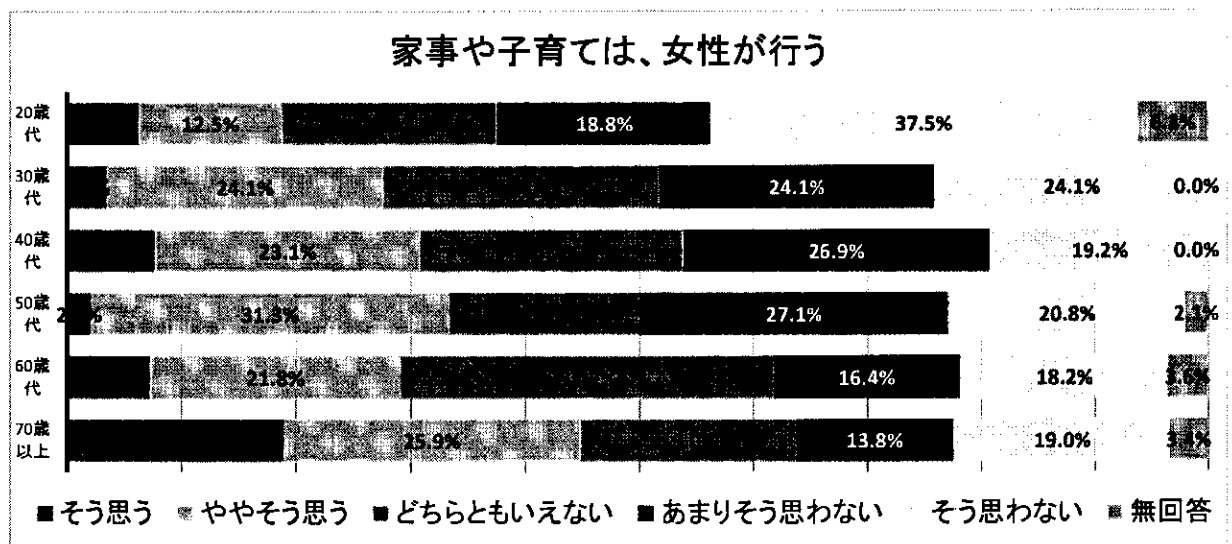
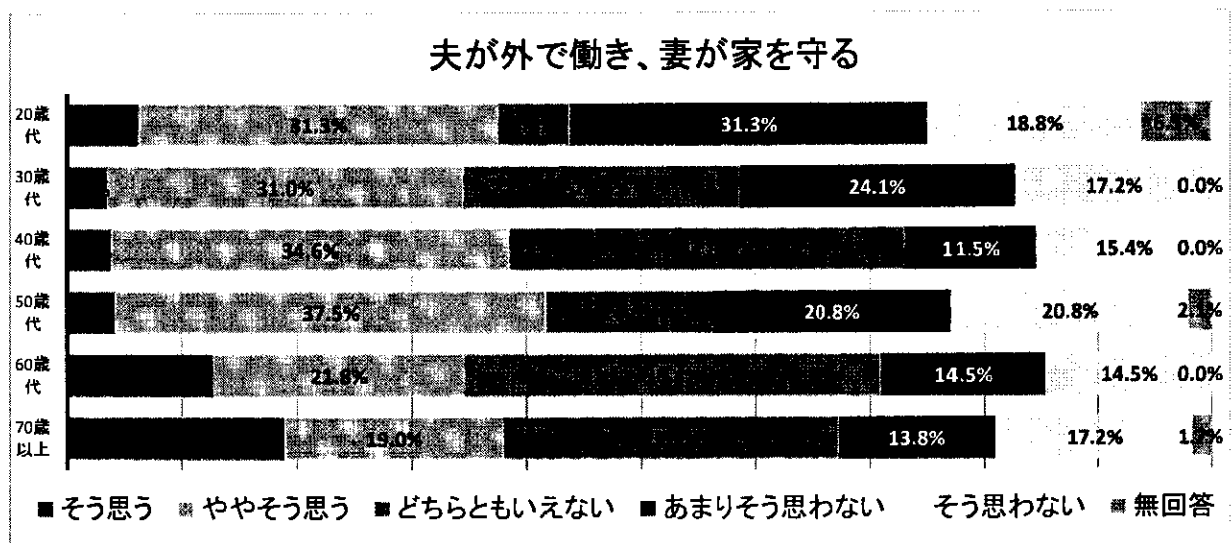
子どもがいるいないにかかわらず、女性が外で働くのは当然



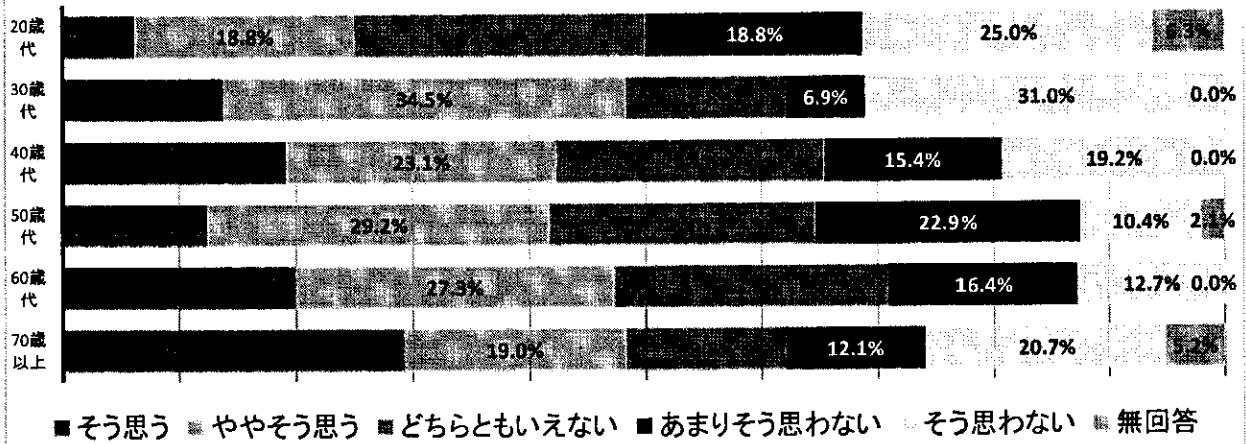
仕事は、長時間の残業や休日出勤をした方が高く評価される



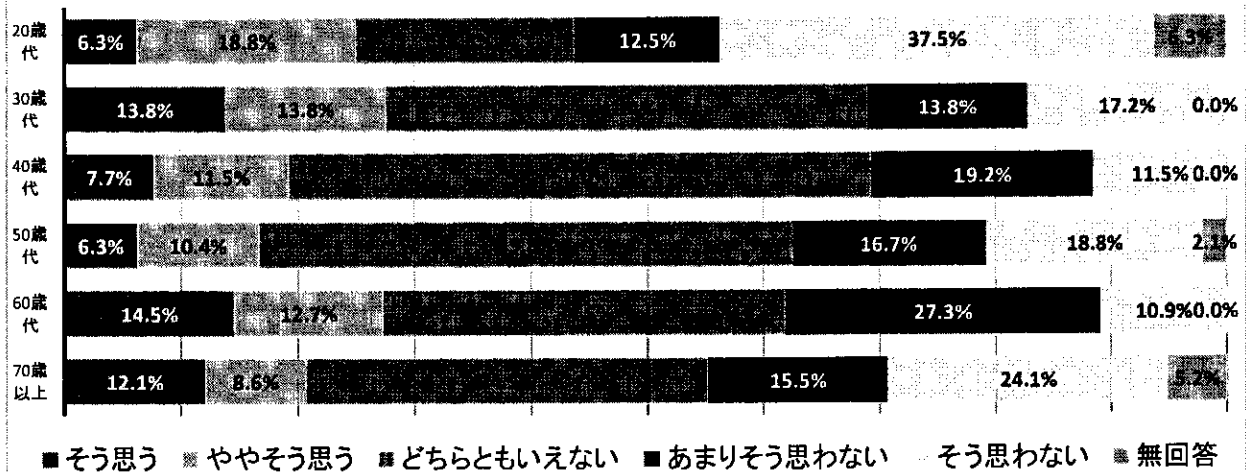
【男性年代別グラフ】



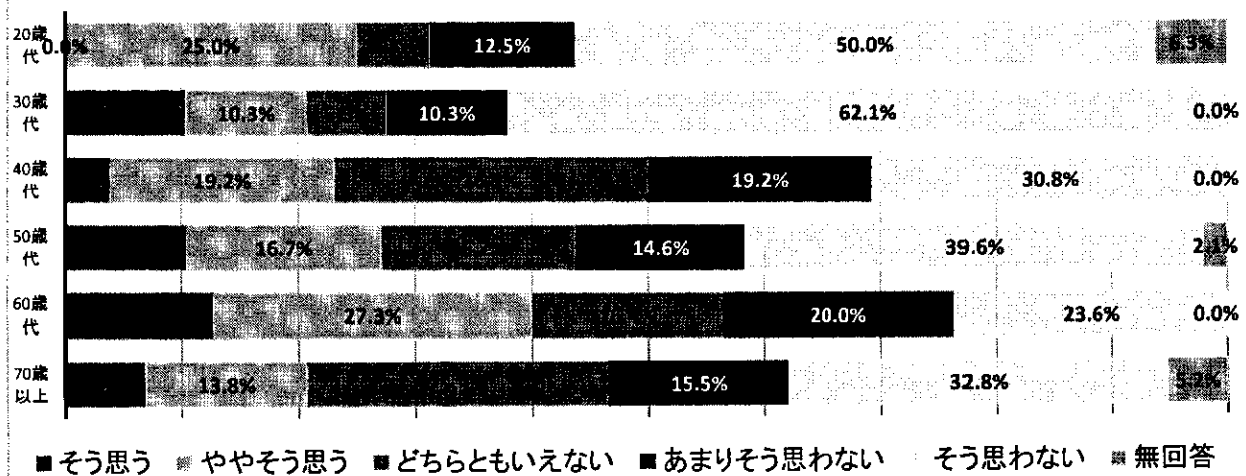
子どもが小さいうちは、母親は外で働かない



子どもがいるいないにかかわらず、女性が外で働くのは当然



仕事は、長時間の残業や休日出勤をした方が高く評価される



【結果から】

性別による役割分業についての考え方について、『夫が外で働き、妻が家を守る』は、前回調査の『男は仕事、女は家庭』の肯定的（そう思う・ややそう思う；以下同じ）な回答が5.5%で否定的（そう思わない・あまりそう思わない；以下同じ）な回答が47.8%であったのと比較すると、今回調査の肯定的な回答は30.7%と大きく上がり、否定的な回答は38.7%と1割程度低くなった。つまり『夫が外で働き、妻が家を守る』という従来型の固定概念を持つ人が増え残念ながら男女共同参画への意識が後退した結果となった。

『家事や子育ては、女性が行う』については、肯定的な考えが29.8%で否定的な考え47.6%で否定的な考えの方が多かったものの約3割は固定概念を持っていた。上記設問同様女性の方が否定的な考えが多かった。

『介護は、女性が行う』では、否定的な考えが63.3%で肯定的な考えは僅か10.2%であった。介護の項目に関しては、女性に関する他の項目に比べ比較的女性の役割と考える人は少なかった。

『子どもが小さいうちは、母親は外で働かない』では、41.7%が肯定的な考えで否定的な考え34.6%を上回った。性別でも男女ともに肯定的な考えの方が多かった。

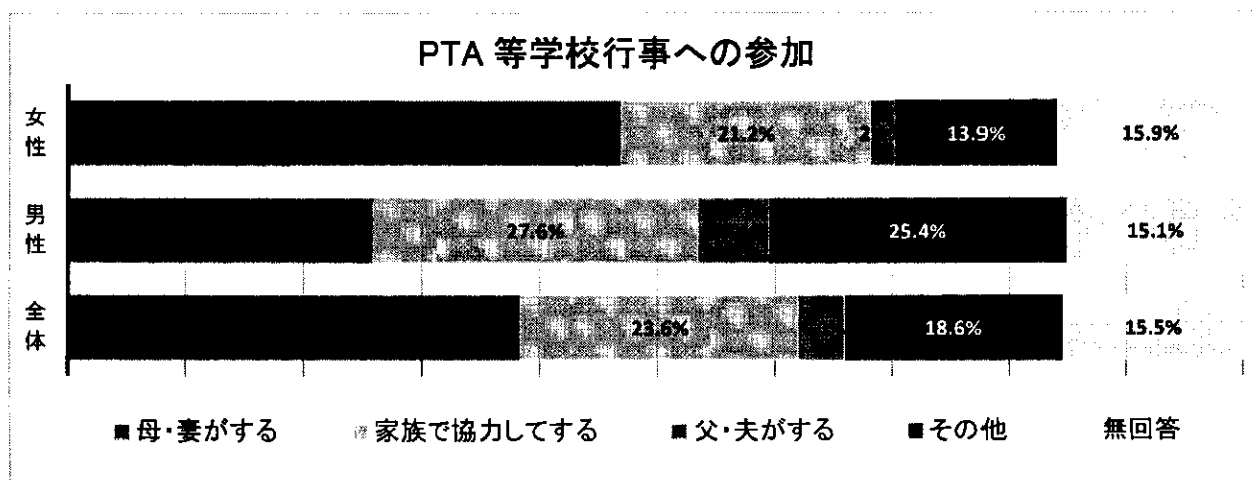
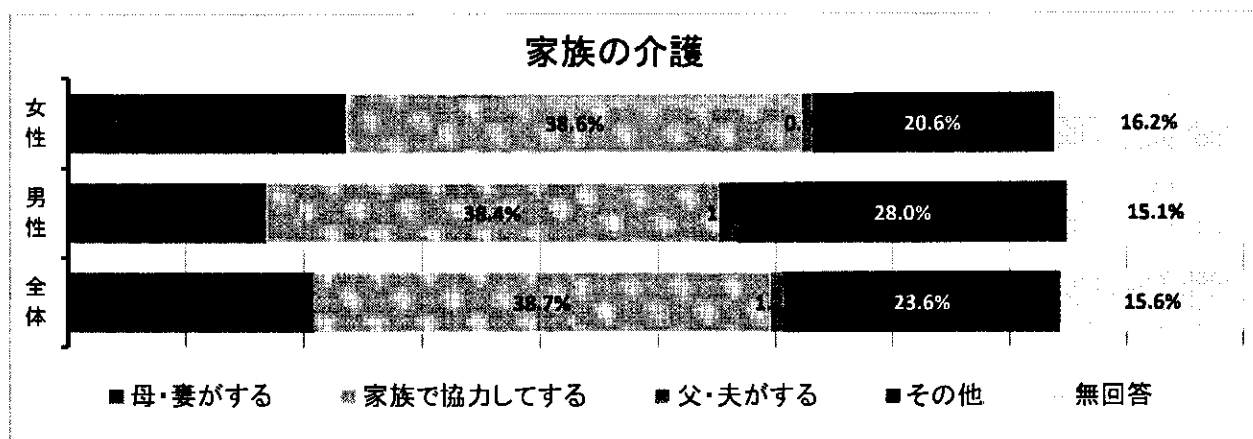
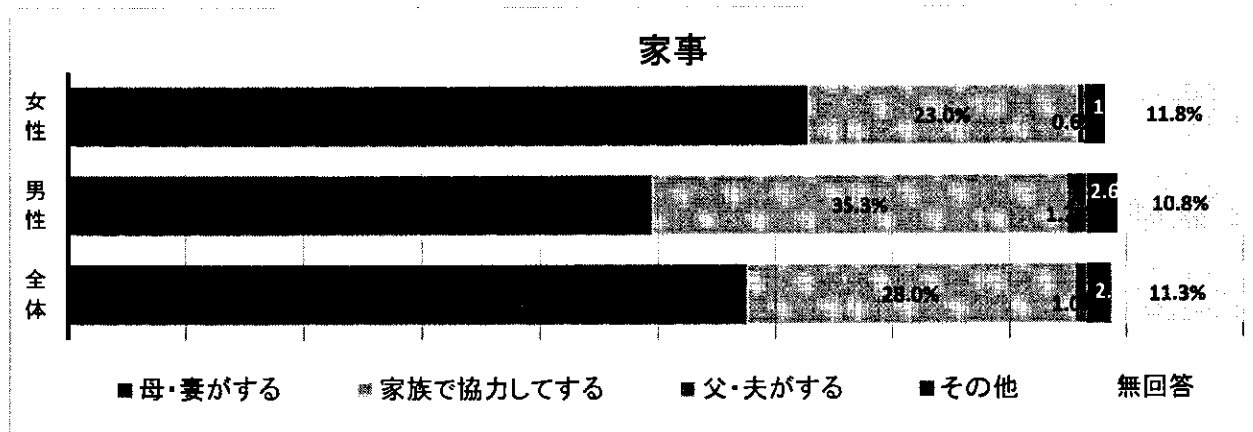
『子供がいるいないにかかわらず、女性が外で働くのは当然』においては、「どちらともいえない」の割合が41.7%と高かったが、否定的な考え32.7%、肯定的な考えが23.9%で否定的な考えの方が多かった。性別では男性の方が否定的な考えが多かった。

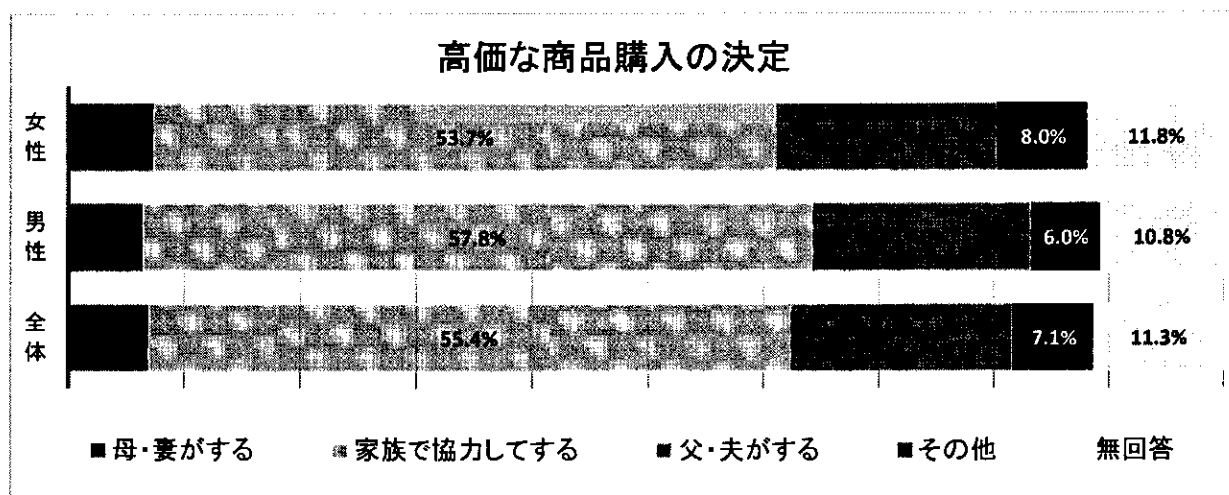
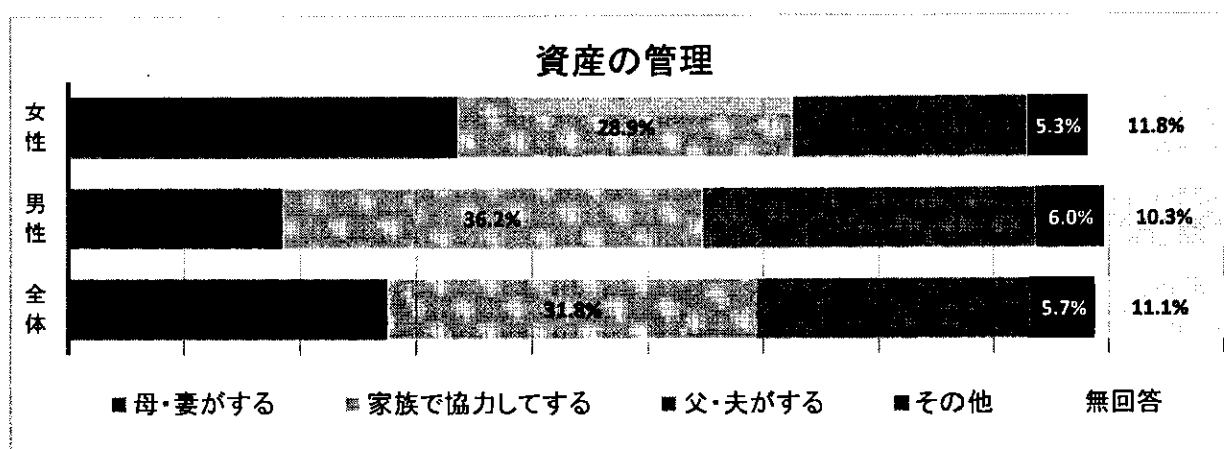
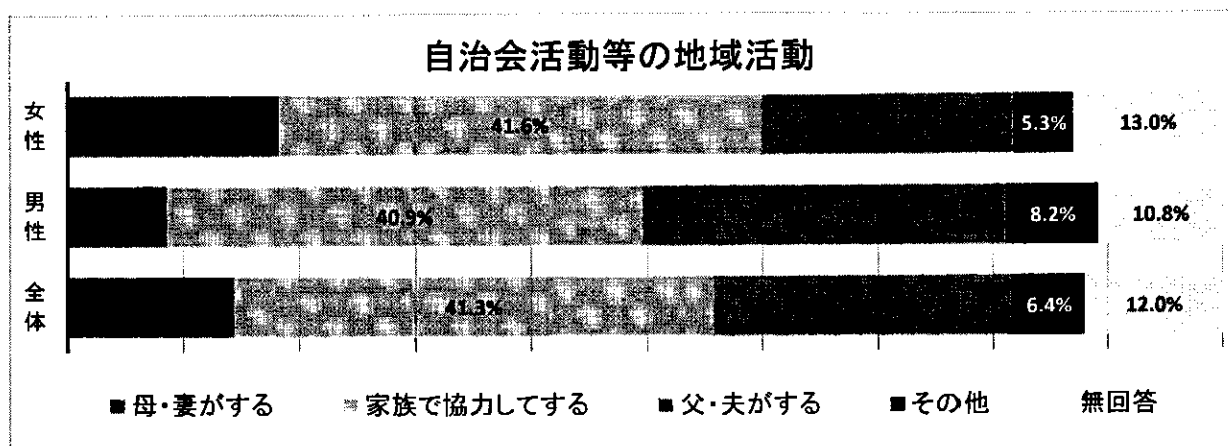
『仕事は、長時間の残業は休日出勤をした方が高く評価される』においては、否定的な考えが54.8%で肯定的な考え27.5%を大きく上回った。つまり、長時間の残業や休日出勤をしても高く評価されると思っている人の割合は3割以下で半数以上の人はそう思っていない結果となった。

1- (5) 家庭における役割について

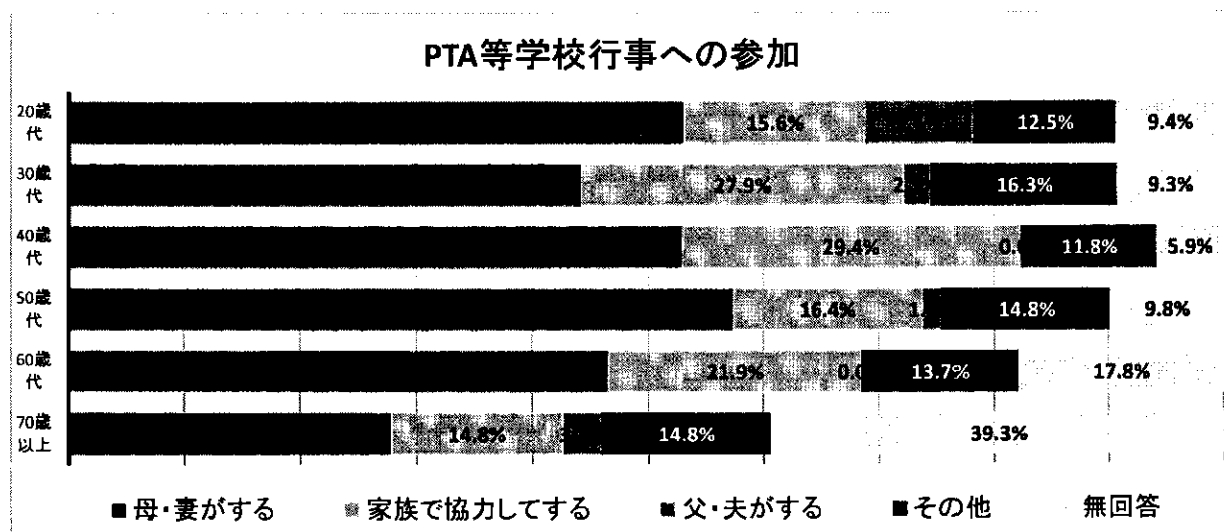
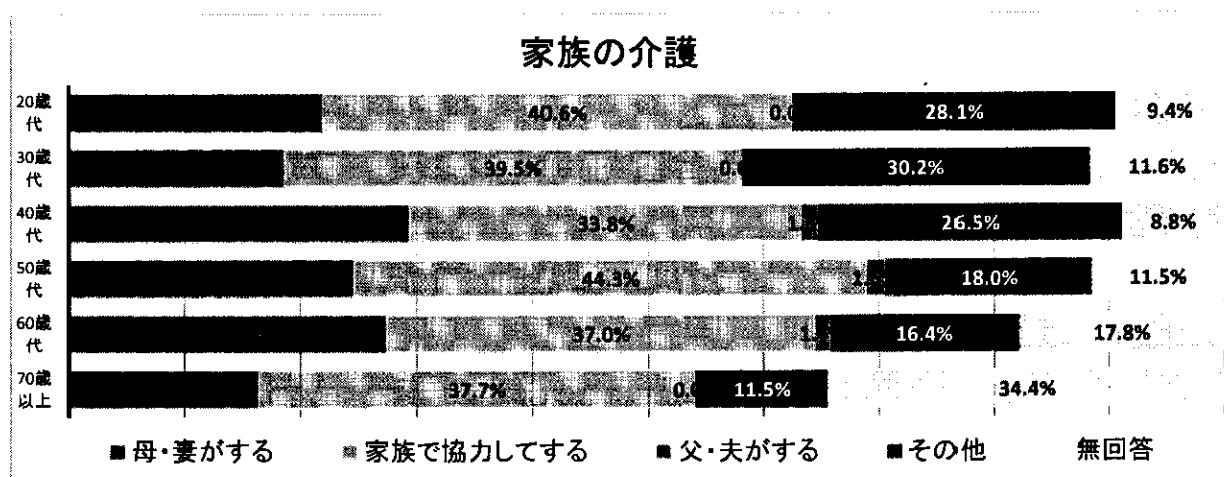
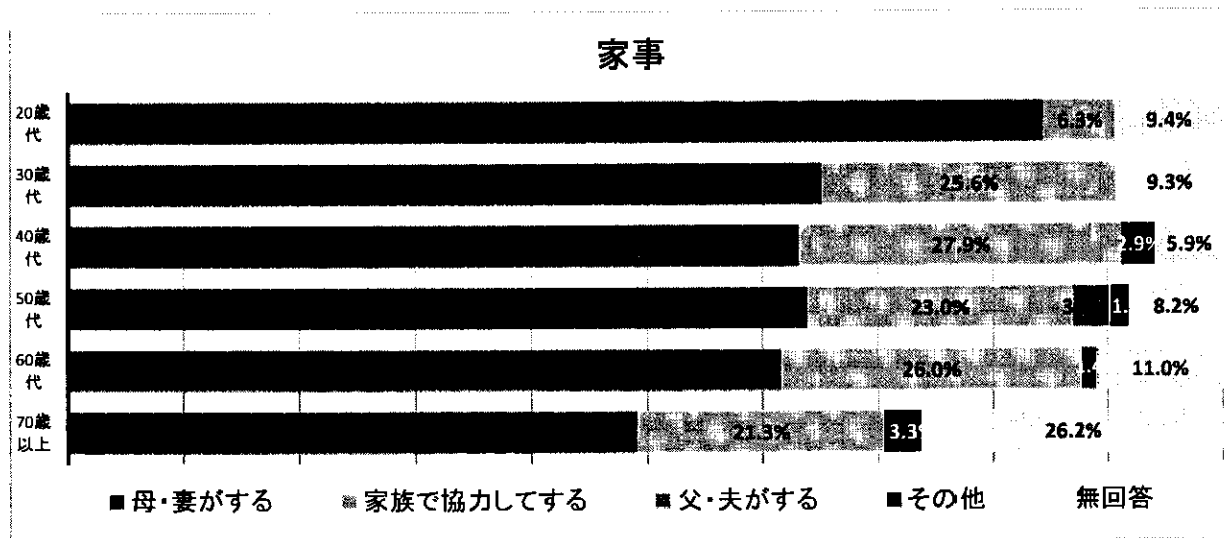
【問 5】 普段の生活において次の事柄をあなたのご家庭では、主にどなたが行っていますか。1 人世帯の方は問 6 へ進んでください。（○はそれぞれ 1 つ）

【全体・性別グラフ】

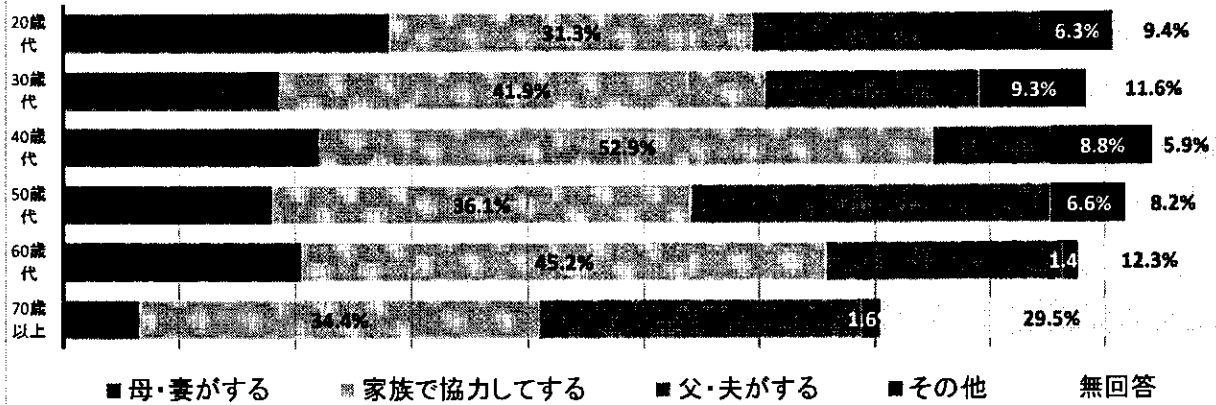




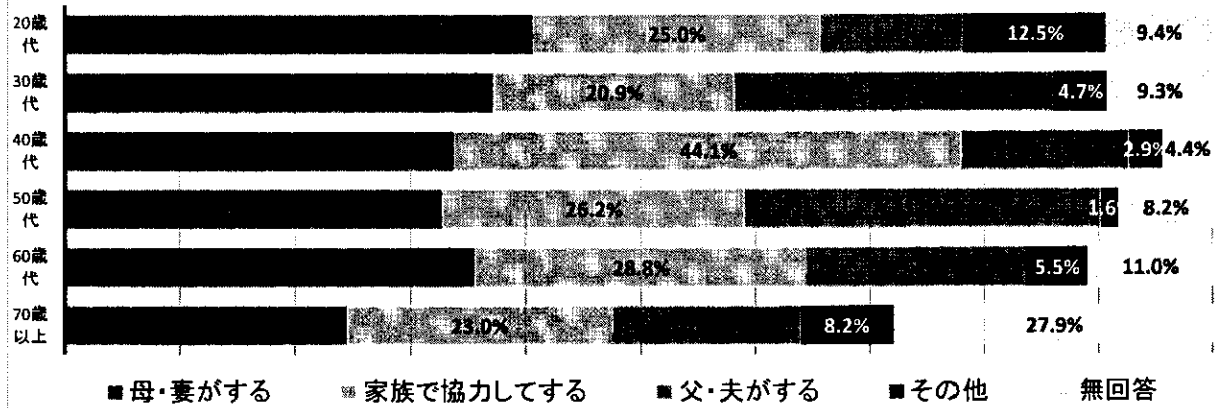
【女性年代別グラフ】



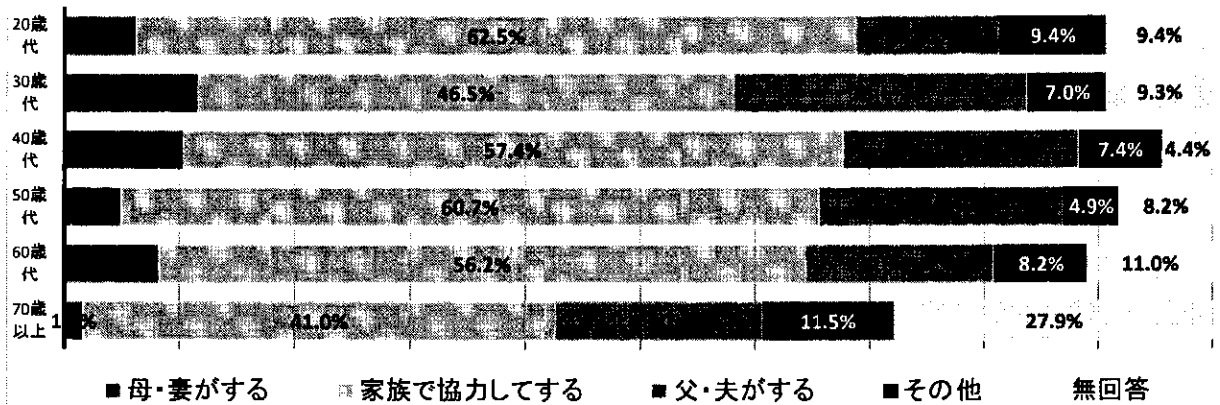
自治会活動等の地域活動



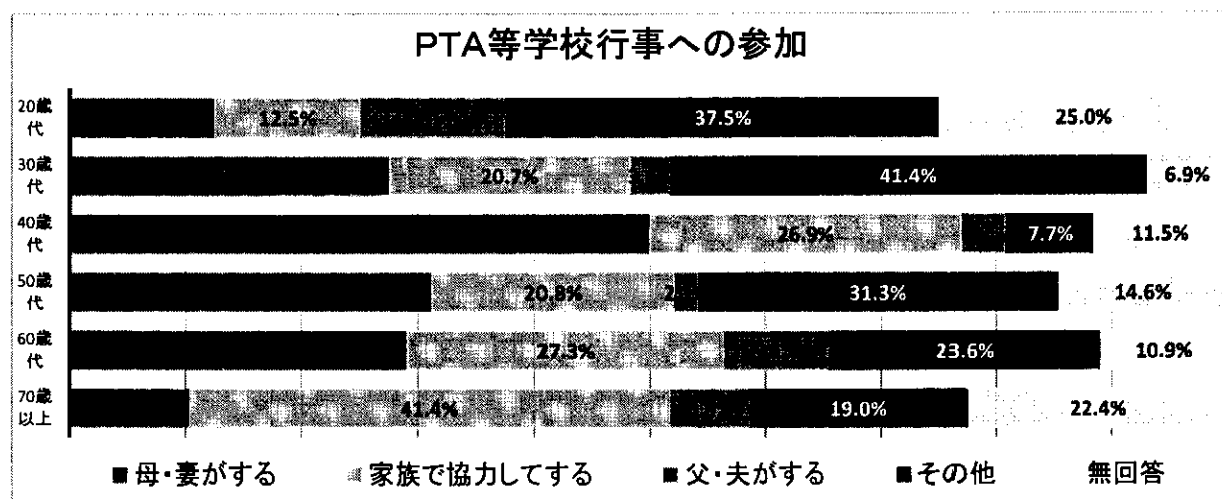
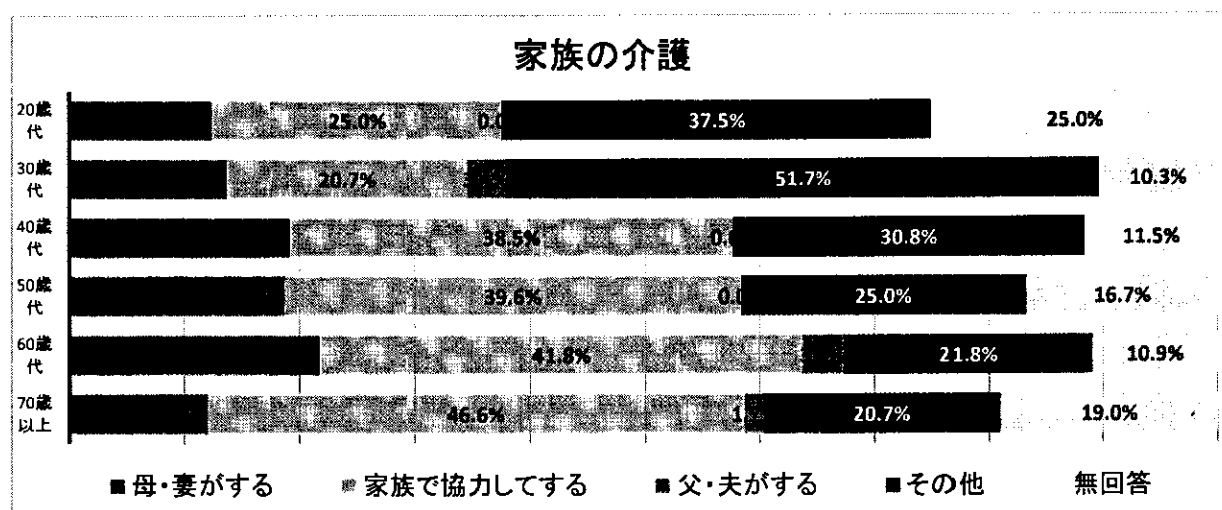
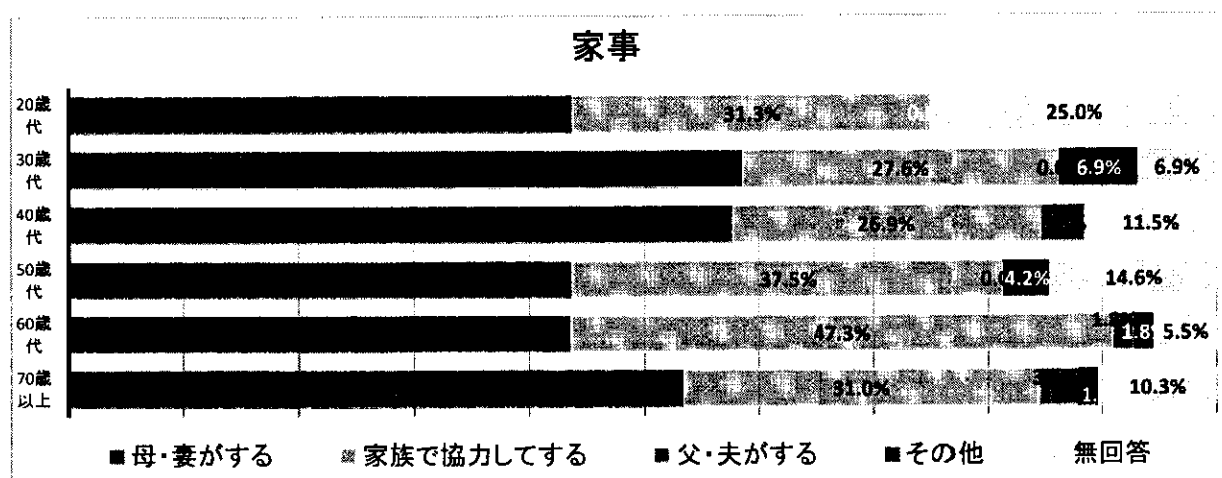
資産の管理



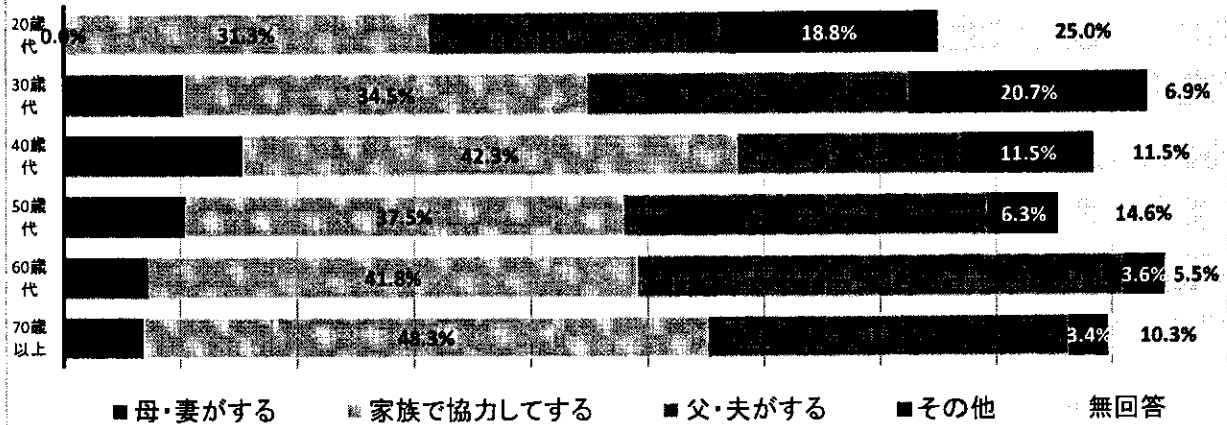
高価な商品購入の決定



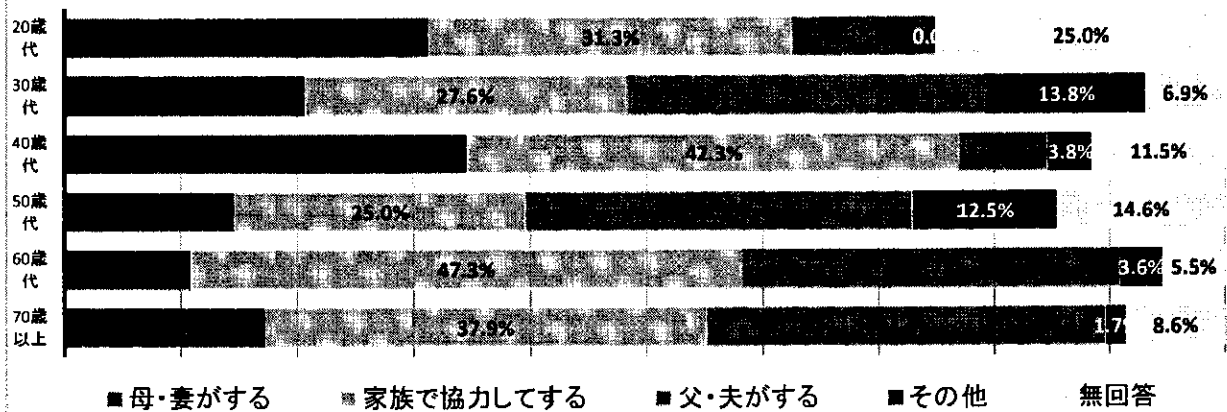
【男性年代別グラフ】



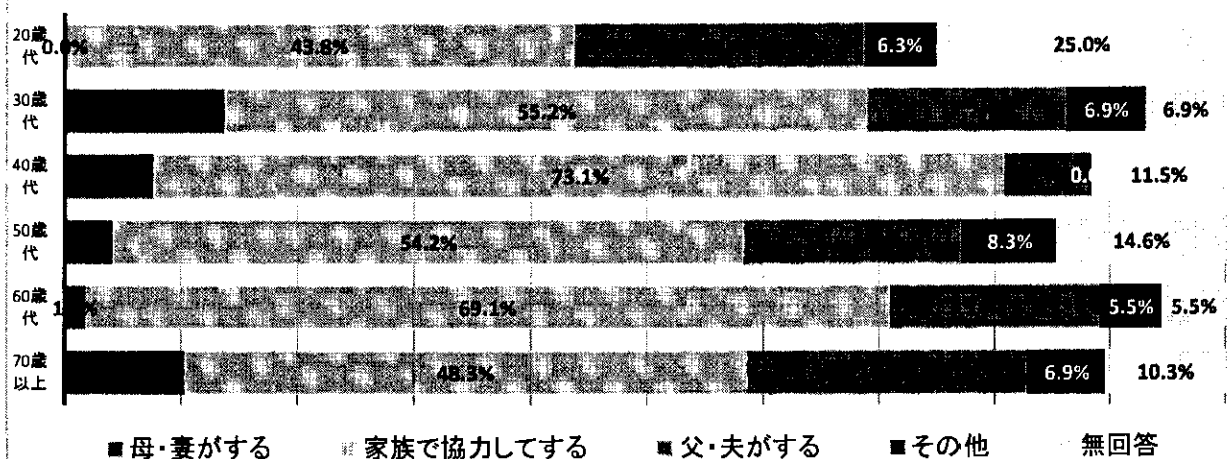
自治会活動等の地域活動



資産の管理



高価な商品購入の決定



【結果から】

家庭における役割について、全体をみると、「母・妻がする」で高い割合は、『家事』57.6%、『PTA等学校行事への参加』38.4%であった。次に、「家族で協力してやる」で高い割合は『家族の介護』38.7%、『自治会活動等の地域活動』41.3%、『資産の管理』31.8%、『高価な商品購入の決定』55.4%であった。

「父・夫がする」は、どの事柄でみても最も高い割合は示さなかった。「父・夫がする」に限ってみると、最も高い割合の事柄は『自治会活動等の地域活動』25.9%であった。

「その他」に関しては、『家族の介護』が23.6%と高い結果となった。

性年代別だと、20歳代女性が各事柄において、「母・妻がする」を選択する割合が高かった。

『家事』においては、8割以上が「母・妻がする」に回答した。40歳代男性は『PTA等学校行事への参加』において、「母・妻がする」の回答率が約5割と高かった。

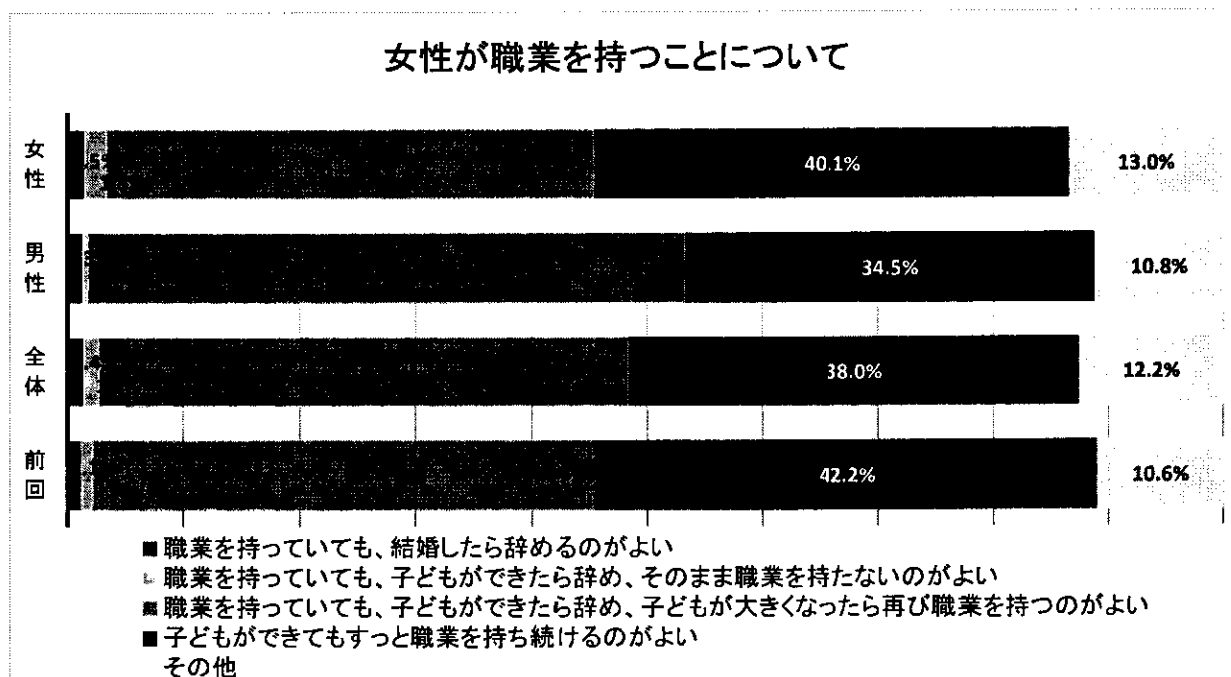
『家事』、『家族の介護』、『PTA等学校行事への参加』の役割を、女性が主にしている実態となった。

2. 仕事

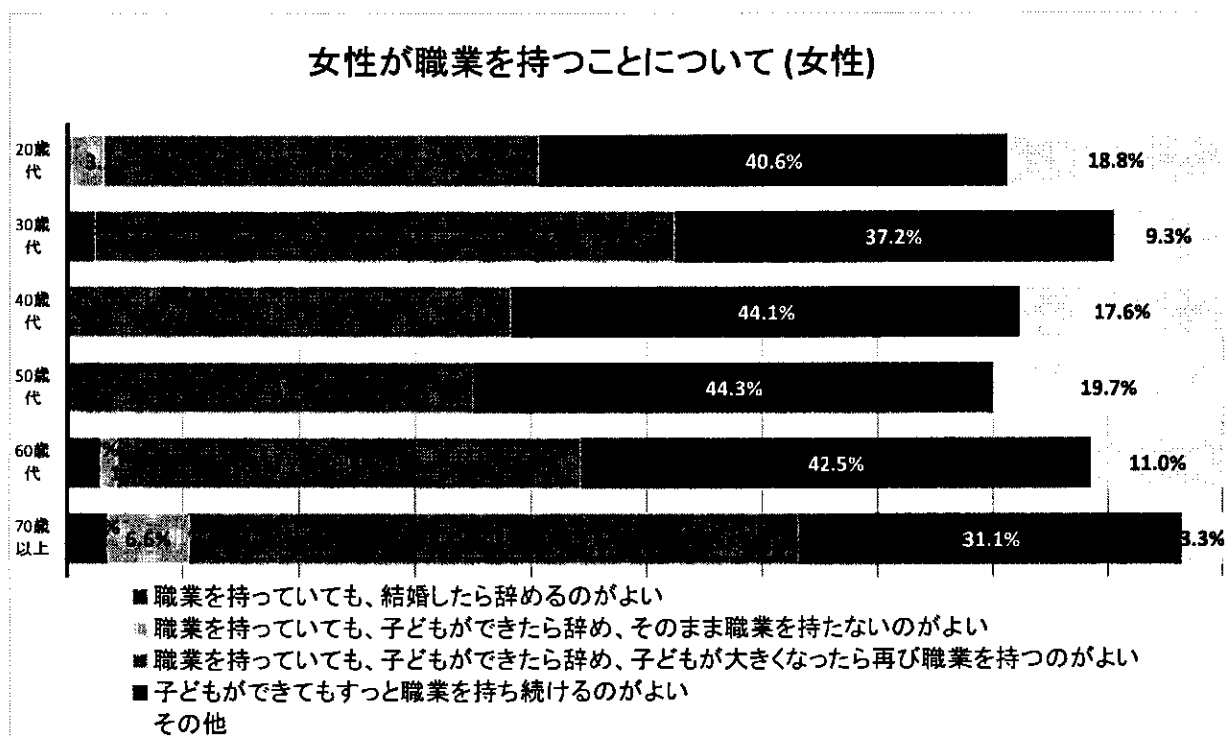
2- (1) 女性が職業をもつことについて

【問 6】 女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。（○は1つ）

【全体・性別グラフ】

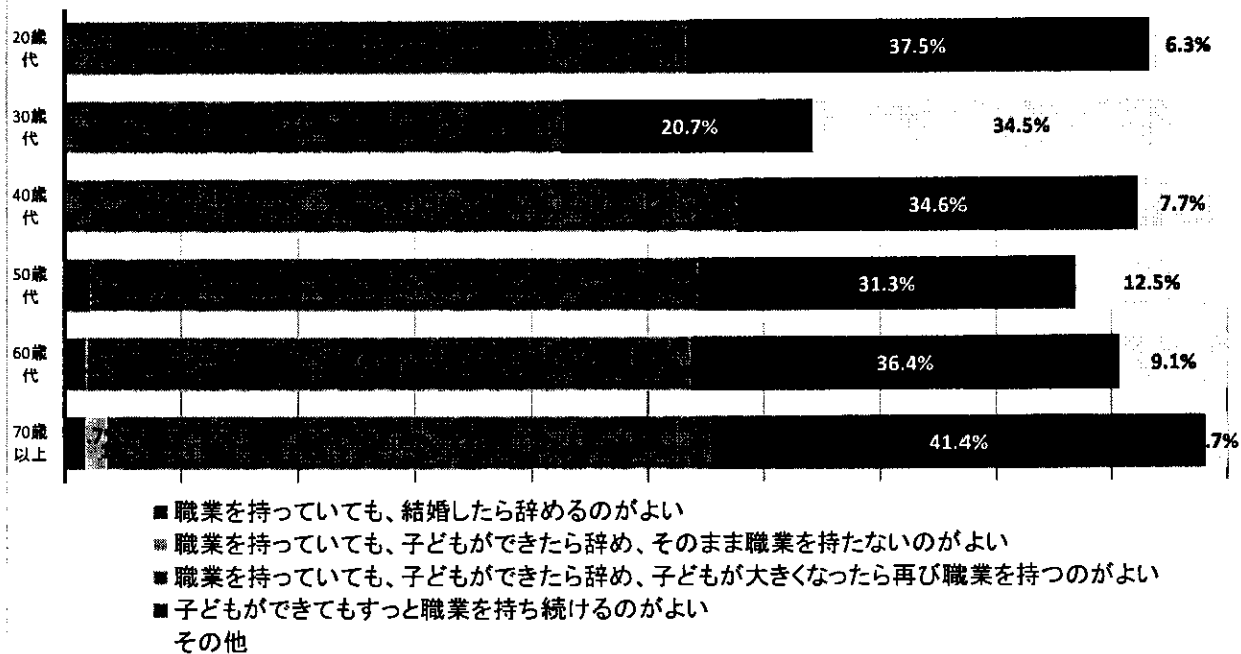


【女性年代別グラフ】



【男性年代別グラフ】

女性が職業を持つことについて (男性)



【結果から】

女性が職業をもつことについて、全体で、最も割合が高かったのは「職業を持っていたとしても、子どもができたなら辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」44.4%であった。次いで、高かったのは「子どもができてみずっと職業を持ち続けるのがよい」38.0%であった。

「その他」の回答としては、『個々の家庭の経済状況や仕事の内容によるのでどちらとも言えない』、『女性本人の意志による』、『家族や周囲の協力・相談が必要』などの意見が多かった。

性別でみると、女性は「職業を持っていたとしても、子どもができたなら辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」41.0%と最も高く、次いで高かったのは、僅差で「子どもができてみずっと職業を持ち続けるのがよい」40.1%であった。

男性は「職業を持っていたとしても、子どもができたなら辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」が50.0%で最も高い結果となった。

年代別でみると、「職業を持っていたとしても、子どもができたなら辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」が70歳以上で49.6%と最も高く、次いで、30歳代で45.8%となった。

性年代別でみると、「職業を持っていたとしても、子どもができたなら辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」が70歳以上女性で49.2%、40歳代男性で57.7%と最も高い割合を得た。

前回調査と比較すると、全体は「職業を持っていたとしても、子どもができたなら辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」が2.2ポイント高くなり、「子どもができてみずっと職業を持ち続けるのがよい」は4.2ポイント低くなった。

性別では、女性は「職業を持っていたとしても、子どもができたなら辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」が0.6ポイント高くなり、「子どもができてみずっと職業を持ち続けるのがよい」は3.5ポイント低くなった。

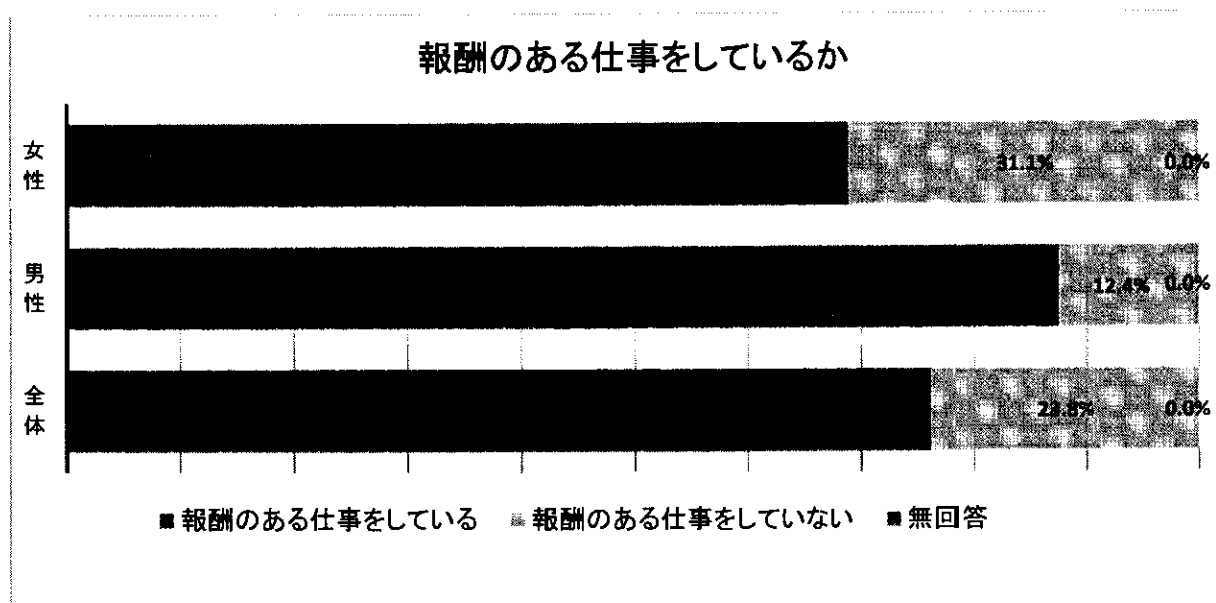
男性は「職業を持っていたとしても、子どもができたなら辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」が6.8ポイント高くなり、「子どもができてみずっと職業を持ち続けるのがよい」は9.1ポイント低くなった。

年代別でみると、変化が高かった年代は、「子どもができてみずっと職業を持ち続けるのがよい」において、30歳代がプラス12.6ポイント、50歳代がマイナス9.9ポイントであった。「職業を持っていたとしても、子どもができたなら辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」においては、50歳代がプラス9.0ポイントとなった。

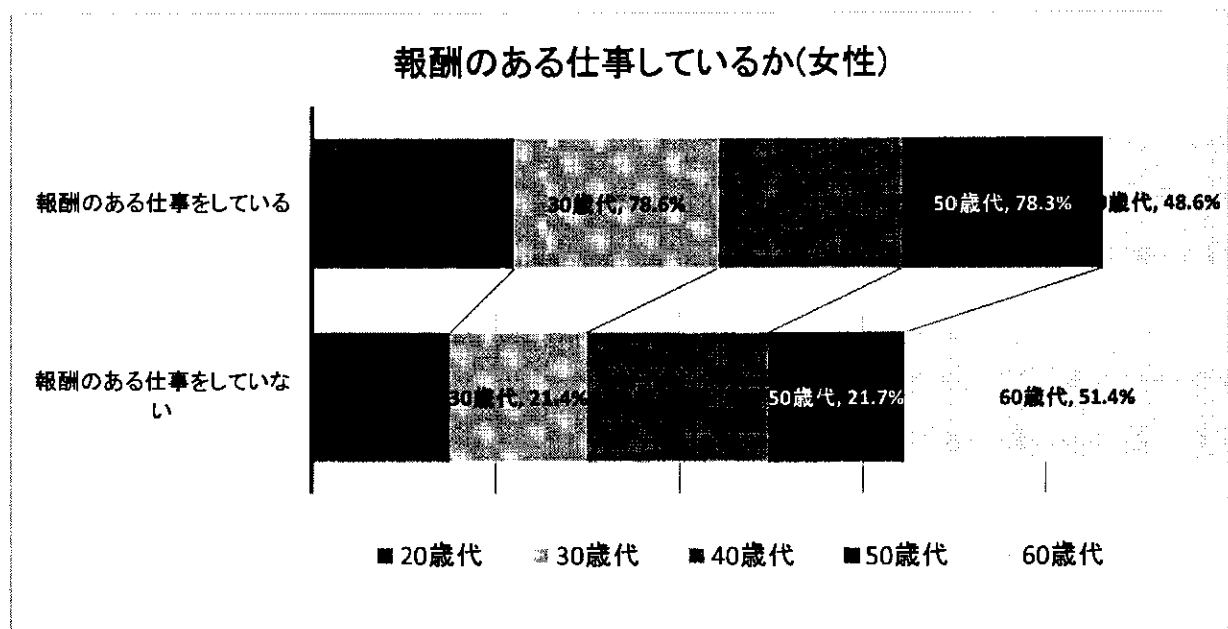
2- (2) 報酬のある仕事の就労実態について

【問7】 あなたは『報酬のある仕事』をしていますか。(○は1つ)

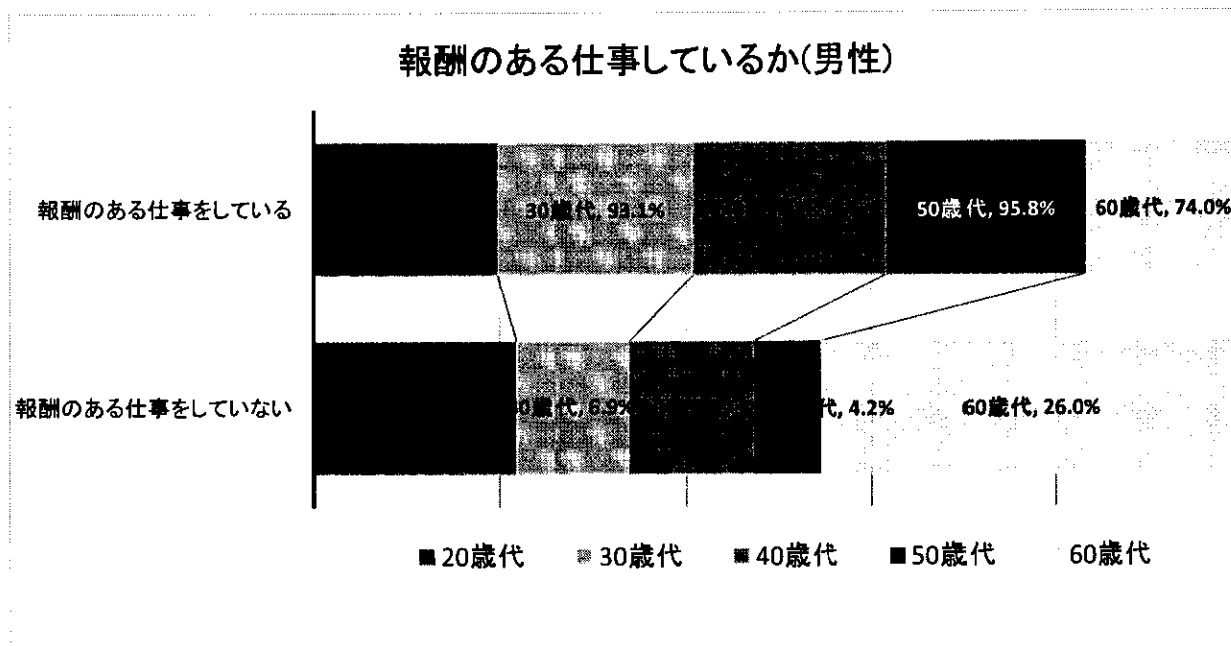
【全体・性別グラフ】



【女性年代別グラフ】



【男性年代別グラフ】



【結果から】

報酬のある仕事の就労実態について、「報酬のある仕事をしている」と回答した全体の割合は76.2%であり、性別でみると、女性は68.9%、男性は87.6%であった。

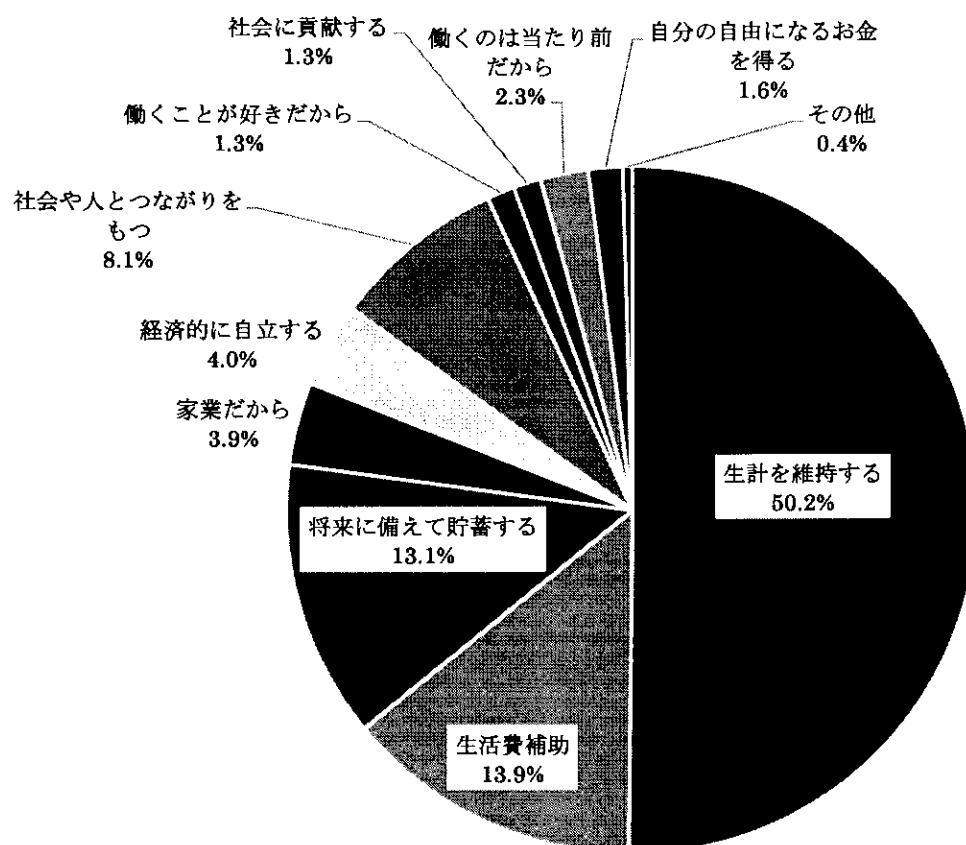
性年代別だと、「報酬のある仕事をしている」と回答した割合は、60歳代女性を除き、20歳代～50歳代女性で7割以上となり、男性では、60歳代を除き、20歳代～50歳代男性で8割以上となった。

2- (3) 仕事をしている理由について (複数回答)

【問7・a・イ】 問7で、「a 報酬のある仕事をしている」と回答された方におききます。あなたが報酬のある仕事をしている理由は何ですか。(〇は3つまで)

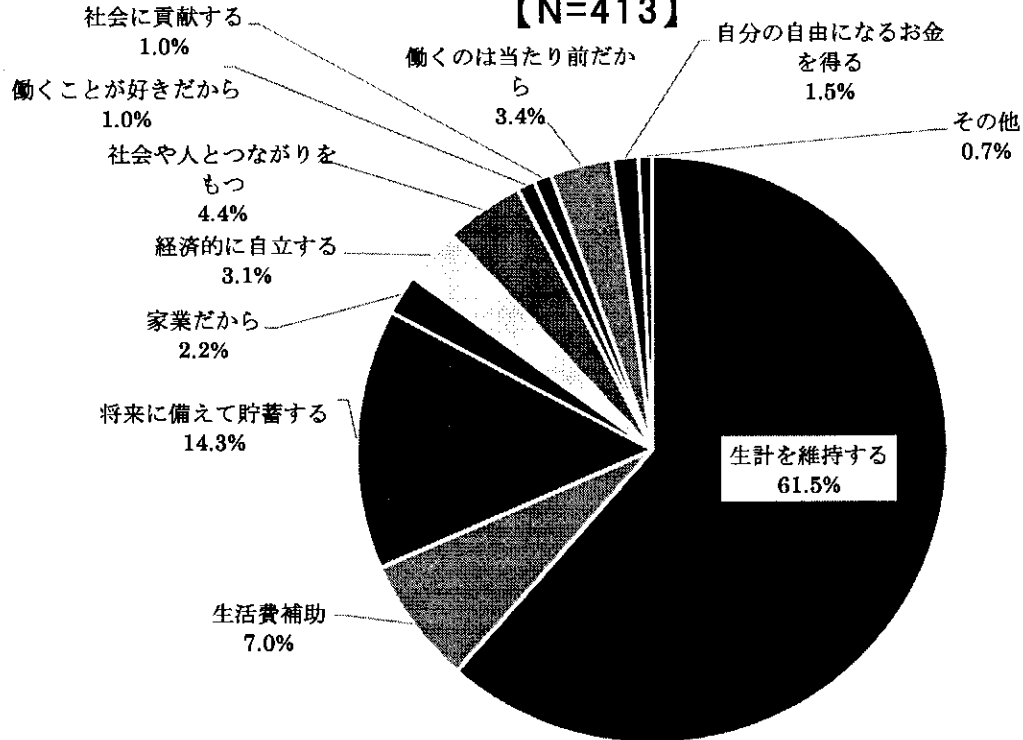
【全体グラフ】

報酬のある仕事をしている理由 (N=933)

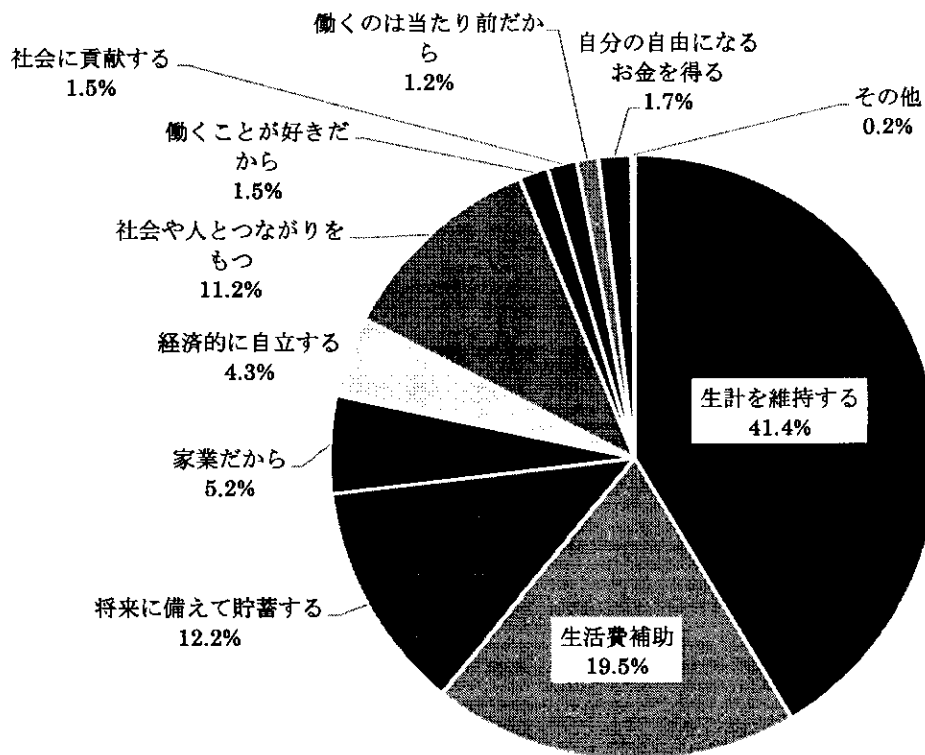


報酬のある仕事をしている理由(男性)

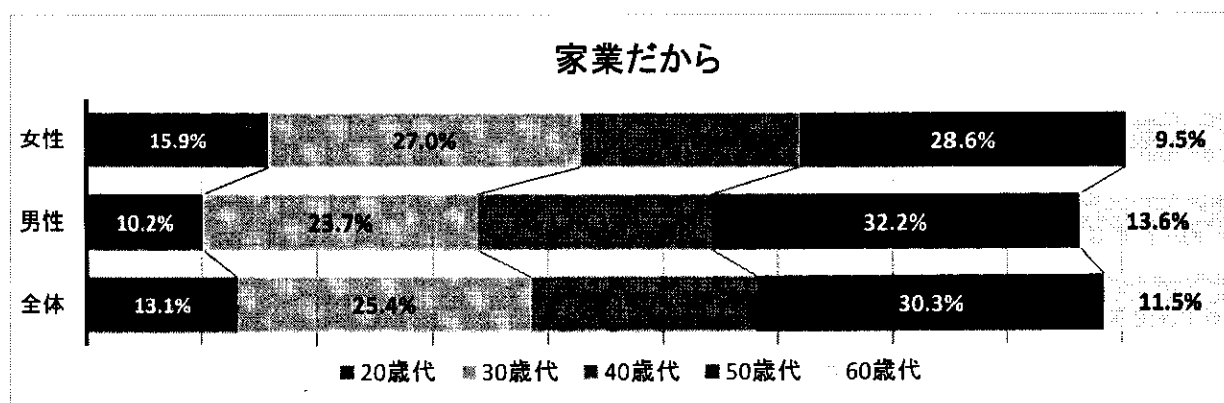
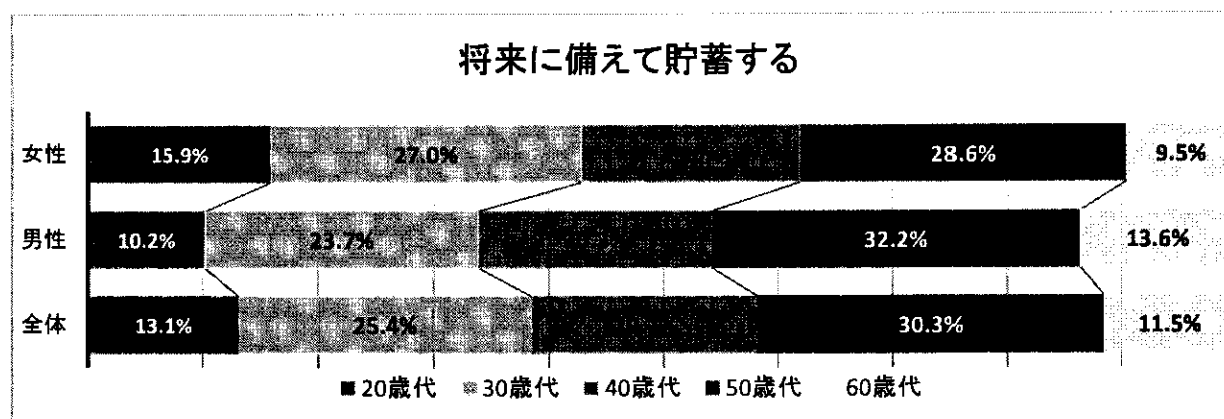
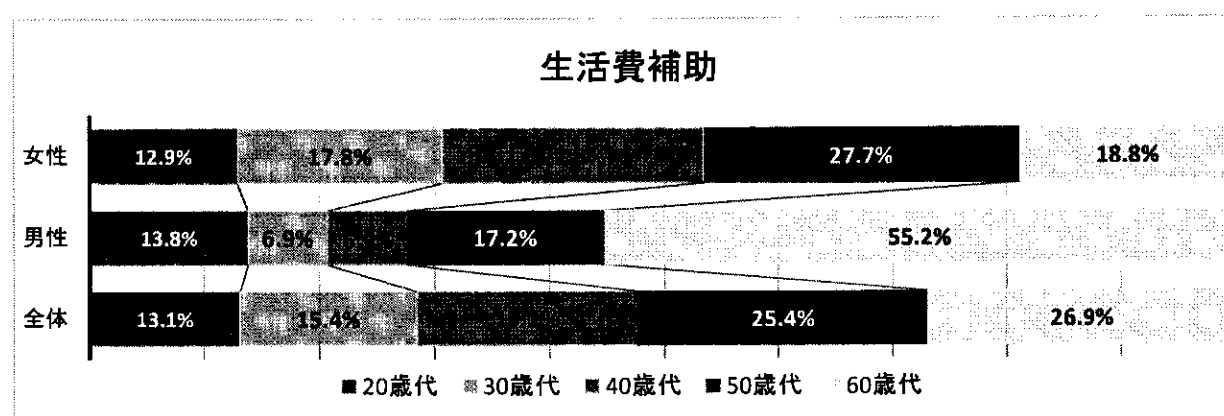
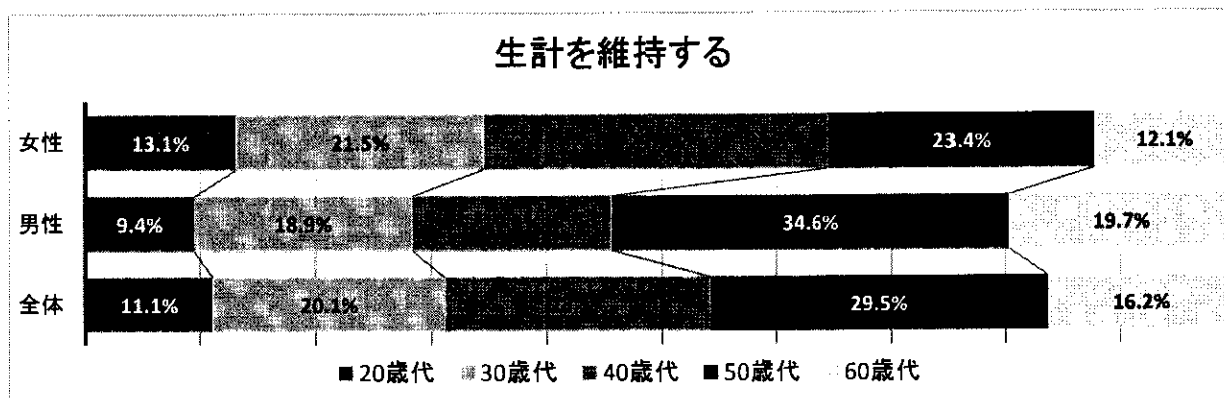
【N=413】

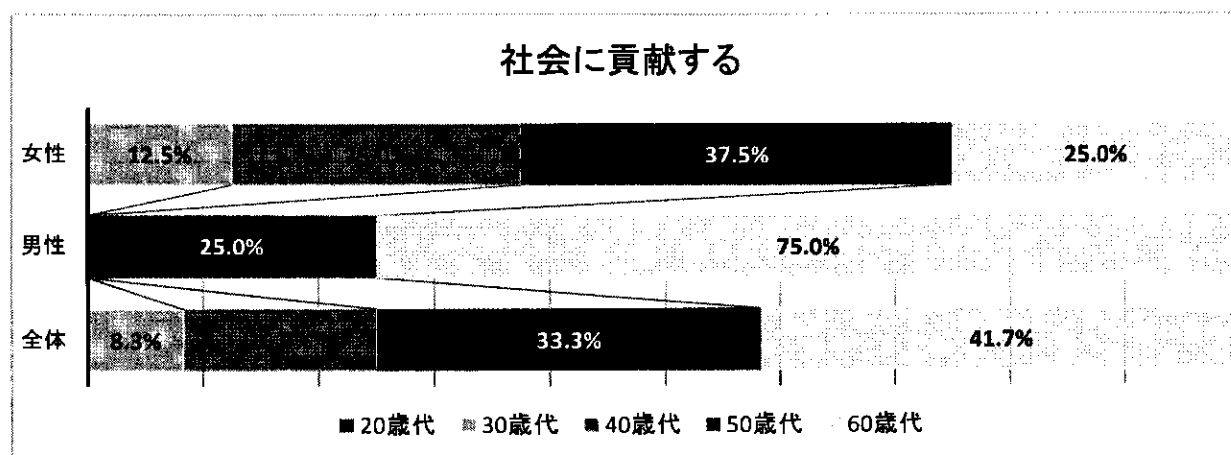
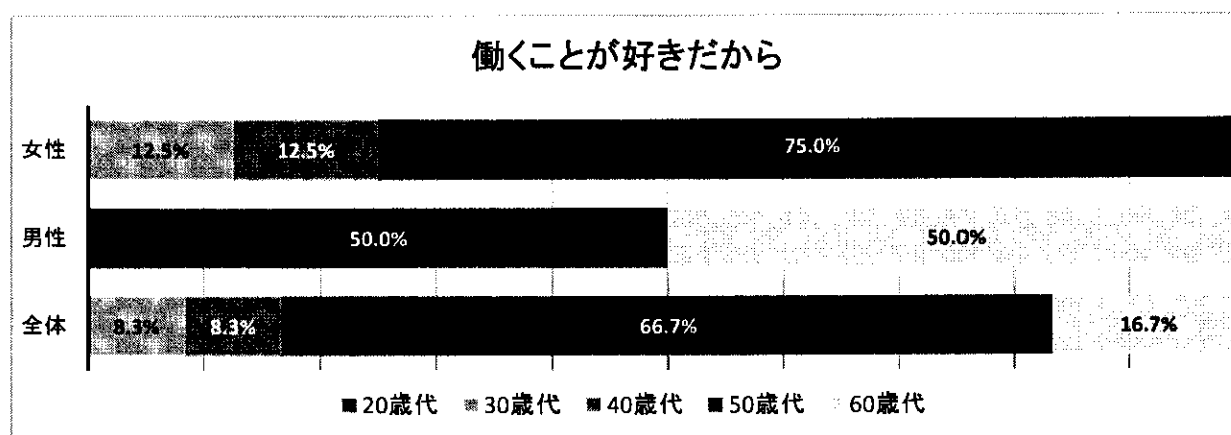
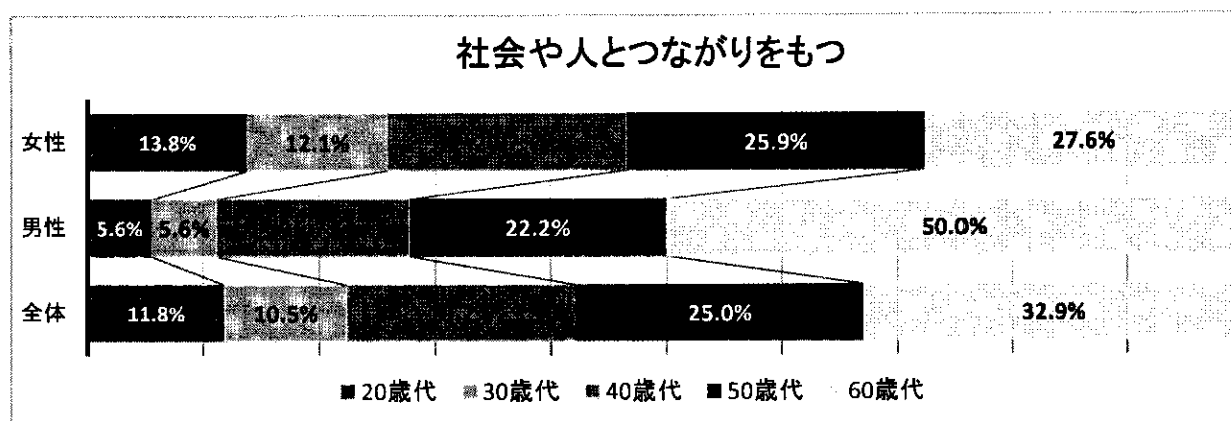
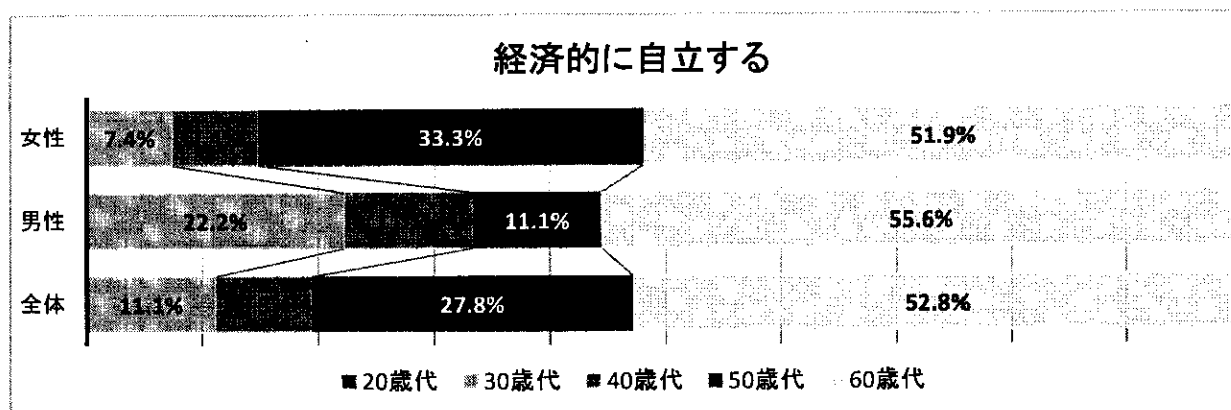


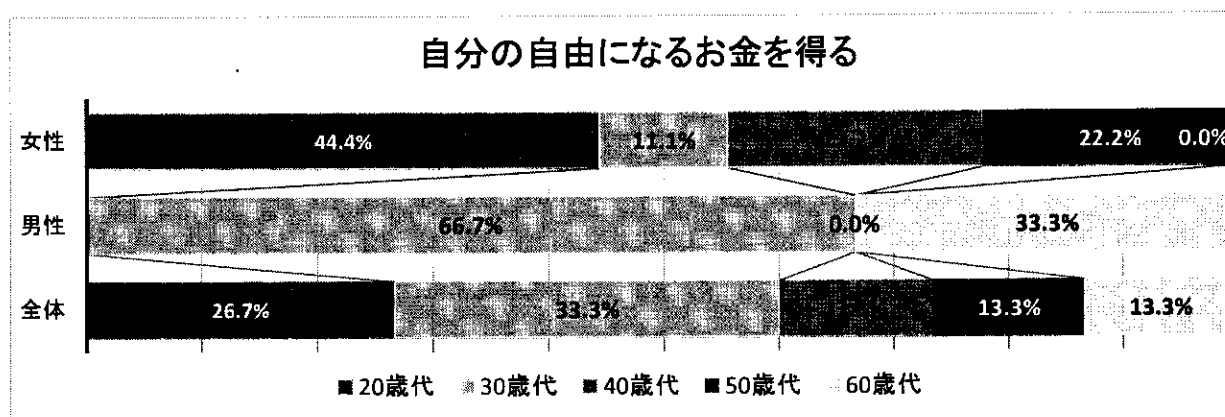
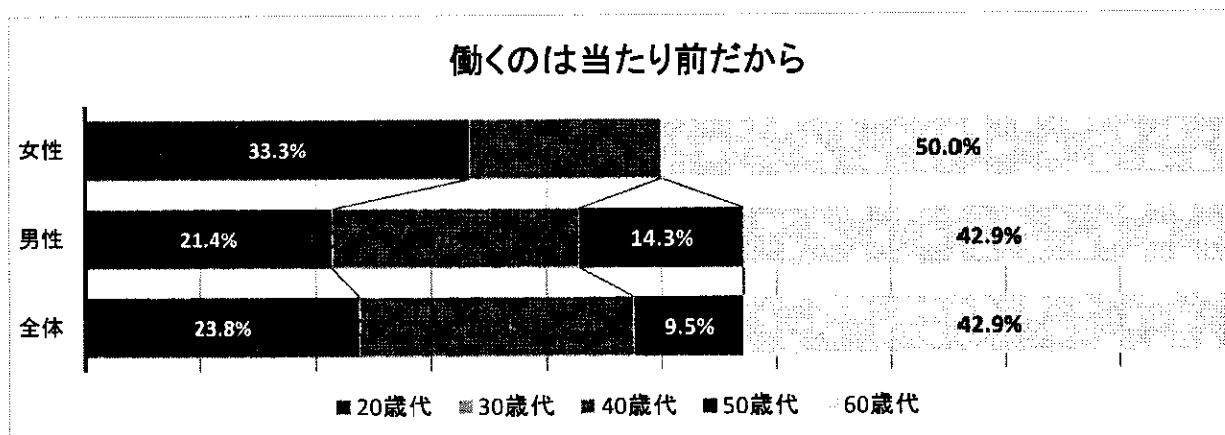
報酬のある仕事をしている理由(女性)【N=517】



【年代・性年代別グラフ】







【結果から】

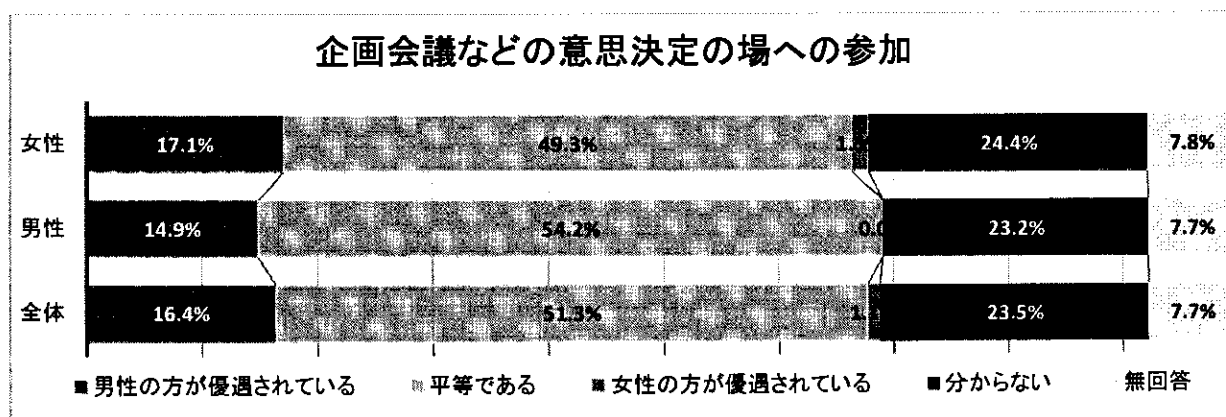
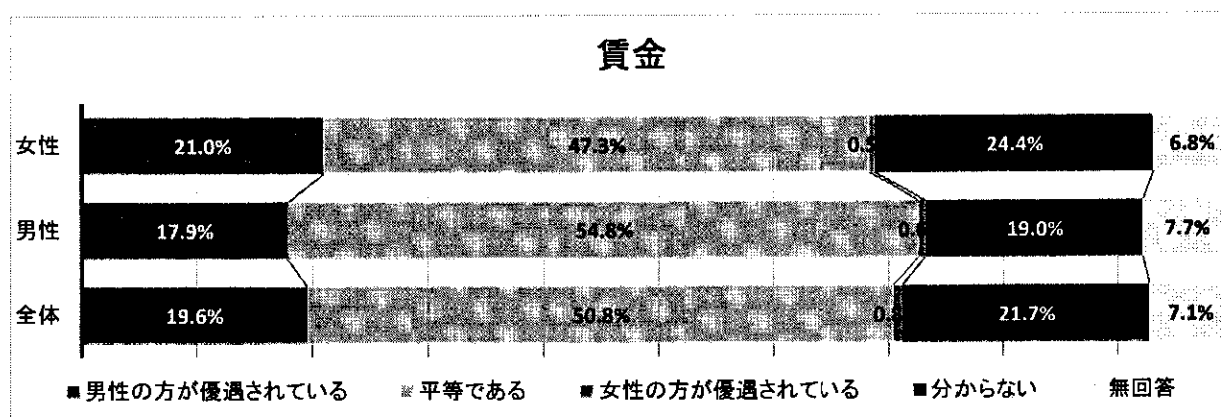
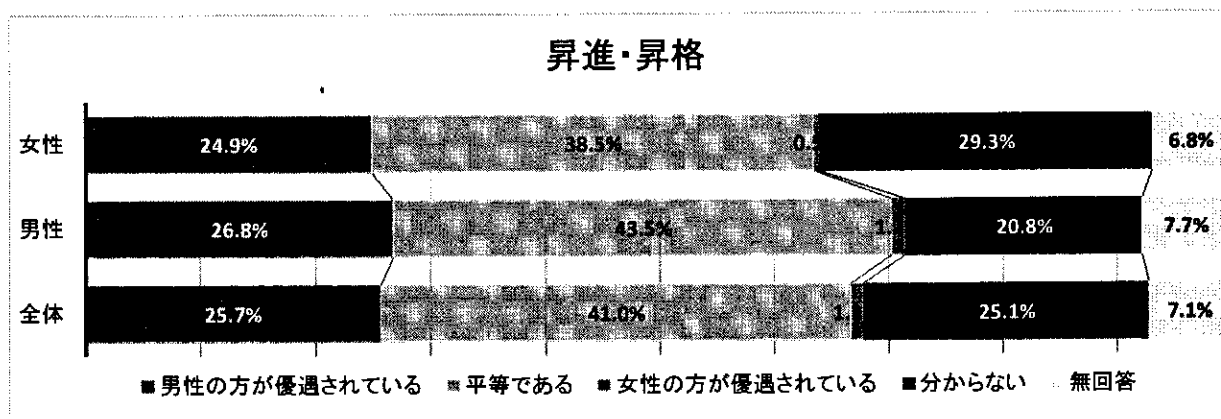
仕事をしている理由について、全体では、「生計を維持する」50.2%が最も高く、次いで「生活費補助」13.9%、「将来に備えて貯蓄する」13.1%が続いた。

2- (4) 働いている職場での性別による仕事内容・待遇・評価の実態について

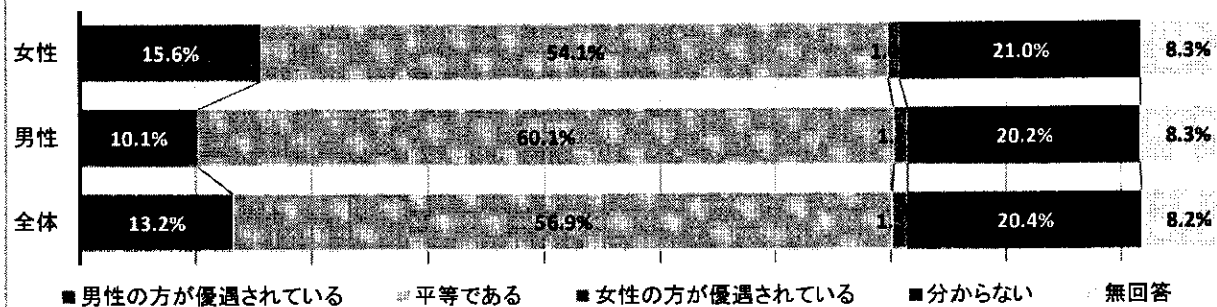
新規調査

【問7・a・ロ】 問7で、「a 報酬のある仕事をしている」と回答された方におききます。あなたが働いている職場では、性別によって仕事の内容や待遇面や、評価などに差がありますか。(〇はそれぞれ1つ)

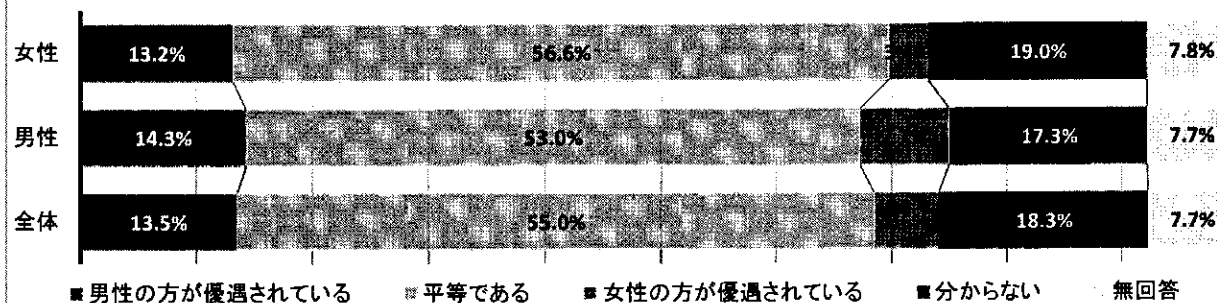
【全体・性別グラフ】



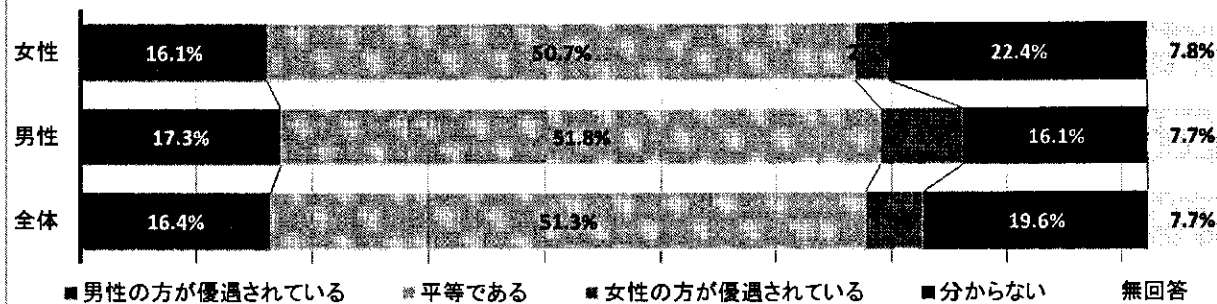
研修や職業訓練、視察などの機会

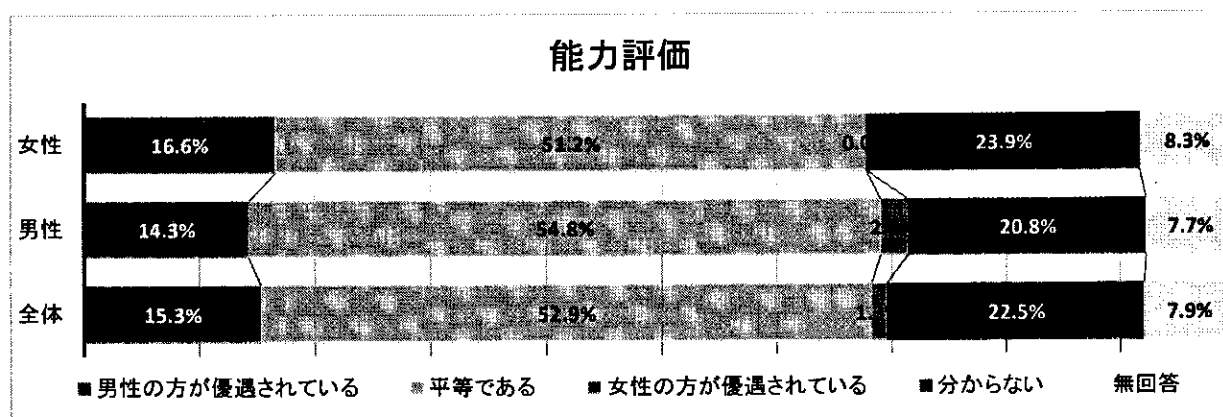


働き続けやすい環境



仕事の内容・配置





【結果から】

働いている職場での性別による仕事内容・待遇・評価の実態について、全体で、『男性の方が優遇されている』と考えている割合が最も高かったのは、「昇進・昇格」25.7%であり、次いで「賃金」19.6%であった。『平等である』と考えている割合は「昇進・昇格」を除き、他は約5割～6割であり、職場での平等が比較的進んでいることがわかった。また、『女性の方が優遇されている』は、「働き続けやすい環境」5.6%が最も高かった。

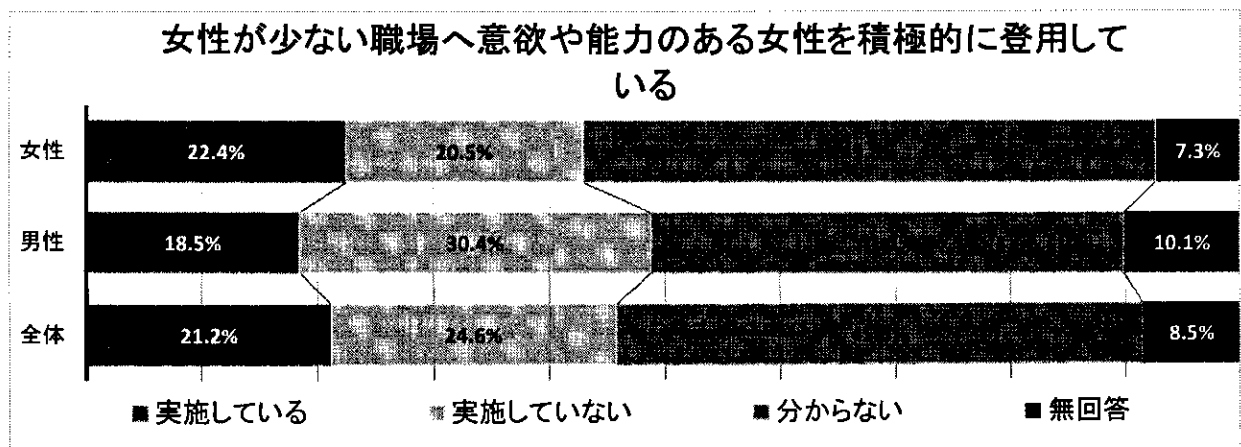
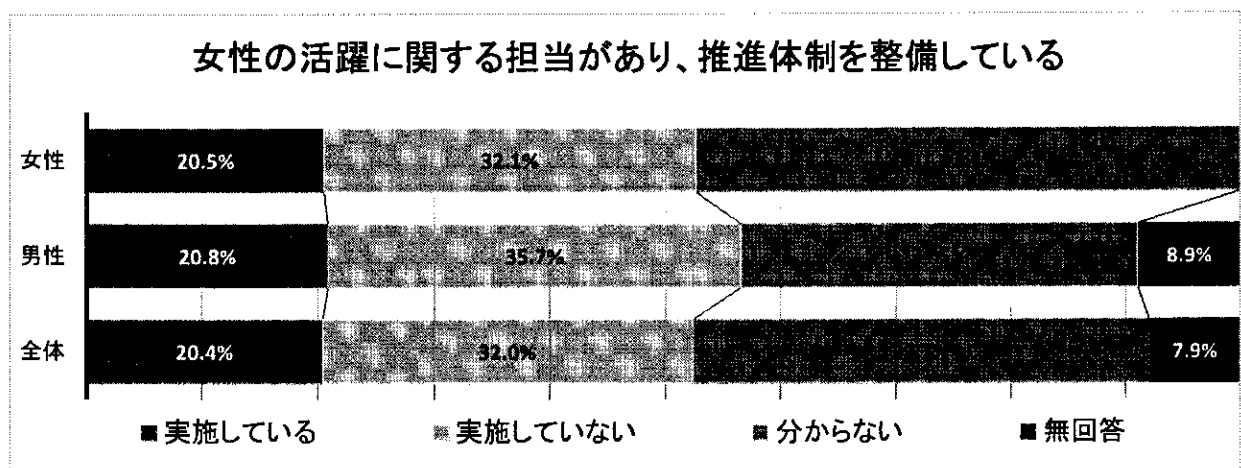
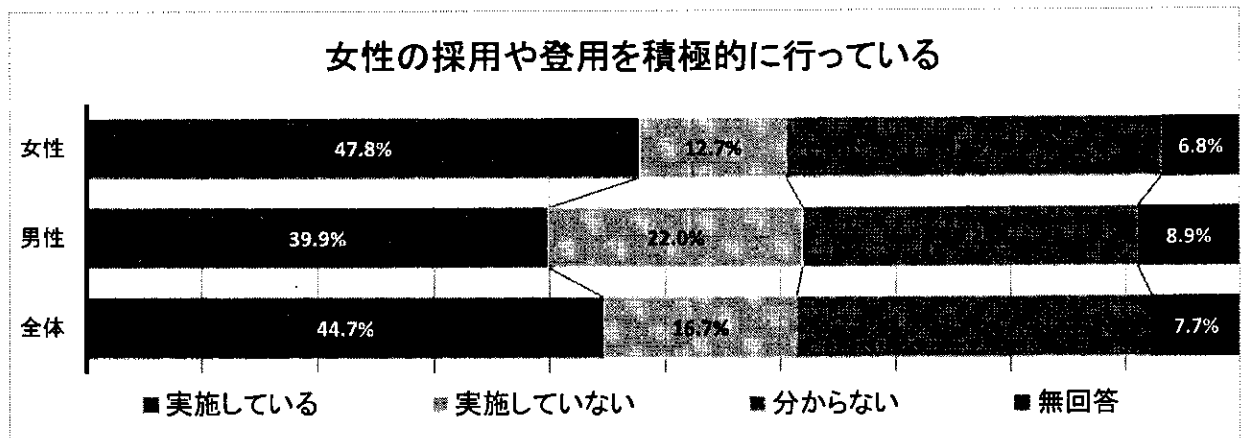
性別で、『男性の方が優遇されている』と考えている割合が最も高かったのは、両性ともに「昇進・昇格」であった。『平等である』では、女性は「働き続けやすい環境」56.6%が最も高く、男性は「研修や職業訓練、視察などの機会」60.1%が最も高かった。『女性の方が優遇されている』では、両性ともに「働き続けやすい環境」が最も高かった。

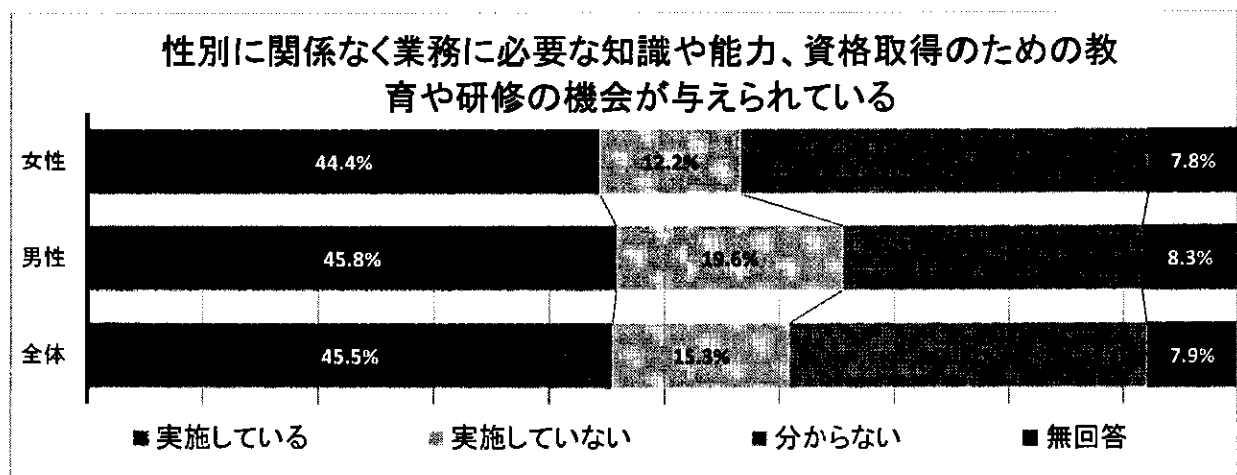
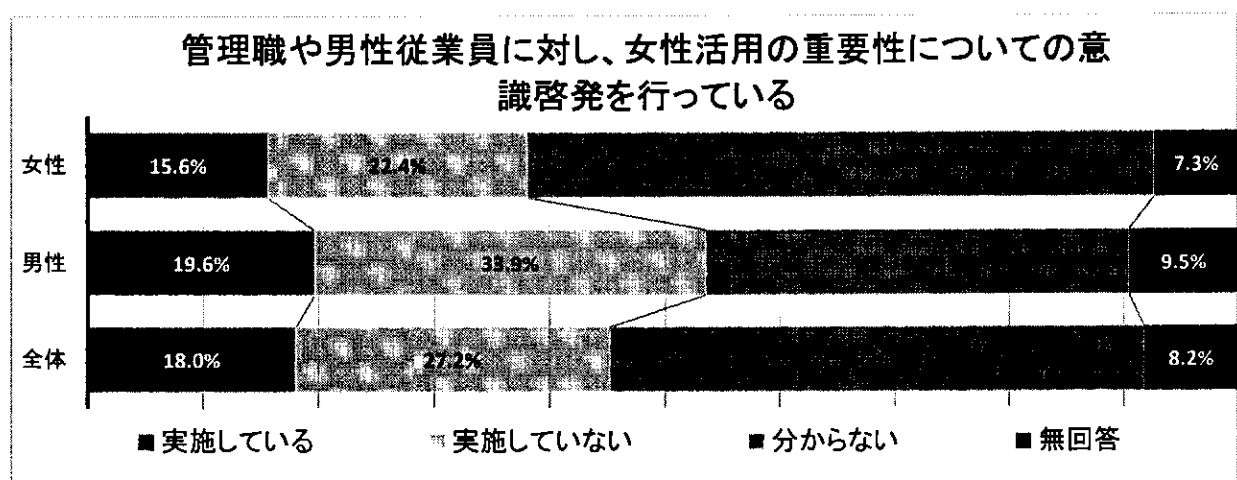
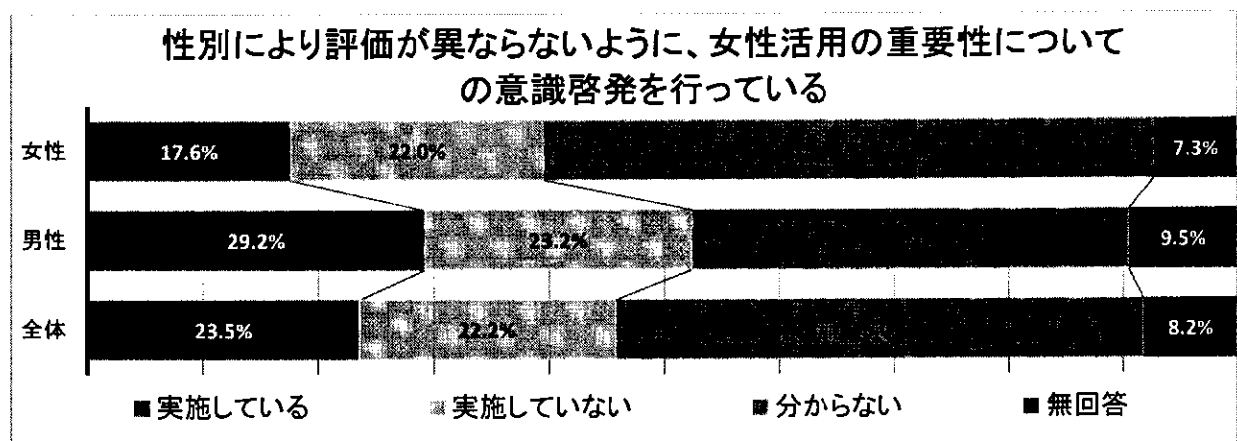
2- (5) 働いている職場での女性に対しての取り組みについて

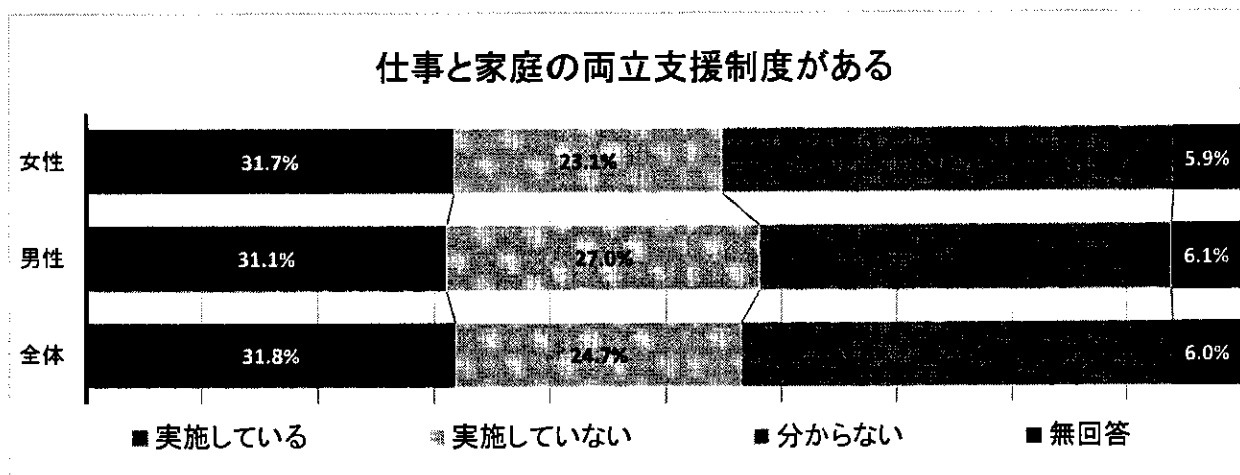
新規調査

【問7-a・ハ】 問7で、「a 報酬のある仕事をしている」と回答された方におききします。あなたが働いている職場では、女性が積極的に活躍するため、次のような取り組みがありますか。（○はそれぞれ1つ）

【全体・性別グラフ】







【結果から】

働いている職場での女性に対しての取り組みについて、全体で、『実施している』と考えている割合が最も高かったのは、「性別に関係なく業務に必要な知識や能力、資格取得のための教育や研修の機会が与えられている」が45.5%で最も高く、次いで、「女性の採用や登用を積極的に行っている」44.7%であった。逆に、『実施していない』と考えている割合が最も高かったのは、「女性の活用に関する担当があり、推進体制を整備している」32.0%、次いで、「管理職や男性従業員に対し、女性活用の重要についての意識啓発を行っている」27.2%であった。

性別で、『実施している』と考える割合が最も高かったのは、女性では「女性の採用や登用を積極的に行っている」47.8%、男性では「性別に関係なく業務に必要な知識や能力、資格取得のための教育や研修の機会が与えられている」45.8%であった。逆に、『実施していない』と考えているものは、両性ともに「女性の活用に関する担当があり、推進体制を整備している」であった。

項目に視点をおいて考察してみると、「女性の採用や登用を積極的に行っている」を実施しているのは、5割に達しておらずより積極的な取り組みが必要である。

また、「性別により評価が異ならないように、女性活用の重要性についての意識啓発を行っている」のは、僅か23.5%であり、「管理職や男性従業員に対し、女性活用の重要性についての意識啓発を行っている」割合も18.0%と低く、まだまだ、意識啓発を行っていく必要があることが伺われる。

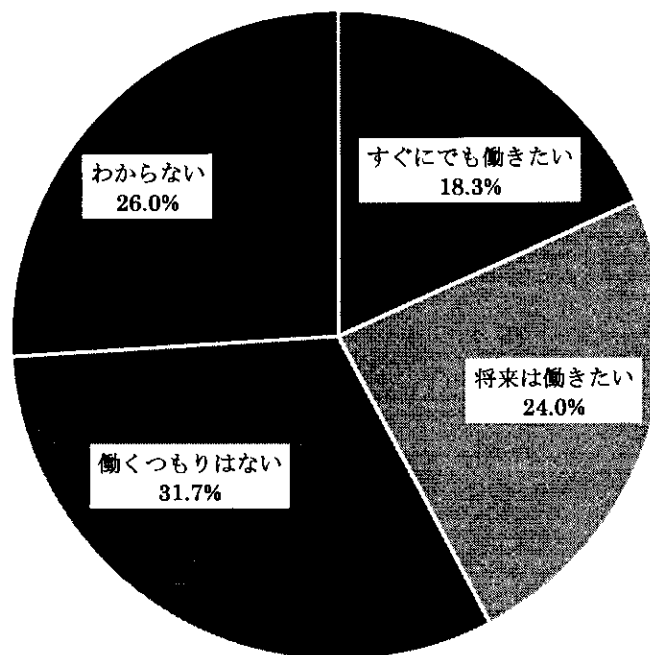
「仕事と家庭の両立支援制度がある」については、支援制度があるのは31.8%しかなく、仕事のしやすい環境になっているとはいえない。

2- (6) 仕事をしていない人の就労意欲について

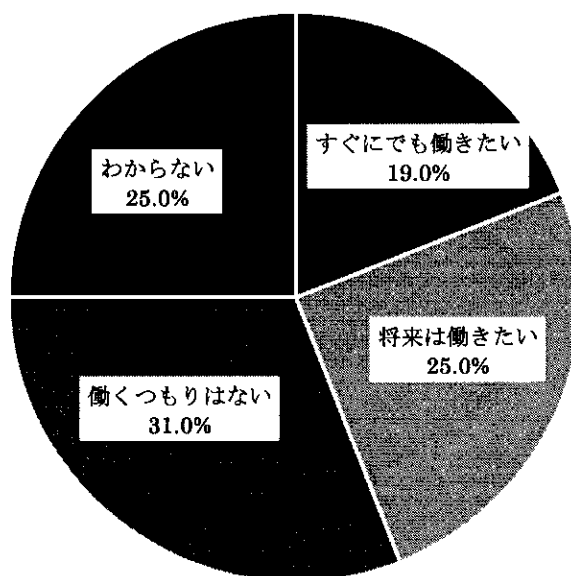
【問7-b】 問7で、「b 報酬のある仕事はしていない」と回答された方におききします。これから働きたいと思いますか。(○1つ)

【全体・性別グラフ】

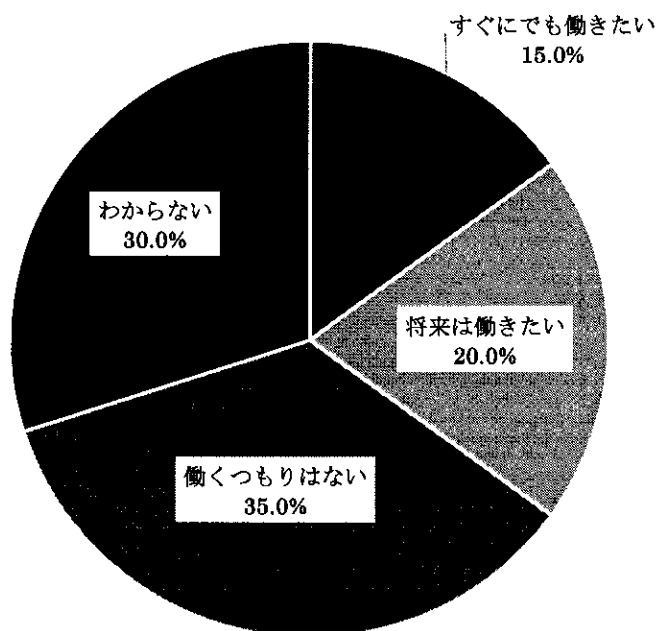
報酬のある仕事はしていない(全体)【N=104】



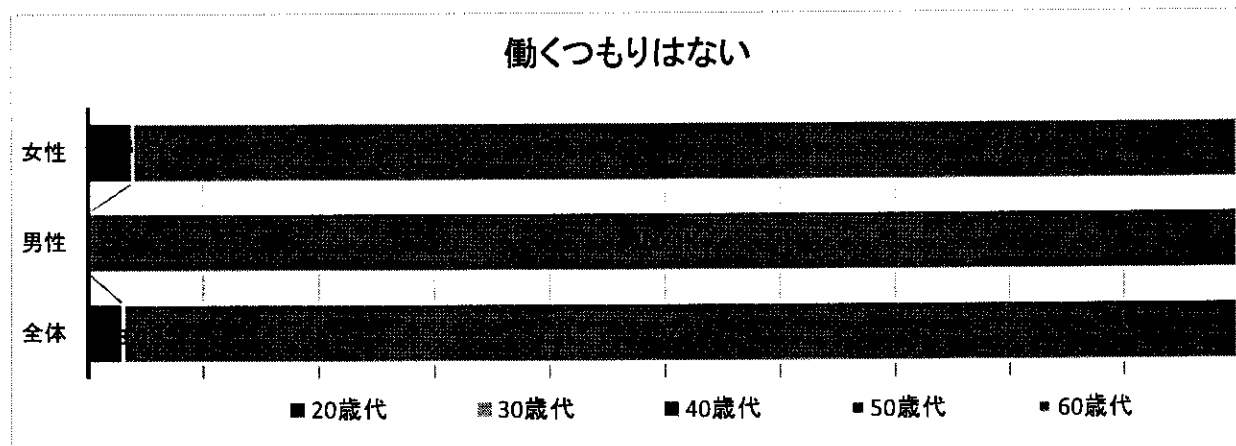
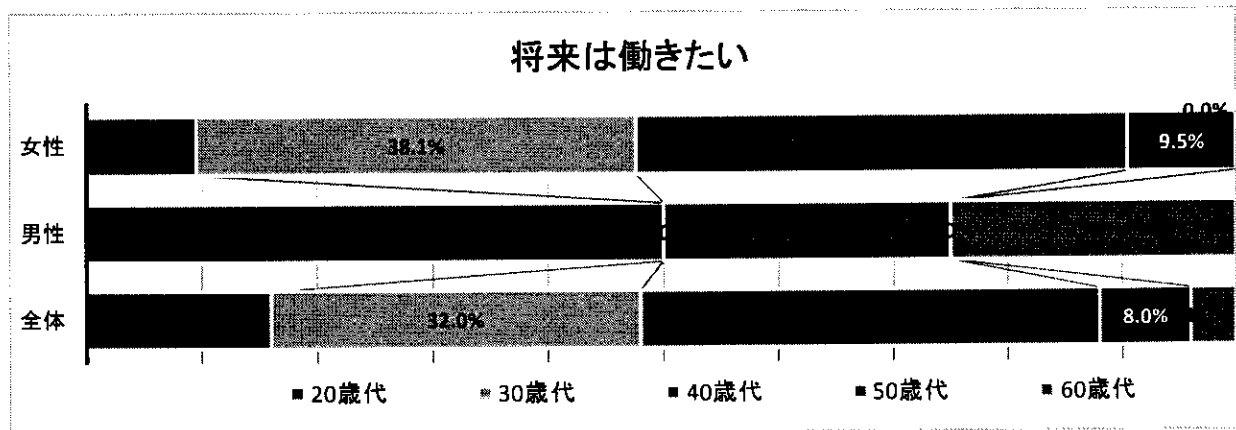
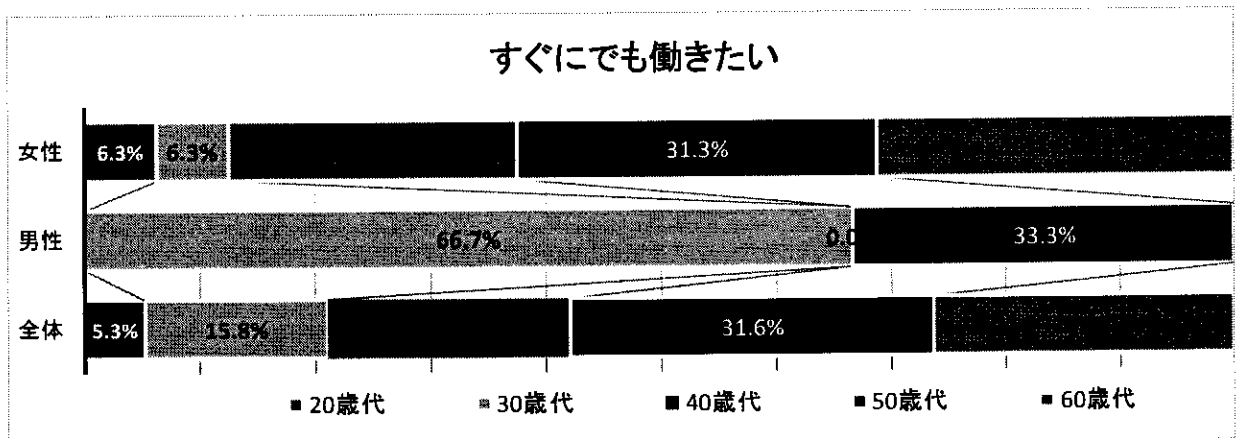
報酬のある仕事はしていない(女性)【N=84】

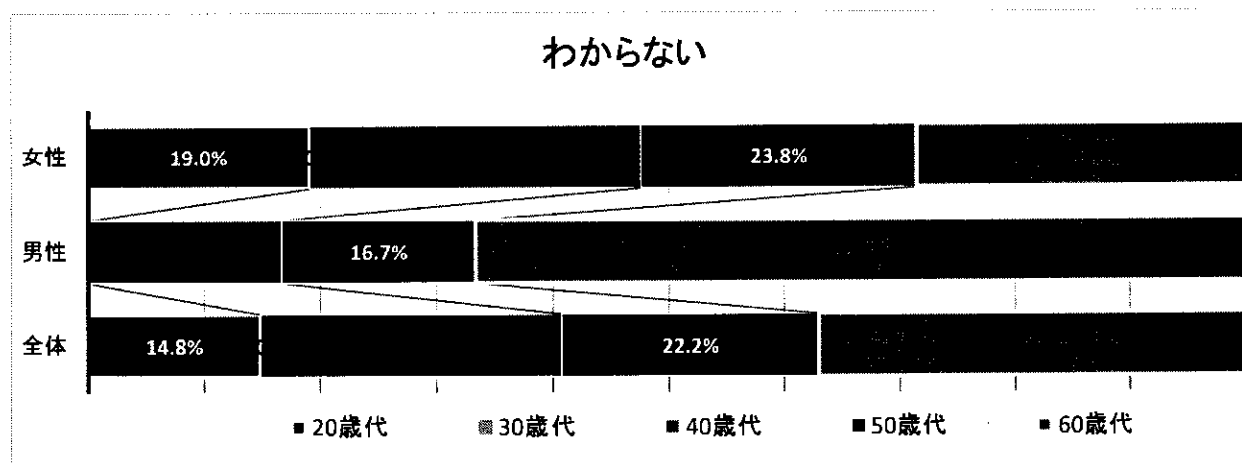


報酬のある仕事はしていない(男性)【N=20】



【年代・性年代別グラフ】





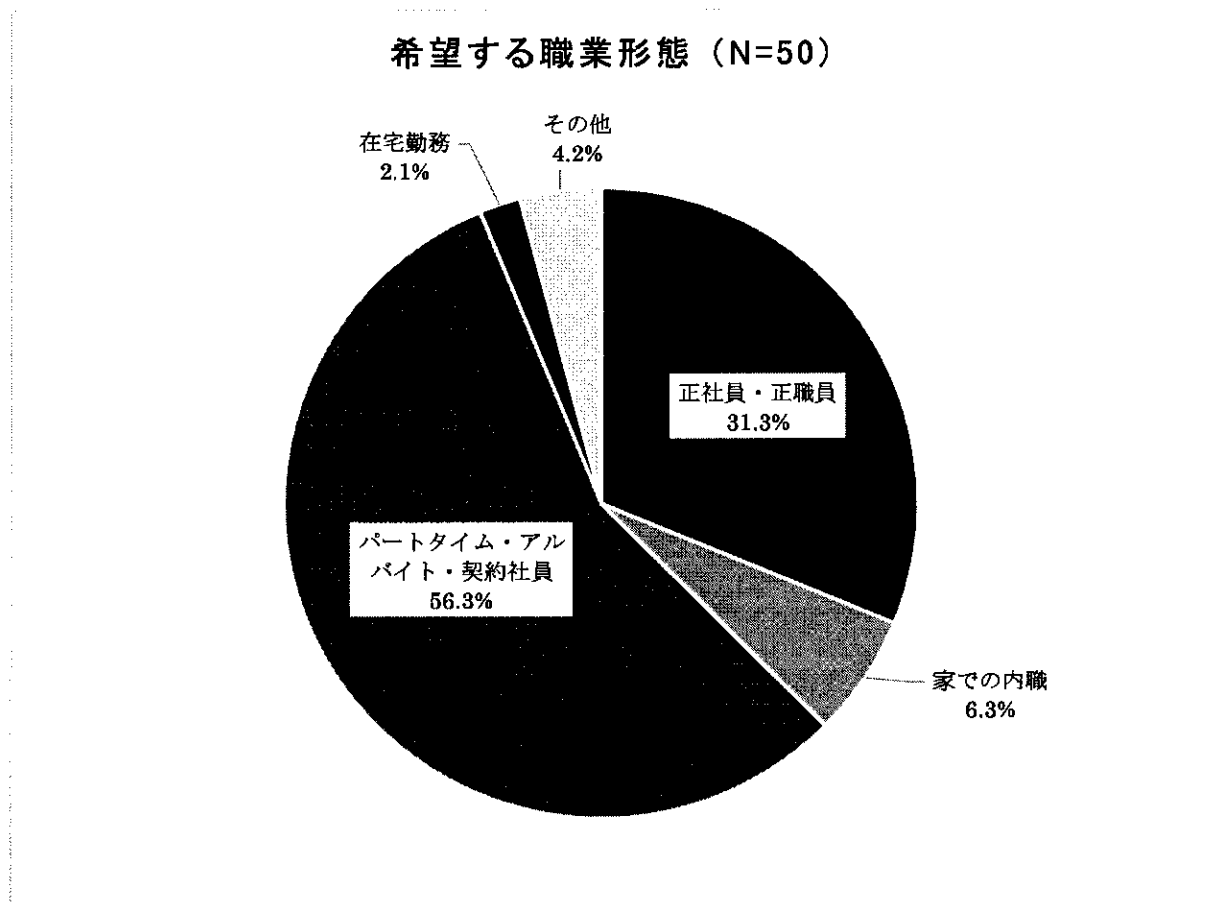
【結果から】

仕事をしていない人の就労意欲について、全体では、「働くつもりはない」が 47.6%で最も高かった。年代別では、「すぐにでも働きたい」、「将来は働きたい」は共に 40 歳代で最も高かった。性年代別でみると、「すぐにでも働きたい」は 30 歳代男性、「将来は働きたい」は 20 歳代男性が最も高かった。

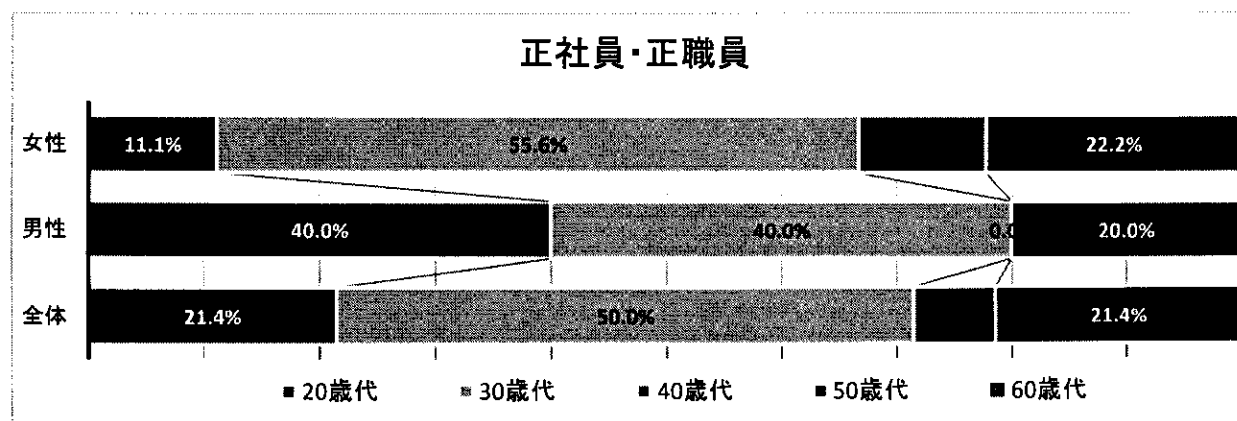
2- (7) 就労意欲がある人の希望する就労形態について

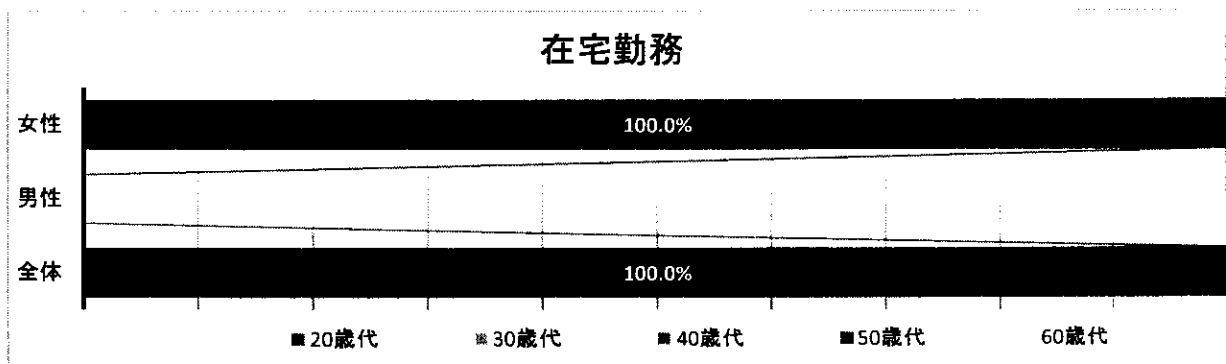
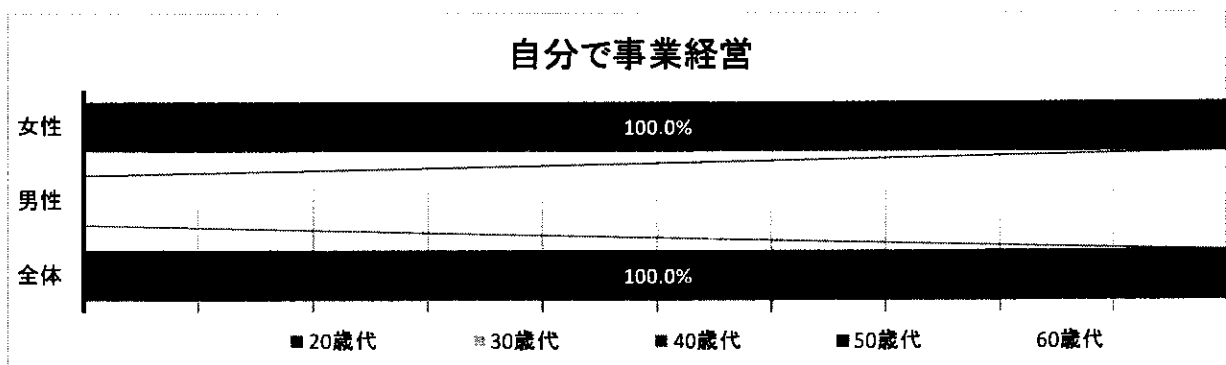
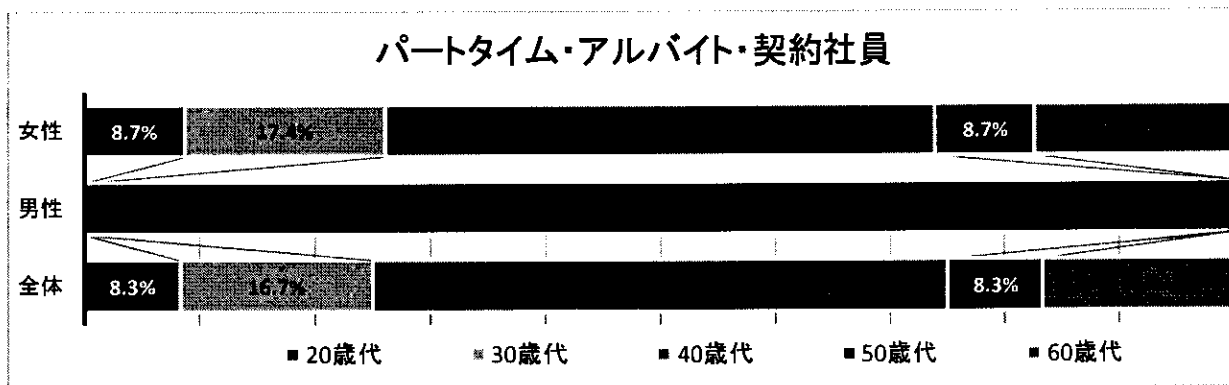
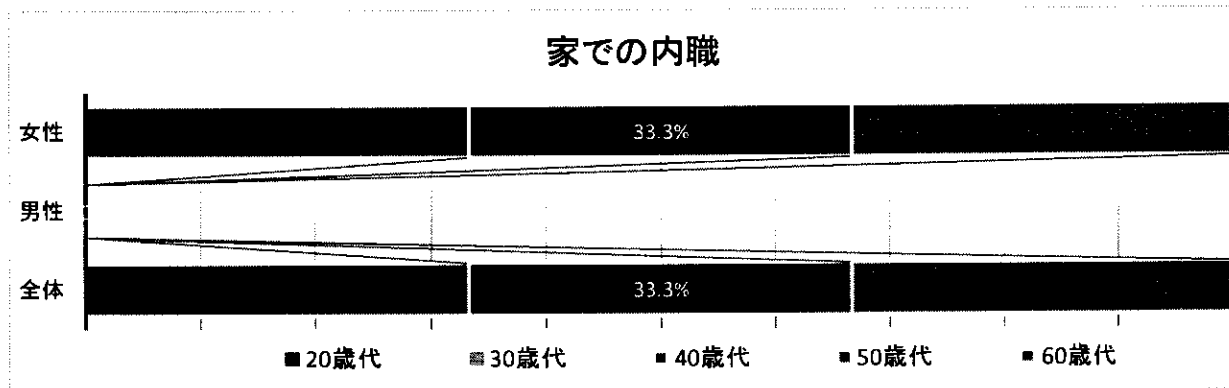
【問7-b-イ】 問7-bで、「①」または「②」に回答された方におききます。あなたは、どのような形で働きたいとお考えですか。（○は1つ）

【全体グラフ】



【年代・性年代別グラフ】





【結果から】

就労意欲がある人の希望する就労形態について、全体では「パートタイム・アルバイト・契約社員」が 56.3%で最も高く、次いで、「正社員・正職員」31.3%と続いた。

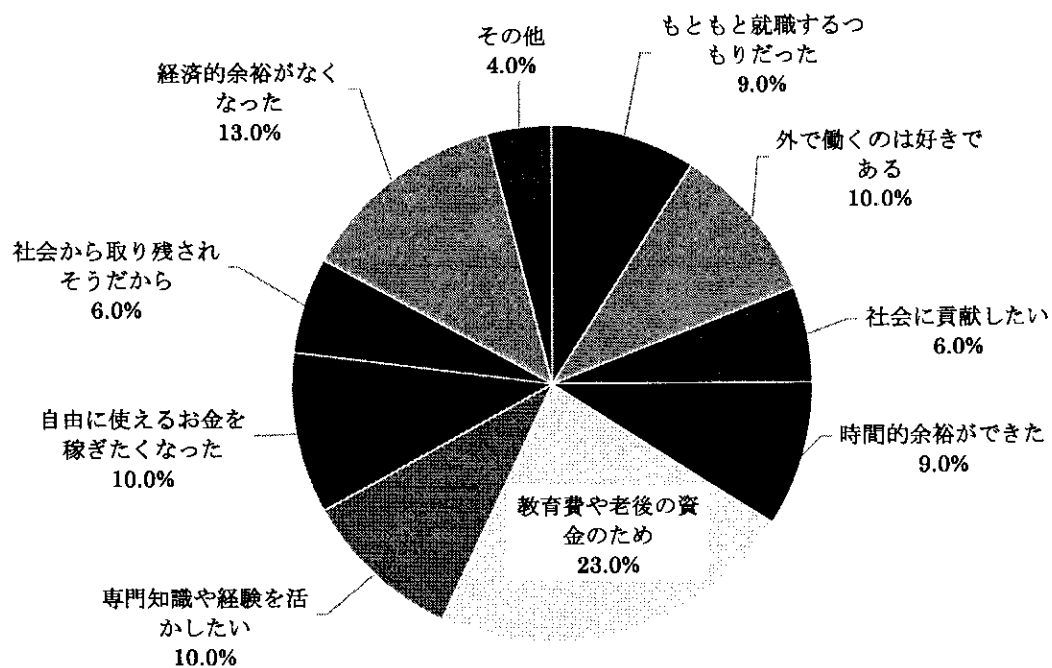
性年代別では、20 歳代、30 歳代男性が雇用が安定している「正社員・正職員」を希望する割合が高く、「パートタイム・アルバイト・契約社員」は 40 歳代女性で高かった。

2- (8) 就労意欲がある人の働きたい理由について（複数回答）

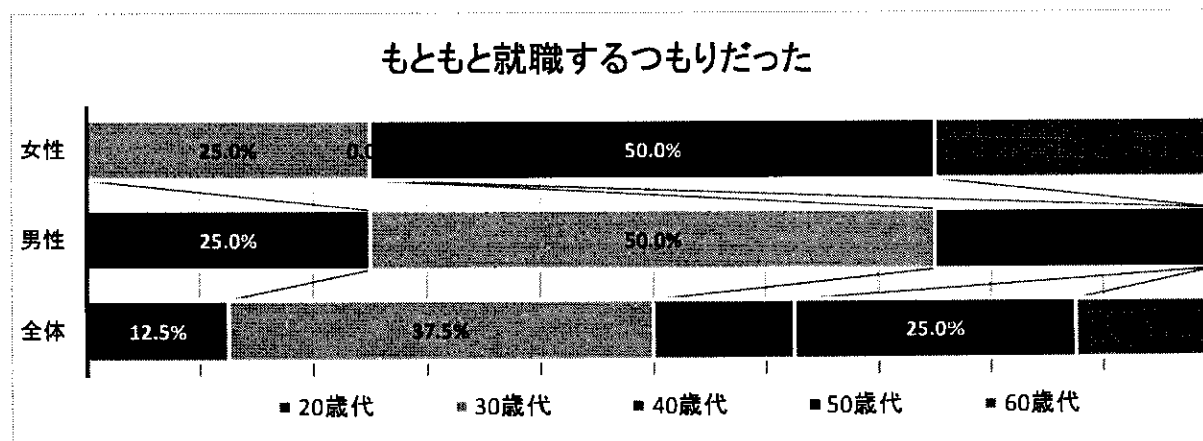
【問7-b-ロ】 問7-bで、「①」または「②」に回答された方におききます。あなたが働きたい理由は何ですか。（〇は3つまで）

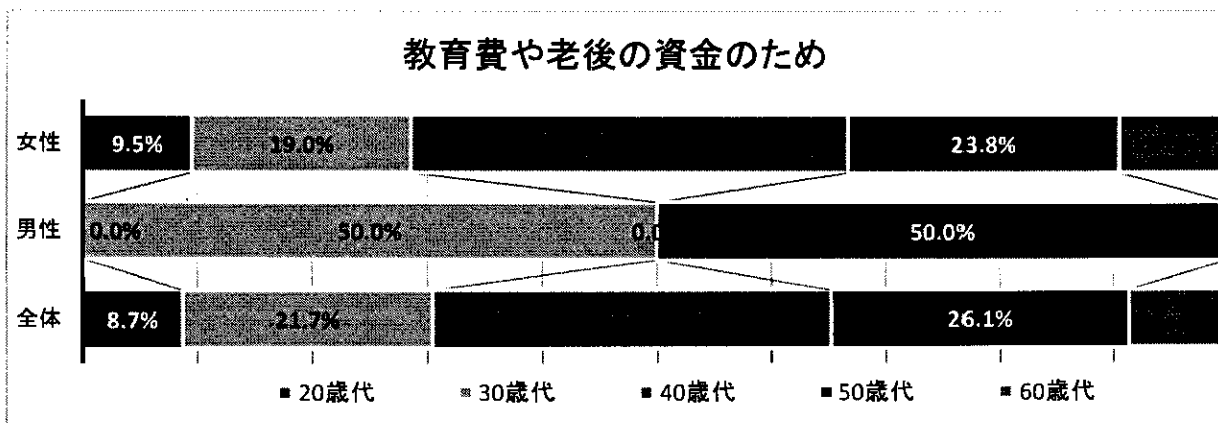
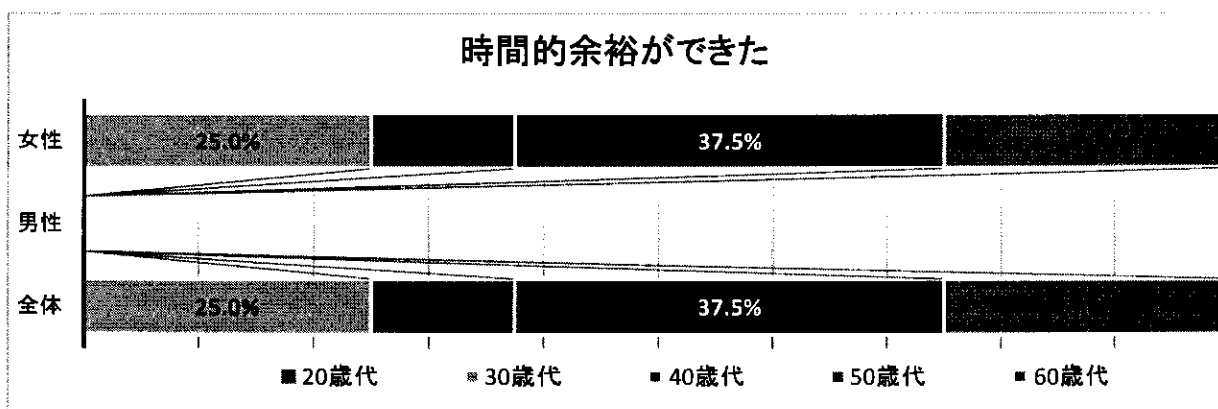
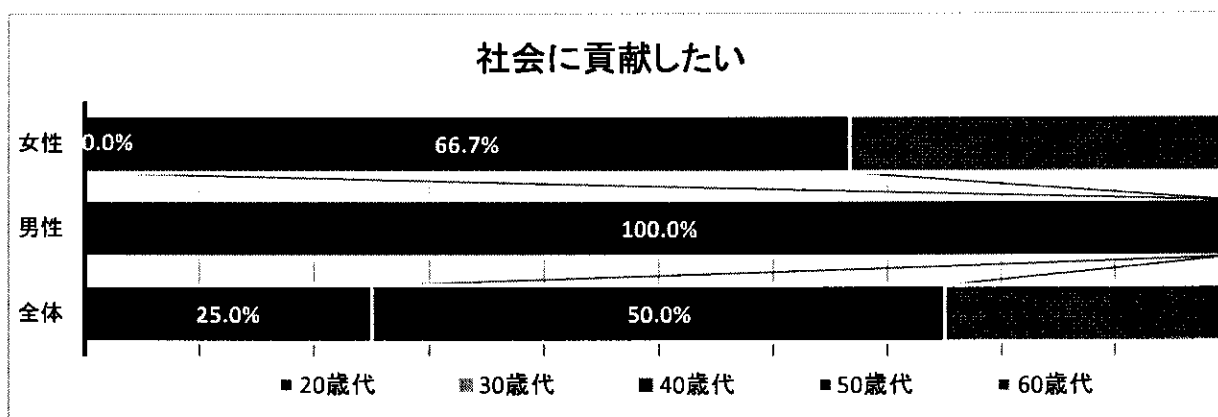
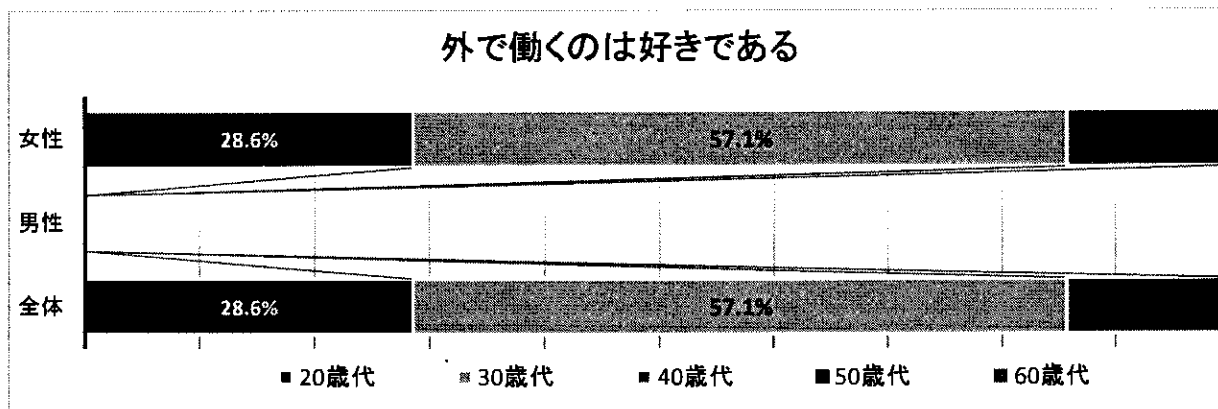
【全体グラフ】

働きたい理由 (N=150)

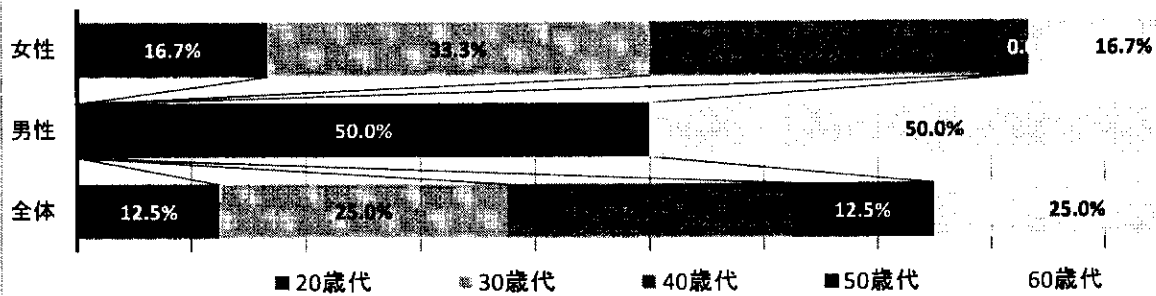


【年代・性年代別グラフ】

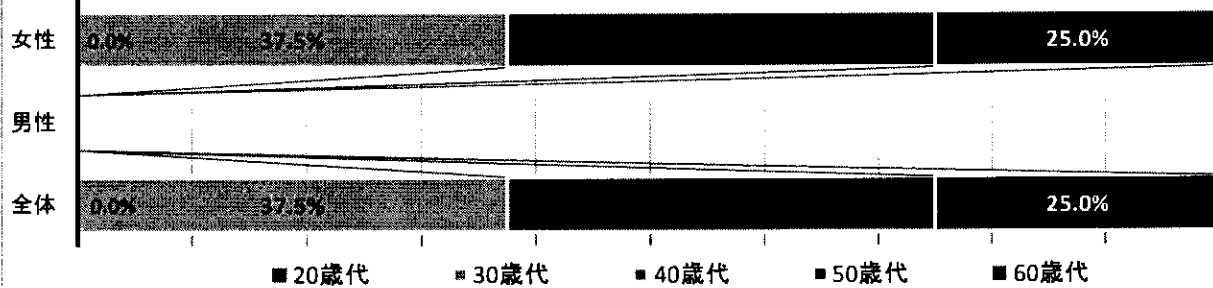




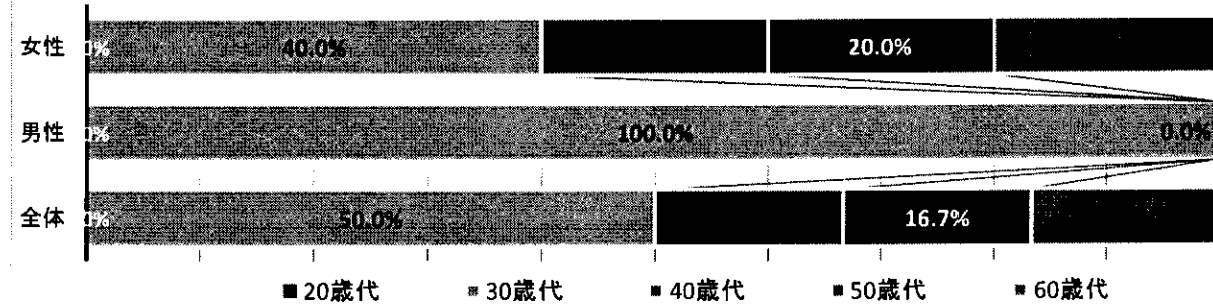
専門知識や経験を活かしたい



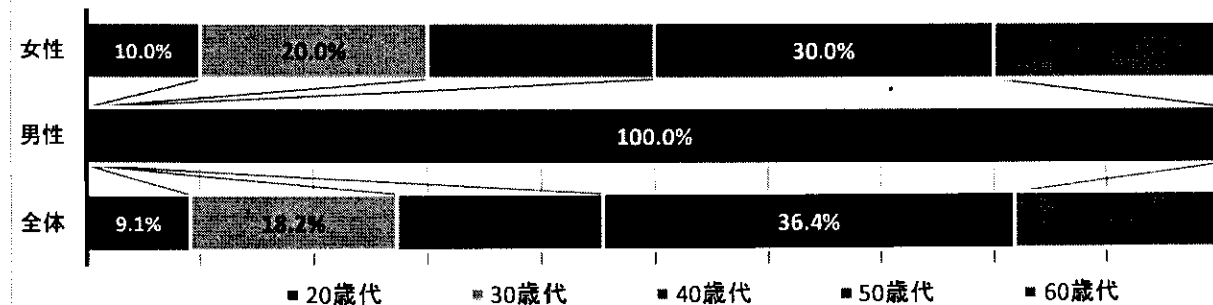
自由に使えるお金を稼ぎたくなった

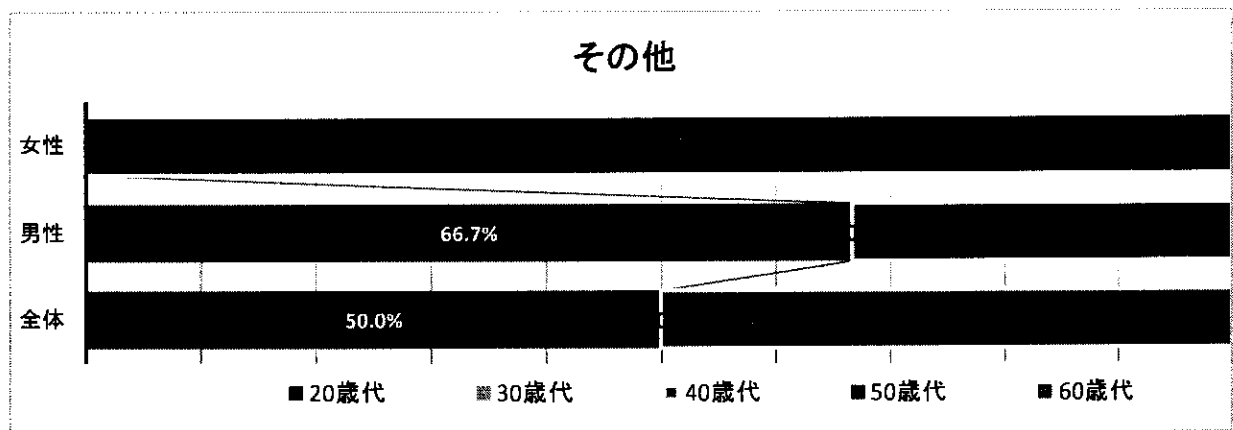


社会から取り残されそうだから



経済的余裕がなくなった





【結果から】

就労意欲がある人の働きたい理由について、全体では「教育費や老後の資金のため」が最も高く、次いで、「経済的余裕がなくなった」であった。

性別では、女性が「教育費や老後の資金のため」の割合が最も高く、男性は「もともと就職するつもりだった」が最も高い割合であった。

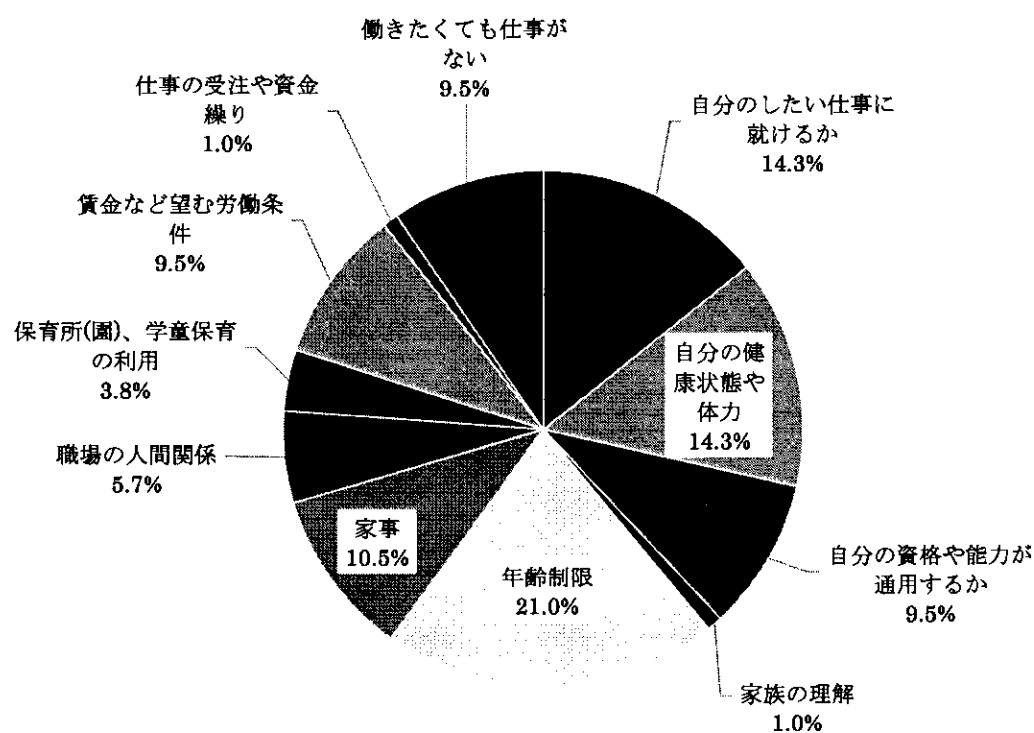
「その他」の意見としては、『元気で楽しく老後を過ごすため』、『働くのが当然だから』、『体調が回復したら』などがあった。

2- (9) 就労意欲のある人の仕事につくときの障害について（複数回答）

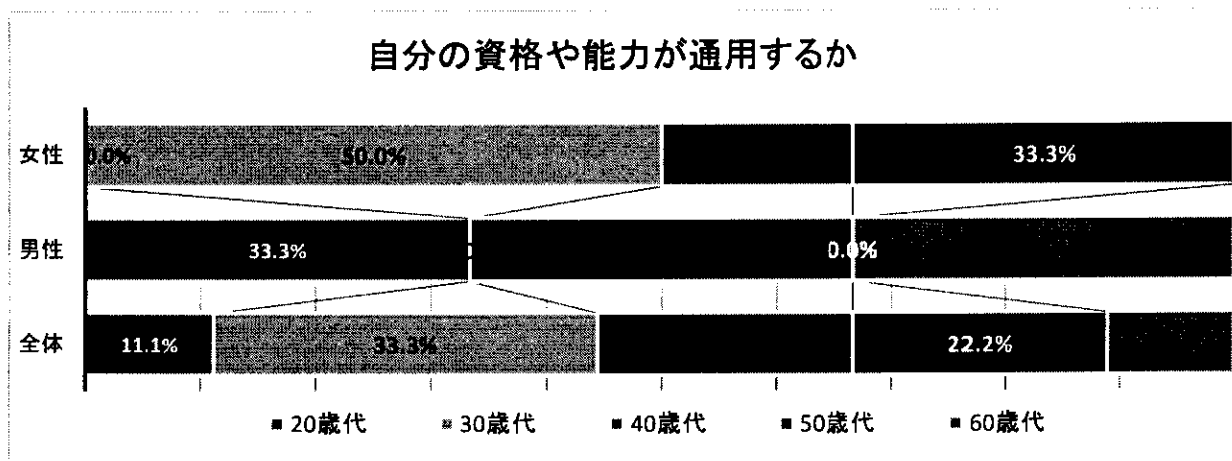
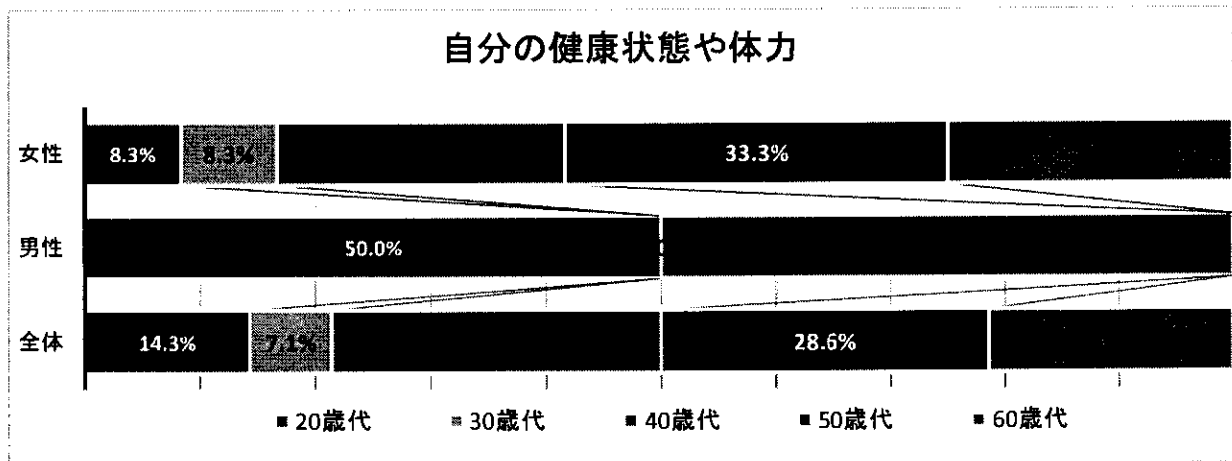
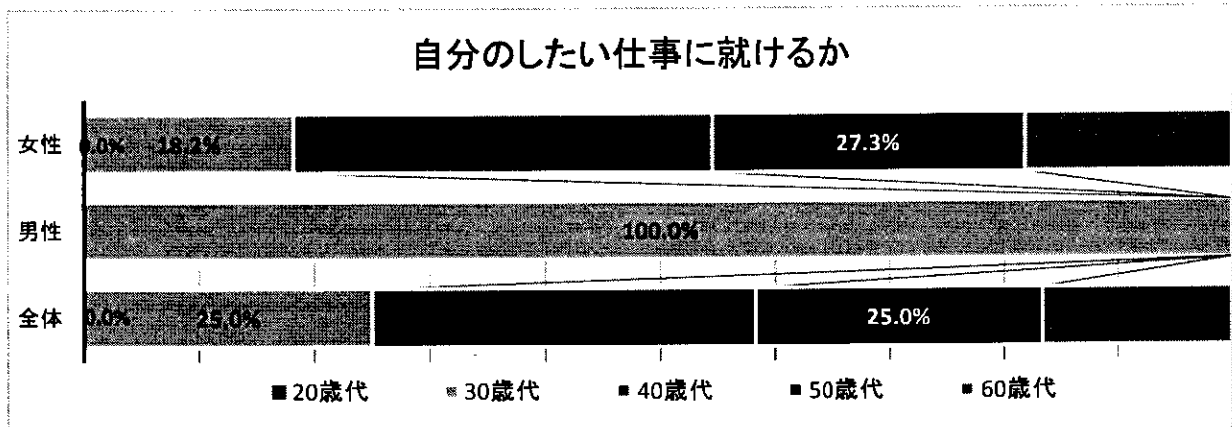
【問 7・b・ハ】 問 7・b で、「①」または「②」に回答された方におききします。あなたが働きたいと思った時、障害となることは何ですか。（○は3つまで）

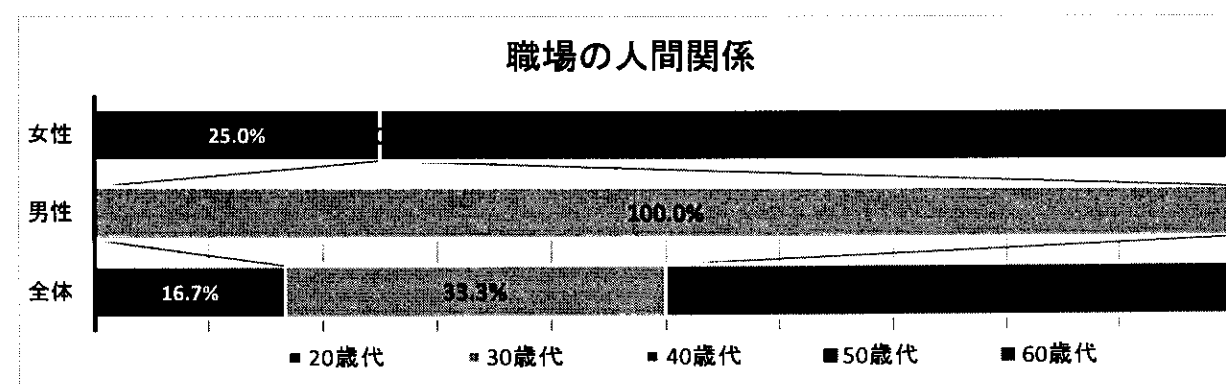
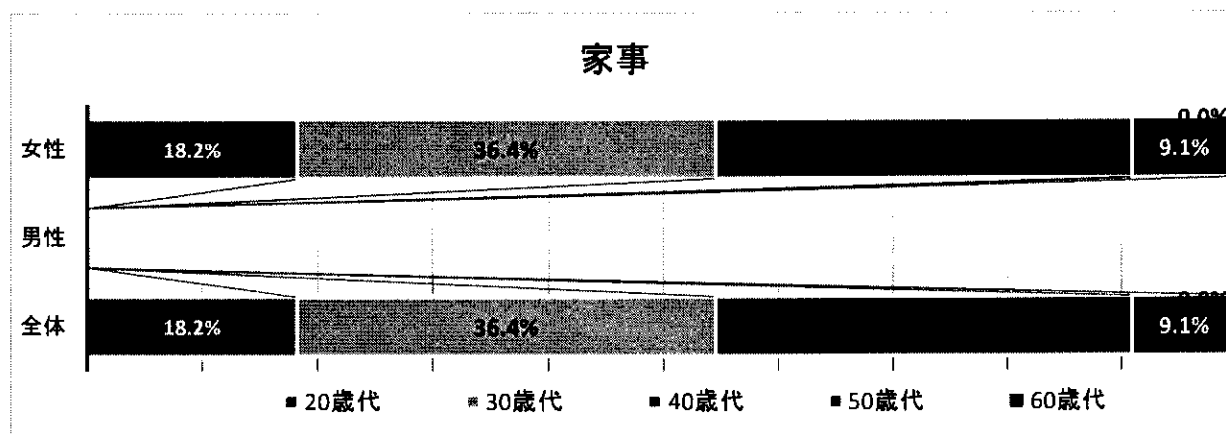
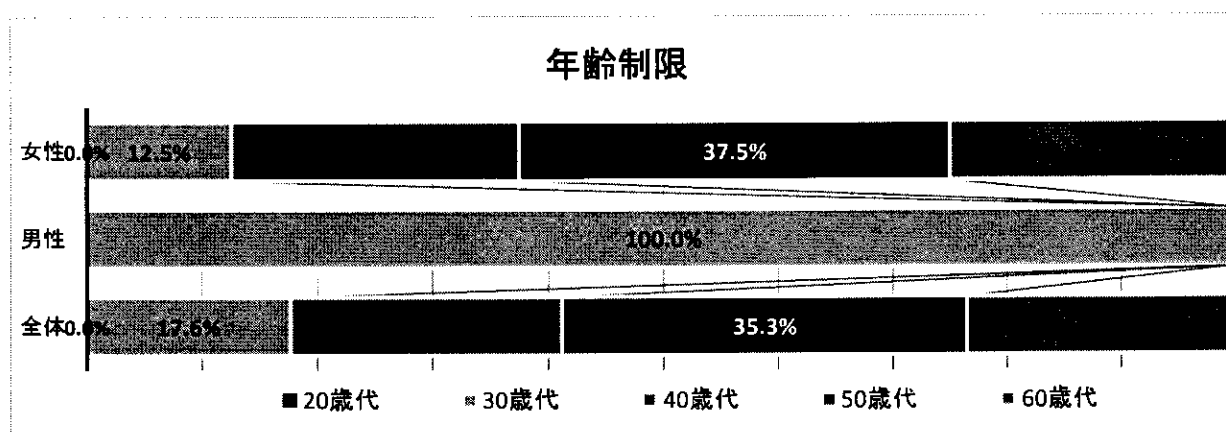
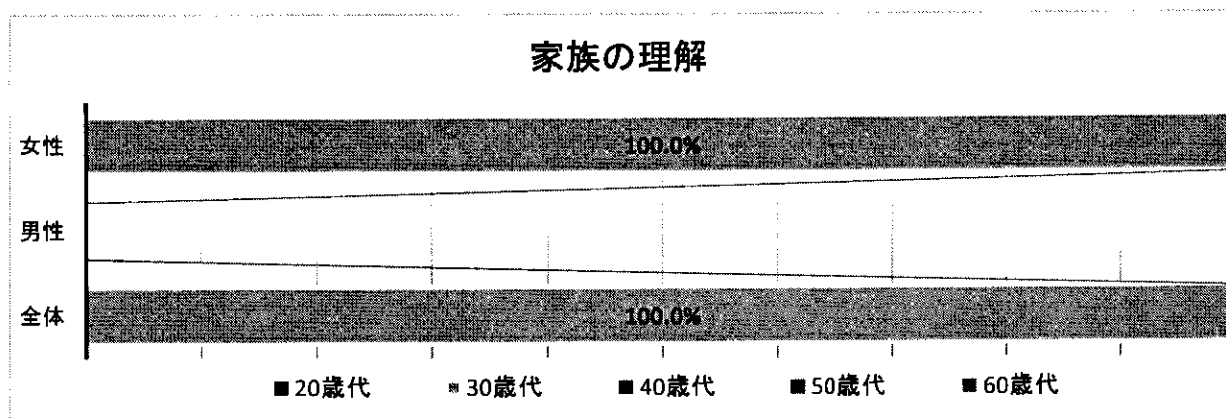
【全体グラフ】

働くことに対する障害 （N=128）

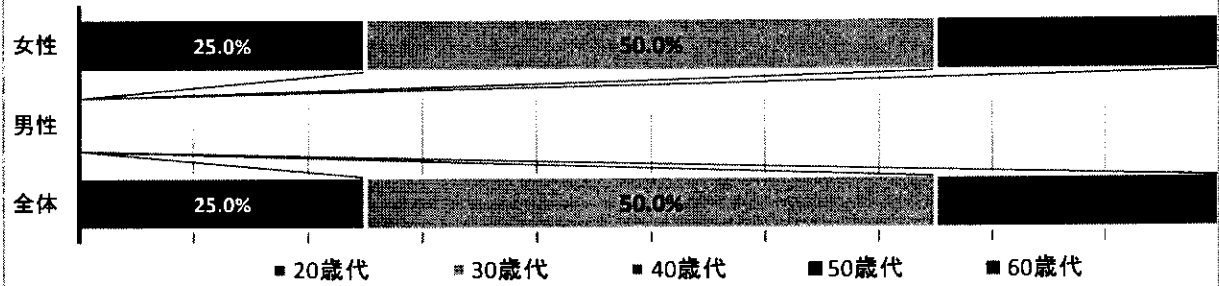


【年代・性年代別グラフ】

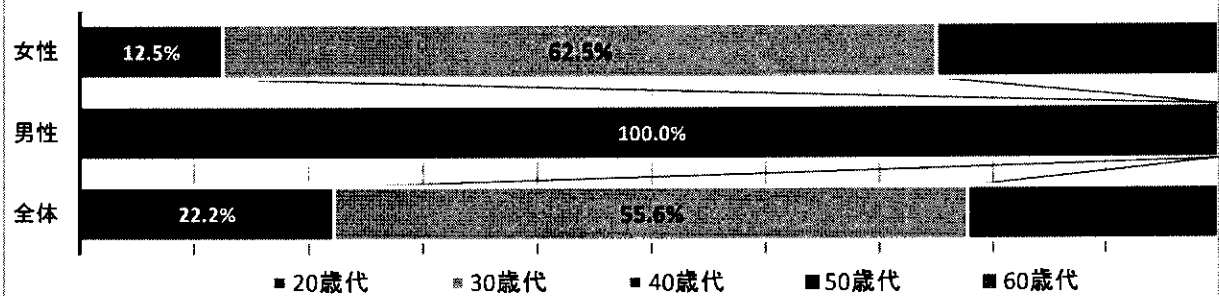




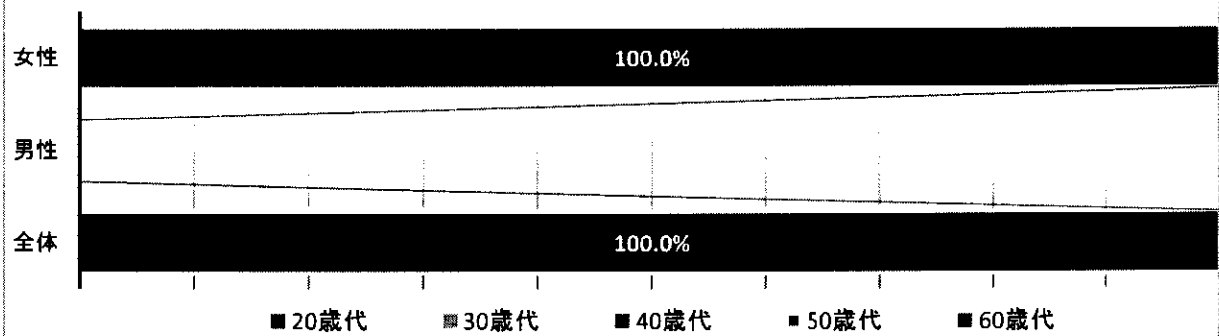
保育所(園)、学童保育の利用



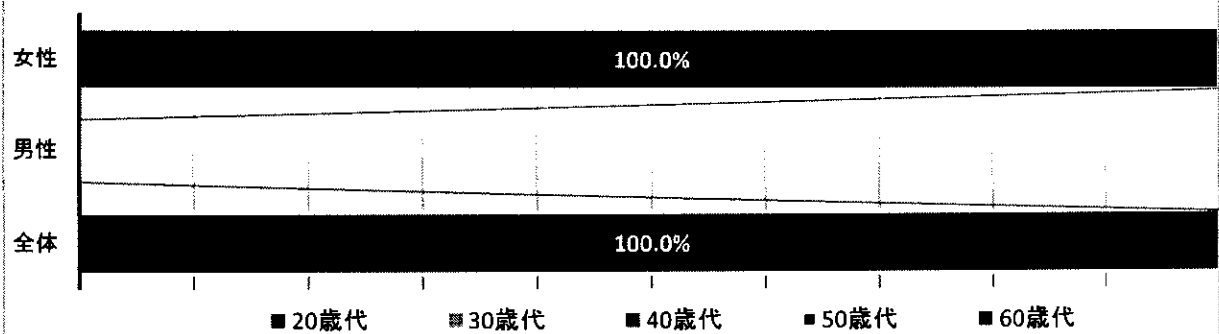
賃金など望む労働条件

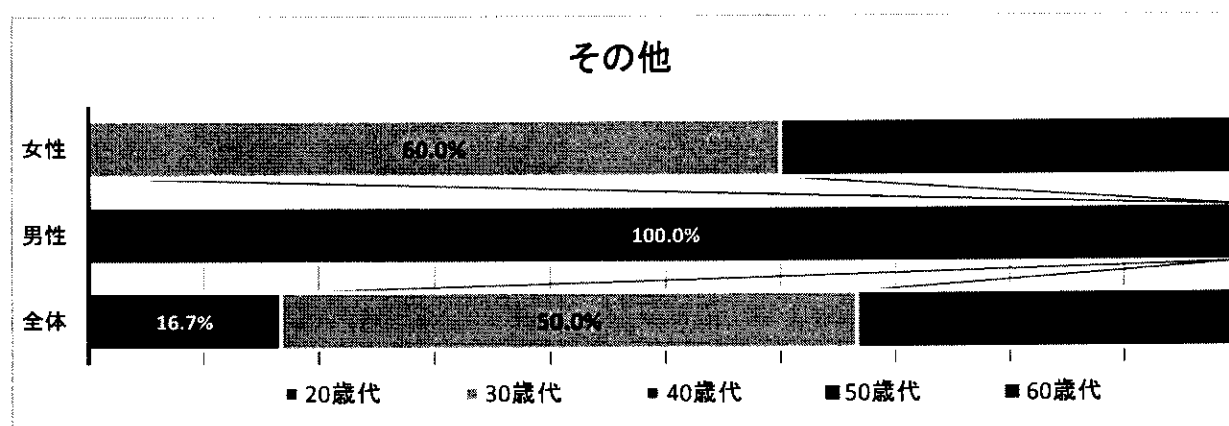


仕事の受注や資金繰り



働きたくても仕事がない





【結果から】

就労意欲のある人の仕事につくときの障害について、全体では「年齢制限」が21.0%と割合が最も高く、次いで、「自分の健康状態や体力」14.3%、「自分のしたい仕事に就けるか」14.3%などが続いた。

性別において、女性は「年齢制限」の割合が最も高く、男性は「自分の資格や能力が通用するか」が最も高い割合となった。

「その他」の意見としては、『家族の介護』、『交通手段がない』、『子どもと向き合う時間がとれるか心配』などがあった。

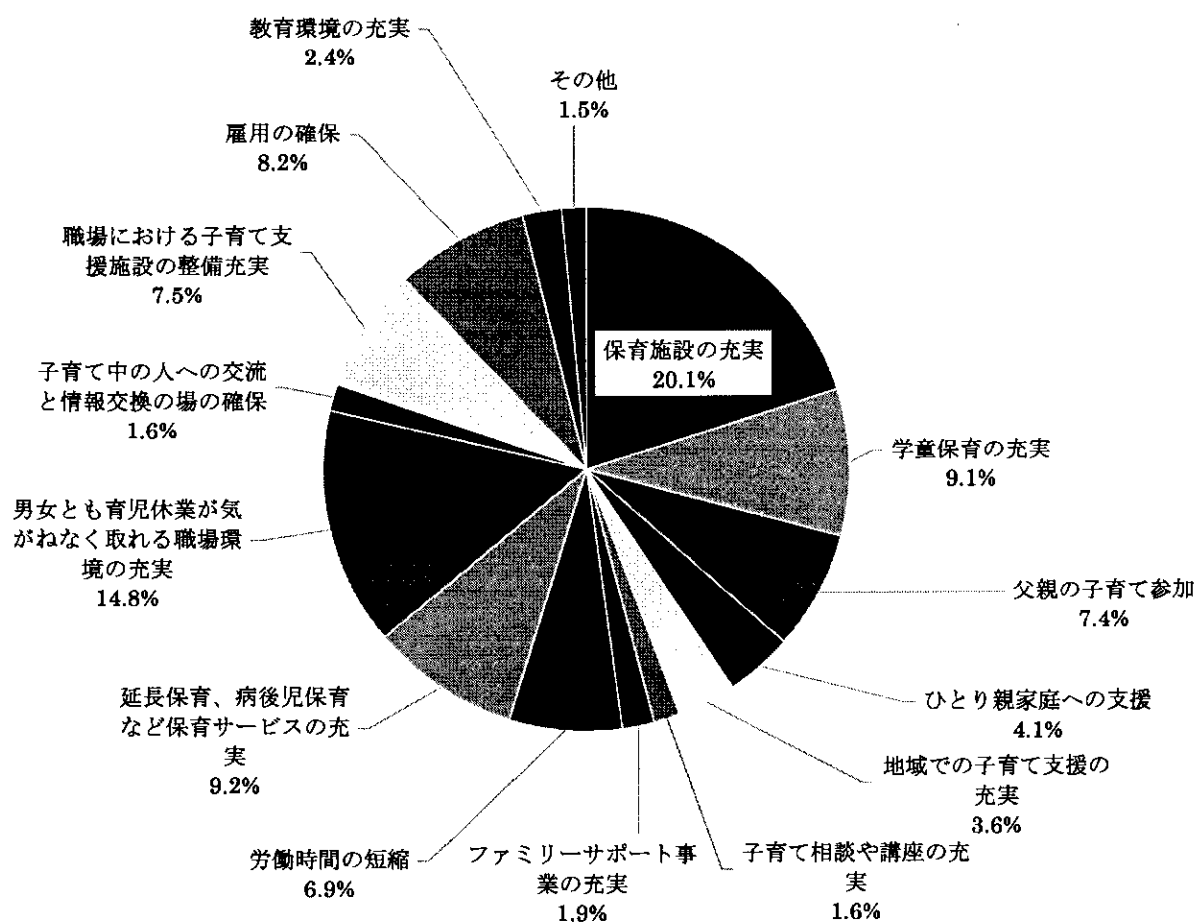
3. 子育て

3- (1) 安心して子どもを産み、育てるために必要なことについて（複数回答）

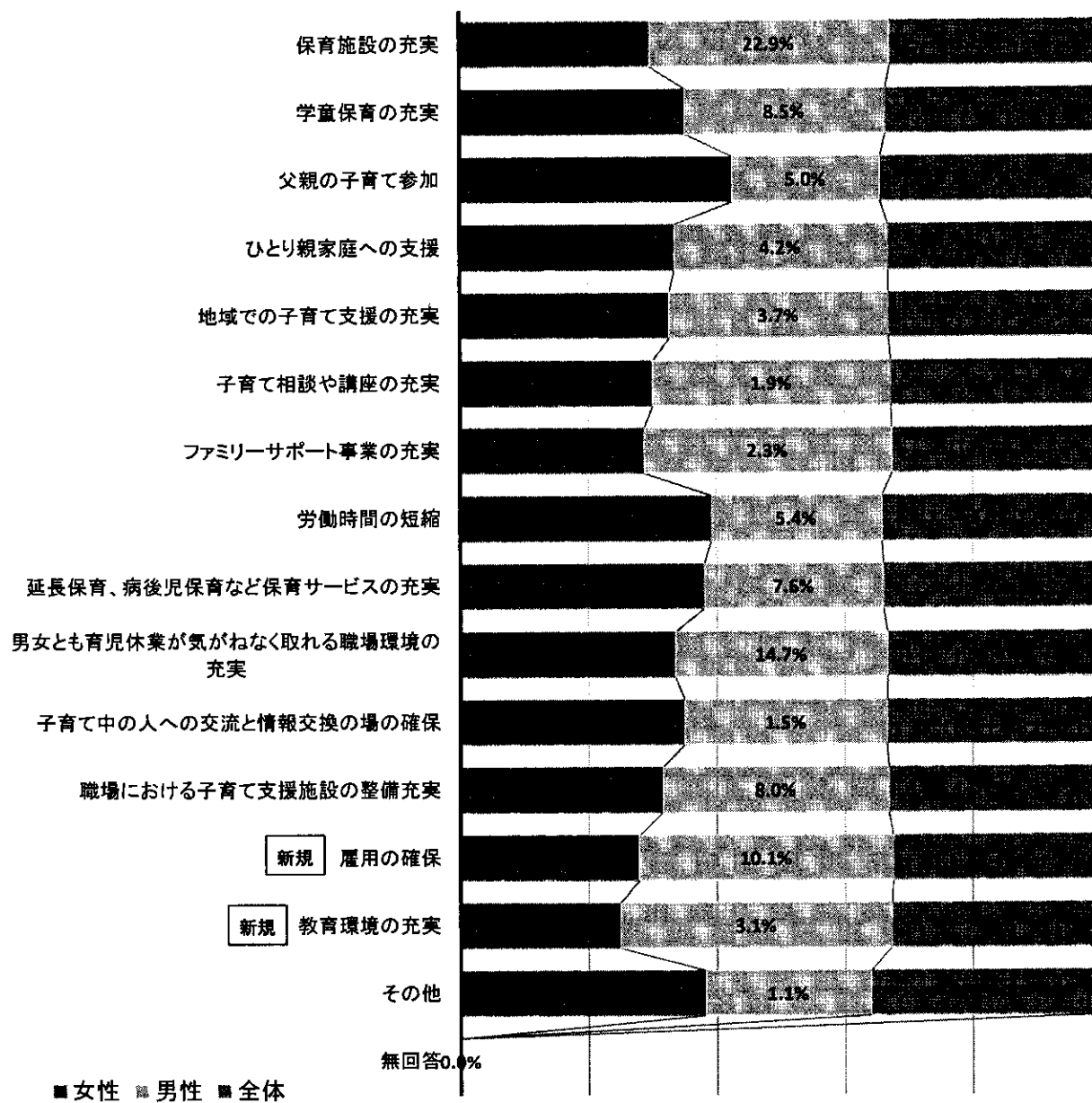
【問8】 安心して子どもを産み育てるためには、あなたはどんなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

【全体・性別グラフ】

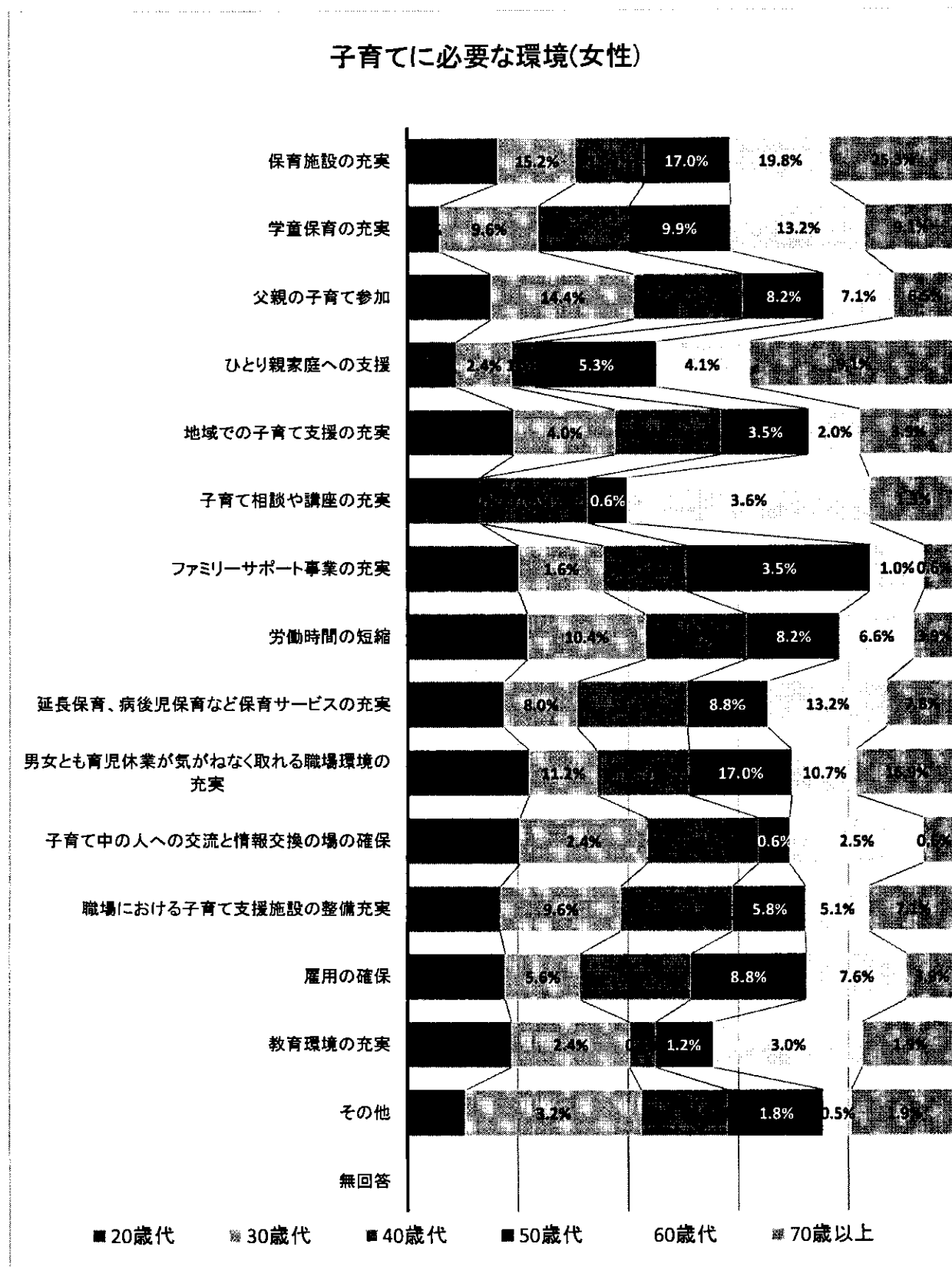
子育てに必要な環境（N=1612）



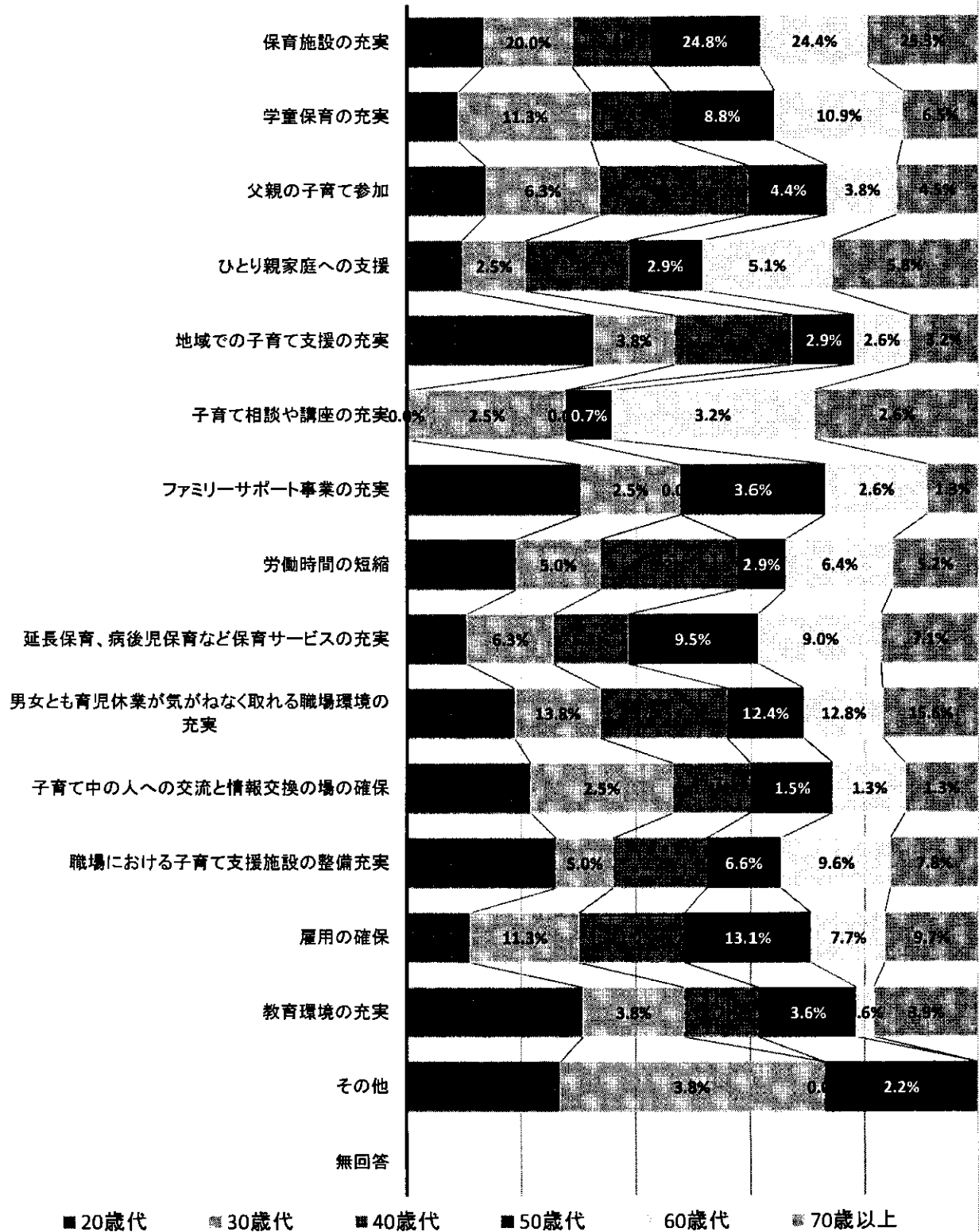
子育てに必要な環境



【性年代別グラフ】



子育てに必要な環境(男性)



【結果として】

安心して子どもを産み、育てるために必要なことについて、全体では、「保育施設の充実」が20.1%で最も高く、次いで、「男女とも育児休業が気がねなく取れる職場環境の充実」14.8%、「学童保育の充実」9.1%、「延長保育、病後児保育など保育サービスの充実」9.2%であった。

性別でみると、女性は「保育施設の充実」が18.1%でもっとも高く、次いで、「男女とも育児休業が気がねなく取れる職場環境の充実」14.9%、「延長保育、病後児保育など保育サービスの充実」10.3%であった。

男性は、「保育施設の充実」が22.9%で最も高く、次いで、「男女とも育児休業が気がねなく取れる職場環境の充実」14.7%、今回新規項目である「雇用の確保」が10.1%と上位を占めた。

性年代別で全体上位の項目をみると、「保育施設の充実」においては、70歳以上女性で25.3%、50歳代男性で24.8%と最も高かった。「男女とも育児休業が気がねなく取れる職場環境の充実」においては、20歳代女性20.0%、40歳代男性20.5%と最も高かった。「学童保育の充実」においては、60歳代女性13.2%、60歳代男性10.9%と最も高かった。「延長保育、病後児保育など保育サービスの充実」においては、60歳代女性で13.2%、50歳代男性で9.5%と最も高い結果となった。

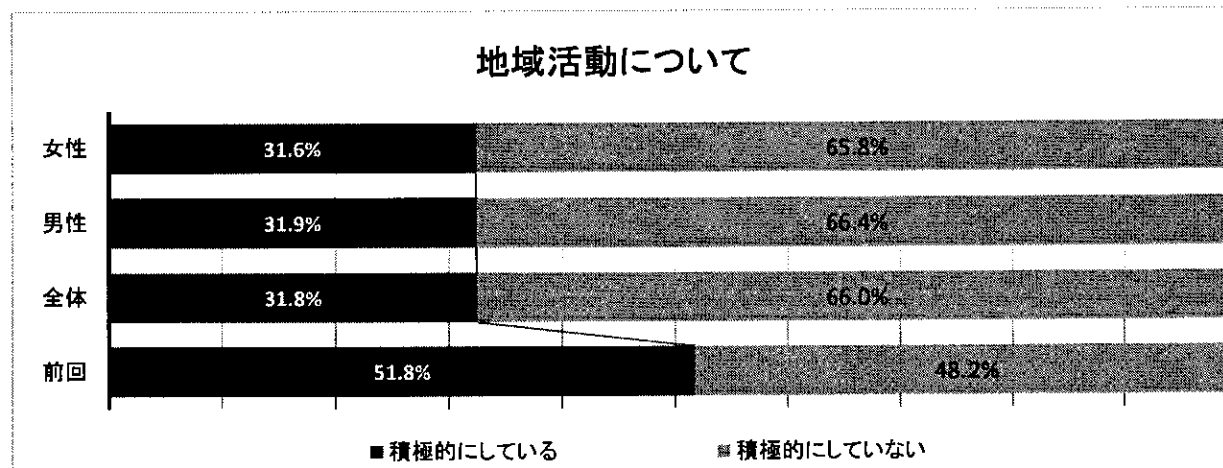
「その他」の意見としては、『（父親、夫の）安定した収入及び賃金の底上げ』、『日本全体の経済成長』、『産婦人科の充実』、『家族間での協力体制』、『保育施設の無料化』などがあった。

4. 地域活動等

4- (1) 積極的な地域活動の実施状況について

【問 9】 現在、あなたは積極的に地域活動をしていますか。

【全体・性別グラフ】



【結果から】

積極的な地域活動の実施状況について、全体で、「積極的にしている」が 31.8%であり、「積極的にしていない」が 66.0%と半数以上を占めた。

性別でみても、全体と類似した割合であった。

年代別で「積極的にしている」の割合をみると、40 歳代 40.0%、60 歳代 38.3%、70 歳以上 37.8%と上の年代での割合が高く、若い世代の 30 歳代は 16.7%、20 歳代は僅か 6.1%と最も低かった。

前回調査と比較すると、「積極的にしていない」の割合は、全体で 17.8 ポイント高くなった。
年代別においても、全年代で割合は高くなった。

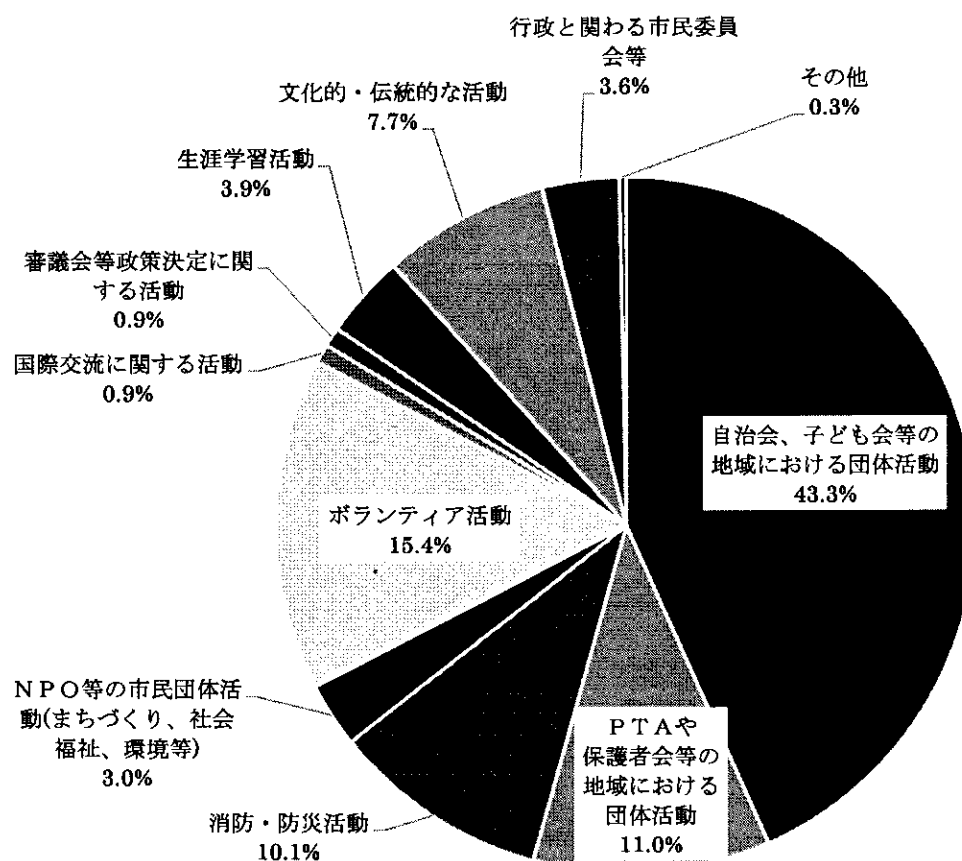
4- (2) 積極的に実施している活動内容について（複数回答）

新規調査

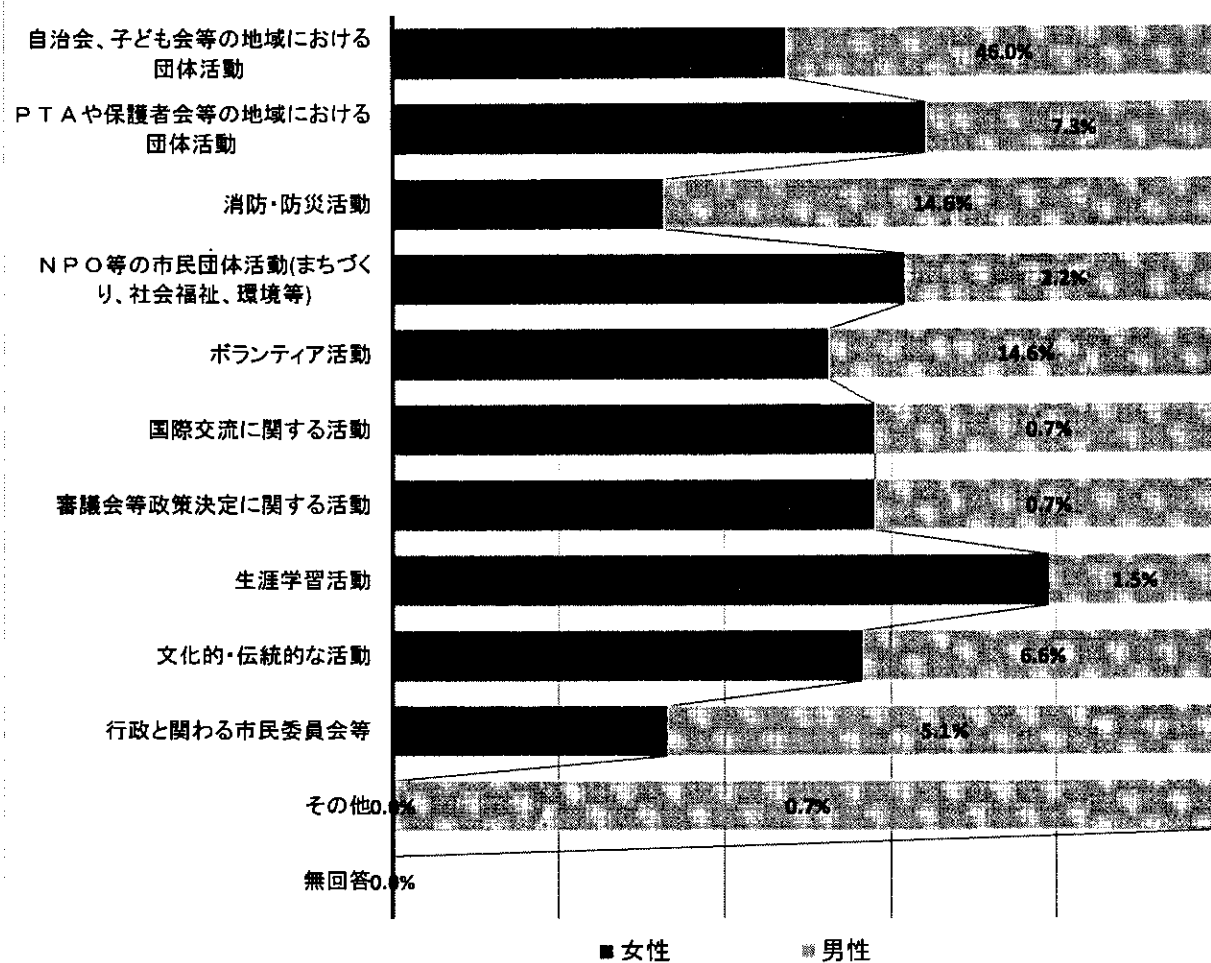
【問 9-a】 現在、あなたが積極的にしている活動を選んでください。（○はいくつでも）

【全体・性別グラフ】

積極的にしている地域活動（N=337）



現在、あなたが積極的にしている活動



【結果から】

積極的に実施している活動内容について、全体では、「自治会、子ども会等の地域における団体活動」が 43. 3%で最も高く、次いで、「ボランティア活動」が 15. 4%で高かった。

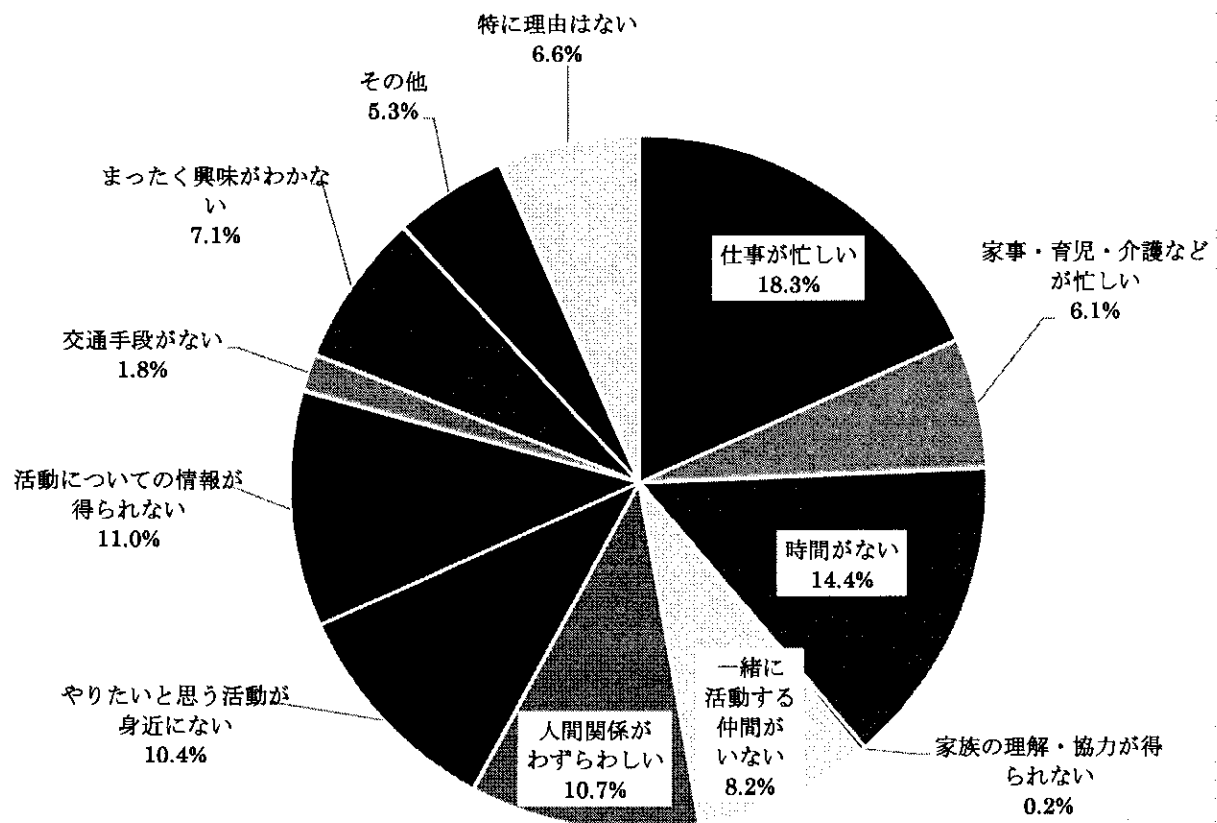
性別でみると、女性は「自治会、子ども会等の地域における団体活動」が 41. 4%で最も高く、男性も同様に「自治会、子ども会等の地域における団体活動」が 46. 0%と高かった。

4- (3) 地域活動を積極的にしない理由について（複数回答）

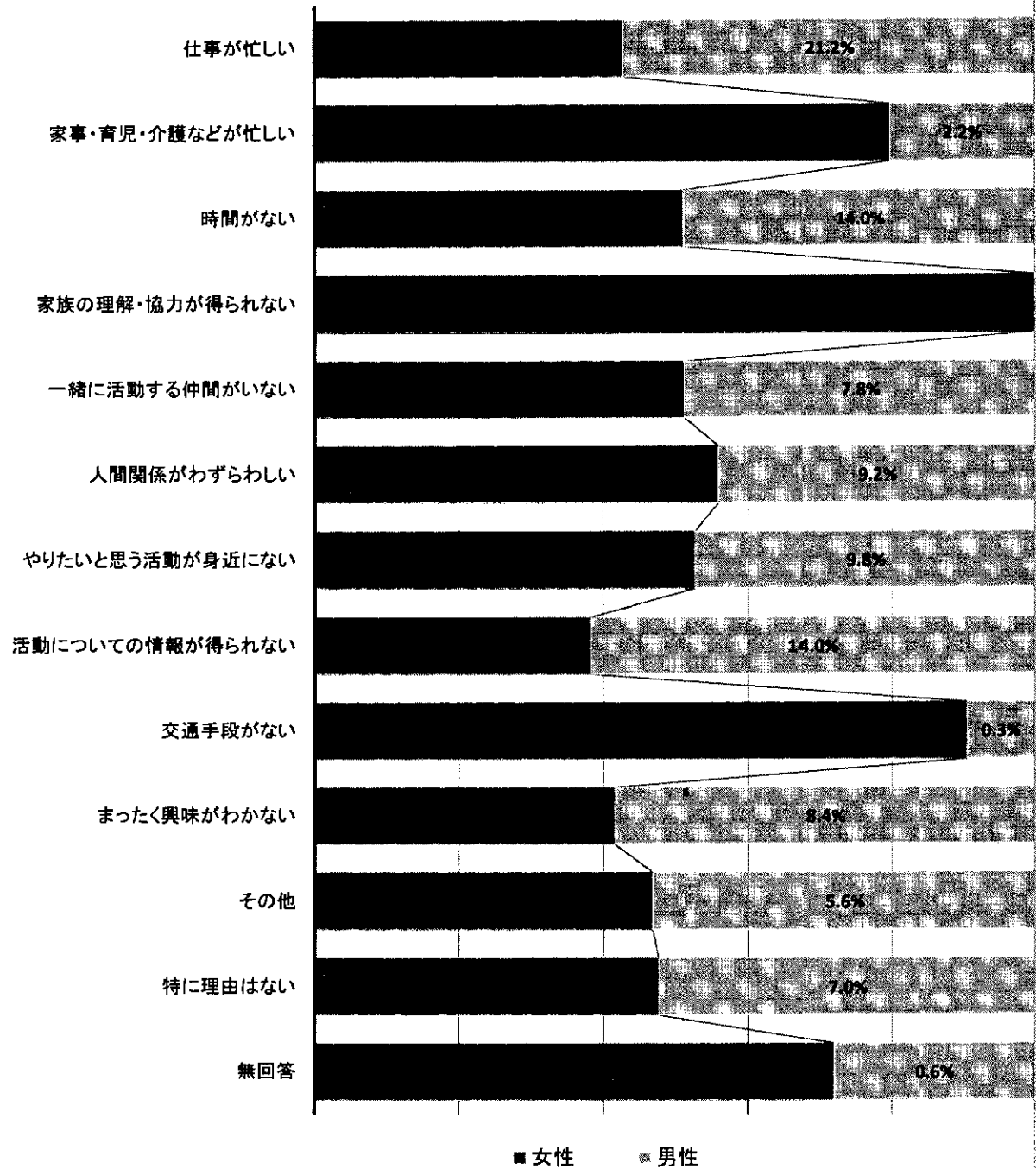
【問 9-b】 地域活動を積極的にしない理由は何ですか。（○はいくつでも）

【全体・性別グラフ】

地域活動に積極的にしない理由（全体）【N=863】

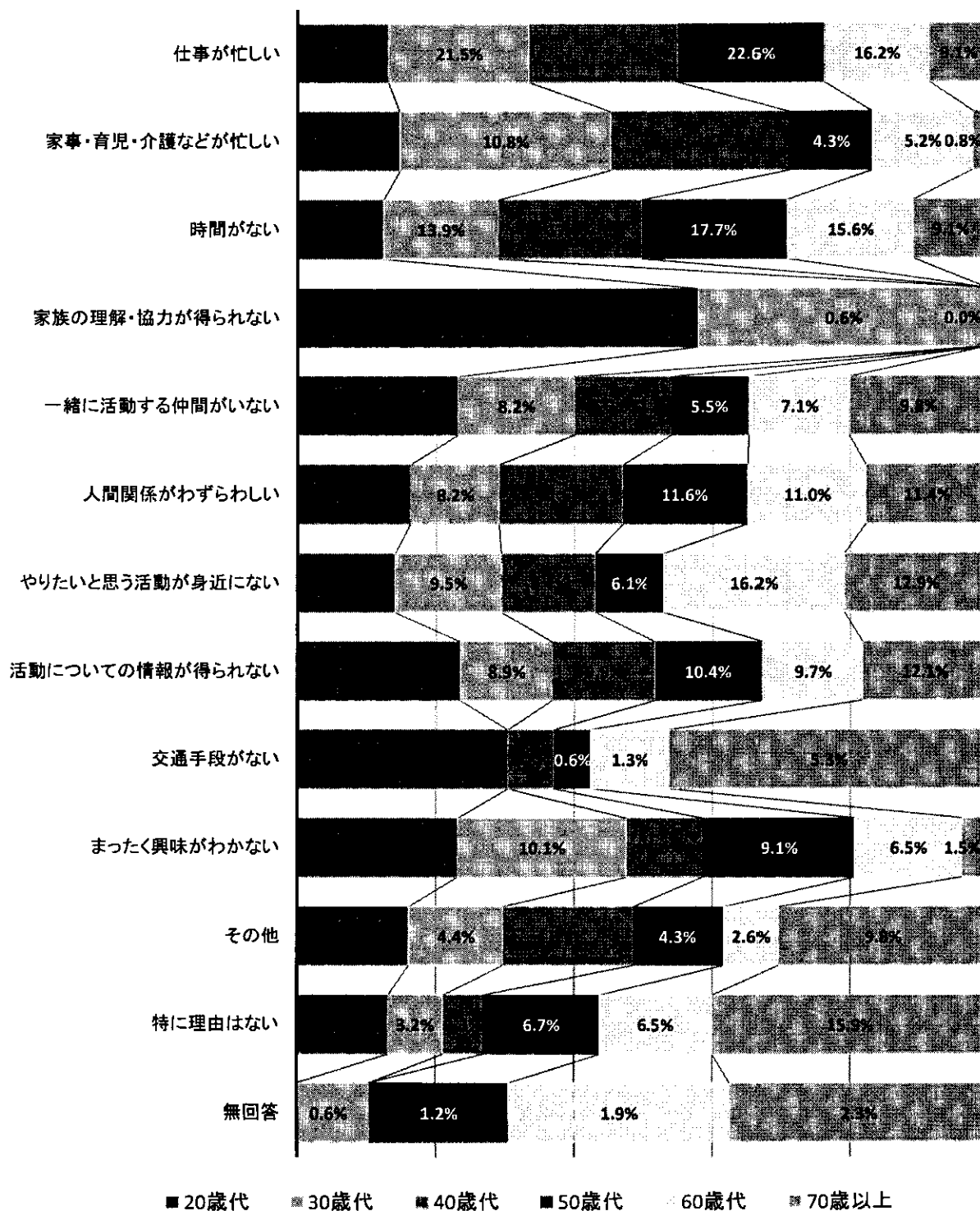


地域活動を積極的にしない理由(性別)



【年代別グラフ】

地域活動を積極的にしない理由(年代別)



【結果から】

地域活動を積極的にしない理由について、全体では、「仕事が忙しい」が18.3%で最も高く、次いで、「時間がない」14.4%、「活動についての情報が得られない」11.0%、「人間関係がわずらわしい」10.7%、

「その他」の回答として、『高齢や病気の為』、『親・家族がしているから』、『転居・転勤してきたばかりで地域の事がまだよく分からない』などがあった。

性別でみると、女性は「仕事が忙しい」が15.8%で最も高く、次いで「時間がない」14.5%であった。男性も女性と同様に「仕事が忙しい」が21.2%で最も高く、次いで「時間がない」14.0%、「活動についての情報が得られない」14.0%であった。

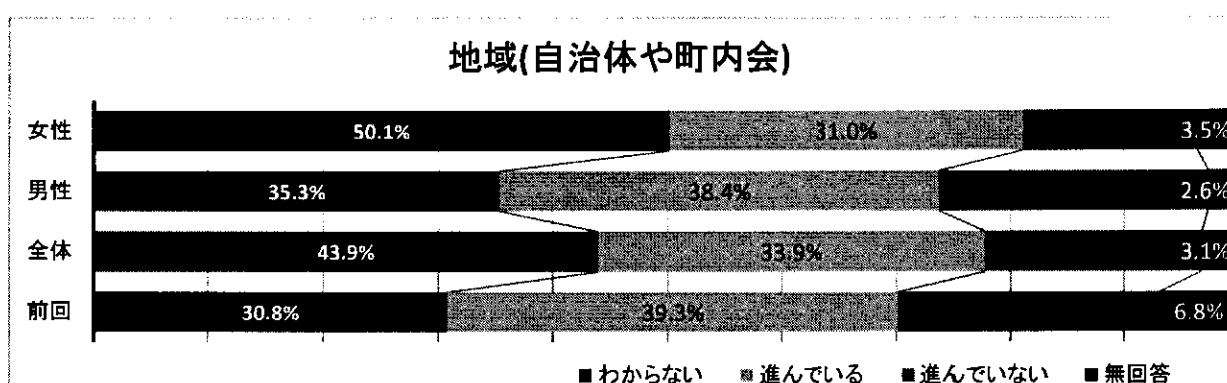
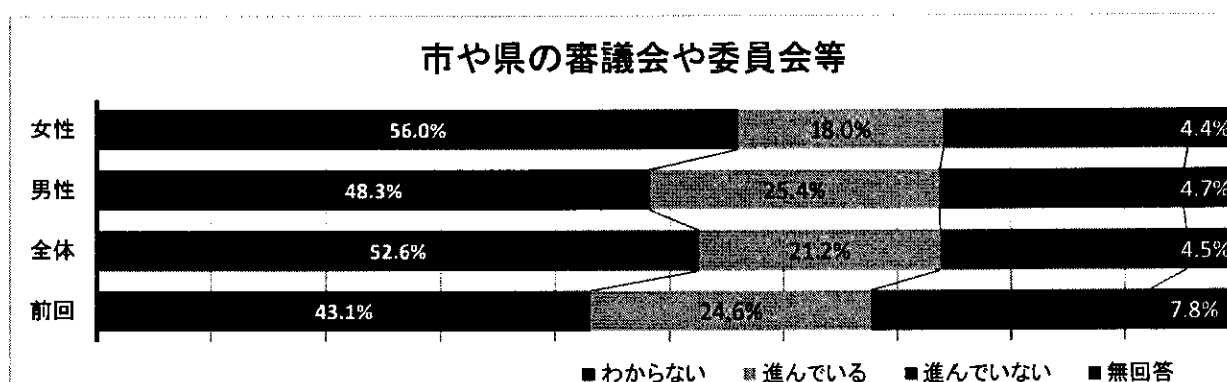
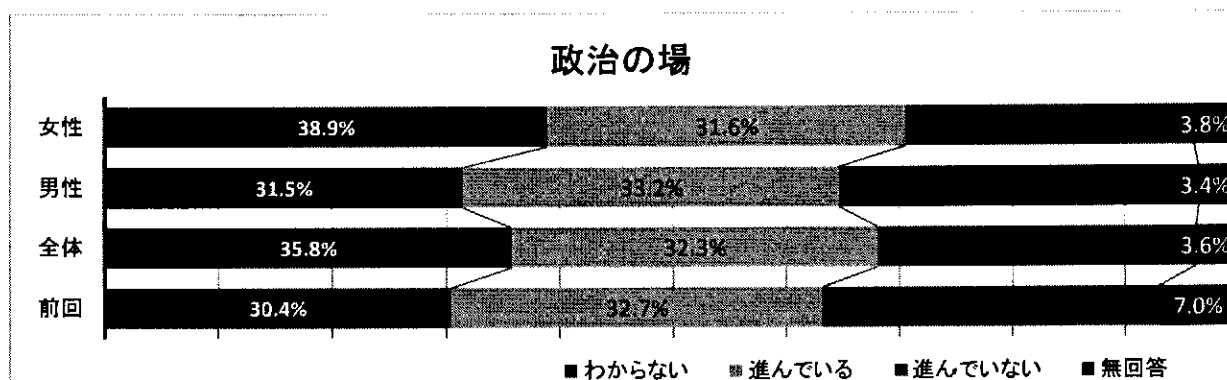
年代別では、「仕事が忙しい」が40歳代で22.9%、「時間がない」が50歳代で17.7%で最も高かった。

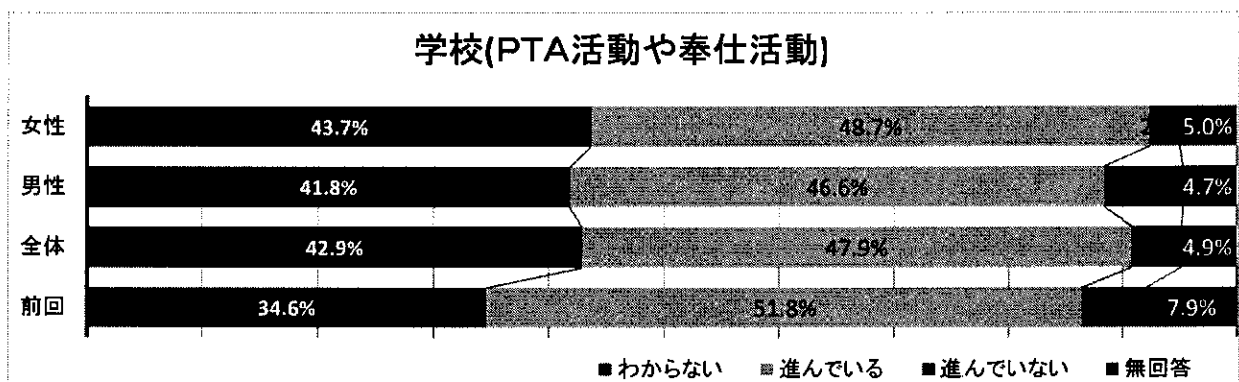
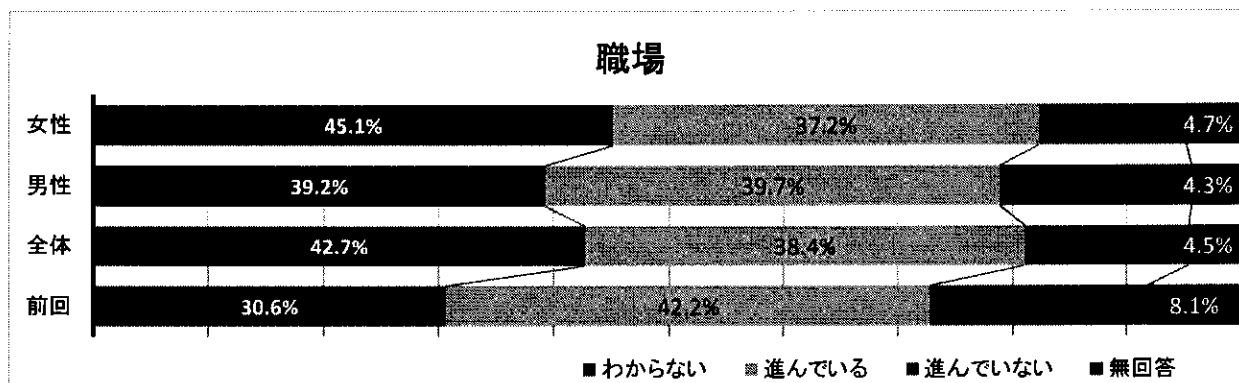
5. 政策・方針決定の場への参画

5- (1) 社会的な場所での女性参画推進について

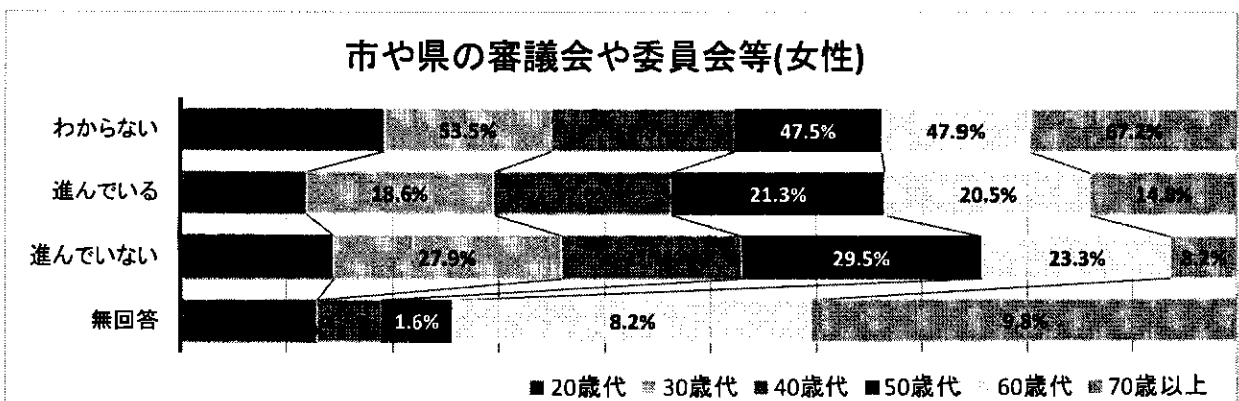
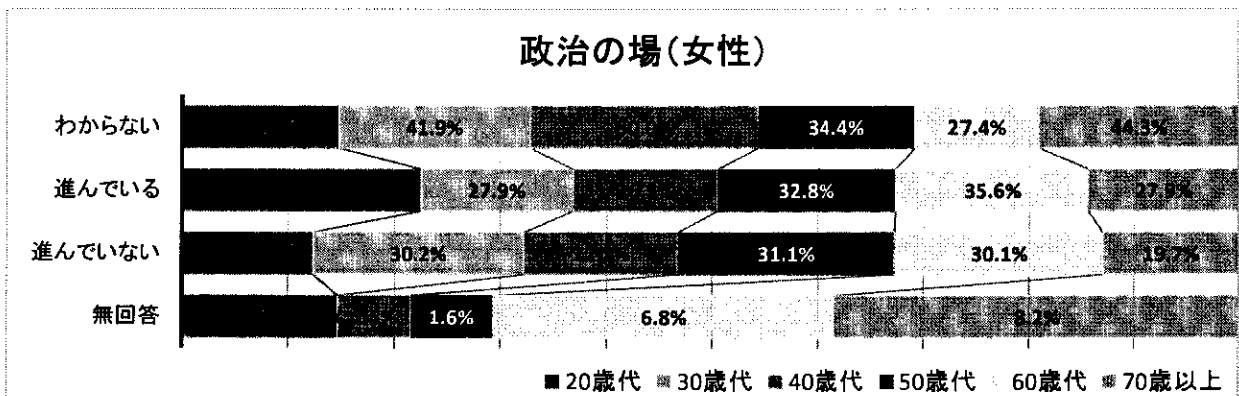
【問 10】 次のそれぞれの場で女性の参画が進んでいるかどうかお答えください。（○はそれぞれ1つ）

【全体（比較）・性別グラフ】

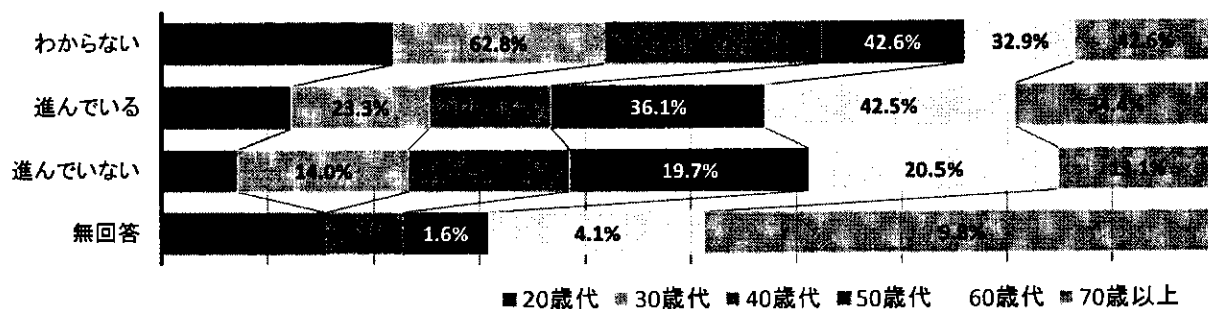




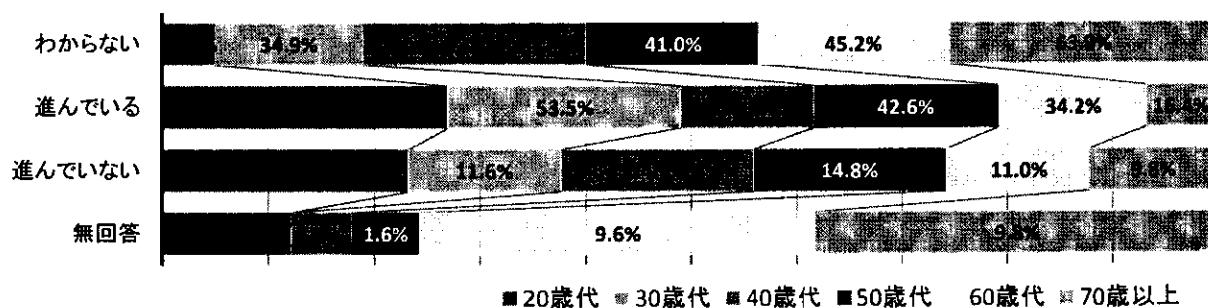
【女性年代別グラフ】



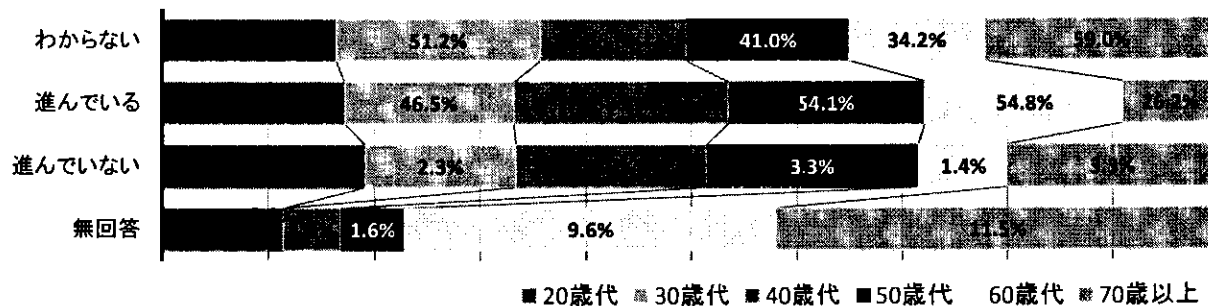
地域(自治体や町内会)(女性)



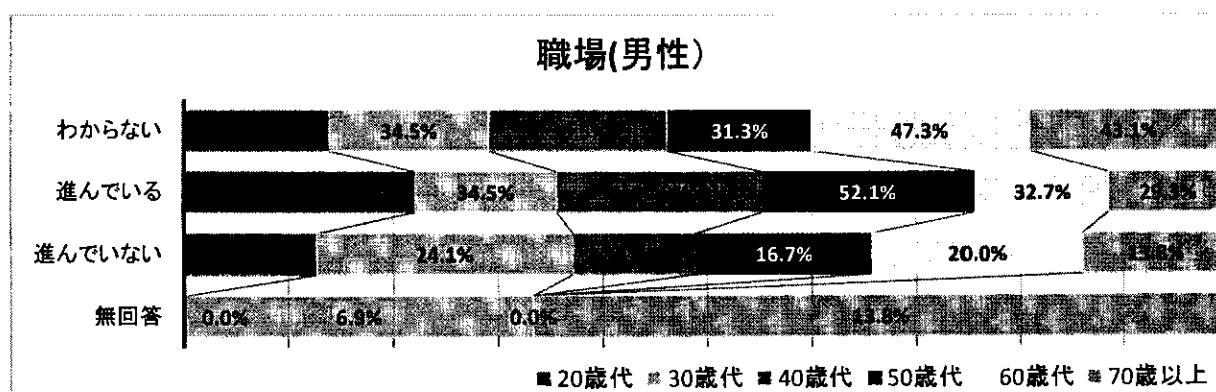
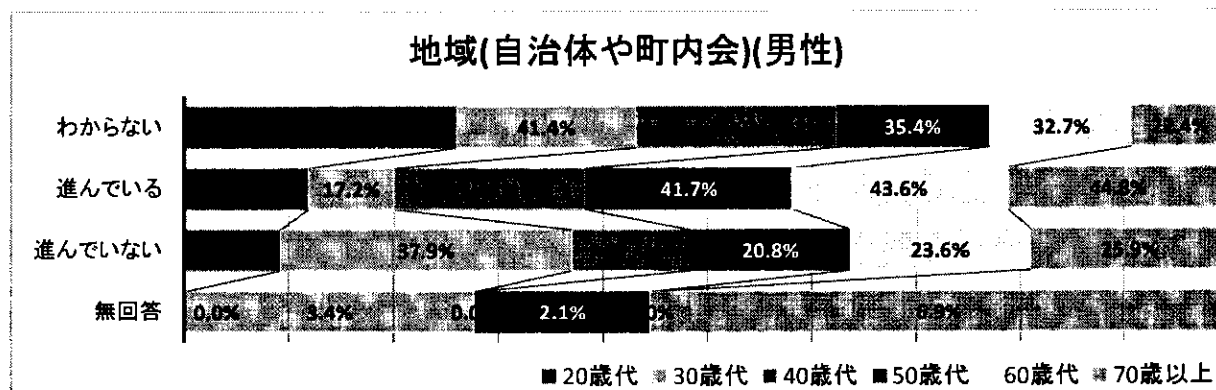
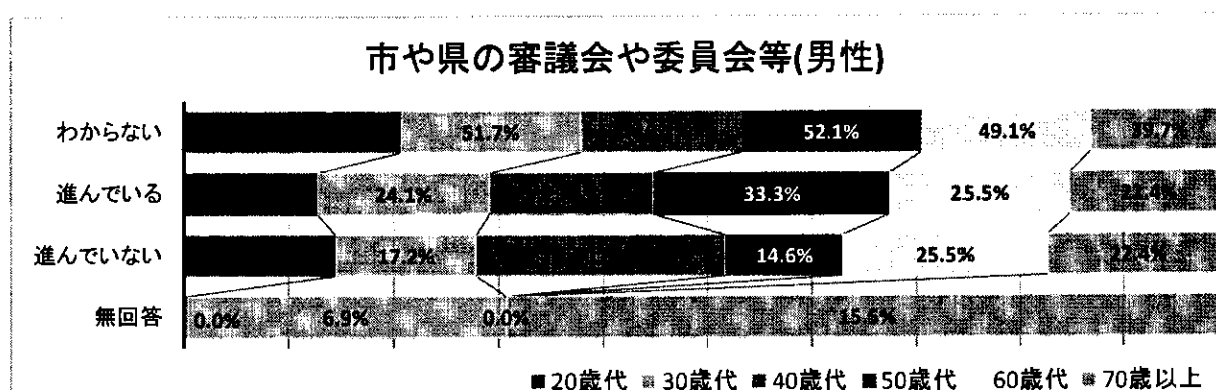
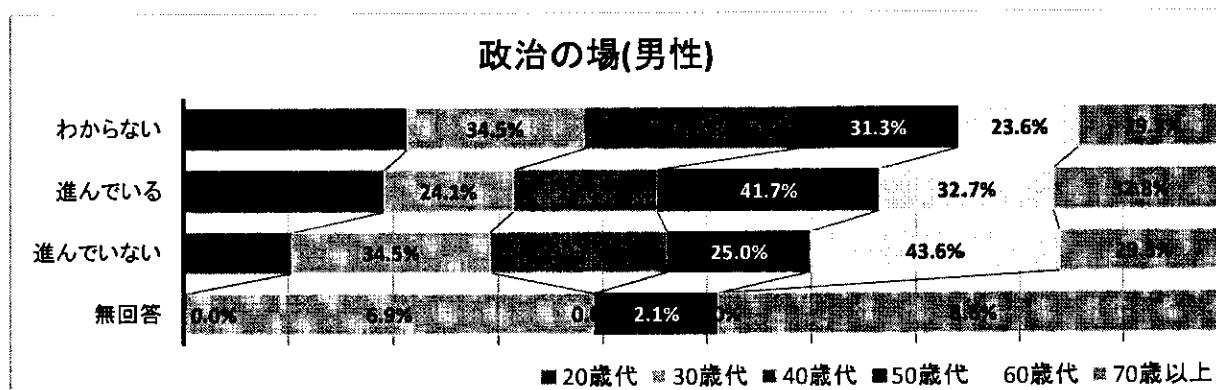
職場(女性)

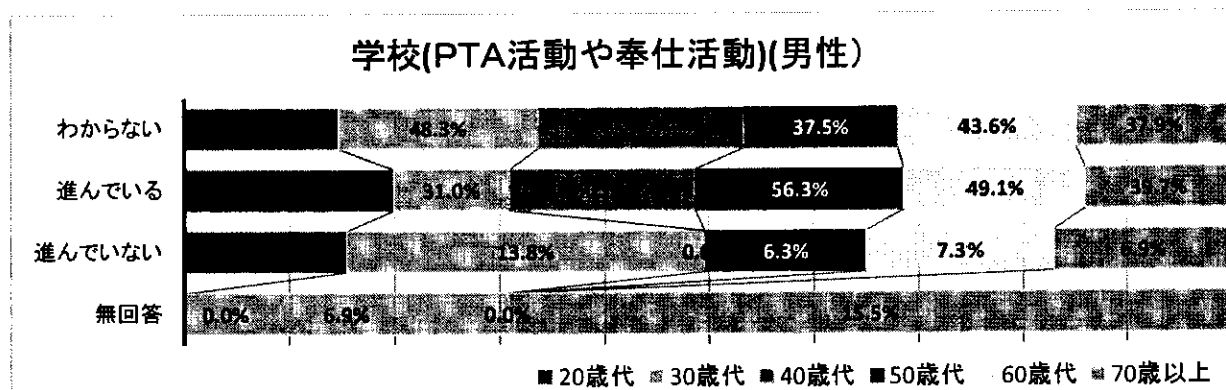


学校(PTA活動や奉仕活動)(女性)



【男性年代別グラフ】





【結果から】

社会的な場所での女性参画推進について、全体で、『進んでいる』と考えている回答者の割合は、「政治の場」32.3%、「市や県の新規会や委員会等」21.2%、「地域（自治体や町内会）」33.9%、「職場」38.4%、「学校（PTA活動や奉仕活動）」47.9%であった。

性別では、両性共に「学校（PTA活動や奉仕活動）」において、『進んでいる』と考えている割合が女性48.7%、男性46.6%と最も高かった。

年代別で、『進んでいる』と考えている回答者の割合は、各項目において、「政治の場」は20歳代の42.9%、「市や県の新規会や委員会等」は50歳代の26.6%、「地域（自治体や町内会）」は60歳代の43.0%、「職場」は20歳代の63.3%、「学校（PTA活動や奉仕活動）」は40歳代の56.8%であった。

性年代別で、『進んでいる』『進んでいない』の各項目において割合が高いものについては、「政治の場」は20歳代女性の『進んでいる』43.8%、60歳代男性の『進んでいない』43.6%、「市や県の審議会や委員会等」は50歳代男性の『進んでいる』33.3%、40歳代男性『進んでいない』30.8%、「地域（自治体や町内会）」は、70歳以上男性の『進んでいる』44.8%、30歳代男性の『進んでいない』37.9%「職場」は、20歳代女性『進んでいる』65.6%、30歳代男性『進んでいない』24.1%、

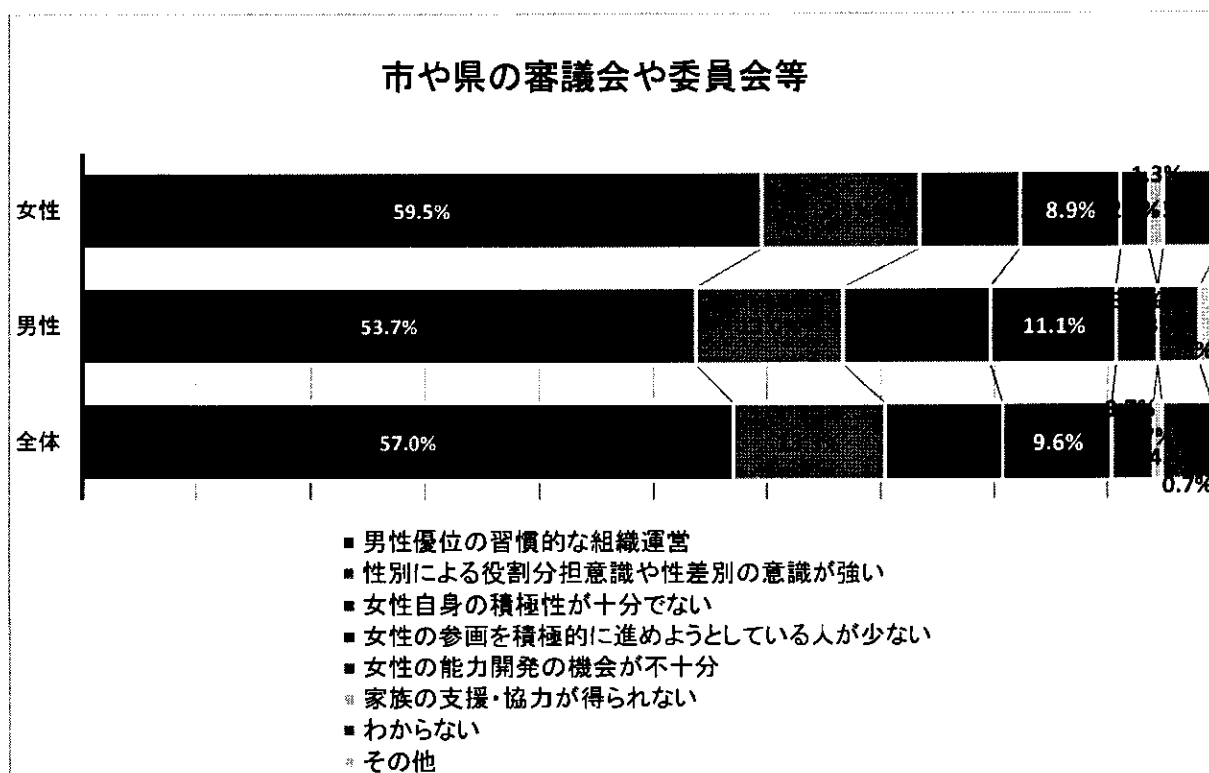
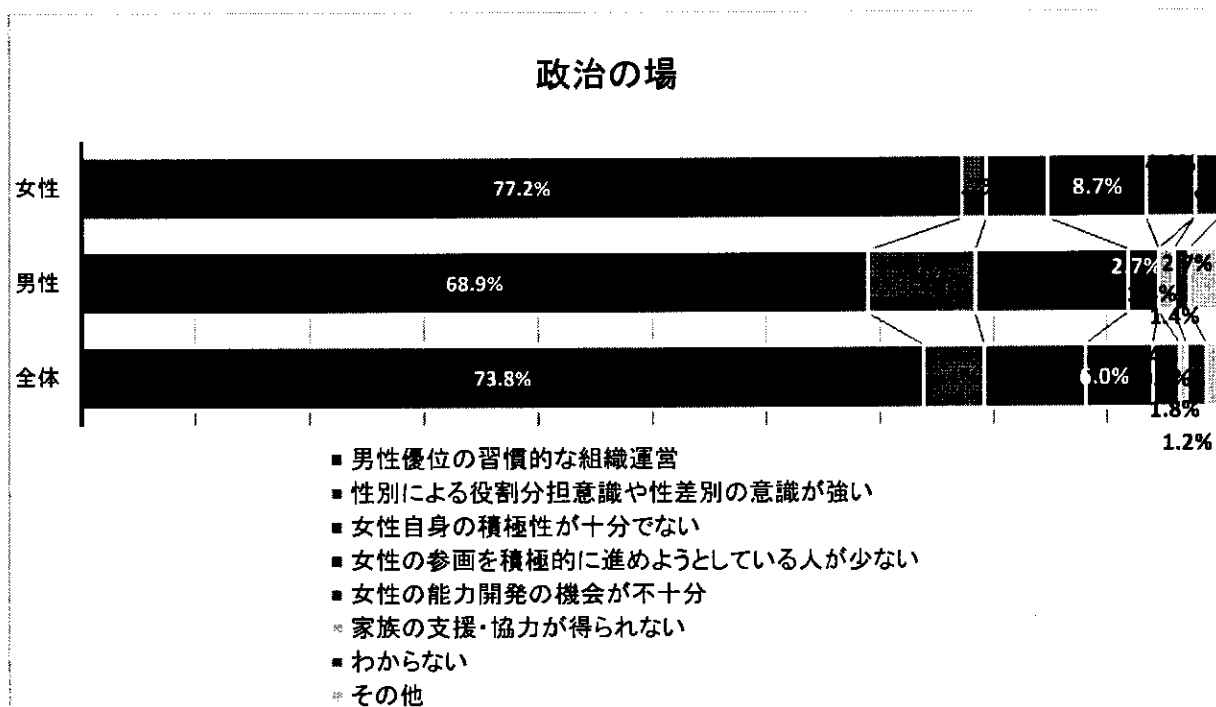
「学校（PTA活動や奉仕活動）」は、40歳代女性『進んでいる』58.8%、30歳代男性『進んでいない』13.8%であった。

前回調査と比較すると、全体では、各項目においての『進んでいる』と考えている回答者の割合が全体的に低くなっている。それとは逆に『わからない』の割合は全項目において、高くなっている傾向にある。

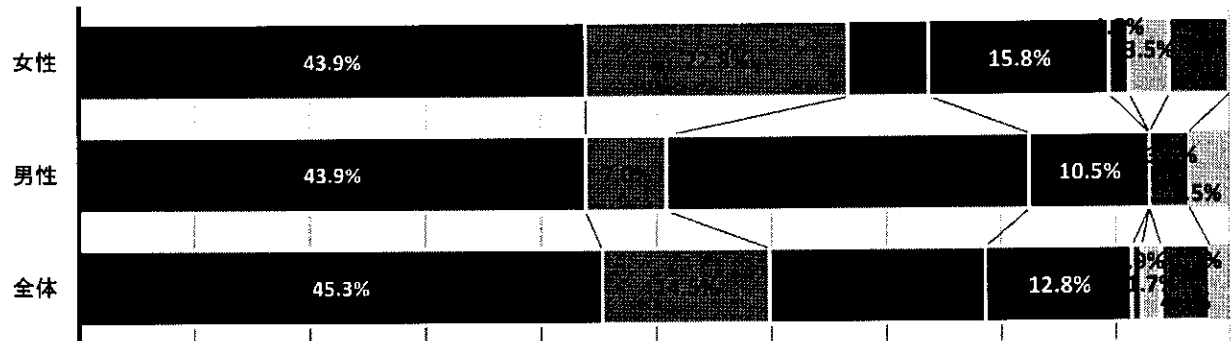
5- (2) 女性の参画が進んでいない理由について

【問 10-a】 問 10 でひとつでも「3 進んでいない」に回答された方におききます。その主な理由は何ですか。下記「理由欄」(イ～チ)より、その理由を選んで記入して下さい。

【全体・性別グラフ】



地域(自治体や町内会)

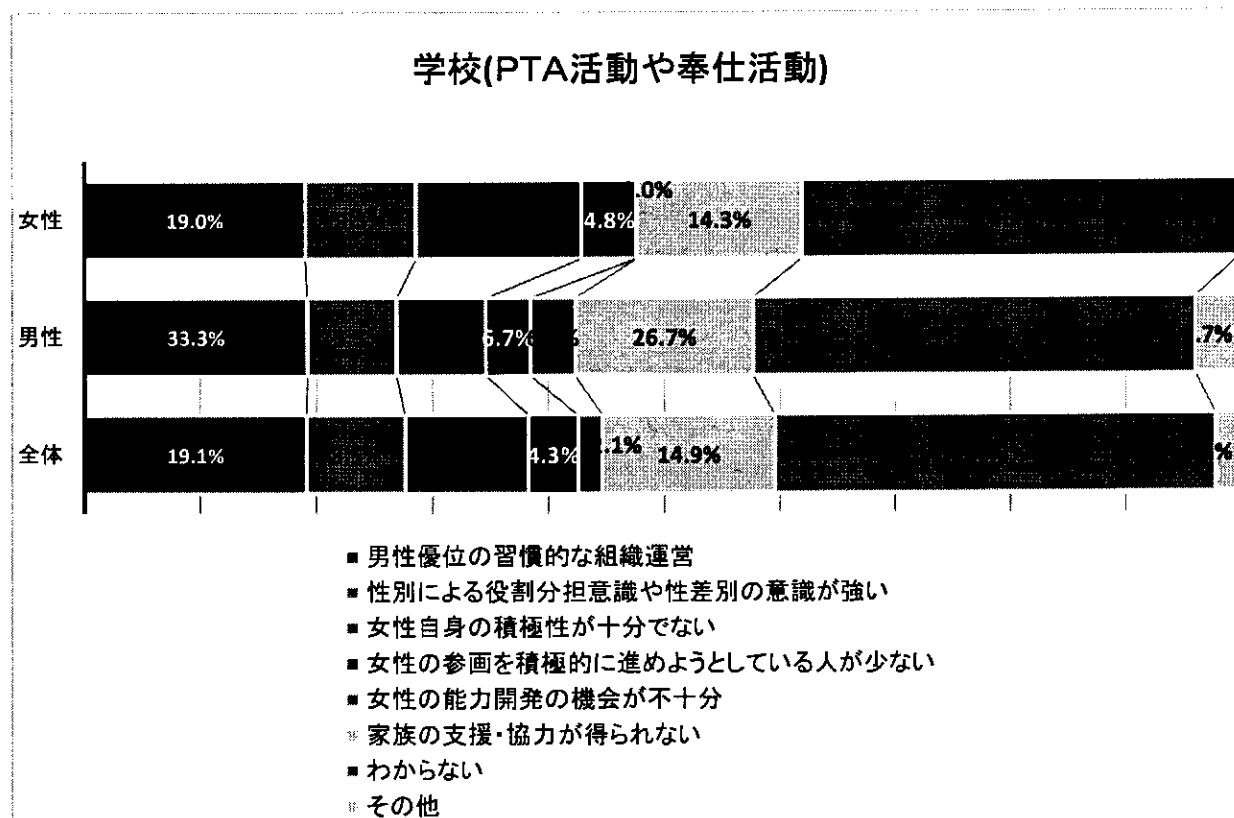


- 男性優位の習慣的な組織運営
- 性別による役割分担意識や性差別の意識が強い
- 女性自身の積極性が十分でない
- 女性の参画を積極的に進めようとしている人が少ない
- 女性の能力開発の機会が不十分
- ☞ 家族の支援・協力が得られない
- わからない
- ☞ その他

職場



- 男性優位の習慣的な組織運営
- 性別による役割分担意識や性差別の意識が強い
- 女性自身の積極性が十分でない
- 女性の参画を積極的に進めようとしている人が少ない
- 女性の能力開発の機会が不十分
- ☞ 家族の支援・協力が得られない
- わからない
- ☞ その他



【結果から】

女性の参画が進んでいない理由について、全体では、全項目において「男性優位の習慣的な組織運営」が最も高い割合を示し、『政治の場』73.8%、『市や県の新規会や委員会等』57.0%、『地域（自治体や町内会）』45.3%、『職場』34.0%、『学校（PTA活動や奉仕活動）』19.1%という結果になった。

性別でも、両性共に、全項目において「男性優位の習慣的な組織運営」が進んでいない理由として最も高かった。

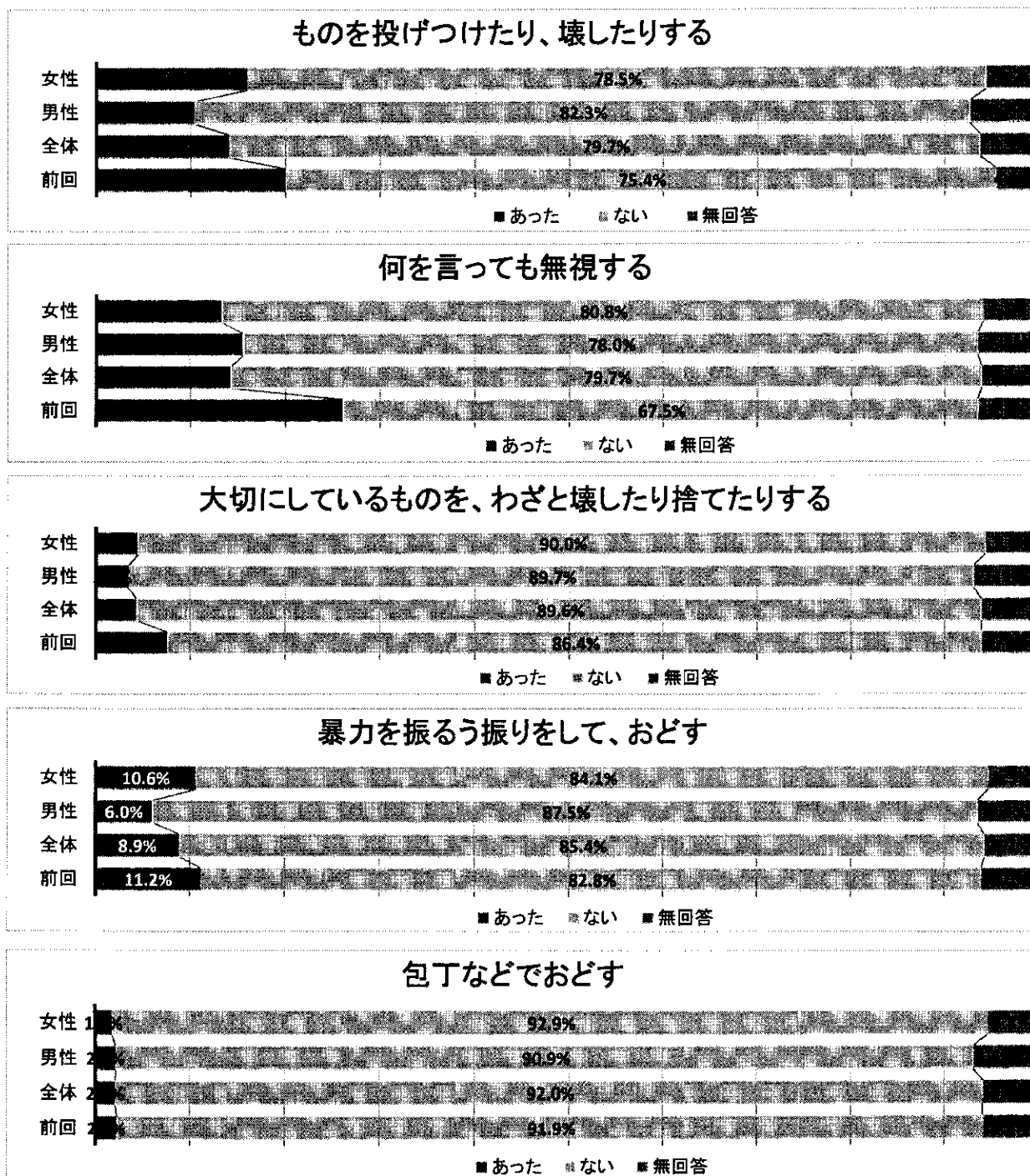
前回調査と比較すると、全体で、「男性優位の習慣的な組織運営」の割合は、『政治の場』プラス18.1ポイント、『市や県の新規会や委員会等』プラス17.0ポイント、『地域（自治体や町内会）』プラス9.2ポイント、『職場』プラス2.3ポイント、『学校（PTA活動や奉仕活動）』プラス2.4ポイントという結果になった。その分、当理由項目以外の割合は全体的に下がった。

6. 配偶者や恋人などから受ける暴力等

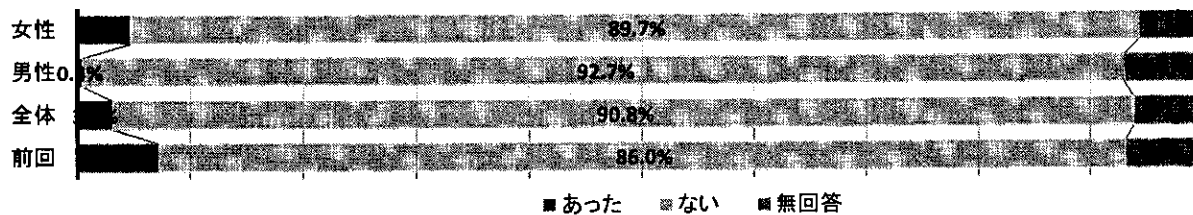
6- (1) 配偶者や恋人から受けた被害行為について

【問 11】 あなたはこれまでに配偶者（パートナー）(配偶者（パートナー）と離別または死別された方もお答えください)や恋人等から次のようなことをされたことがありますか。以下のそれぞれについて回答してください。（○はそれぞれ1つ）

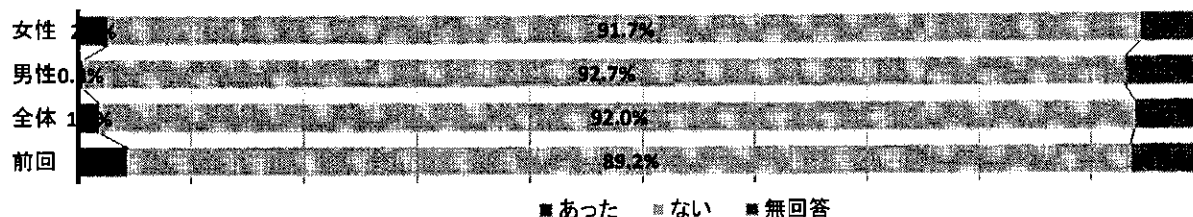
【全体（比較）・性別グラフ】



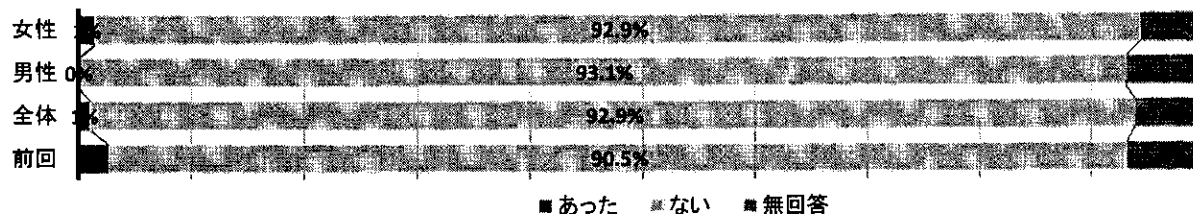
避妊に協力しない



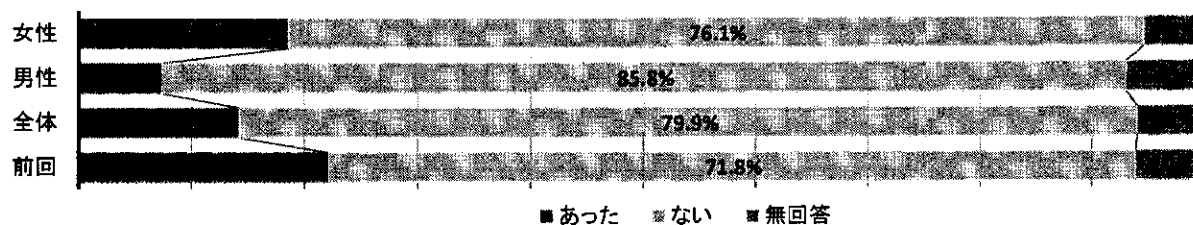
異常な性的行為を強要する



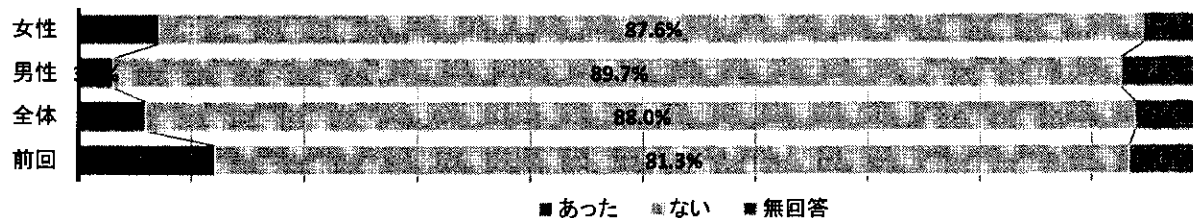
見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる



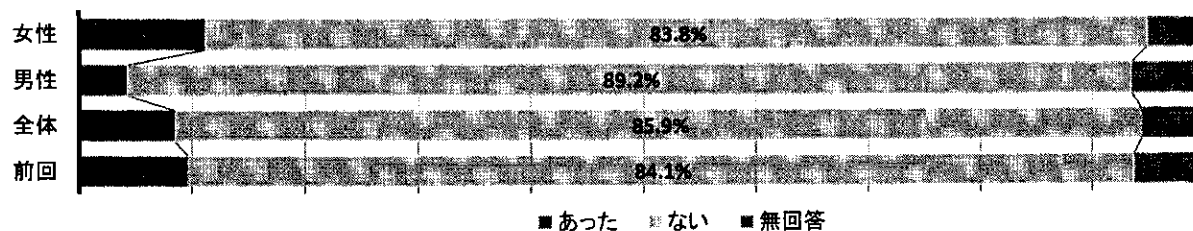
家を空けると不機嫌になる



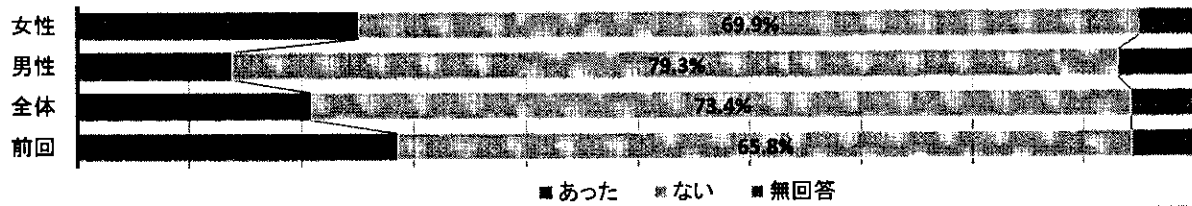
交友関係や携帯電話などを細かく監視する



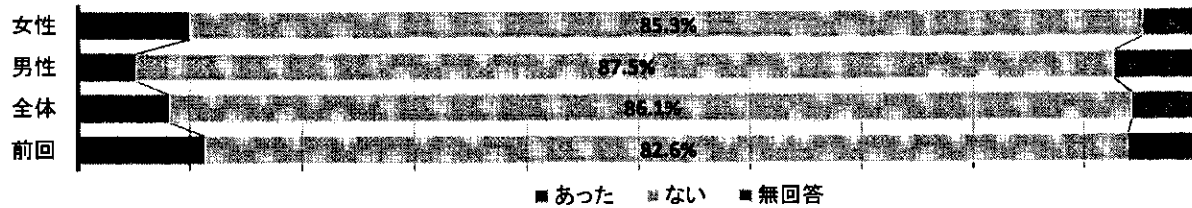
「誰のおかげで食べていかれるのか」とか、「かいしょう無し」とか言う



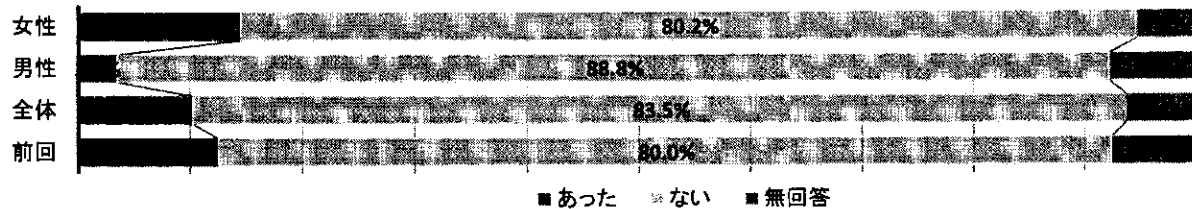
大きな声でどなる



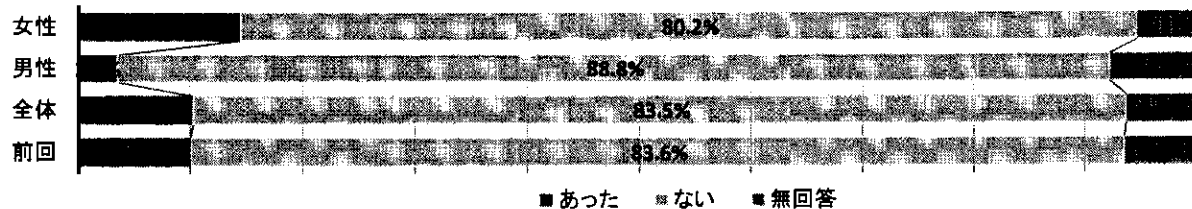
殴ったり、蹴ったりする



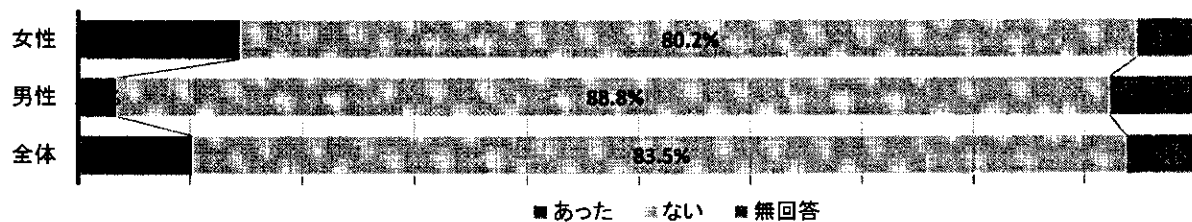
子どもに八つ当たりする



黙って家を出て行き、連絡してこない



新規 リベンジポルノ



【結果から】

配偶者や恋人から受けた被害行為について、全体で、『あった』が最も高い項目は「大きな声でどなる」が20.8%であり、次いで、「何を言っても無視する」14.2%、「家を空けると不機嫌になる」14.2%、「物を投げつけたり、壊したりする」14.1%であった。

新規調査項目である「リベンジポルノ」は10.2%であった。

性別で、女性は「大きな声でどなる」が25.1%で最も高く、次いで、「家を空けると不機嫌になる」18.6%、「ものを投げつけたり、壊したりする」15.9%であった。男性は、「何を言っても無視する」が15.5%で最も高く、次いで、「大きな声でどなる」13.8%、「ものを投げつけたり、壊したりする」10.3%であった。両性において、上位3項目は同様のものであった。

前回調査と比較すると、全体的に割合は低くなっている。変化が大きいものでは、「何を言っても無視する」マイナス11.9ポイント、「家を空けると不機嫌になる」マイナス7.9ポイント、「大きな声でどなる」マイナス7.7ポイントであった。上位4項目の順位に変化はなかった。

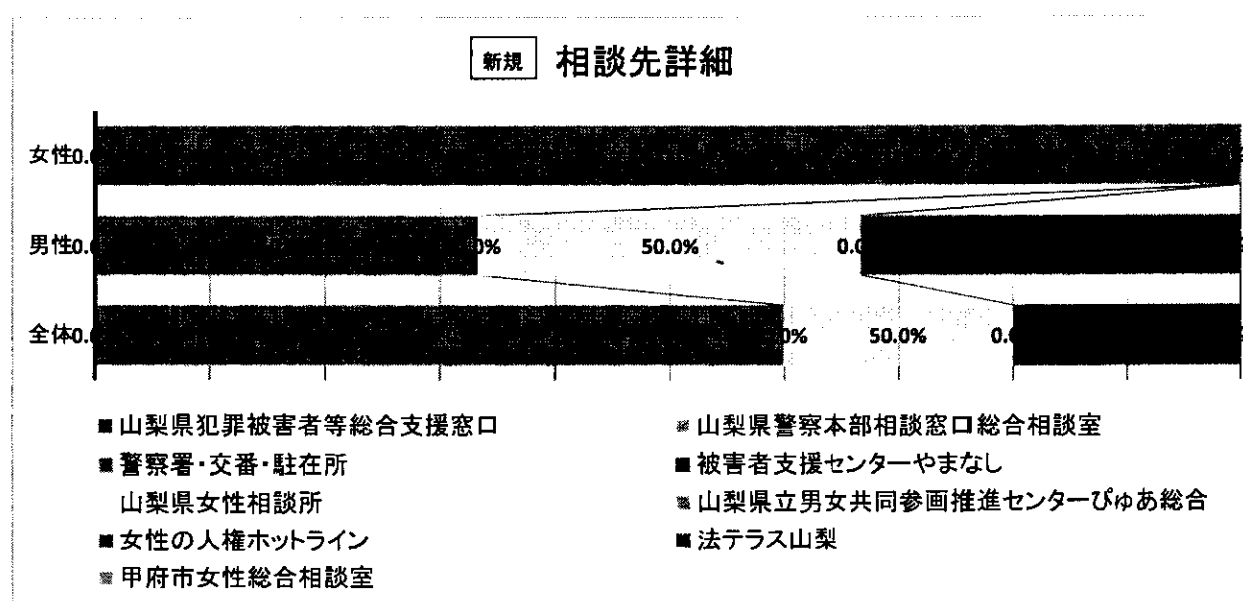
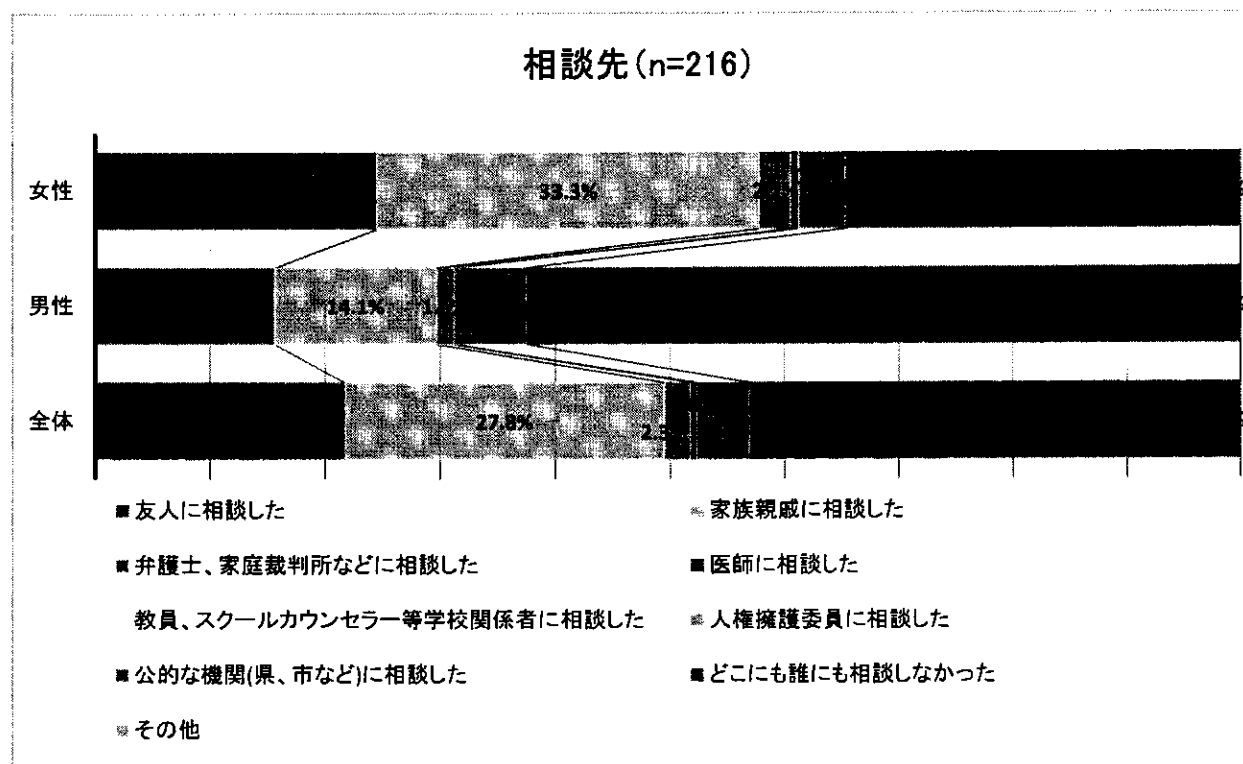
性別では、前回調査での上位4項目と比較すると、「大きな声でどなる」は女性がマイナス3.9ポイント、男性がマイナス15.2ポイント、「何を言っても無視する」は女性が13.8ポイント、男性がマイナス9.8ポイント、「家を空けると不機嫌になる」は女性がマイナス10.3ポイント、男性がマイナス6.2ポイント、「ものを投げつけたり、壊したりする」は女性がマイナス7.0ポイント、男性がマイナス6.4ポイントという結果となった。

※比較に関して、今回調査の「あった」と前回調査の「何度もあった」及び「一、二度あった」を足した合計値を比較した。

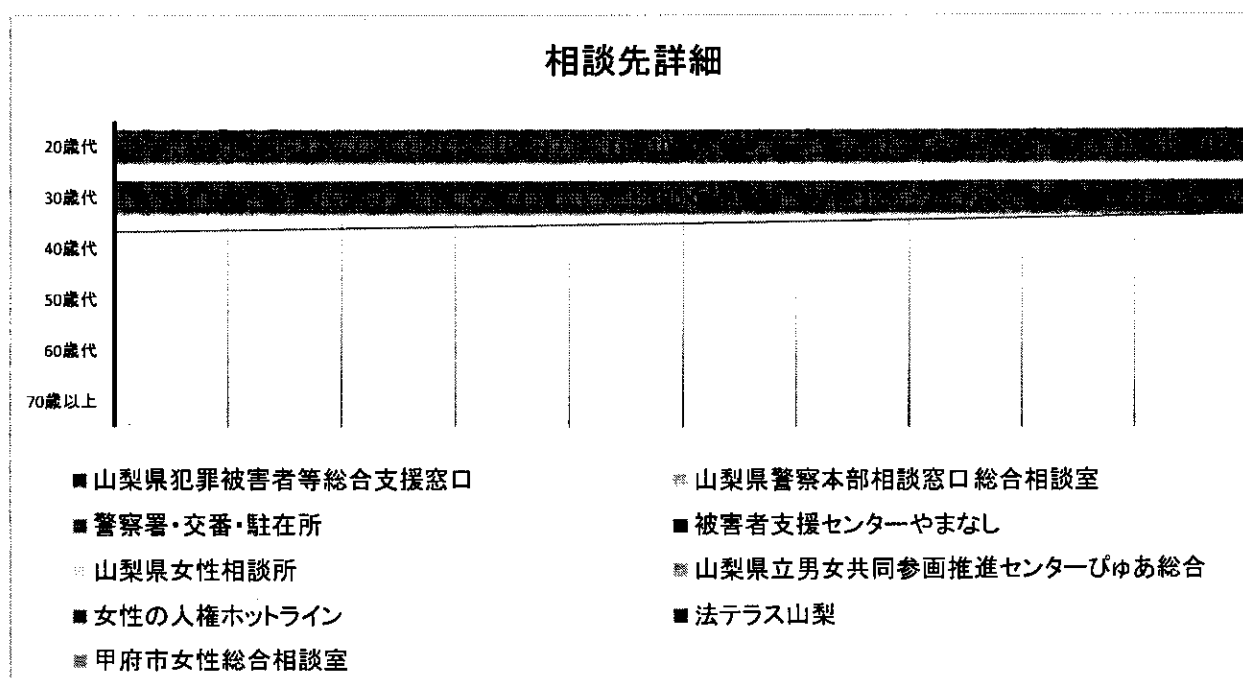
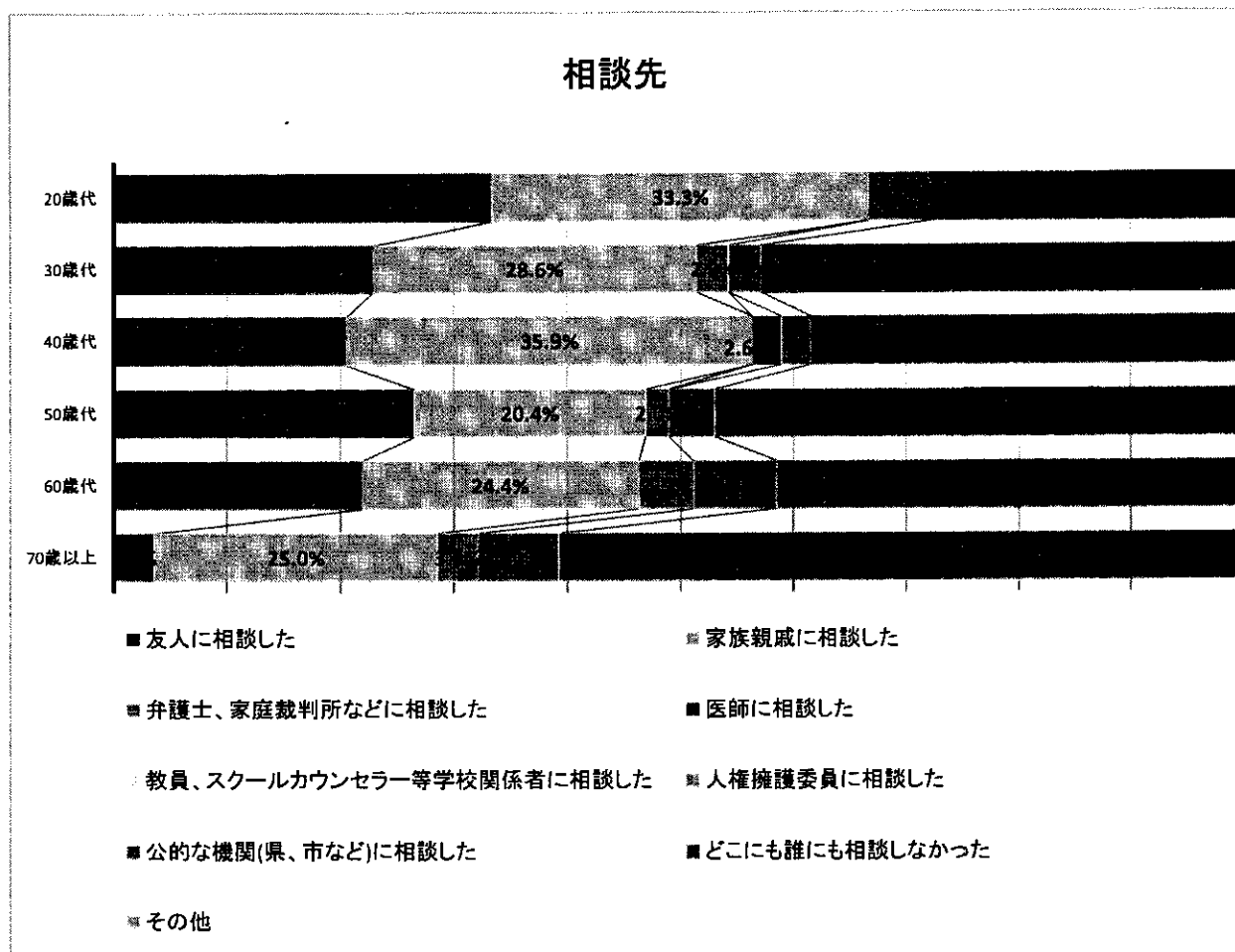
6- (2) 被害にあった人の相談先について（複数回答）

【問 11-a】 問 11 で、1つでも「あった」とお答えの方におききます。それらを受けた時、あなたは誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（〇はいくつでも）

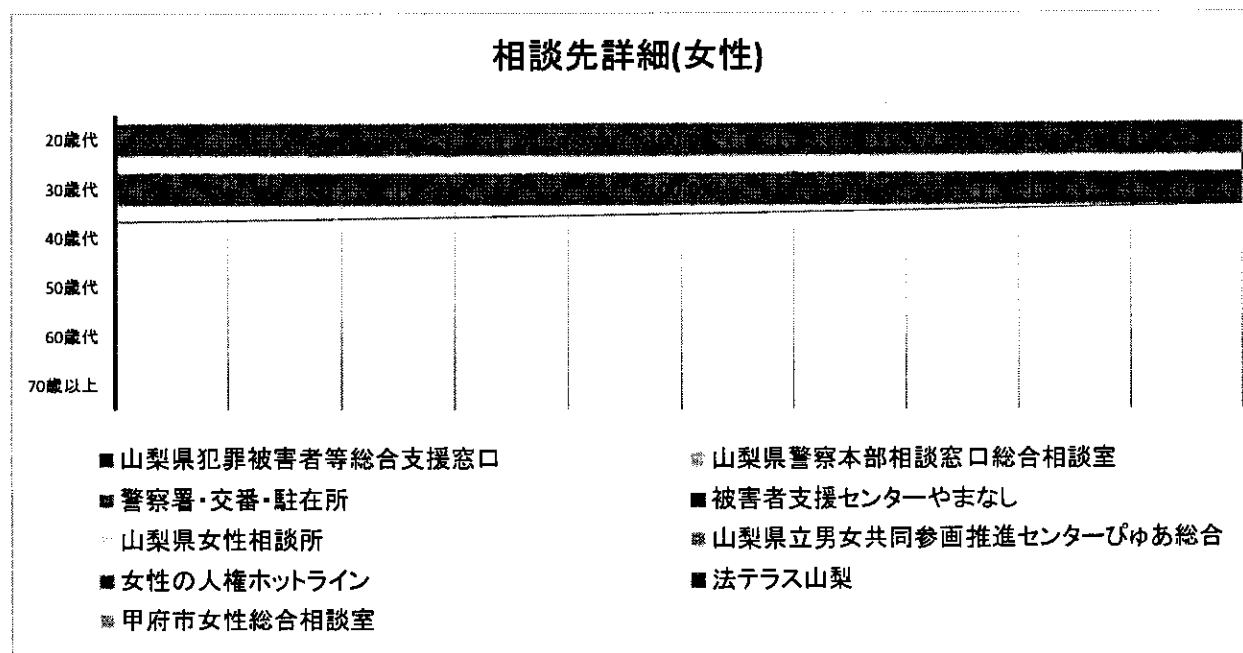
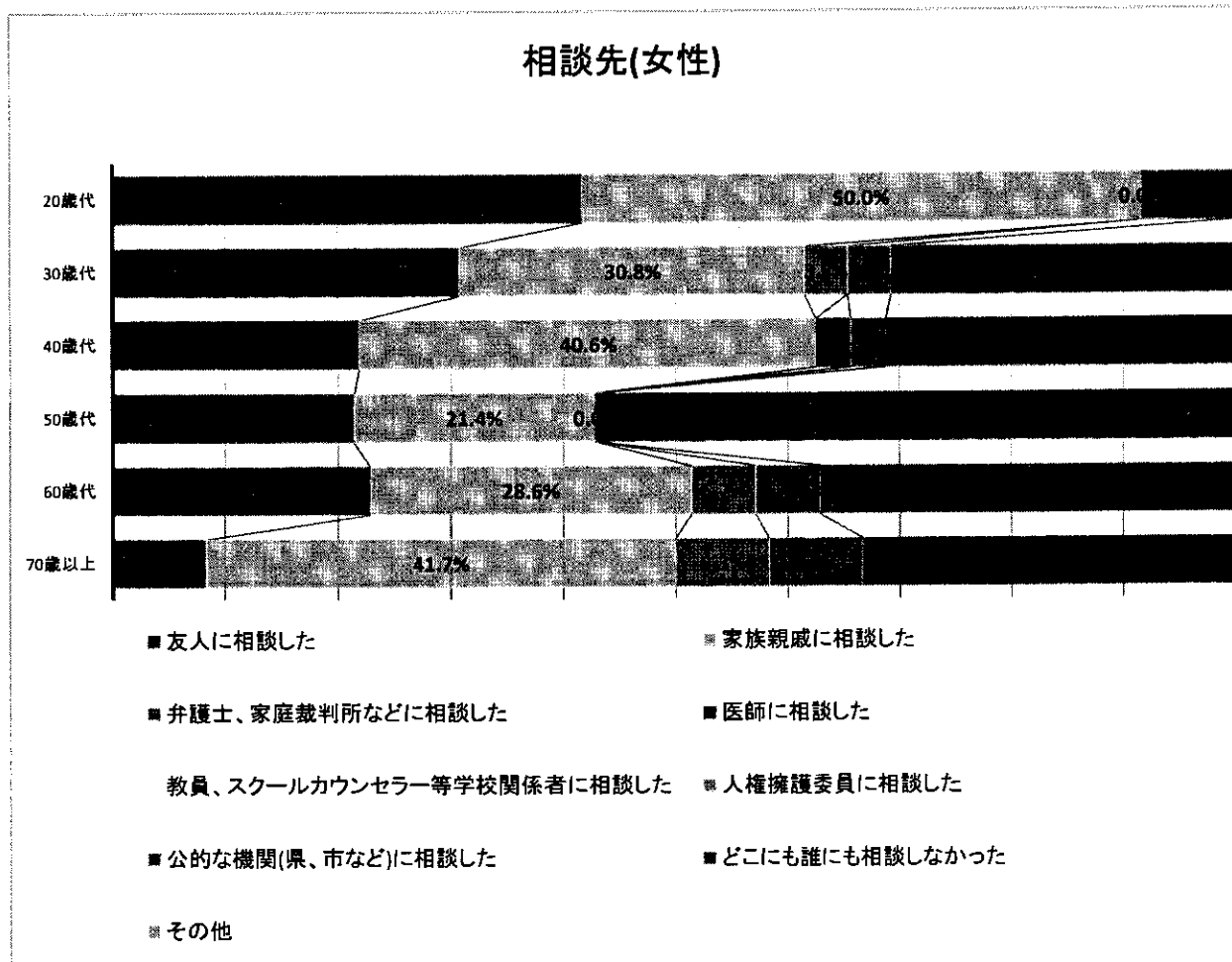
【全体・性別グラフ】



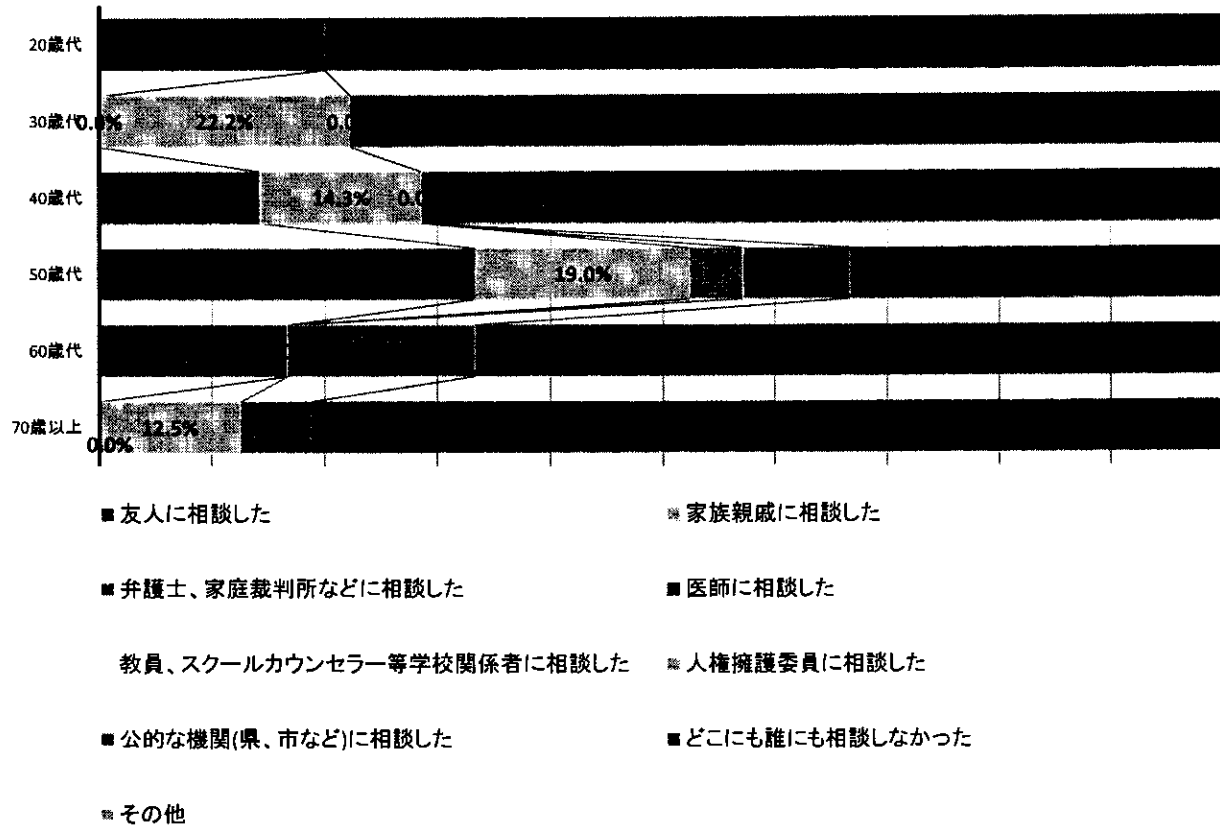
【年代別グラフ】



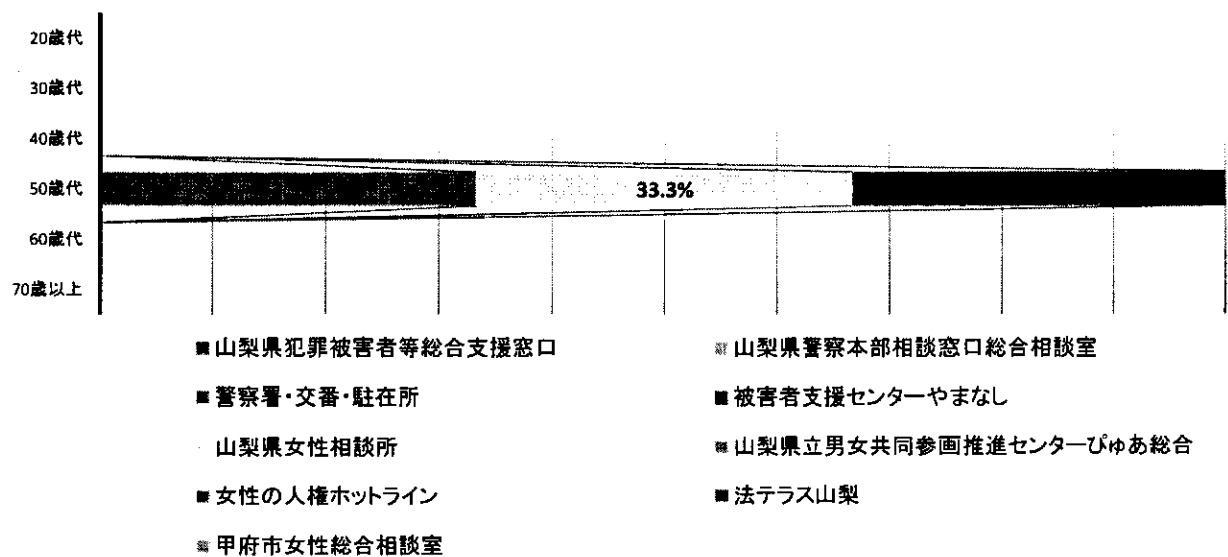
【性年代別グラフ】



相談先(男性)



相談先詳細(男性)



【結果から】

被害にあった人の相談先について、全体では、「どこにも誰にも相談しなかった」が43.1%で最も高く、次いで、「家族親戚に相談した」27.8%、「友人知人に相談した」21.8%が高かった。
「公的な機関（県、市など）に相談した」の詳細で最も高い割合だったのは、『警察署・交番・駐在所』であり、次いで、『法テラス山梨』、『山梨県女性相談所』と続いた。

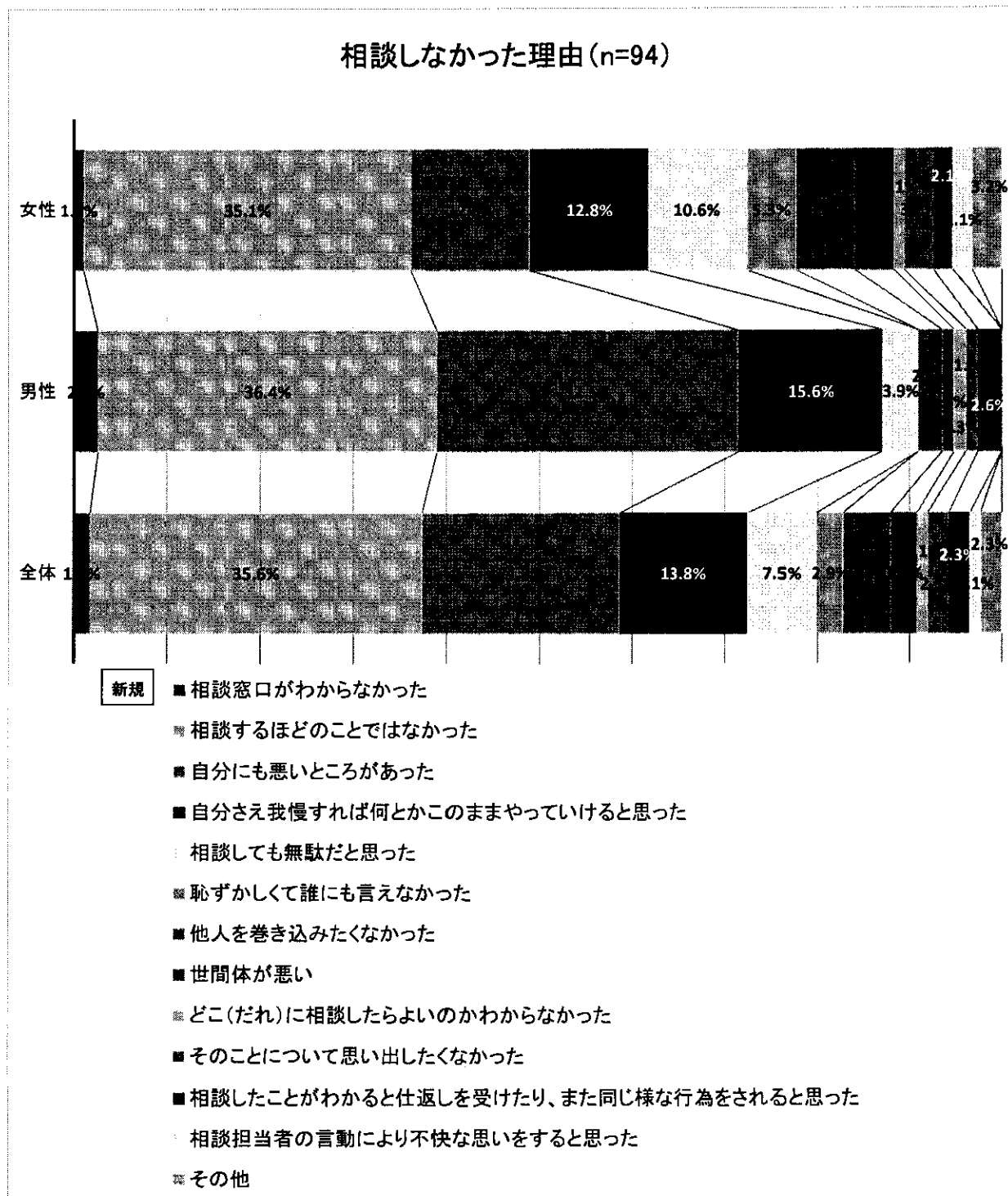
性別において、女性は「どこにも誰にも相談しなかった」が34.7%で最も高く、次いで、「家族親戚に相談した」33.3%、「友人知人に相談した」24.5%であった。男性は「どこにも誰にも相談しなかった」が62.5%で最も高く、次いで、「友人知人に相談した」15.6%、「家族親戚に相談した」14.1%が高かった。

年代別でみると、「どこにも誰にも相談しなかった」が70歳以上で60.7%、「家族親戚に相談した」が40歳代で35.9%、「友人知人に相談した」が20歳代で33.3%と最も高かった。

6- (3) 被害にあった人の相談しなかった理由について（複数回答）

【問 11-a-イ】 問 11-a で「8 どこにも誰にも相談しなかった」とお答えの方におききます。その理由は何ですか。（○はいくつでも）

【全体・性別グラフ】



【結果から】

被害にあった人の相談しなかった理由について、全体では、「相談するほどのことではなかった」が35.6%で最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあった」21.3%、「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思った」13.8%と高かった。

性別においても、全体での上位3項目が理由として最も割合が高く、女性で約7割、男性で約8割を占めた。

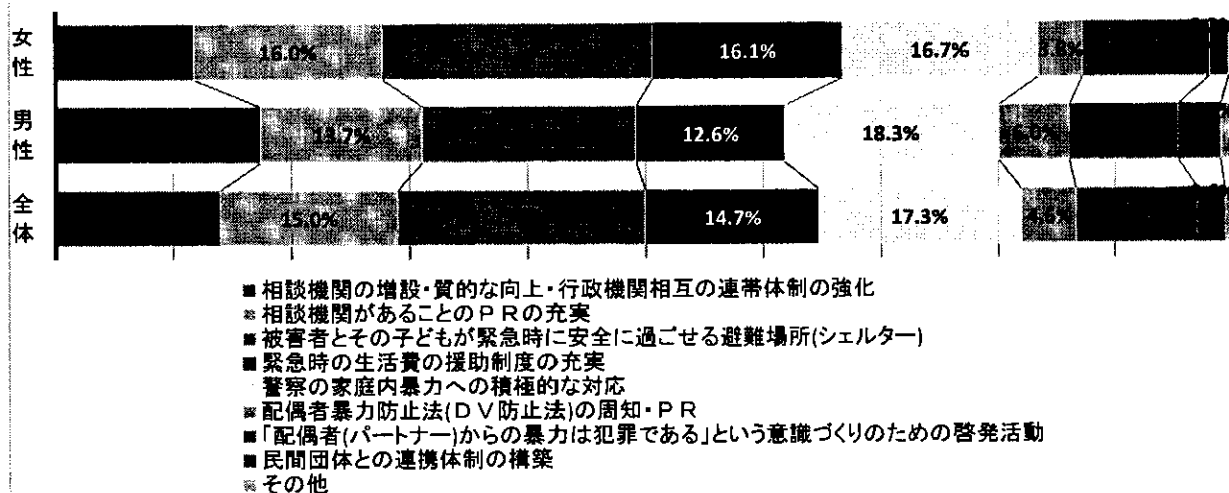
6- (4) 配偶者からの暴力に対する対策・援助として必要な施策について（複数回答）

【問 12】 配偶者（パートナー）からの暴力に対する対策や援助として、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

【全体・性別グラフ】

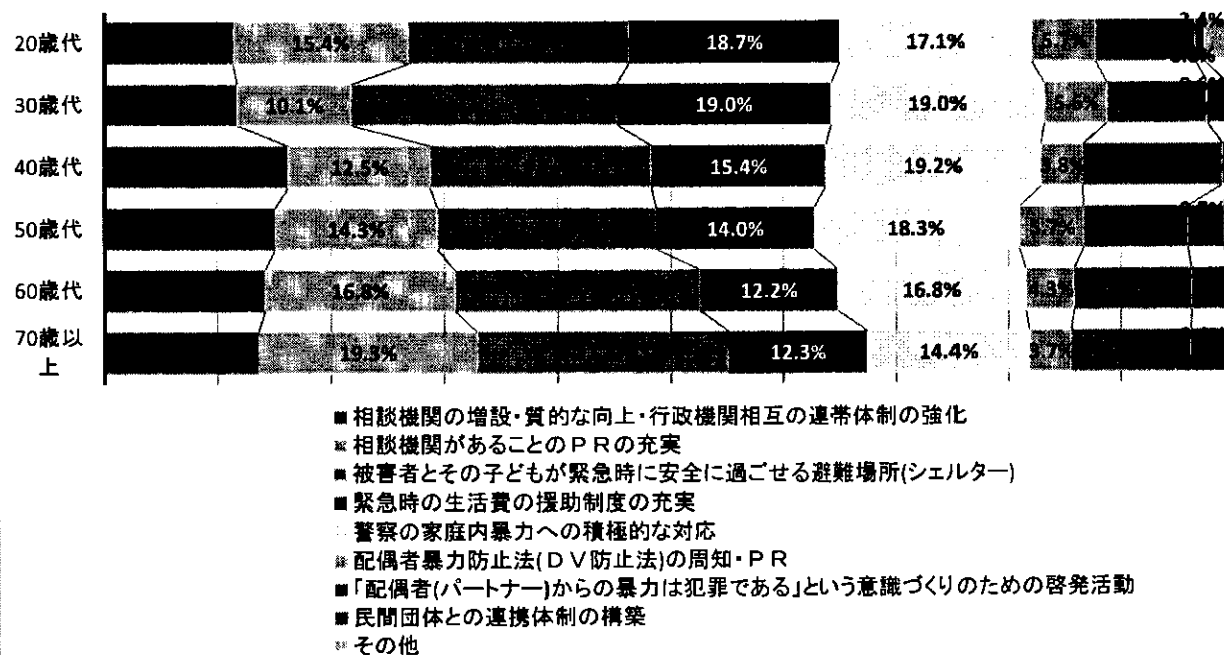
新規調査

配偶者からの暴力に対する対策について(全体・性別) 【n=1377】



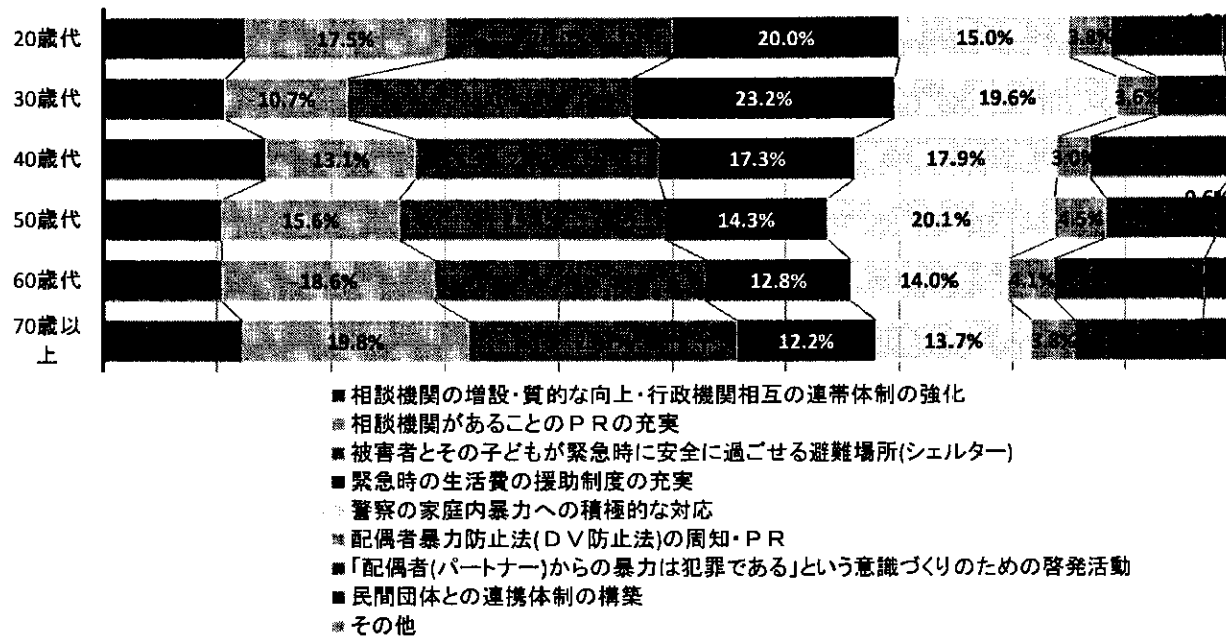
【年代別グラフ】

配偶者からの暴力に対する対策について(年代別)

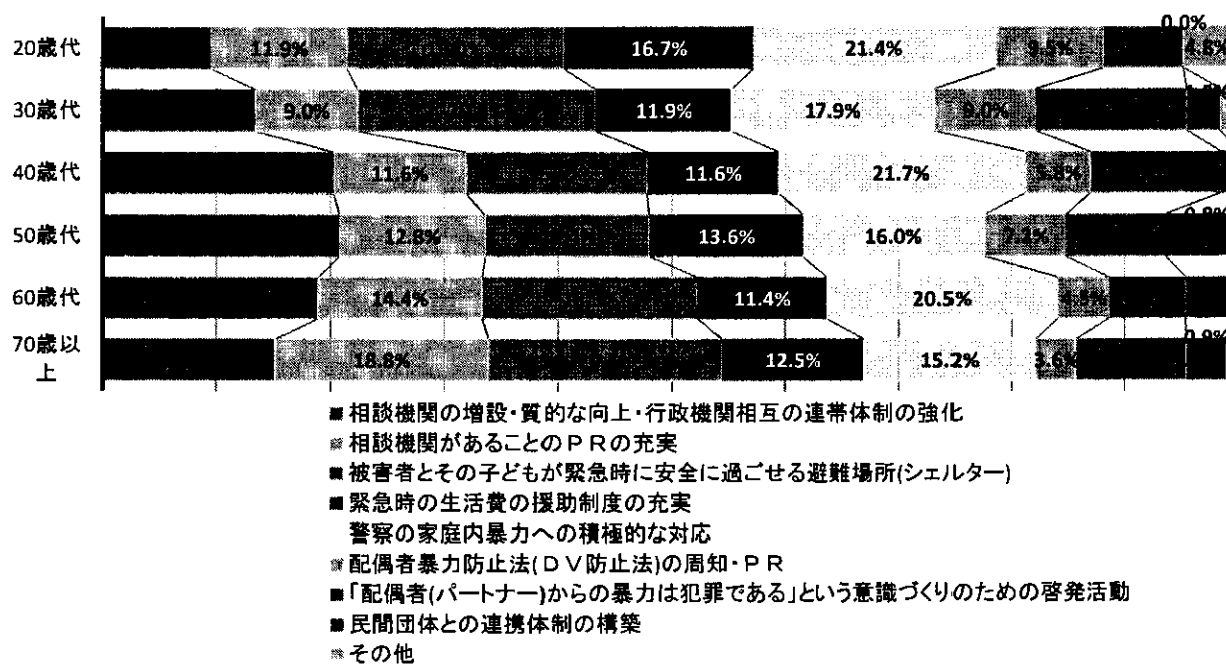


【性年代別グラフ】

配偶者からの暴力に対する対策について(女性)



配偶者からの暴力に対する対策について(男性)



【結果から】

配偶者からの暴力に対する対策・援助として必要な施策について、全体では、「被害者とその子どもが緊急時に安全に過ごせる避難場所（シェルター）」が21.0%と最も高く、次いで、「警察の家庭内暴力への積極的な対応」17.3%、「相談機関があることのPRの充実」15.0%であった。

性別で、女性は上から、「被害者とその子どもが緊急時に安全に過ごせる避難場所（シェルター）」22.9%、「警察の家庭内暴力への積極的な対応」16.7%、「緊急時の生活費の援助制度の充実」16.1%であり、男性は上から、「警察の家庭内暴力への積極的な対応」18.3%、「被害者とその子どもが緊急時に安全に過ごせる避難場所（シェルター）」18.1%、「相談機関の増設・質的な向上・行政機関相互の連帯体制の強化」17.4%であった。

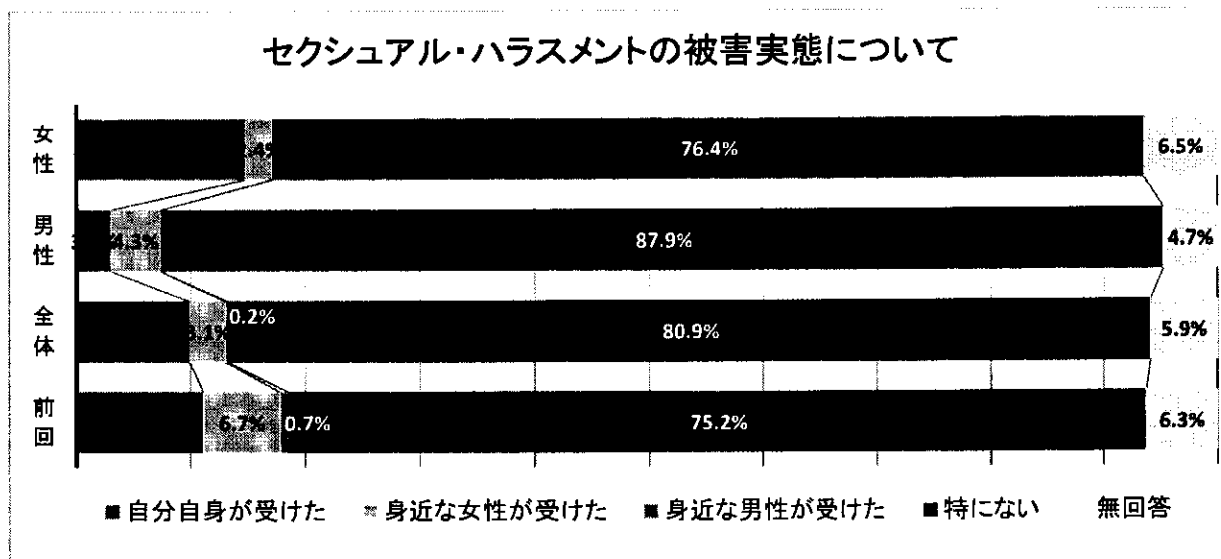
年代別で、全体においての上位3項目をみると、「被害者とその子どもが緊急時に安全に過ごせる避難場所（シェルター）」は30歳代で23.5%、「警察の家庭内暴力への積極的な対応」は40歳代で19.2%、「相談機関があることのPRの充実」は70歳以上で19.3%とそれぞれ高かった。

性年代別において、女性で最も高い割合を示した「被害者とその子どもが緊急時に安全に過ごせる避難場所（シェルター）」は30歳代が25.0%と最も高く、男性で最も高い割合を示した「警察の家庭内暴力への積極的な対応」は20歳代で21.4%で最も高い結果となった。

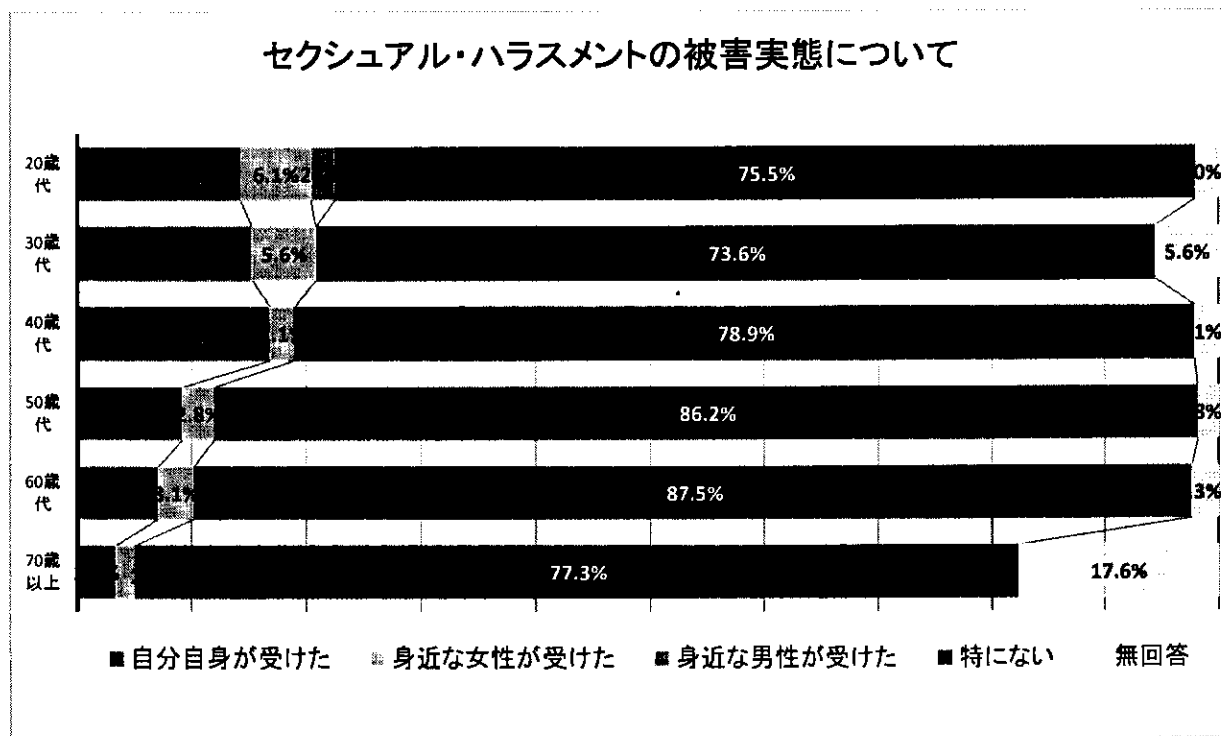
6- (5) セクシュアル・ハラスメントの被害実態について

【問 13】 あなたはセクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。

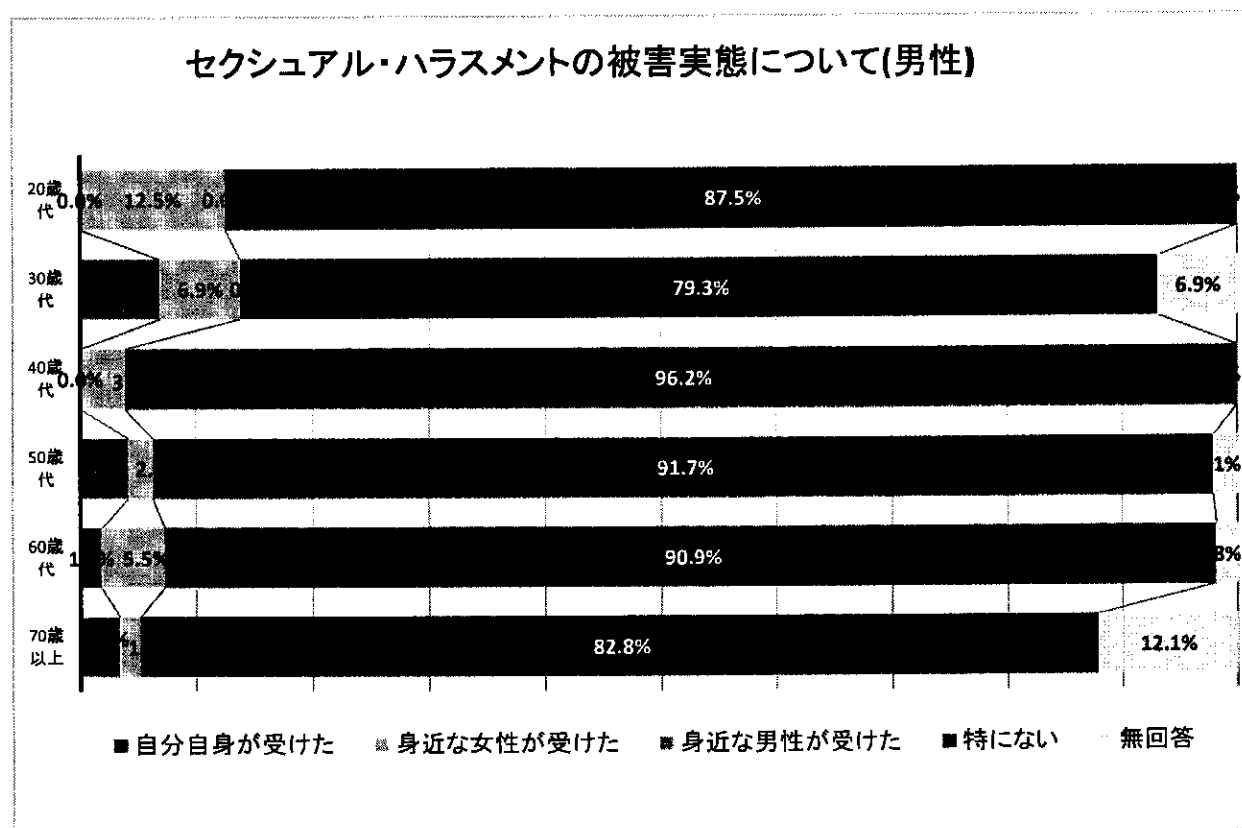
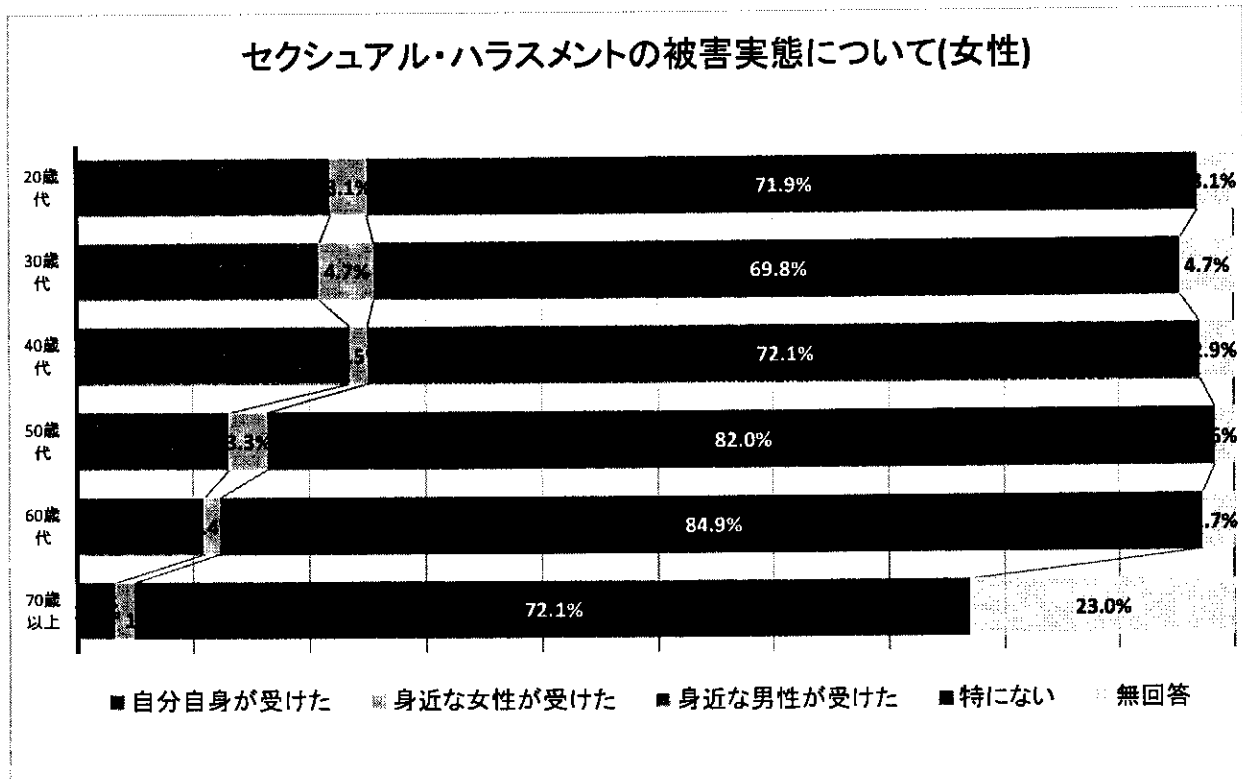
【全体（比較）・性別グラフ】



【年代別グラフ】



【性年代別グラフ】



【結果から】

セクシュアル・ハラスメントの被害実態について、全体では、「自分自身が受けた」が9.9%で高く、「身近な女性が受けた」3.1%、「身近な男性が受けた」0.2%と続いた。

性別では、女性の「自分自身が受けた」が14.7%で高く、男性の「自分自身が受けた」は3.0%であった。男性の「身近な女性が受けた」は4.3%であり、女性の「身近な女性が受けた」2.4%を上回った。両性とも「身近な男性が受けた」の回答は一人もいなかった。

年代別でみると、「自分自身が受けた」の割合は、40歳代の16.8%が最も高く、次いで、30歳代の15.3%、20歳代の14.3%であった。（いつ受けたかは定かではない）

性年代別での「自分自身が受けた」の割合が最も高かったのは、女性の40歳代23.5%、男性の30歳代6.9%であった。

前回調査と比較すると、全体は「自分自身が受けた」がマイナス1.4ポイント、「身近な女性が受けた」マイナス3.7ポイント、「身近な男性が受けた」マイナス0.6ポイントとなった。女性では、「自分自身が受けた」がプラス3.9ポイント、「身近な女性が受けた」マイナス6.9ポイントとなった。

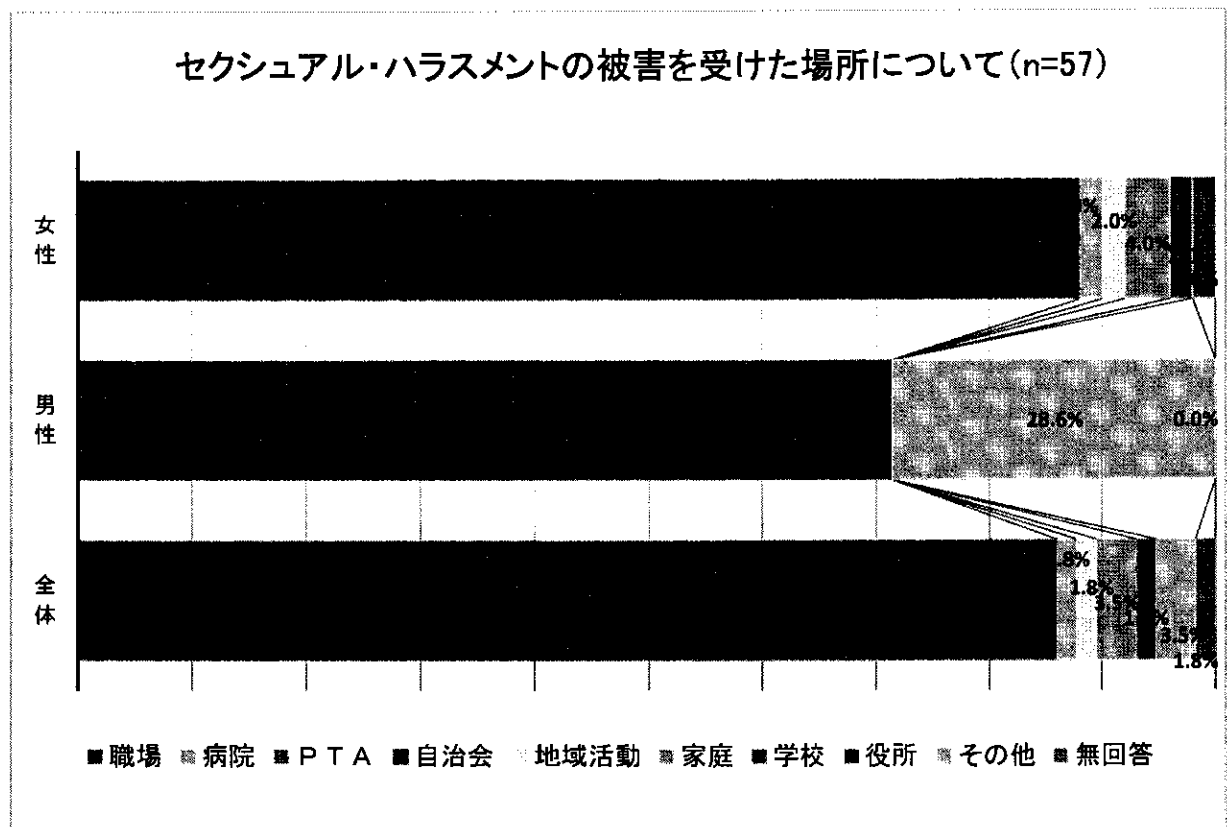
男性では、「自分自身が受けた」がプラス0.3ポイント、「身近な女性が受けた」プラス0.2ポイントとなった。

年代別で、大きく変化がみられたのは「自分自身が受けた」が50歳代でマイナス9.1ポイント、「身近な女性が受けた」が40歳代でマイナス9.2ポイントであった。

6- (6) セクシュアル・ハラスメントの被害を受けた場所について（複数回答）

【問 13-a-イ】 どこで受けましたか。（〇はいくつでも）

【全体・性別グラフ】



【結果から】

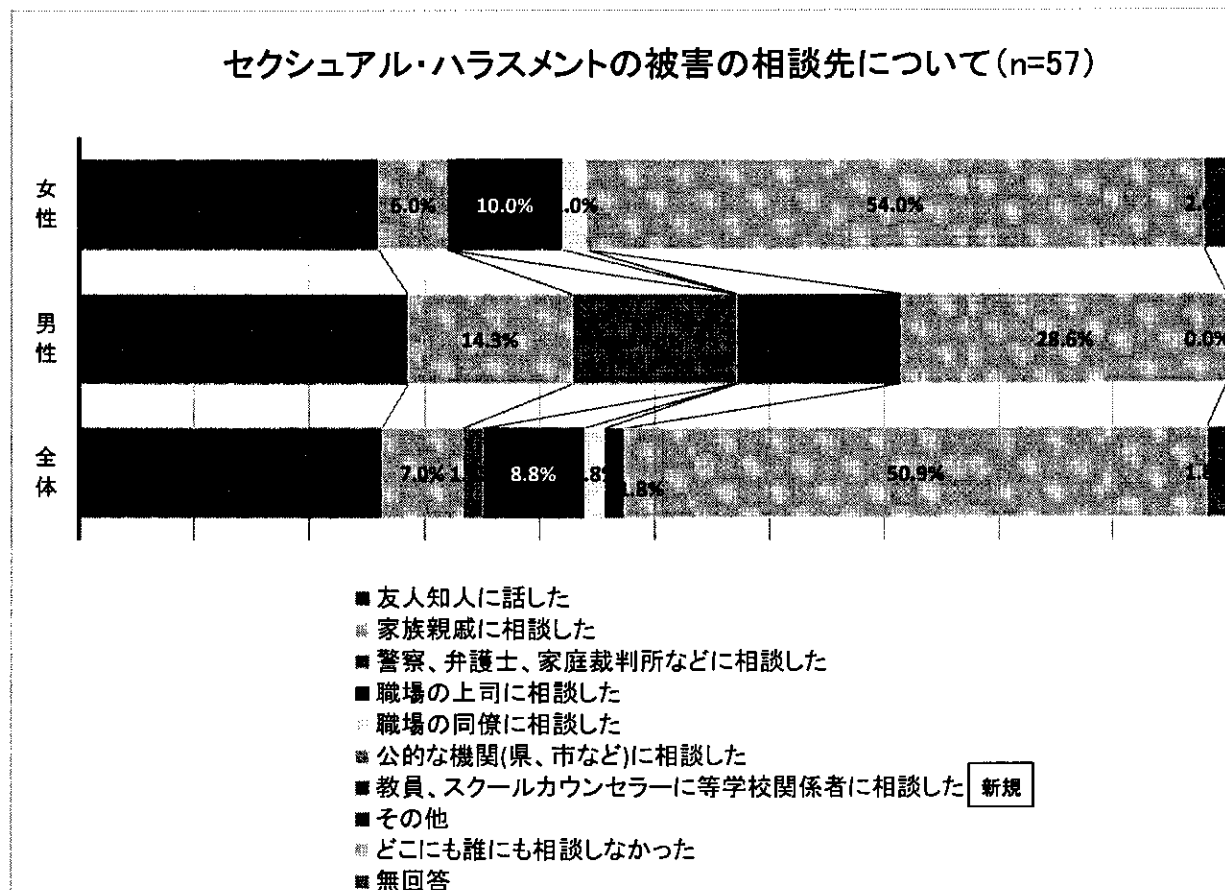
セクシュアル・ハラスメントの被害を受けた場所について、全体では「職場」が86.0%で、8割以上を占めた。

性別でみても、両性とも、「職場」が最も高く、女性88.0%、男性71.4%であった。

6- (7) セクシュアル・ハラスメントの被害の相談先について（複数回答）

【問 13-a-ロ】 そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（○はいくつでも）

【全体・性別グラフ】



【結果から】

セクシュアル・ハラスメントの被害の相談先について、全体では「どこにも誰にも相談しなかった」が50.9%で最も高く、半数以上であった。次いで、「友人知人に話した」が26.3%であった。

性別において、女性は「どこにも誰にも相談しなかった」、「友人知人に話した」、「職場の上司に相談した」が上位3項目であった。

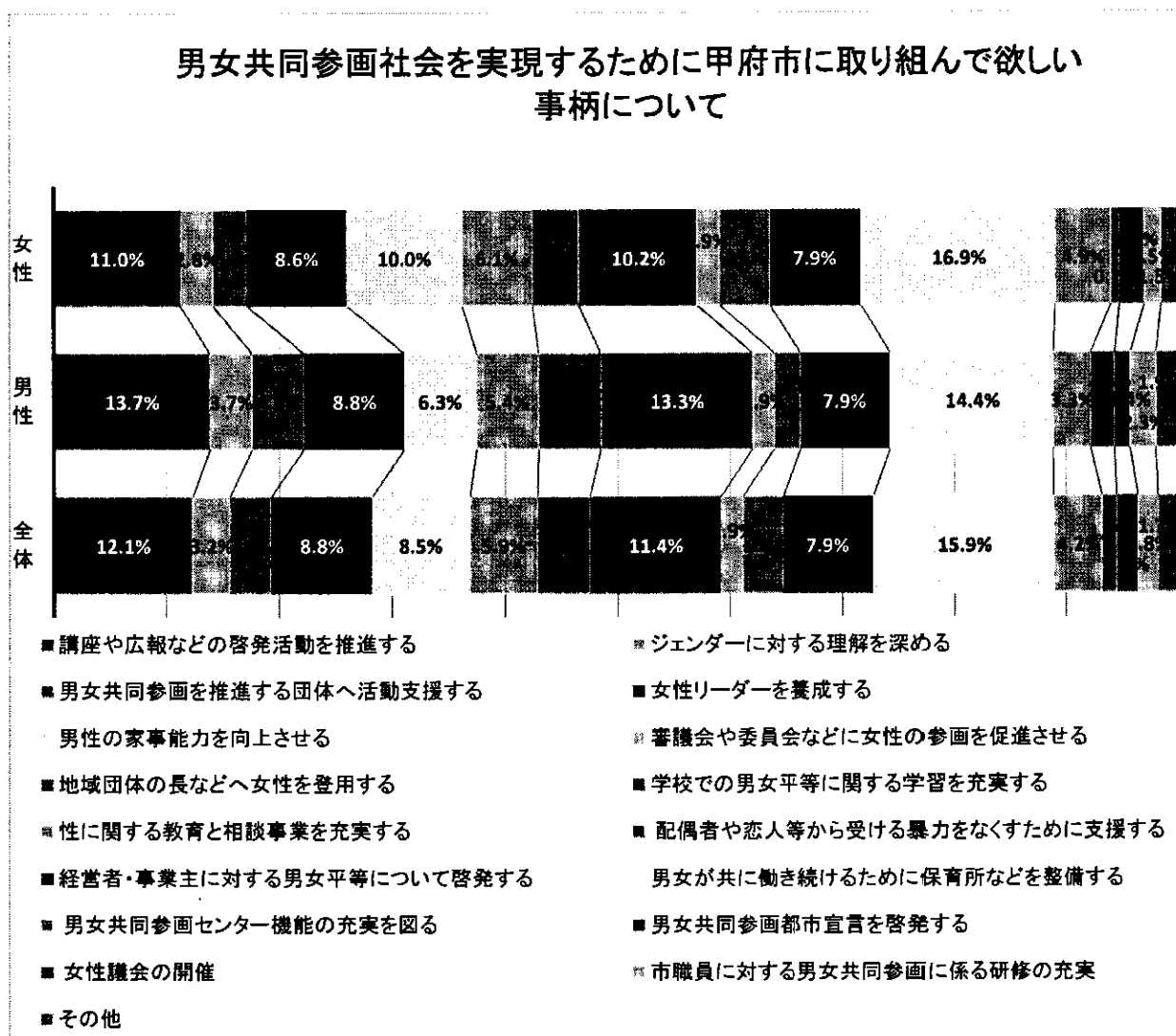
男性は「どこにも誰にも相談しなかった」、「友人知人に話した」が上位であり、他「家族親戚に相談した」、「警察、弁護士、家庭裁判所などに相談した」、「職場の上司に相談した」は同率であった。

7. 今後の取り組み

7- (1) 男女共同参画社会を実現するために甲府市に取り組んで欲しい事柄について
(複数回答)

【問 14】 男女共同参画社会を実現するために、甲府市はどのようなことに取り組んでいけばよいとあなたは思いますか。(〇は3つまで)

【全体・性別グラフ】



【結果から】

男女共同参画社会を実現するために甲府市に取り組んで欲しい事柄について、全体で、最も高い割合だったのは「男女が共に働き続けるために保育所などを整備する」15.9%であり、次いで、「講座や広報などの啓発活動を推進する」12.1%、「学校での男女平等に関する学習を充実する」11.4%と続いた。

性別でみても、両性ともに上位3項目は全体と同様であった。

8. 自由記述

8- (1) 男女共同参画社会に感じていることや提案したいことについて

【問 15】 あなたが男女共同参画社会について感じられていること、提案したいこと等がありましたら、次の欄に自由にお書き下さい。

【20 歳代女性】

- ・「男性が外で働き、女性は家を守る」という概念は薄れてきているとはいえ、職場ではまだまだ女性が働きながら育児することへの意識的な改革が進んでいるとはいえない。制度が整備されても、適用しにくい環境があれば有効とは言えないので、子供を育てやすい職場の環境および雰囲気作りを進めていただきたい。
- ・今回のアンケートで初めて男女共同参画という言葉を知った。女の人は結婚して子供を産むと、なかなか社会とのつながりが薄れてきて、いざ働こうと思っても長時間の仕事は大変だし、会社などによっては小さい子供がいると敬遠される場合もある。もう少し理解を持って対応してくれると、子育てしている人たちも社会にもう一度出る機会がもっと増えると思う。あとは男性の子育てへの参加。小さい子供のいる家庭は長時間残業を少なくして早く自宅へ帰り、子育てを手伝えるようにするなど、会社のトップの人たちの理解があれば嬉しいと思う。
- ・山梨という狭い地域において、そもそもジェンダーや性同一性障害への理解が進んでいない。男女共同参画社会の実現と、ジェンダー関連の問題は、全く別問題であるので、同時に行わない方がよい。問 1 を見て、複雑なものを全て包括しようとしているのかと感じたが、ジェンダー問題は様々な側面を持つものである。対策を練ることにおいて、少なくとも LGBT は含まない方針が良いと思う。
- ・病気、障害をもつ子供を育児している家族の中で主に母親が世話をしていることが多いと思う。そのような子供をもつと、仕事に就く機会がぐっと低くなってしまう。
手当なども充実してきているが、母が見るのは当然という観念を払っていくべきだと思う。地域社会でみていく問題とも思う。働きたいと思っている方には平等にその機会を与えていくべきである。

【20 歳代男性】

- ・結果としての平等に深く固執すると、むしろ反感を買うことになるのではないか。機会の平等を整備する活動が重要かと考える。
- ・男女平等というキーワードはよく耳にするが、具体的にはこういった部分を指しているのか？と疑問に思う。実際に動いている企業は少ないと思う。県外から進出してきた大手の企業は多少イメージがあるが、地元企業（山梨県内）はあまり男女平等のイメージはない。

【30 歳代女性】

- ・何でもそうだが、取り組みを行う上で“強制”が必要だと思う。「こういう内容がある」、「してもしなくても自由である」と伝えるだけではしない方が多いに決まっている。絶対やらないとならないという取り組みなら、決まっていることだからやるはずである。その取り組み内容が継続されることを望む。
- ・雇用が増えて、個人の収入が全体的に上がれば自然と男女平等に社会が変わってくると思うし、税金収入も増えて、支援の予算も増やせるので、是非、企業誘致に全力を注いで欲しい。
- ・甲府市はゆったりした雰囲気があり大好きであるが、まだ地域に男子を特別に思う感性が残っているように思うことがある。
- ・今の時代、女性も土日に関係なく働いている。子供が生まれ、男性も土日と仕事だったときに子供を預けることができずに仕事を辞めることになる。子供が小学生の間くらいは何か預ける方法があればと思う。実際、私自身が土曜日に仕事で、子供（4歳と2歳）を毎週実家に預けている。実家へは車で約30分と少し遠い。両親も高齢になってくると大変である。まだまだ、働くお母さんに対して何もできていないと思う。
- ・女性が社会に出て働くことも大切であるが、結婚、妊娠、子育てが適齢期にできることもとても大切だと思う。男性にはない妊娠、出産の時期をどうサポートし、社会もそれを支援していくことが重要だと思う。女性が男性のように働くことを社会は求めているように思うが、女性は女性として女性らしく働き、また女性として妊娠、出産したことを喜び、社会と共に子育てしていくことが重要である。妊娠したことを迷惑と感じる職場が多いように思う。
- ・女性の社会進出（職をもつこと）は浸透してきていると思うが、その一方で家事、育児の負担、保育園や小学校の保護者会、地域活動の参加も昔ながらの名残で女性が多く負担している。それらを男性が行うようにならないと、女性が職をもつことが重荷に感じてしまう。
- ・女性の立場からの意見であるが、『女性が輝く』＝『仕事を持つ』ことではないと思う。潜在労働力として専業主婦は考えられ、外に出て働くべきだと政治家は考えているようだが、本当にうんざりである。女性がしっかり子どもを産み、育てなければいけないと思う。男性はしっかり働いて、お給料をもらう、昔のままで良いと思う。幼稚園も認定こども園になり、『なぜ働かないのですか？』という風潮であるが、私は逆に、『子どもを預けてなぜ働くのですか？』と聞きたい。様々な事情があるとは思いますが、私は子育てに生き甲斐を感じ、命と向き合うこの『仕事』に誇りをもっている。結婚前には正社員として働いていたが、子どもをもった今、やはり仕事は辞めるべきだと思った。子どもはどちらかの親が必ずしっかりとみるべきである。能力があれば家庭によって仕事を続けるのは男女関係ないと思う。主人も同じ考えである。主人の職場でも、共働き世帯が多く、育児休業や急なお休みを取られることが多く、その度、主人の負担が増え、残業も多くなる。そして我が家

のだんらの時間が減る。本当に腹が立つ。しっかりと働けないなら、共働きなんてやめて欲しい。

- ・色々あっても、まだ日本は男性世界であると本当に思う。15年も働いているのに社員にもしてくれず、入社した時に、社員条件を何も言われず、知らない間に社員になる条件が変わって、精神的におかしくなり、会社を長期休んだ。パートも社員も同じことをしているのに、本当におかしい会社だと思う。働く時間も9:40~22:00。昼休みもあまりとれず、本当に嫌になる。

【30歳代男性】

- ・どういうものかよく分からないのが正直なところ。市や県が率先して女性を登用してアピールしてほしい。
- ・基本理念は素晴らしいと考えるが、実現するためにはハードルが高いと思う。女性は子供を産んで育児する母性がある為、「育児」「仕事（フルタイム）」を両立することは負担が大きくなってしまう。社会でその負担を軽減することが重要で仕組みを整備すると言っているが、女性の自分の子供に対する思いや不安、心配事などは日々変化する。これらの事に常に応える対応を取らないと女性は仕事への執着心が薄れていくことになり、結果的に男性と同等の会社内の地位を築く人が少なくなってしまう。また、社内で優秀な女性であればあるほど、責任をとる機会が増えるので、結婚、子育てに考える時間が減り、幸福度が減るのではないだろうか？男性と競う仕事ではなく、女性同士が助け合ってできる仕事の創出が鍵だと思う。
- ・元々違うものを同じものとして扱うことはできないということを理解するべきである。
- ・私も会社員だが、会社が利益を求めるため、現場の労働者のことをないがしろにする施策、決定を行っている限りは男女共同というのは二の次、三の次になっていると思う。労働環境がある程度自慢できる会社になれば女性もそれなりのポストや職場に就けているのではないかと思う。
- ・時代の流れか何か知りませんが無理やり女性を働かせようとしなくてもいいのではないか。働きたい人はバリバリ仕事をしてもらって必要な支障等があればしてもらえばいいが、そうでない人もいると思うので、その辺は臨機応変にすべき。
- ・自治体、地域の中でもいわゆる「昔からの集団、共同体」においては、男尊女卑が根強く残存していると感じる。行政はこれらの組織を男女参画の観点からも、こうした意識が強く残っていることを理解していただきたい。
- ・若い世代とか高齢者、働き盛りと世代によって考え方は違う。子供のうちから正しい情報を教えるしかないと思う。
- ・女性が参画できる社会にすることは大切であり、環境を整備する必要はあるが、女性自身の意志と

は別に何でも参画することが良いこととされている気がする。参画しない自由も尊重されたうえで進められると良いと思う。

- ・上（年寄、政治家、経営者）と下（子供への教育）の意識改革を進め、男女平等な法整備をすれば、後は個人の問題になるかと思う。
- ・性別特有のそれぞれが持つ個性の強みを活かす、活かさないは個人の自由なので、環境のせいになり条件のせいにするようなこの手の話しは正直気持ち悪いです。また、アンケート内で質問の趣旨が分からないところもあり、“区別”は必要な事で、差別とは異なるものと思っているので解答しにくかった。
- ・男女共同も大切ですが、子どもを育てる家庭にもっと目を向けて欲しい。
人口減少の歯止めをして欲しい。
- ・男女共同参画社会という言葉もあまり知らなかったなので、いい機会になった。
- ・男女平等は進んでいるかと思っていたが、まだまだ女性を軽視している人はたくさんいるとニュースなど見ると思う。今まで女性を軽視していた人の意識を変えるのは難しいことだと思うので、小さい頃からの教育が一番大事なのではないかと思う。

【40 歳代女性】

- ・「男だから」「女だから」という思い込みを無くし、人として接し、性差を理解した上で、男女が協力していく社会を目指してはいかがだろうか？しかし、私が幼少の頃よりは、子供世代はまだ男女差が少なくなってきたと思う。
- ・とにかく子供が普通に食べることができ、生活が出来るような環境が一番必要。そのためにも仕事面で、サポート、理解が必要である。仕事をしていても会社の理解と協力がほとんど得られない。学童は早くに終わってしまい、会社には残業を強いられる。子供はどうすればよいのだろうか？会社を続けられる状態ではなくなってしまう。景気が上昇しつつある中、実際どれだけのひとの給与が上がっているのだろうか。共働きしているのに、2人で賞与なしはとても辛い。自分の服など10年以上買っていない、いいえ、買えません。大学へ行きたいという子供、とてもお金がありません。生活するのに一杯一杯で外食すらできません。自分の老後も心配になります。おそらく、生活保護を受けなければ生きていけないと思う。将来がとても不安である。その前に、子供は幸せなのだろうか？学童の時間は短すぎて、少しでも何かある毎に学校は短縮、学童も土曜、日曜休みで台風になると平日も休みになってしまう。これでは会社は続けられない。働くママにはとても厳しい。こんなことは決して子供には言えませんし、不幸にはしたくない。私の宝だから。
- ・各家庭の都合で夫、妻のどちらかが働きに出てもよいが、どちらか片方のみの収入で生活が出来る

のであれば子供の面倒を親が見るのが理想的だと思う。

セクハラについては会社などお勤めの場合は社内で教育でき、意識が変わっていると思うが、会社員以外の職業では教育を受ける場がないし、注意されることもないので、特に年配の人は昔からの流れで、言葉で女性を低くみるようなことをいう。お勤め以外の個人で生活している人たちにも意識が変わるようにしてほしい。

- ・学校までは男女平等が浸透していると思う。

社会に出た途端、それがひっくり返されることが問題である。優秀な女性はいっぱいいるが、女性は家庭とのバランス・人目などを気にして十分能力を発揮していないと思う。男性も家庭的であったり、早く帰宅することが、やる気のない人のように思われるというよくない見られ方が問題だと思う。「育休は男女共に半年ずつが義務」というような規則でもない限り、ことは進まないと思う。管理職や議員数も同様、最初は割合を定めなければ女性の割合など増えるはずはない。女性も女性であることに甘え過ぎず、きちんと仕事を持った上で、家事、育児、地域のことも男性に折半してもらうべきである。男性が仕事だけなどというのはありえないと思う。

- ・基本的には男性、女性がまったく平等になる必要はないと思う。それぞれ男性には出来ること、女性には出来ることもあるはずである。ただ、女性だから男性だからという理由で色々な権利をはく奪されたり、不平等な扱いをされるということはあってはならないと思う。

- ・甲府の参画プランを今まで、このアンケートが来るまで知らなかった。市民部にこのような人権男女参画課があることをこのアンケートで知った。ちなみに甲府で生まれ甲府で成長した夫も全く知らなかった。

平成 15 年に入籍し甲府市に定住したが、平成 15 年 4 月の条例、平成 18 年のプランも全く知らない。今後のご活躍を期待している。

- ・子供達が安心して安全に生活できるように勉強ばかりでなく、働いていける環境も作っていけるようになればいいと思う。

- ・政治もそうであるが、男女共同参画も女性で登用されている人は一般に子育てをして働いてという女性ではないような気がする。子育てしている人もしていない人も、結婚している人もしていない人も、仕事をしている人もしていない人も、男性も女性も、それぞれの役割を考え、社会に参加することが平等というのではないだろうか。同じ立場に置き、同じ権利を与えるのではなく、それぞれの立場によってそれぞれの権利が必要だと思う。

- ・短い時間の労働で子育てをして、仕事を続けることが大切だと思う。

- ・男女共同参画センターのような箱モノは不要である。

- ・男性、女性うんぬんの前に本当にやる気のある人を育てないと山梨はよくなっていかないと思う。男性だから女性だからではなく、人柄が重要。女性リーダーを育成してもリーダーになる女性の質が問われるので、良いも悪いも言えないと思う。。
- ・地域での見守りの強化・子育て支援・教育支援。女性が働きやすいと感じる町に甲府市が取り組んでほしいと思う。地域ごとに相談できる場所や人の整備をお願いしたい。住みやすい街になれば、人口も増え、女性も働きやすいと思う。子供を預けることのできる施設や人がいるとありがたいと思う。気軽に相談できる場所もあればよい。

【40 歳代男性】

- ・もっと全体的に何をやっているのか分かりやすくしてもらいたい。
- ・私の考えは基本的に男がどうの女がどうのということではなく、1 人の人間として見ている所がある。1 人 1 人が努力をしていけば、必ず光が見えてくると思う。夫婦間であっても、お互いに努力している姿を見れば、お互いを助け合い、生きていけると思う。
- ・男女平等よりも男女それぞれが得意な分野で活躍できることが大事だと思う。甲府市には実際に各市民が直面している問題、トラブルを情報収集し、事例を公表して欲しい。男女平等が叫ばれているから何かしようではなく、現実起きている諸問題について対処することのほうが意義が大きいと思う。本当の問題が男女不平等なのかそれとも他に根本的な問題が潜んでいるのか、本質の部分に目を向ける姿勢が必要だと思う。
- ・男性はもちろん、女性の意識を変える取り組みが必要である。女性だからということ逃げ道にしている女性は依然として多くいるのではないだろうか？と感じることがある。そのような女性が意欲のある女性の足を引っ張っている。

【50 歳代女性】

- ・「日本人」の根本的考え方を変えないと無理。男女は違うものだということから、それぞれの役割を重んじ、ストレスなく生きていかなければならないと思う。
- ・このアンケートが送られてくる度に男女参画を考えさせられる。私は夫の家族と同居で子育てを義母に助けられながら、仕事を頑張ってきた。今の若い人たちは義父母に頼るのを嫌がるので、地域活動や子育てに苦勞していると思う。今は義母の介護が無くなり寂しいと思っていたら、孫の世話で忙しい。娘は 1 歳で保育園に子供を預けて働きたいと言っているが、病気になった時に預かってくれる家族がいないと働ける職が見つからないので困っている。子育てしながら、平等に生活できる社会になることを期待する。
- ・一般のアンケートに比べてアンケートそのものが分かりにくく、回答しにくかった。

- ・国の政治機関に男性が圧倒的に多い以上、地方や町においても同じような流れになってしまうと思う。今ここに生活している約半分は男性、半分は女性という当たり前すぎることをしっかり認識して、社会をつくっていけば自ずと道は開けると思う。
- ・子育ての中の女性はフルタイムで働きにくいいため、パートやアルバイトとなってしまう。そのため再び、正社員として働けなくなり、多くのパートや派遣などが生まれる。正社員が多くなると企業の人件費も多くなってしまうので、短時間労働の正社員という形態は難しいと思う。そこで、短時間労働の正社員を例えば、2人でセットにして一人分の人件費をカバーして欲しい。この方法を労働法で認めれば、企業の負担があまり多くならずに女性も働き続けることができると思う。
- ・身体の違いがあるので、男らしさ、女らしさがあっても構わないと思うが、それに固執する考え方がいけないと思う。それから外れても受け入れることが大切である。子育て支援を実施し、子供が安心して暮らせるまちづくりを行うことができるといいと思う。自分もそうだが、忙しい職場だと地域のことまで考える余裕がないことも事実である。
- ・相談窓口があることを知ってもらうように広報したらよいと思う。相談窓口の時間も無休で24時間にしてもらえると助かると思う。配偶者や恋人などから受けるのは暴力だけでなく暴言もあるので、無くすための支援や心のケアする場を設けてもらいたい。
- ・男女では役割が違うとき（子育て時など）もあると思う。それを過ぎたら、平等に戻れる社会であってほしいと思う。子育てママを社会全体で見守ってあげたい。
- ・働く環境（会社等）において、男、女共に平等にと考えを一つにして頂き、自分の今の立場、他人の今の立場、それぞれを尊重し合い、事務的にならず、ゆとりを心にもち、社会生活を進められないものだろうか。殺伐とした世の中、男性も女性もその時の自分を見つめ、社会を考え、住みやすい環境を望む。

【50 歳代男性】

- ・安心して子供を産み育てられる環境の更なる充実が必要である。
- ・雇用の確保、そして保育料、介護料等の無料化を望む。
- ・市がより積極的に各種ボランティアを推進すること。優秀事例を表彰すること。子育ての環境整備をすることが重要である。また、新しい世代（児童・生徒・学童）への早い段階からの積み重ねた教育はとても大切なので、もっと出前講義、出張授業など、映像を駆使していくべきである。
- ・私は消防団に入っていますが、女性の消防団への参加をもっと進めてもらいたい。

- ・女性自身の生き方の価値観を見直すべき。女性こそが社会基盤の担い手となる常識が必要だと思う。
- ・身近に問題が無いので、関心も無く分からないことが多い。各々の事例集、問題、解決策の例などの広報をしてくださると分かりやすく、自分が対応する際の参考になると思う。
- ・選択的夫婦別姓制度を導入する。議会に女性が少なすぎるので、女性が立候補しやすい、あるいは立候補促進する何らかの手立てがあつて良い。女性が働きながら出産、子育てでき、かつ昇進に差がない仕組みや意識づくりを企業に強力に促す。小学校～高校まで男女共同参画の教育時間を増やし、他国の状況も教える。
- ・男女共同参画社会が何なのか分からない。
- ・男女共同参画社会になるような形に日本全体がならないと変わらないと思う。日本全体の社会が育児休暇など、気兼ねなく誰でもとれる雰囲気を作れば、少しは変わるのではないかと思う。ヨーロッパ並に生活しやすければ余裕も出来ると思う。

【60 歳代女性】

- ・30 年以上も前のことだが、学校の役員活動をしていたときに嫌がらせを経験した。地域活動にも参加させていただき、また現在は配食サービスのボランティアに参加して男女共に仲良く楽しく過ごしている。
- ・お互いを理解し合い、良いところに目をやる努力をし、若者は長老の話に耳を傾け勉強して欲しい。
- ・何でも平等というのではなく、本来、性もっている自然的配慮を認識して教育すべきである。ともすれば、大きな声で男女参画を連呼する女性が同性からもその態度が政治的に見え、反感を買うことも多いと思う。あくまで謙虚でありながら、性の弱さを盾に闘うような活動は共感を持たれないと思う。
- ・我々60 歳代世代と比べ、子どもの世代 30 歳代の人たちは男女共同参画社会の意識は深まっているものと思う。
- ・現在 65 歳。25 年前、共働きで個人宅と幼稚園を利用し、子供二人を育てていた。途中、義父の介護で仕事は辞め、家庭に入った。介護中心の日常生活で社会に出て働きたいという思いは断念した経験があります。社会通念というか女性が家の中で、家族の身の回りのことや生活全般を世話することが当然のような周囲の目も気になっていた。私も含め、女性が働き続けるには意識改革と保育、介護などの受け皿や体制の充実が必要かと思う。
- ・子供が小さい頃はまわりの思いやりで、仕事を 1 時間ほど早く切り上げさせるとか、子供が病気に

なったときは育児休暇を利用するなど、職場でも協力してほしい。男女共同でバランスをとって女性ばかりに負担がかからないようにして親と子供に成長してほしい。

- ・ 社会、会社が受け入れ体制を整えても肝心の家庭内の理解や協力が無いと女性は外に出て働けないと思う。母親の子育てや学校教育での男女平等教育が大切だと思う。
- ・ 住みよい甲府市になるよう期待している。
- ・ 女性でも男性でもやるべき時にやるべきことを責任をもってやるべきである。
- ・ 女性の社会進出により、子育て、教育がおろそかになっているように思える。
道徳的な人間教育、人づくりが根本ではないだろうか。3歳まではしっかり母親の愛情をもって育てられる社会をつくってもらいたい。母として自分が一番ではなく、子どもが一番と思える女性の優しさが大切だと思う。
- ・ 全てを男女同じようにというのは違うと思う。男は父性を女は母性を全開し、互いに補い尊敬しあって生きていける家庭や職場、地域が必要と感じる。10人10色100人100色、1人1人が自分の本当の個性を生き活きと生き、社会に貢献できる世の中になると思う。
- ・ 男女を意識しすぎている。人間としてどう生きるかに力を入れたほうがよいと思う。
- ・ 男女共同と言うが、性差がある以上それは現実的に非効率的。職場によっては理解をする権利は現場にあってはより負担を負う場合がある。共同を行えるのは、公務員か家族的な事業所くらいが本音だと感じる、しかし、公務員の世界から発信しなければ変革は難しいので、行っていくべきではあるが、民間にあっては改善が難しいことを理解しながら、子どもたちが希望を持てる社会造りをしなければならない。また、60～65歳の、働けるのに働きづらい環境の改善も望む。
- ・ 男女共同参画という団体がどのような活動をしているのかなど、あまりよく知らないので、分かりやすく教えて欲しい。
- ・ 男女共同参画社会の実現に今一部のトップの人たちが集まって施設利用しているが、そこに出席できない意見も声も届かない人たちもいることをもっと考えて欲しい。近所付き合いも他人事のように、若い人は知らんぷりなので、一人一人がやさしさをもってもらいたい。
- ・ 特に提案することは思い浮かないが、良いことのようなので応援したいと思う。
- ・ 元々違うものを同じものとして扱うことはできないということを理解するべきである。

- ・私も会社員だが、会社が利益を求めるため、現場の労働者のことをないがしろにする施策、決定を行っている限りは男女共同というのは二の次、三の次になっていると思う。労働環境がある程度自慢できる会社になれば女性もそれなりのポストや職場に就けているのではないかと思う。
- ・私の考えは基本的に男がどうの女がどうのということではなく、1人の人間として見ている所がある。1人1人が努力をしていけば、必ず光が見えてくると思う。夫婦間であっても、お互いに努力している姿を見れば、お互いを助け合い、生きていけると思う。
- ・男女平等よりも男女それぞれが得意な分野で活躍できることが大事だと思う。甲府市には実際に各市民が直面している問題、トラブルを情報収集し、事例を公表して欲しい。男女平等が叫ばれているから何かしようではなく、現実には起きている諸問題について対処することのほうが意義が大きいと思う。本当の問題が男女不平等なのかそれとも他に根本的な問題が潜んでいるのか、本質の部分に目を向ける姿勢が必要だと思う。
- ・男性はもちろん、女性の意識を変える取り組みが必要である。女性だからということ逃げ道にしている女性は依然として多くいるのではないだろうか？と感ずることがある。そのような女性が意欲のある女性の足を引っ張っている。

【60 歳代男性】

- ・まず甲府市役所内での行動が必要である。少々無理であっても女性のトップや委員などを任命し、仕事をしてもらい実績をつくる。
- ・学校においては男女平等に関する教育はもちろんだが、その基盤になる人権教育、生命尊重の教育を徹底して推進する。
- ・市議、県議の男女割合を 50%と定める。国会議員も同じく。
- ・実施結果の効果測定が困難な事務・事業は廃止して、保育所のひとつでも増設すべきである。
- ・社会全体が男女共同参画社会実現に向けた取り組みの推進が必要である。
- ・女性の子育て、家事の負担を男女平等にして、子育て支援を充実させること。女性が負担を感じることなく働ける社会をつくる。子どもを育てることに負担のない社会をつくってくれることを切に望みます。3人の娘の父として。
- ・男女の社会における役割の変化は近年、とても顕著になってきていると思うので、広報などでの啓発活動や身近なところで目に見える参画プランをお知らせしてほしい。

- ・男女共同参画社会の実現の問題として、若い人たちの就業、勤務意欲、社会参加意識の欠如があると思われる。親からの自立と経済力の確立が出来ていない人たちに男女共同参画の重要性や必然性を説明しても、理解させることは難しいのではないかと思いますので、小学校、中学校の頃からの教育を計画的、系統的に根気強く進めていくことが重要である。確実な方法ではないかと思う。
- ・特に女性に限らず、貧困や一人親世帯、高齢者、障害者などの社会的弱者に対して、心優しい政治を行うことが重要である。そのためには社会福祉関連の予算を増強し、平和な世の中をつくる方向へ政治を向けなければいけないと思う。国や県に対しても、そのような方向へ働きかけることが大切だと思う。社会全体が思いやりのある暖かい社会になることを願っている。
- ・物理的なバランスでの男女平等ではなく、機能的な男女平等という意識を普及させていくことが大事だと思う。

【70 歳以上男性】

- ・まだまだ男性優位の慣習的なことが多くみられる。
男女共同参画に関することへの意識づけ等を機会あるごとに PR し、浸透させていくことが必要だと思う。
- ・意識調査は適切である。児童生徒にも実施し、意識を高めるのと同時に理想社会へのビジョンを持たせるようにさせたい。
- ・一般的に男女共同参画社会の推進を阻んでいるのは、男性に理解や協力が無いからといったように男性が悪者のように言われることが多い。また、社会が悪いと他へ責任を転嫁してしまっているように感じる。もっと女性自身が自覚を持つべきである。仕事を持っている女性も経済的に楽なら主婦に専念したいという人も多いと思う。
- ・家庭内の理解を図り、役割分担を考える。育児施設の充実など。
若者に結婚生活の楽しさを教え、社会の一員としての義務教育のような何かを検討すべき。家庭、社会、教育、行政で連携も必要。
- ・高齢のため、あまり難しいことは分からないが、地域で皆と楽しく行動する仕事が出来たらいいなと思う。例えば、花を植えるとか、困っている人を助けるなど。
- ・女性リーダーの人格を高めるべきである。
- ・職場を辞めて、家にいるのが多い。やはり、女性がリーダーシップを家の中でも取ったほうがよい。
- ・政界や自治体が率先垂範を実行して戴きたい。当該アンケートは本当に男女共同参画社会を実現す

る考えなのだろうか？男女同権の実現を1日も早く実現することを願っている。

- ・男女共楽しく暮らせる世の中であってほしいと思う。
- ・男女共同参画社会というのが良く分からないが、これからは男、女という枠から外れて、一緒の場で何かをやるということが大切だと思う。
- ・男女共同参画社会を実現させるため、市民の理解と協力を得るため、地域集会の開催を行い啓発するべきである。また、事業推進のための財政的措置を望む。実現に向けた市役所の人的スタッフ充実を図り、頑張ってもらいたいと思う。
- ・男女共同社会のこと自体がよくわからない。このこと自体をもっと市民にわかりやすくしてほしい。
- ・地域の人をもっと密着し関係を深めていくことを希望する。
- ・本調査の問1にカタカナ言葉等の補足・注釈を備考に記しておくべきだと思う。(例：ワーク・ライフ・バランス、 マタハラ、 パタハラ、 ジェンダー、 LGBT)